

千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書10

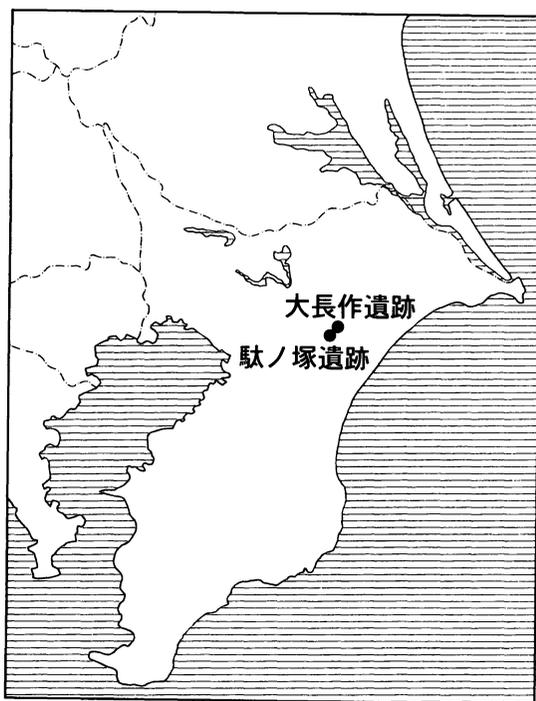
—山武町・松尾町大長作遺跡—
—成東町駄ノ塚遺跡—

平成14年3月

日 本 道 路 公 団
財団法人 千葉県文化財センター

千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書10

さんぶ まつお おおながさく
—山武町・松尾町大長作遺跡—
なるとう だのづか
—成東町駄ノ塚遺跡—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第429集として、日本道路公団の千葉東金道路（二期）の開発事業に伴って実施した山武郡山武町・松尾町大長作遺跡及び山武郡成東町駄ノ塚遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代から、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世にわたっての遺構・遺物が検出され、千葉県山武郡地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年 3月25日

財団法人 千葉県文化財センター
理 事 長 清 水 新 次

凡 例

- 1 本書は、日本道路公団による千葉東金道路（二期）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第10冊目である。
- 2 本書に収録した遺跡は、下記の通りである。

千葉県山武郡松尾町小川字大長作313ほか 大長作遺跡（遺跡コード 407-004）
千葉県山武郡成東町板附字駄ノ塚517-1ほか 駄ノ塚遺跡（遺跡コード 404-004）
- 3 発掘調査から報告書作成にいたる業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆を担当した職員は、下記の通りである。

第1篇 大長作遺跡	第1・3～6章	研 究 員	黒 沢 崇
	第2章,第7章第1節	上 席 研 究 員	田 島 新
第2篇 駄ノ塚遺跡	第1章,第3章第1節4以外・第4章第2・3節	室 長	糸 川 道 行
	第2章,第4章第1節	上 席 研 究 員	田 島 新
	第3章第1節4	主 席 研 究 員	宮 重 行
	第4章第3節	室 長	大 野 康 男
- 6 発掘調査から報告書の刊行にいたるまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、日本道路公団、松尾町教育委員会、山武町教育委員会、成東町教育委員会ほか多くの地権者・周辺住民の方々から御指導、御協力をいただいた。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「東金」(NI-54-19-11)
第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図「成東」(NI-54-19-11-1)
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

本文目次

第1篇 大長作遺跡

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
第2節 調査の方法	3
第3節 遺跡の位置と環境	3
第2章 旧石器時代	9
第1節 層位	9
第2節 石材名称と母岩分類について	9
第3節 各文化層の石器集中と出土遺物	10
第3章 縄文時代	36
第1節 遺構	36
第2節 遺物	39
第4章 古墳時代・奈良時代	40
第1節 位置関係	40
第2節 古墳	40
第3節 住居跡	46
第4節 溝状遺構	48
第5章 近世	50
第1節 塚	50
第2節 方形竪穴	53
第3節 鹿穴	54
第4節 溝	54
第6章 その他	58
第1節 遺構	58
第2節 遺物	59
第7章 まとめ	60
第1節 旧石器時代	60

第2篇 駄ノ塚遺跡

第1章 はじめに	63
第1節 遺跡の概要	63
第2節 調査の方法	66
第2章 旧石器時代	67
第1節 層位	67
第2節 石材名称と母岩分類について	67
第3節 各石器集中と出土遺物	67
第3章 縄文時代及び古墳時代以降	92

第1節 遺構・遺物	92
第4章 まとめ	98
第1節 旧石器時代	98
第2節 縄文時代以降	98
第3節 遺跡の情景	99
報告書抄録	巻末

挿 図 目 次

大長作遺跡	第28図 陥穴(1)	37
第1図 東金道路(二期)路線図	第29図 陥穴(2)	38
第2図 周辺の遺跡	第30図 縄文時代 土器	39
第3図 遺構配置図(上層)	第31図 S M001平面図・断面図・出土遺物	41
第4図 遺構配置図(下層)	第32図 S M002平面図・断面図・出土遺物	42
第5図 第I文化層 石器集中1 器種別分布	第33図 S M003平面図・断面図・出土遺物	44
第6図 第I文化層 石器集中1 出土石器	第34図 S M004平面図・断面図	45
第7図 第II文化層 石器集中1 器種別分布	第35図 S I 005平面図・断面図	47
第8図 第II文化層 石器集中1 出土石器	第36図 S I 005出土遺物	48
第9図 第II文化層 石器集中2 器種別分布	第37図 S I 010平面図・断面図・出土遺物	49
第10図 第II文化層 石器集中2 出土石器	第38図 S D009平面図・断面図	50
第11図 第III文化層 石器集中1 器種別分布	第39図 S M006・007・008等高線	51
第12図 第III文化層 石器集中1 母岩別分布	第40図 S M006・007・008断面図	52
第13図 第III文化層 礫群出土分布	第41図 S K022平面図・断面図	53
第14図 第III文化層 石器集中1 出土石器(1)	第42図 S K022出土古銭	54
第15図 第III文化層 石器集中1 出土石器(2)	第43図 鹿穴	55
第16図 第IV文化層 石器集中1 器種別分布	第44図 S D015平面図・断面図	56
第17図 第IV文化層 石器集中1 母岩別分布	第45図 S D015・029平面図・断面図	57
第18図 第IV文化層 石器集中1 出土石器(1)	第46図 S K014・031平面図・断面図	58
第19図 第IV文化層 石器集中1 出土石器(2)	第47図 その他の遺物	59
第20図 第IV文化層 石器集中1 出土石器(3)		
第21図 第IV文化層 石器集中2 器種別分布	駄ノ塚遺跡	
第22図 第IV文化層 石器集中2 出土石器	第48図 周辺地形と調査区	64
第23図 第V文化層 石器集中1 器種別分布	第49図 平成5年度検出遺構位置図	65
第24図 第V文化層 石器集中1 母岩別分布	第50図 平成8年度検出遺構位置図	65
第25図 第V文化層 石器集中1 出土石器(1)	第51図 石器分布	70
第26図 第V文化層 石器集中1 出土石器(2)	第52図 礫群分布	70
第27図 グリッド出土石器	第53図 石器集中1 器種別分布(1)	71

第54図 石器集中1 器種別分布(2) ……………72	第63図 石器集中1 出土石器(3) ……………81
第55図 石器集中1 母岩別分布(1) ……………73	第64図 石器集中1 出土石器(4) ……………82
第56図 石器集中1 母岩別分布(2) ……………74	第65図 石器集中1 出土石器(5) ……………83
第57図 石器集中1 母岩別分布(3) ……………75	第66図 石器集中1 出土石器(6) ……………84
第58図 石器集中1 母岩別分布(4) ……………76	第67図 土坑等(1) ……………94
第59図 礫群分布(1) ……………77	第68図 土坑等(2) ……………95
第60図 礫群分布(2) ……………78	第69図 縄文土器 ……………96
第61図 石器集中1 出土石器(1) ……………79	第70図 008住居跡 ……………97
第62図 石器集中1 出土石器(2) ……………80	

表 目 次

大長作遺跡

第1表 第I文化層 石器集中1 属性表 ……33
第2表 第II文化層 石器集中1 属性表 ……33
第3表 第II文化層 石器集中2 属性表 ……33
第4表 第III文化層 石器集中1 属性表 ……33
第5表 第IV文化層 石器集中1 属性表 ……33
第6表 第IV文化層 石器集中2 属性表 ……34
第7表 第V文化層 石器集中1 属性表 ……34

第8表 第III文化層 礫群属性表 ……………35
第9表 第IV文化層 礫群属性表 ……………35
第10表 グリッド出土石器属性表 ……………35
第11表 銭貨計測表 ……………54

駄ノ塚遺跡

第12表 石器集中1 属性表 ……………85
第13表 第III文化層 礫群 属性表 ……………88

図 版 目 次

大長作遺跡

図版1 航空写真(1/10,000)
図版2 遺跡近景 遺跡近景 第II文化層石器集中1 出土状況
図版3 第II文化層石器集中1 出土状況 第II文化層石器集中2 第V文化層石器集中1 出土状況 第III文化層石器集中1 出土状況
図版4 第III文化層石器集中1 出土状況 第IV文化層石器集中1 出土状況 第IV文化層石器集中2 土層断面
図版5 第IV文化層石器集中2 第V文化層石器集中1 出土状況

第VI文化層

図版6 SK011全景 SK016全景 SK017全景
図版7 SK019全景 SK020全景 SK023全景
図版8 SK024全景 SK025全景 SK026全景
図版9 SK027全景 SK028全景 SK030全景
図版10 SK032全景

	S M001検出状況		S M008土層断面
	S M001全景	図版23	S M006石塔
図版11	S M001全景		S M006石塔移設後状況
	S M001全景		S K022遺物出土状況
	S M001遺物出土状況	図版24	S K022全景
図版12	S M002全景		S K022全景
	S M002周溝土層堆積状況		S K012全景
	S M002周溝土層堆積状況	図版25	S K013全景
図版13	S M002周溝内遺物出土状況		S K018全景
	S M002・S M003全景		S K021全景
	S M003全景	図版26	S D015全景
図版14	S M003全景		S D015全景
	S M003周溝土層堆積状況		S D029全景
	S M003周溝内遺物出土状況	図版27	S D029全景
図版15	S M003周溝内遺物出土状況		S K014全景
	S M004全景		S K031全景
	S M004周溝土層堆積状況	図版28	第I文化層石器集中1出土石器
図版16	S M004周溝土層堆積状況		第II文化層石器集中1出土石器
	S I 005全景		第II文化層石器集中2出土石器
	S I 005カマド検出状況		第III文化層石器集中1出土石器(1)
図版17	S I 005カマド全景	図版29	第III文化層石器集中1出土石器(2)
	S I 005カマド掘方	図版30	第III文化層石器集中1出土石器(3)
	S I 010全景		第IV文化層石器集中1出土石器(1)
図版18	S I 010全景	図版31	第IV文化層石器集中1出土石器(2)
	S I 010カマド検出状況	図版32	第IV文化層石器集中1出土石器(3)
	S I 010カマド全景	図版33	第IV文化層石器集中2出土石器
図版19	S D009全景		第V文化層石器集中1出土石器
	S D009近景	図版34	単独出土石器
	S D009全景	図版35	縄文土器・S M001・S M002・S M003
図版20	S D009全景		出土遺物
	S M006・S M007・S M008調査前状況	図版36	S M003・S I 005・S I 010・
	S M006・S M007・S M008全景		S K022・その他出土遺物
図版21	S M006調査前状況		駄ノ塚遺跡
	S M006土層断面	図版37	航空写真
	S M007調査前状況	図版38	旧石器時代遺物出土状況
図版22	S M007土層断面		006全景
	S M008調査前状況		007全景

002全景

図版39 001全景

004全景

003全景

図版40 008全景

008遺物出土状況

008カマド全景

図版41 石器集中1 出土石器(1)

図版42 石器集中1 出土石器(2)

図版43 石器集中1 出土石器(3)

図版44 石器集中1 出土石器(4)

図版45 縄文土器

図版46 008出土遺物

第 1 篇 大長作遺跡

第1章 はじめに

第1節 調査の概要（第1・2図）

日本道路公団は、東金市山田台まで開通していた千葉東金道路の延伸を計画し、松尾町谷津まで約16kmの千葉東金道路（二期）の建設を決定した。道路建設工事に当たり、区域内に所在する埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて千葉県教育委員会に照会した結果、区域内には39か所の遺跡があることが判明した。その取扱いについては、事業計画の変更は困難なため、記録保存の措置を講ずることとなり、調査は財団法人千葉県文化財センターに委託された。

大長作遺跡の発掘調査は、平成5年7月から開始され、平成7年3月までに調査対象面積24,900m²の調査を終了した。調査の結果、旧石器時代の石器集中地点8か所、縄文時代の陥穴13基、古墳時代の竪穴住居跡2軒、古墳4基、溝1条、近世の塚3基、方形竪穴1基、土手を伴う溝2条、鹿穴4基などの遺構を検出することができた。中でも古墳からは、勾玉・管玉等の副葬品が出土し、古墳時代後期の当地域の様相を知る上で、貴重な資料を得ることができた。

平成12年度から整理作業が開始され、平成13年度をもって報告書刊行の運びとなった。

発掘調査及び整理作業に係わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

平成5年度

期 間 平成5年7月1日～平成6年3月31日
 組 織 成田調査事務所長 矢戸三男
 担当職員 主任技師 森本和男 技師 半沢幹雄
 内 容 発掘調査 確認調査 上層241m² 下層216m²

平成6年度

期 間 平成6年4月11日～平成6年10月31日、平成7年3月1日～平成7年3月31日
 組 織 成田調査事務所長 矢戸三男
 担当職員 主任技師 鈴木文雄 荒木清一
 内 容 発掘調査 確認調査上層2,468m² 下層974m²、本調査上層4,819m² 下層450m²

平成12年度

期 間 平成12年8月1日～平成12年8月31日
 組 織 東部調査事務所長 折原 繁
 担当職員 研究員 黒沢 崇
 内 容 整理作業 水洗・注記から原稿の一部まで

平成13年度

期 間 平成13年11月1日～平成13年11月30日
 組 織 東部調査事務所長 折原 繁
 担当職員 室長 大野康男
 内 容 整理作業 原稿の一部から刊行まで



1. 四ッ塚遺跡	2. 千神遺跡	3. 大谷遺跡	4. 中谷遺跡	5. 赤羽根遺跡	6. 大山遺跡
7. 榎谷遺跡	8. 一本松遺跡	9. 大長作遺跡	10. 大久保谷遺跡	11. 小川崎台遺跡	12. 向畑遺跡
13. 里守遺跡	14. 上人塚遺跡	15. 東嵐山遺跡	16. 駄ノ塚遺跡	17. 栗焼棒遺跡	18. 道塚遺跡
19. 原山之神遺跡	20. 小山田遺跡	21. 鹿穴遺跡	22. ヲフサ野遺跡	23. 岡田山遺跡	24. 岡田遺跡
25. 酒蔵城遺跡	26. 油谷(2)遺跡	27. 油谷(1)遺跡	28. 市谷遺跡	29. 新堀遺跡	30. 万谷遺跡
31. 万才楽遺跡	32. 板橋遺跡	33. 滝台遺跡	34. ピンダライ遺跡	35. 丹尾台遺跡	36. 大谷台遺跡
37. 前畑遺跡	38. 羽戸遺跡	39. 尾亭遺跡			

第1図 東金道路(二期)路線図

第2節 調査の方法（第3・4図）

調査対象範囲全域に、公共座標に合わせて東西南北に40m×40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に起点を置いて、北から南に1, 2, 3, ……とし、西から東へA, B, C……として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には4m×4mの100分割に小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02……として南西隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、8B-34のように表示することにした。

平成5年度には調査対象面積の上層・下層に対し1%の確認調査を行った。その結果、上層では陥穴2基、土坑2基が検出され、縄文土器、土師器が出土し、下層では2か所で石器が出土した。この調査の成果から、遺構が展開することが想定された。

平成6年度には、上層には調査対象面積の10%にトレンチを設定し、下層には、2m×2mのグリッドを調査対象面積の4%に設定して確認調査を行った。その結果、上層では陥穴10基、土坑1基、古墳4基、住居跡2軒、溝1条、馬土手1条、塚3基、鹿穴1基が検出され、縄文土器、土師器が出土した。下層では石器出土地点が5か所確認された。そこで、上層は4,819m²、下層は450m²について本調査を行うこととなった。

本調査は未買収の土地などの関係で2回に分けて実施した。また、事業地内に現在生えている杉の木を生かし、道路開通時にグリーンベルトとなる中央分離帯として整備する計画であった。その部分は埋蔵文化財に影響を及ぼさないことから調査を行わず、現状保存されている。しかし、例外として、遺構がグリーンベルトまでかかり、そこに立ち木が存在しない場合は本調査を行うことにした。

発掘調査時において遺構は種類に関わらず001から032まで番号のみを付けて調査を行った。整理の段階で遺構の種類が最終的に決定したため、遺構番号は変更せず、その前に遺構記号を付して便宜を図ることにした。遺構記号の示す内容は、SM（古墳・塚）、SI（竪穴住居跡）、SK（土坑・陥穴）、SD（溝）である。

第3節 遺跡の位置と環境（第5図）

大長作遺跡は、千葉県山武郡松尾町小川字大長作313ほかに所在し、境川左岸の標高約44mの台地上に広がっている。

ここでは、境川流域で本遺跡に関係する主な周辺遺跡を概観しておきたい。

旧石器時代の主な遺跡としては、千葉東金道路（二期）路線内の遺跡である栗焼棒遺跡(1)⁽¹⁾・小川崎台遺跡(2)⁽²⁾・久保谷遺跡(3)⁽³⁾・一本松遺跡(4)⁽⁴⁾において、石器集中地点が検出されている。特に、栗焼棒遺跡ではⅦ層下部～Ⅸ層上部を中心に石器の集中が4地点で検出されている。主な遺物として楔形石器、ナイフ形石器、彫刻刀形石器が出土している。小川崎台遺跡では小規模ではあるが、4地点で石器集中地点が検出され、ナイフ形石器や楔形石器などが出土している。

縄文時代の遺跡として周辺では大規模な集落は、まだ見つかっていない。大長作遺跡と同様な遺構や遺物のあり方を示すものに小川崎台遺跡(2)がある。住居跡などの遺構は検出されず、陥穴のみで、遺物量も非常に少ないのが特徴である。



第2図 周辺の遺跡



X=-39,700

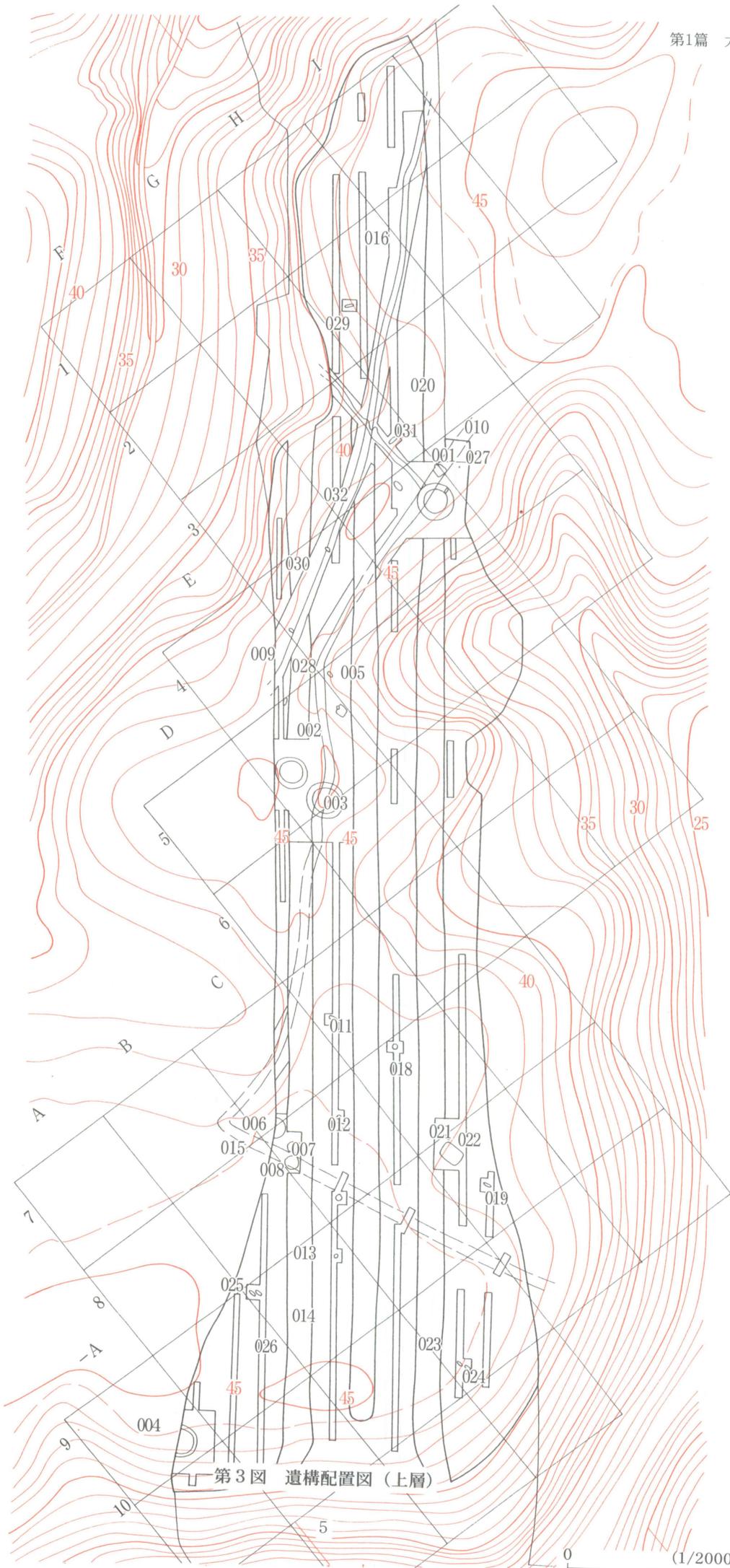
Y=52,500

X=-39,800

Y=52,400

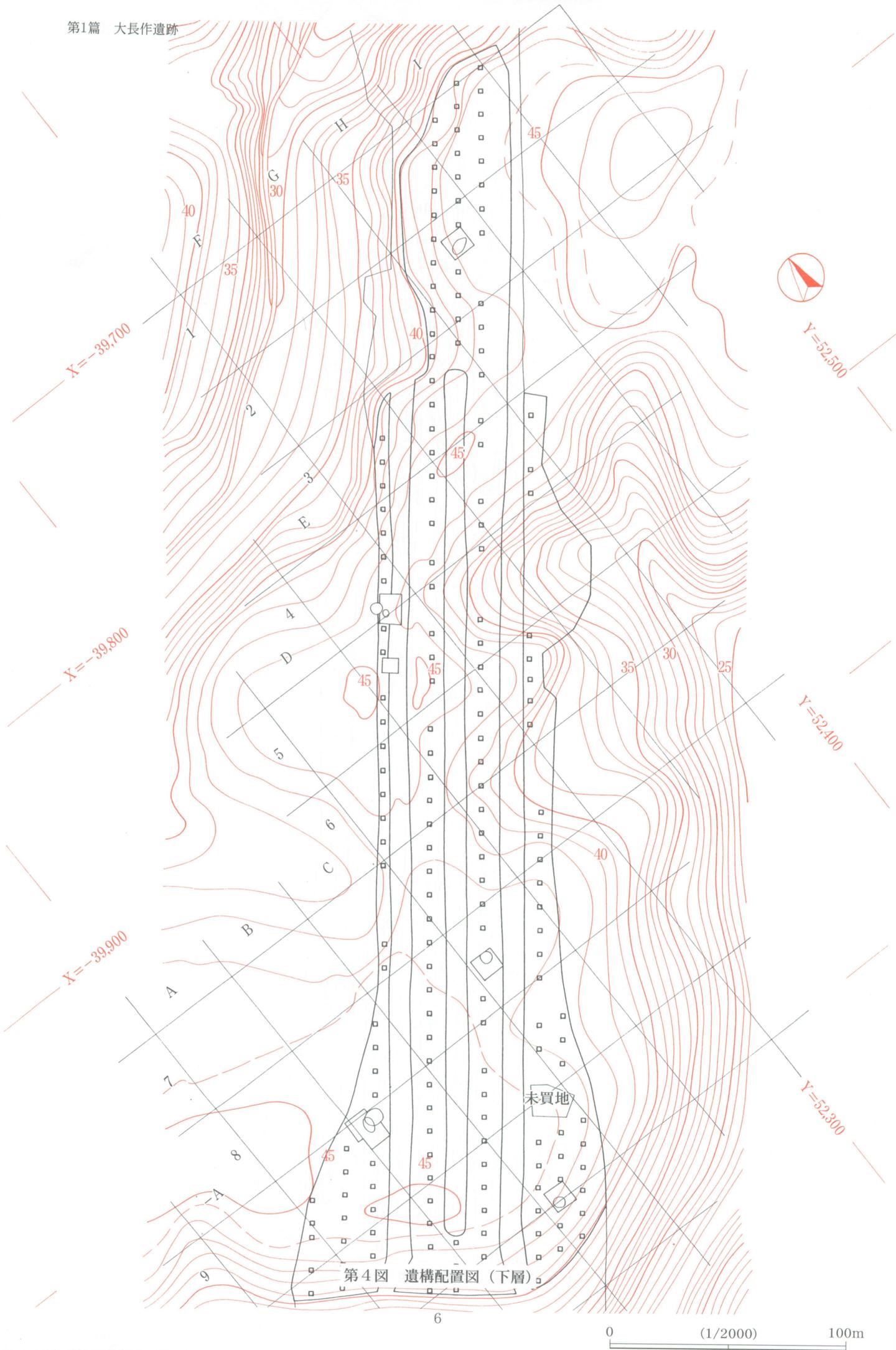
X=-39,900

Y=52,300



第3図 遺構配置図(上層)

0 (1/2000) 100m



第4図 遺構配置図 (下層)

古墳時代後期になると、境川を望む台地上に古墳群が多く造営される。特に、東岸にはかなりの数の古墳が群在する。北から、埴谷古墳群(5)、諸木内古墳群(6)、胡摩手台古墳群(7)、根崎古墳群(8)、麻生新田古墳群(9)がある。しかし、発掘調査された古墳は少なく、詳細は不明である。その中で、胡摩手台16号墳は、1994年に発掘調査が行われ、出土遺物から6世紀末～7世紀初頭に位置付けられている。⁽⁵⁾ また、胡摩手台9号墳と11号墳、埴谷古墳群中の2基と根崎古墳群中の2基、麻生新田古墳群の経僧塚古墳では、埴輪の樹立が確認されている。

本遺跡の南、作田川の北岸にも古墳時代後期の古墳群が存在する。和田古墳群(10)、市場古墳群(11)、板附古墳群(12)がそれである。板附古墳群は、谷を挟み大きく北と南に分かれ、北には終末期古墳である一辺60mの方墳の駄ノ塚古墳が存在する。駄ノ塚古墳は、1985年から1988年にかけて国立歴史民俗博物館による発掘調査が行われ、7世紀初頭の年代が与えられている⁽⁶⁾。また、南には大形の前方後円墳である不動塚古墳、西ノ台古墳が存在する。西ノ台古墳には、埴輪の樹立が確認されている。

千葉東金道路(二期)路線内の小川崎台遺跡(2)・久保谷遺跡(3)・一本松遺跡(4)でも、古墳時代後期の古墳の発掘調査が行われている。小川崎台遺跡では6世紀中頃と考えられる3号墳から埴輪列が検出されている。木戸川西岸の台地先端に位置する大塚古墳群(13)は、円墳13基で構成され、径80mを越える大円墳である姫塚が存在する。

また、横穴は本遺跡の北東に金尾横穴群(14)、南東には、親田北・南横穴群(15)が存在する。金尾横穴群は台地傾斜面に位置し、13基の横穴で構成されている。

古墳時代以降も引き続き、真行寺廃寺、小川廃寺、嶋戸東遺跡など多くの遺跡が存在する。真行寺廃寺(16)は発掘調査が行われ、基壇が検出されている。紀寺系の瓦が出土し、創建年代は7世紀末と考えられている。⁽⁸⁾ 小川廃寺(17)は、木戸川の支流をのぞむ台地上に位置し、瓦の出土が知られている。嶋戸東遺跡(18)は、1997年から断続的に発掘調査が行われ、大型の掘立柱建物跡や基壇が検出されている。武射郡衙跡の可能性が強く、今後の調査により遺跡範囲も拡大すると考えられる⁽⁸⁾。

中・近世の遺跡としては戸田城跡(19)、複郭式の台上館跡である小川館跡(20)、戦国時代末期の城で小規模ながらよく整備された丘陵式城郭の津辺城跡(21)などが挙げられる。また、路線内遺跡では、前畑遺跡(路線図37)で墓地、集落、館跡が、栗焼棒遺跡(1)や四ツ塚遺跡(路線図1)で塚群が、板橋・滝台・ビンダライ遺跡(路線図32・33・34)では馬土手の調査が行われている。

…

- 注1 加藤修司 1998 『千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書1』山武町栗焼棒遺跡財団法人千葉県文化財センター
- 2 黒沢 崇 1999 『千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書3』山武町小川崎台遺跡財団法人千葉県文化財センター
- 3 加藤正信 1998 『千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書4』久保谷遺跡財団法人 千葉県文化財センター
- 4 渡邊昭宏 2000 『千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書5』一本松遺跡財団法人 千葉県文化財センター
- 5 萩原恭一 1995 『山武町胡摩手台16号墳発掘調査報告書』財団法人 千葉県文化財センター
- 6 白石太郎 1996 「千葉県成東町駄ノ塚古墳発掘調査報告」『国立歴史民俗博物館研究報告第65集』
- 7 沼沢 豊 1982 『成東町真行寺廃寺跡確認調査報告』千葉県教育委員会
- 沼沢 豊 1983 『成東町真行寺廃寺跡研究調査概報』財団法人 千葉県文化財センター
- 天野 努 1984 『成東町真行寺廃寺跡研究調査報告』財団法人 千葉県文化財センター
- 谷川章雄 1985 『成東町真行寺廃寺跡発掘調査報告-鍛冶工房址の調査-』成東町教育委員会

- 8 小林信一 1998 『成東町嶋戸東遺跡発掘調査報告書』 千葉県教育委員会
- 小林信一 1999 『成東町嶋戸東遺跡第2次発掘調査報告書2』 千葉県教育委員会
- 香取正彦 2000 『成東町嶋戸東遺跡第3次発掘調査報告書3』 千葉県教育委員会

第2章 旧石器時代

第1節 層位

立川ローム層の土層断面図は、各石器集中地点の本調査範囲の一方向に対して記録してある。概して水平堆積を示しているが、11C-02グリッド付近では南斜面が浸食のため、傾斜している。

I層	黒褐色土	表土。
II a層	暗褐色土	
II b層	褐色土	新期テフラ。
II c層	暗褐色土	
III層	黄褐色土	ソフトローム。
IV～V層	黄褐色土	IV層とV層（第1黒色帯）の差は明瞭ではない。
VI層	明黄褐色土	A T（始良丹沢火山灰）包含層。VII層よりやや明るい。
VII層	明黄褐色土	第2黒色帯上半部。VI層よりA Tの包含量は少なく、色調もやや暗い。
IX a層	暗黄褐色土	第2黒色帯下半部。本遺跡では、IX b層は分層されなかった。IX c層に比べやや暗い。
IX c層	暗黄褐色土	第2黒色帯下半部。IX a層に比べやや明るい。
X層	暗黄褐色土	立川ローム最下層。色調はIX a層とほとんど変わらない。
X I層	暗黄灰褐色土	武蔵野ローム層最上層。色調は灰色味を帯び、上層に比べ軟化し、粘性が強まる。

第2節 石材名称と母岩分類について

石材名称については視覚的判断によっているが、同一石材であっても全く異なる特徴をもつものが存在する。本報告では、安山岩については石材名の後にアルファベットを付し、以下のように分類を行った。安山岩A・B……安山岩Aの風化剥離面は暗灰色を、新鮮な剥離面は黒色を呈する資料で、しばしば原礫面には爪形の裂痕が観察される。多くは拳大の円礫を素材として用いている。いわゆる黒色緻密質安山岩・ガラス質黒色安山岩と称されているものである。安山岩Bの風化剥離面は明灰色を、新鮮な剥離面は黒色を呈する資料で、風化が著しく剥離面の稜の多くはつぶれてしまって不明瞭となっている。いわゆるトトロ石と称されているものである。

母岩分類については、接合資料を基本とし、同一母岩と判断される複数の資料について細分を行った。細分できた資料には石材名の後にアラビア数字を付した。アラビア数字を付していない資料は、単独母岩か、分類不能の資料である。

第3節 各文化層の石器集中と出土遺物

本遺跡の旧石器時代は6枚の文化層が検出され、それぞれを第I文化層から第VI文化層と呼称した。

旧石器時代の石器集中地点は、6枚の文化層・8か所の集中地点を検出することができた(第4図)。第I文化層はⅢ層の石器群、第II文化層はⅢ層の石器群、第III文化層はIV層上部からⅢ層の石器群で礫群を伴う。第IV文化層はⅦ層からⅥ層の石器群、第V文化層は第2黒色帯下部の石器群と考えられる。第VI文化層は礫群の集中である。

第I文化層

石器集中1(第5・6図, 第1表, 図版2・28)

調査区のほぼ中央に位置する。出土層位は、Ⅲ層下部である。

出土石器は、石刃1点の単独出土である。

1は石刃である。背面の半分に自然面を残す。石材は頁岩である。

第II文化層

石器集中1(第7・8図, 第2表, 図版3・28)

調査区の北側に位置する。出土層位は、IV層上部からⅢ層にかけて分布する。石器の集中は、2H-36グリッドを中心に南北1m、東西4mに広がるが、ナイフ形石器は他の2点とは離れて出土している。

出土石器は、ナイフ形石器1点、石核1点、碎片1点の合計3点である。

1はナイフ形石器である。左右両側面に微細な調整が行われている。UR剥片の可能性もある。石材は珪質頁岩である。2は石核である。背面には左からの加撃による剥離痕を残すことなどから縦長剥片とした方がよいかもしれない。石材は珪質頁岩である。1と同一母岩である。

石器集中2(第9・10図, 第3表, 図版3・28)

調査区のほぼ中央に位置する。出土層位は、Ⅵ層からⅢ層にかけて分布するが、ほぼⅢ層に集中する。緩く西に傾斜する。調査時の所見ではIX a層～Ⅵ層となっているが、注記時の誤りと思われる。石器の集中は、4E-95グリッドを中心に南北2m、東西3mに広がる。

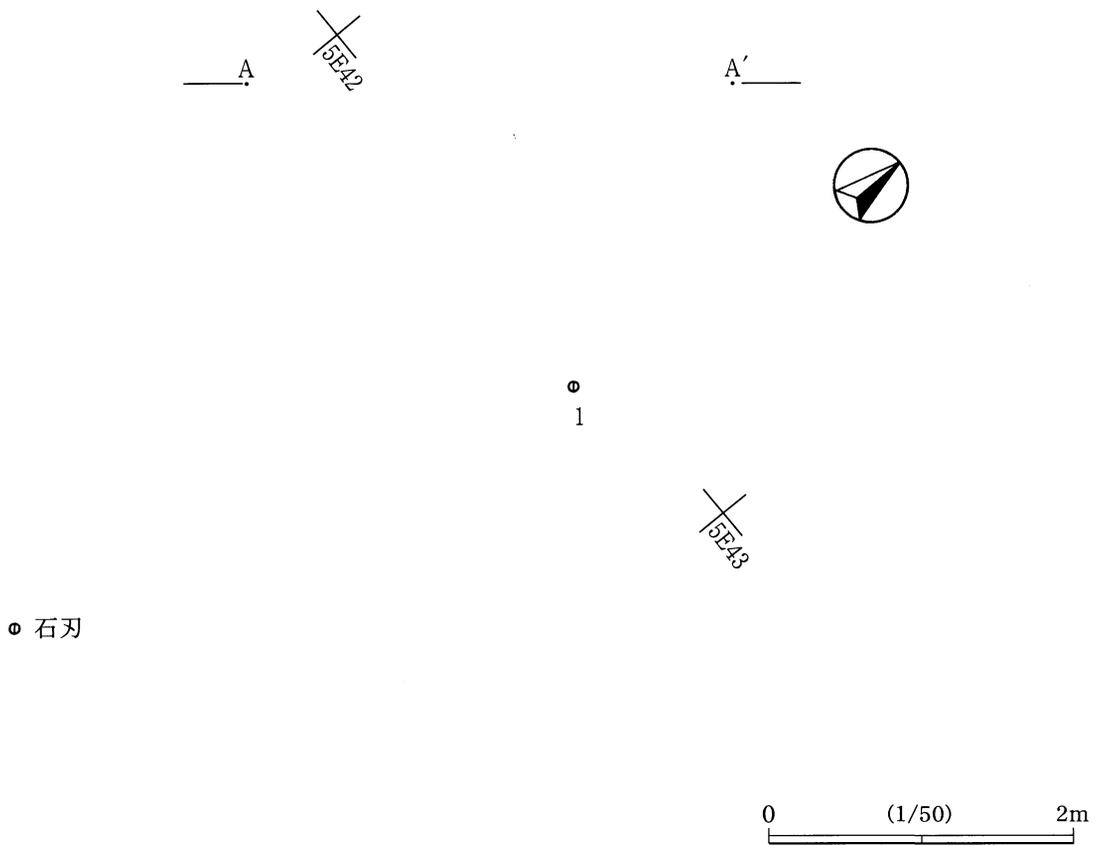
出土石器は、剥片4点、石核1点の合計5点である。

1は珪質頁岩の剥片である。石器集中1の珪質頁岩と同一母岩である。2はチャートの石核である。剥離面を打面として90度転移させている。

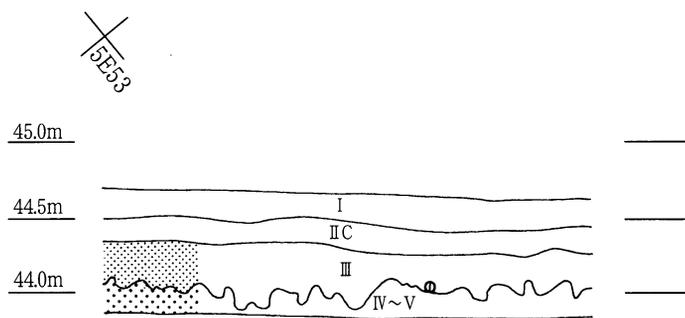
第III文化層

石器集中1(第11～15図, 第4表, 図版3・4・28～30)

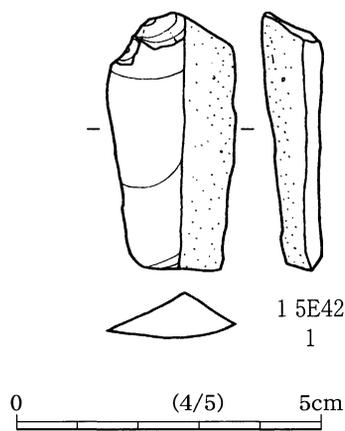
調査区の南側に位置する。出土層位は、Ⅶ層からⅢ層にかけて分布するが、ほぼⅢ層下部に集中する。石器の集中は、9B-21グリッドを中心に南北8m、東西8mの範囲に広がるが、さらに9B-21グリッドを境として東西に分かれる。



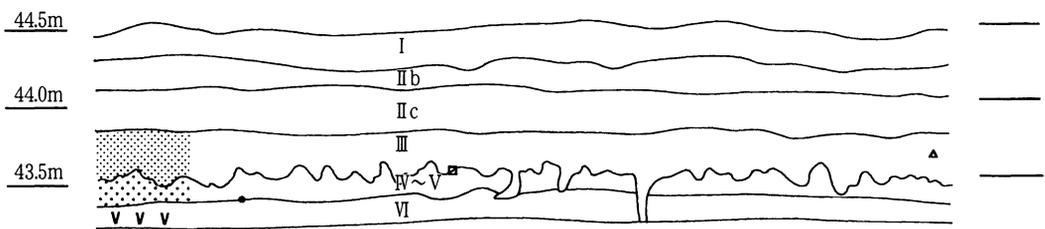
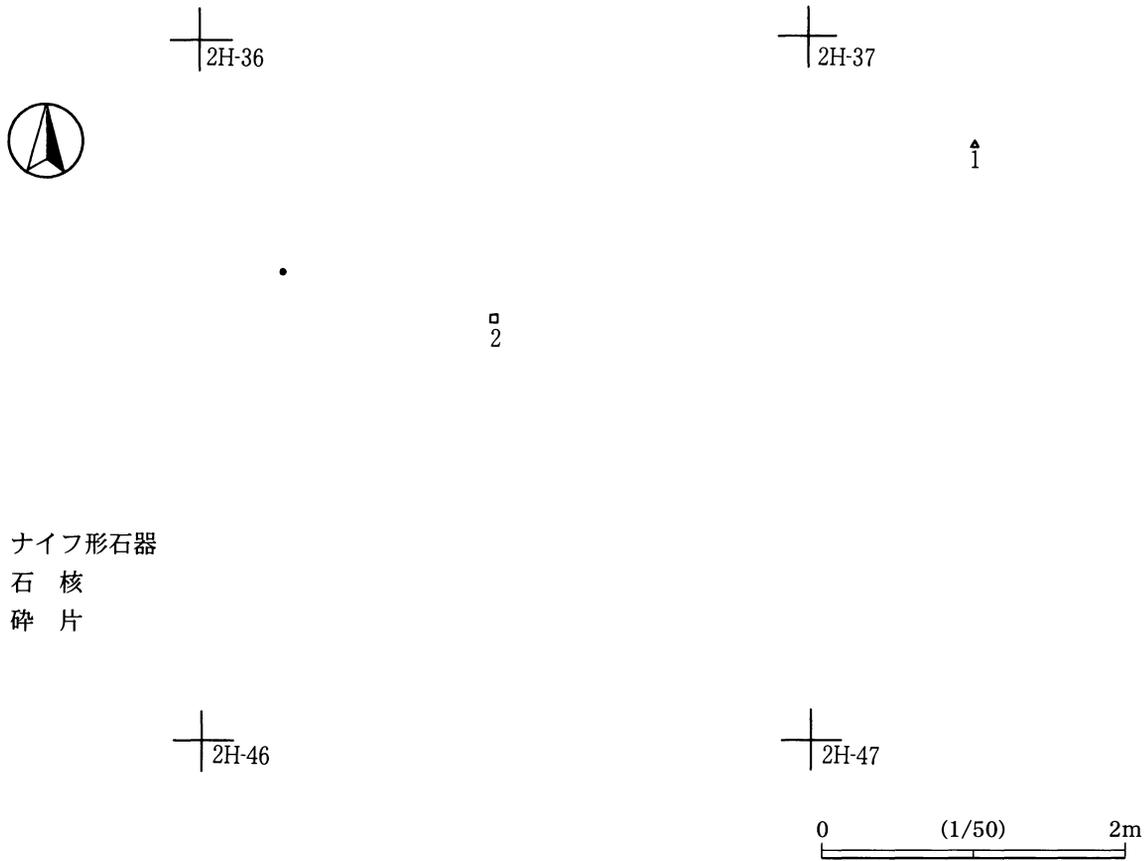
● 石刃



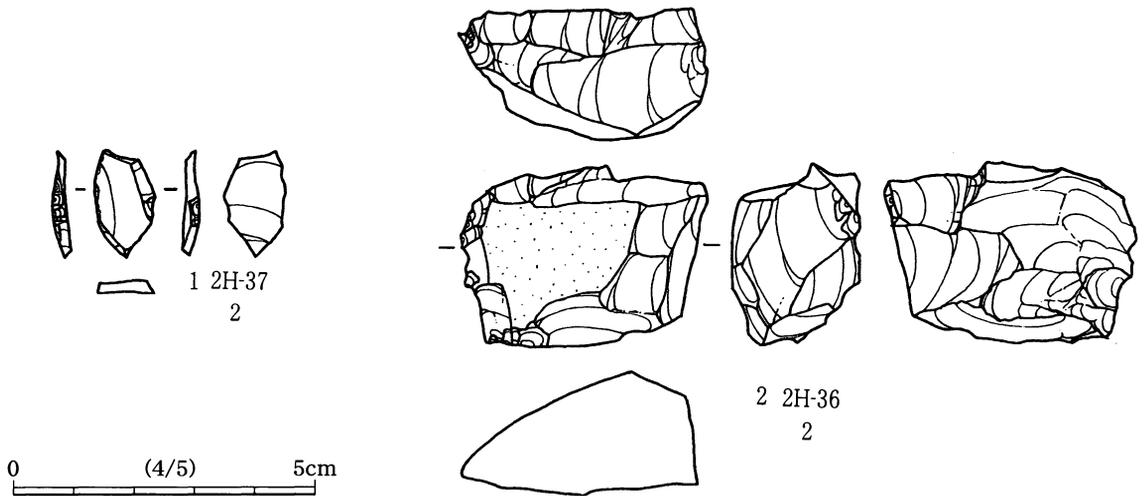
第5図 第I文化層 石器集中1 器種別分布



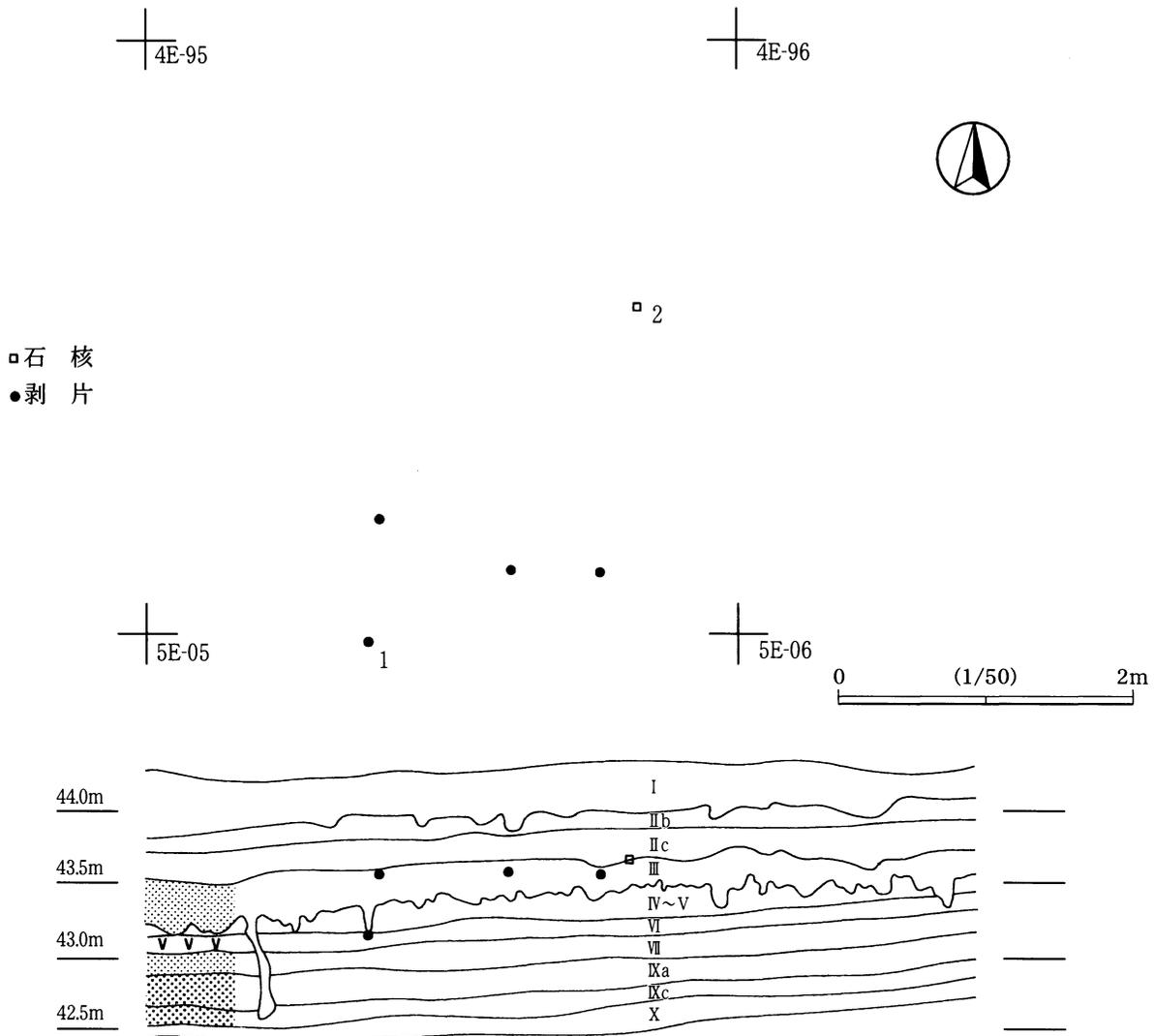
第6図 第I文化層 石器集中1 出土石器



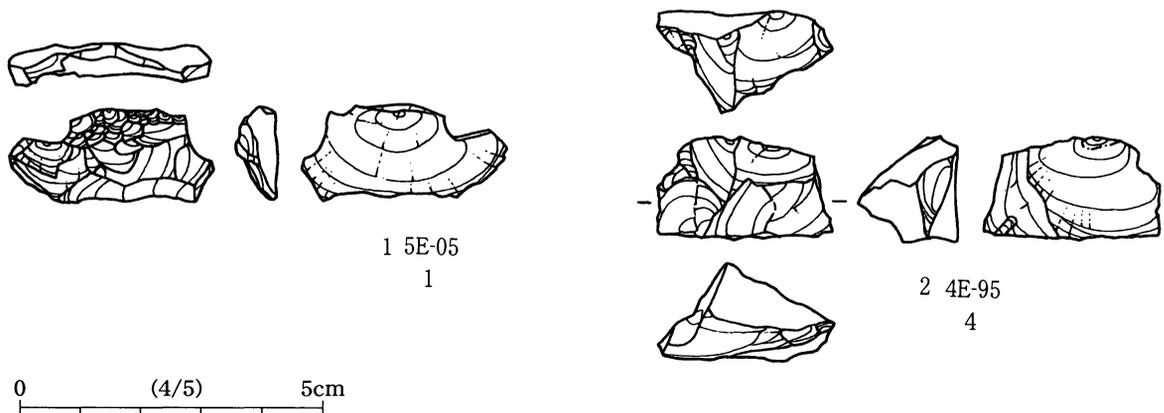
第7図 第Ⅱ文化層 石器集中1 器種別分布



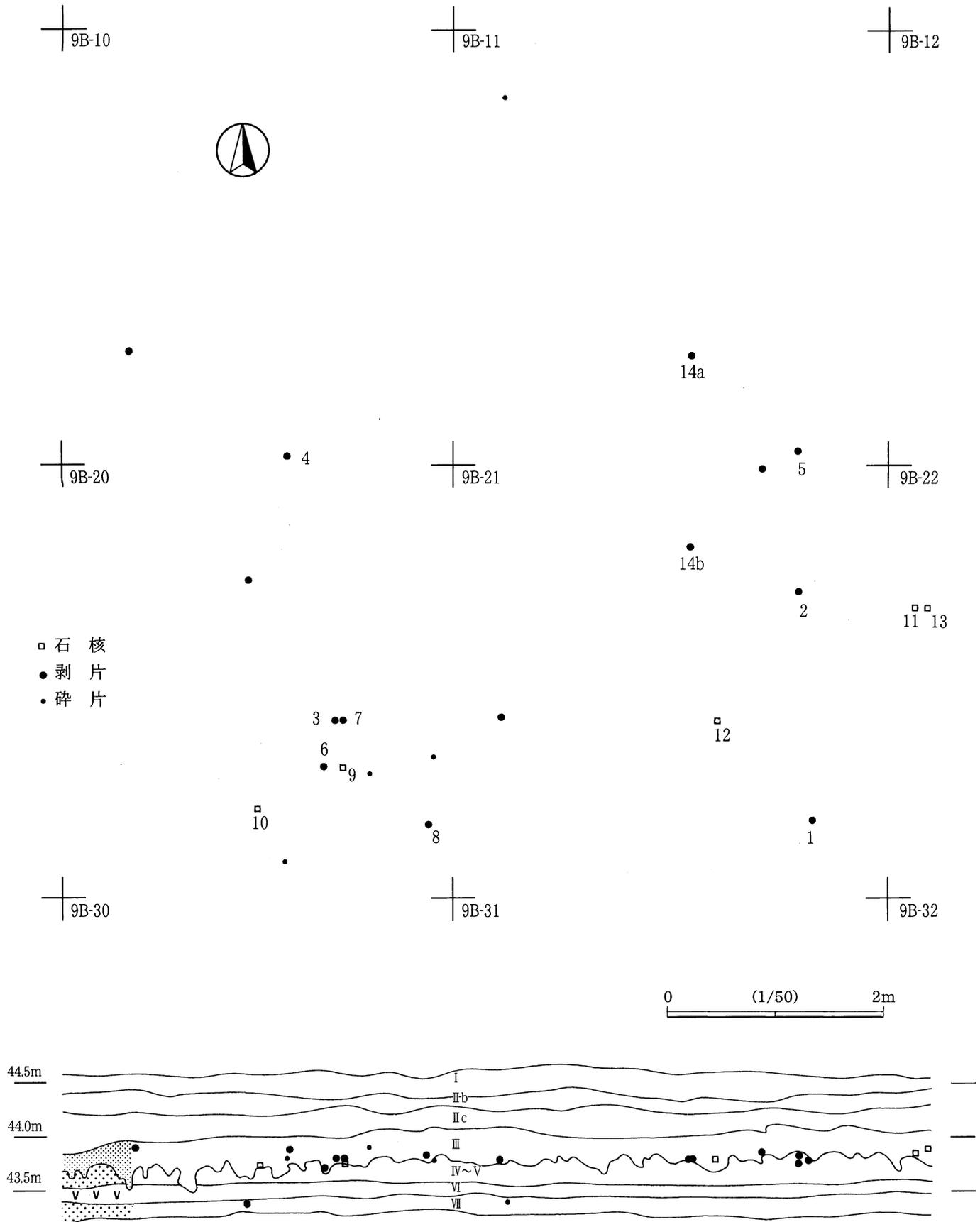
第8図 第Ⅱ文化層 石器集中1 出土石器



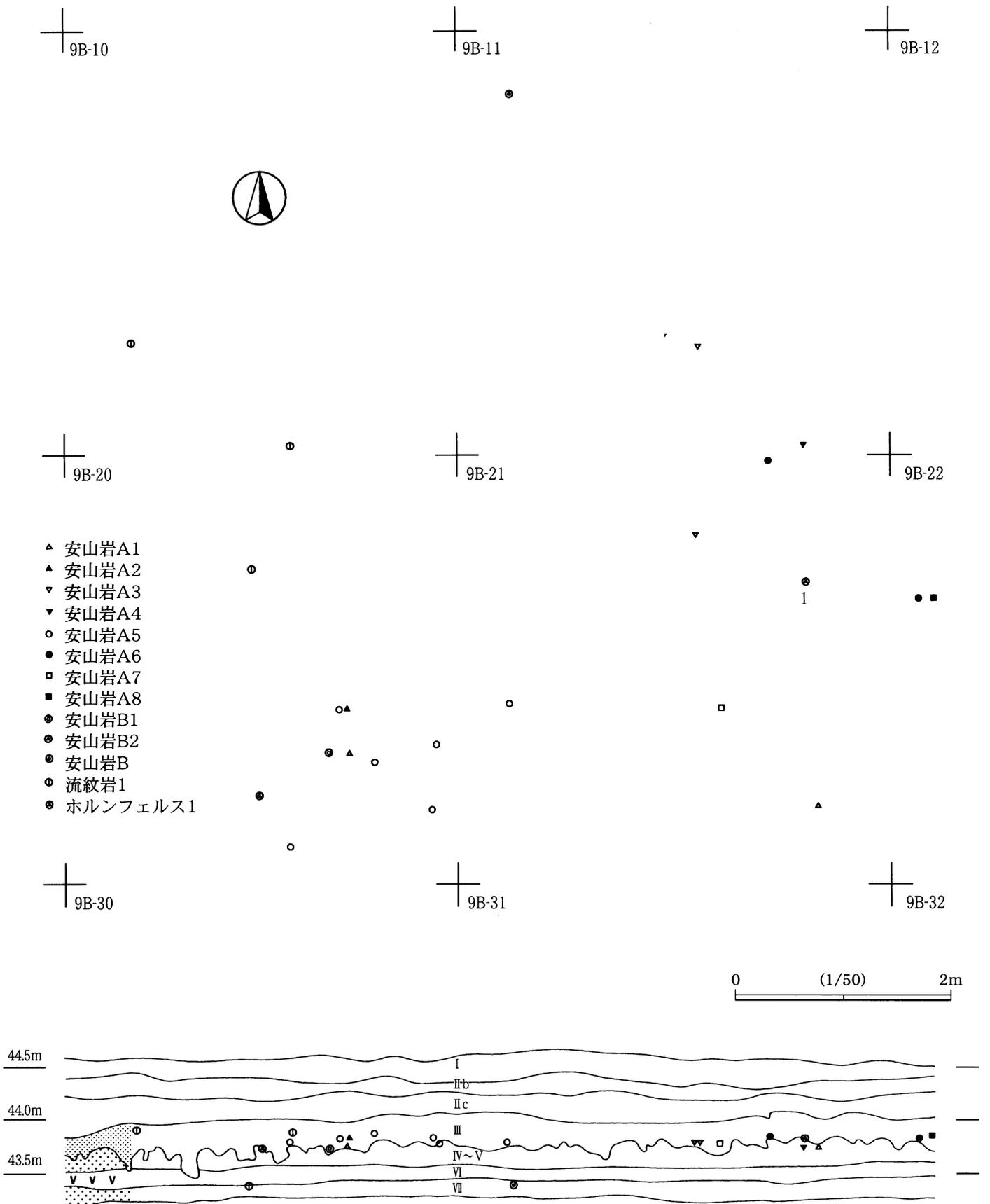
第9図 第II文化層 石器集中2 器種別分布



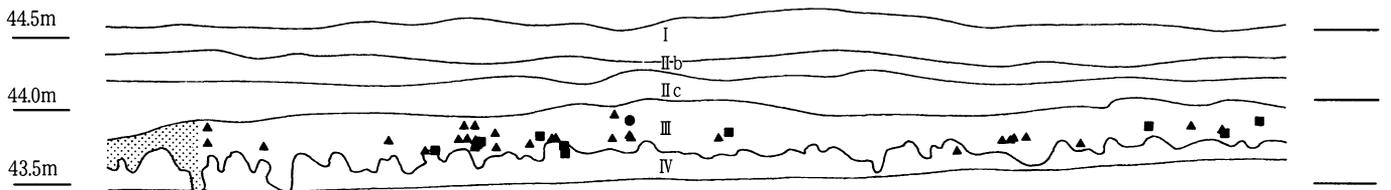
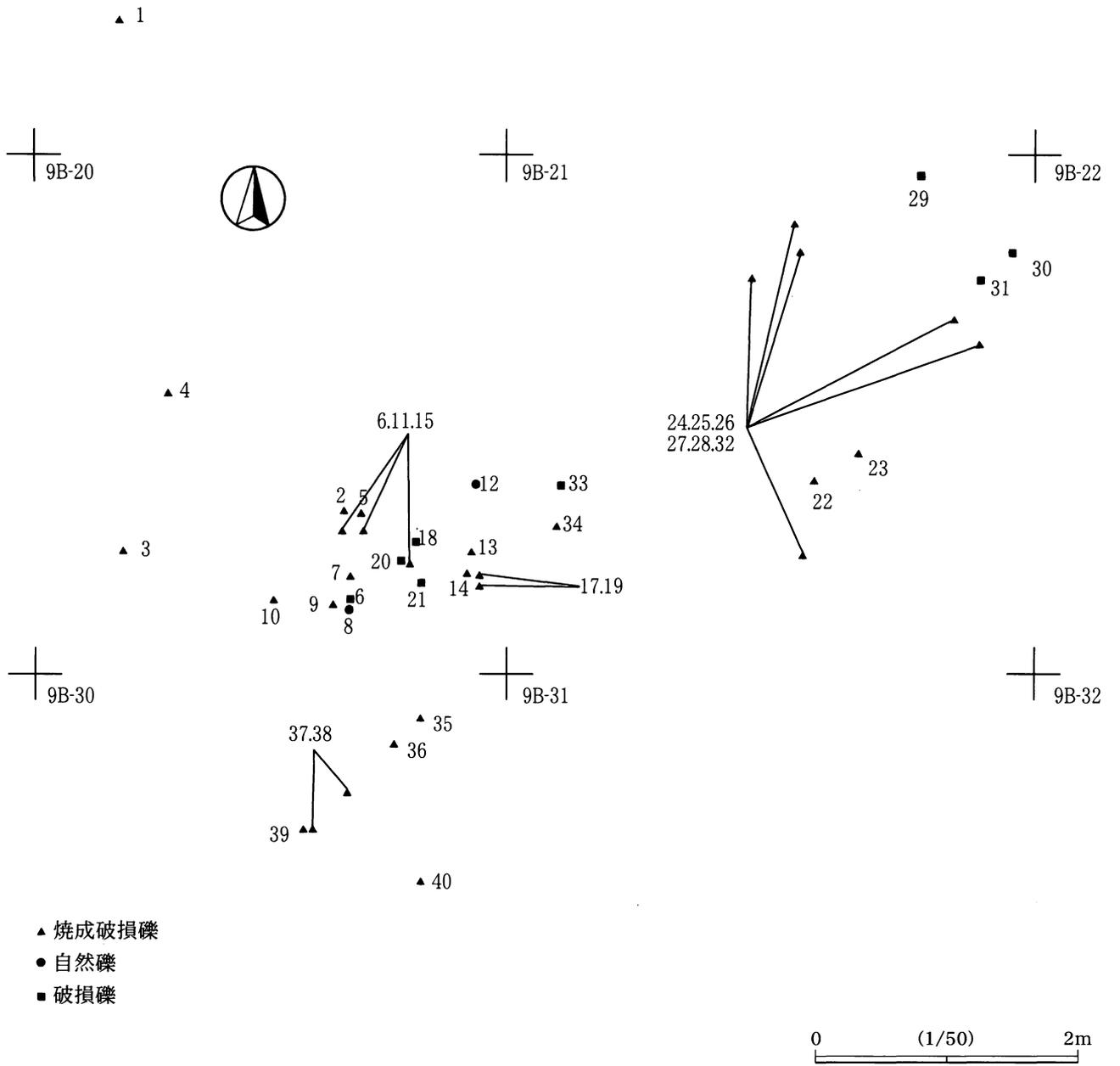
第10図 第II文化層 石器集中2 出土石器



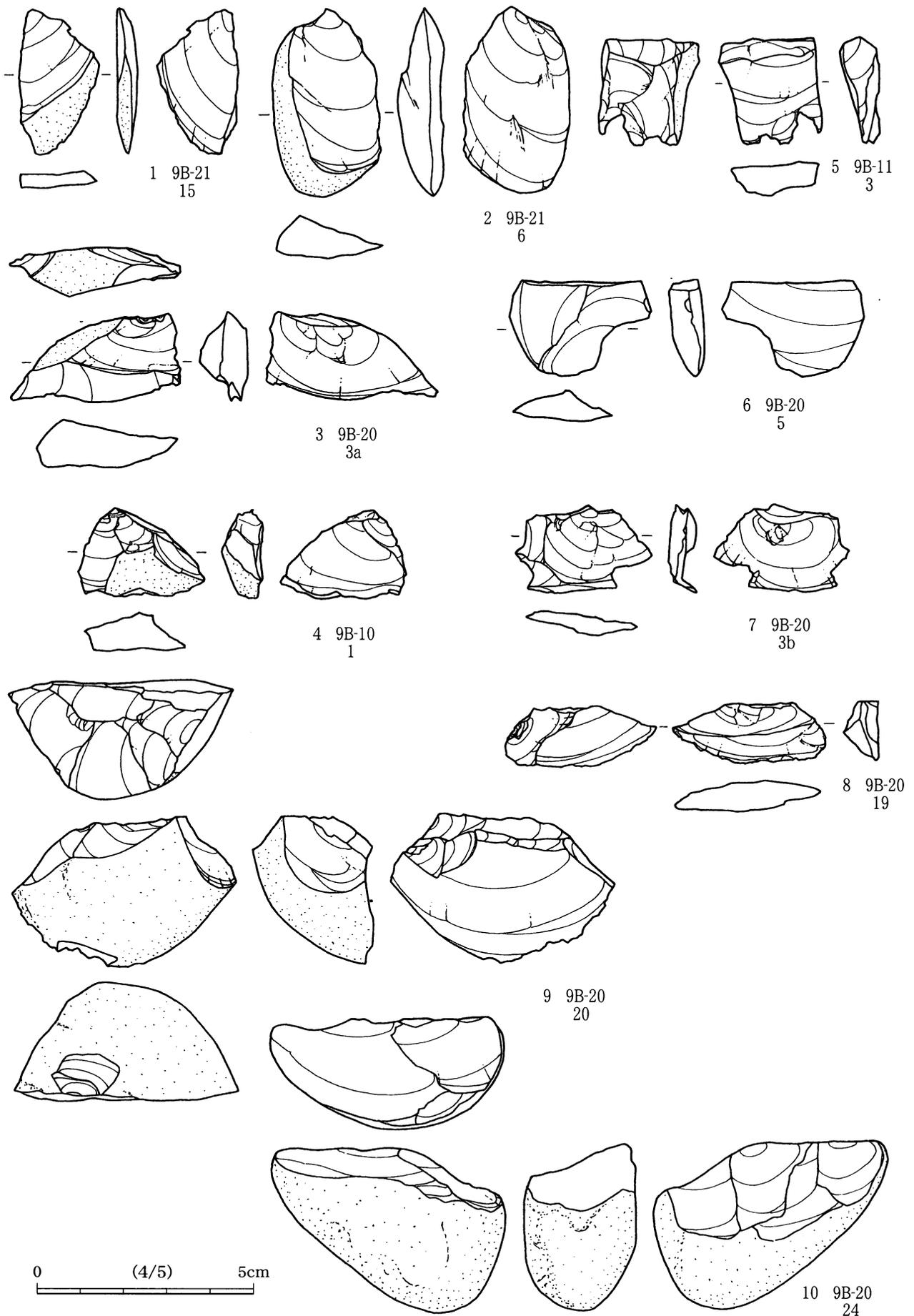
第11図 第三文化層 石器集中1 器種別分布



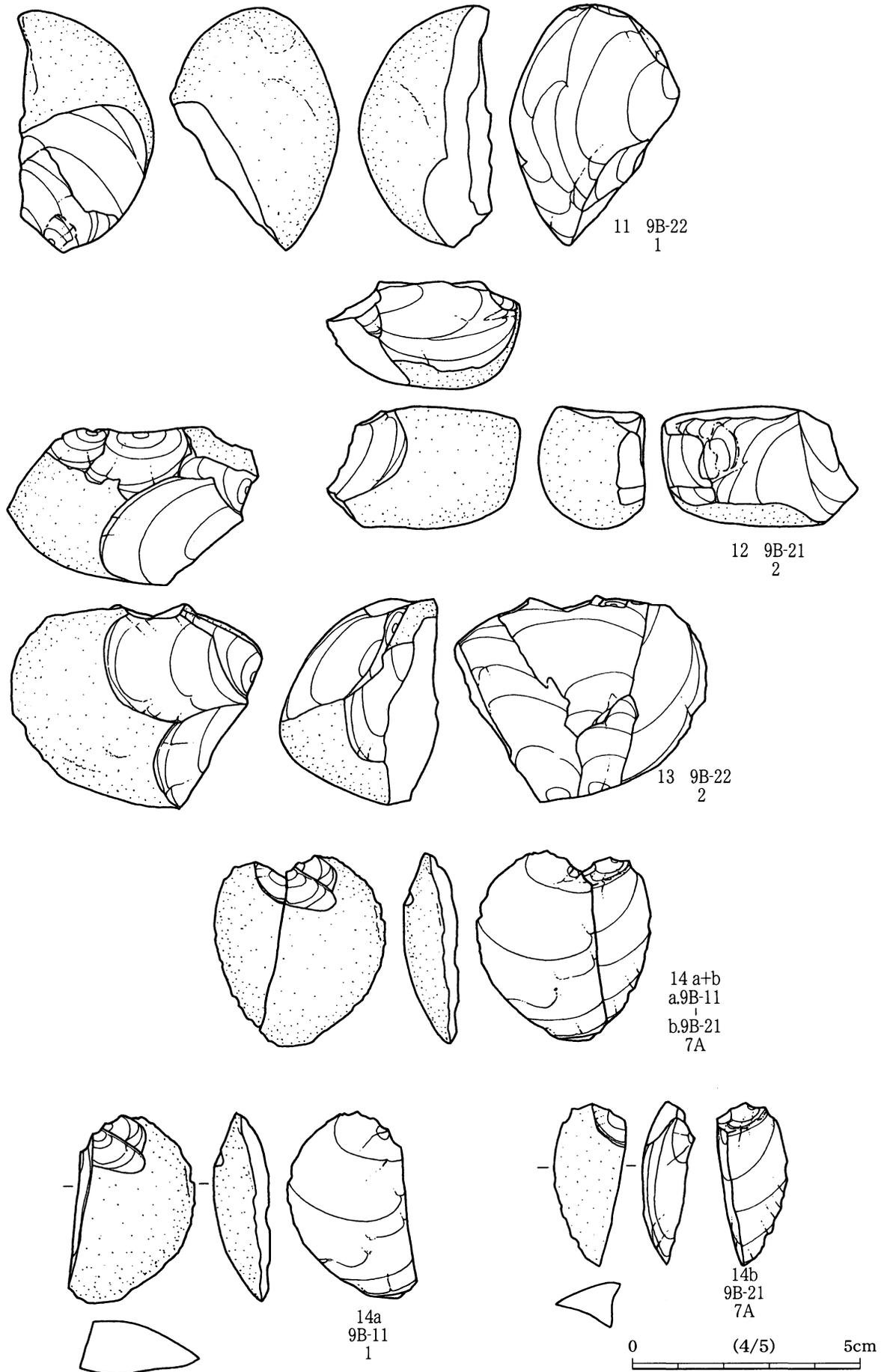
第12図 第三文化層 石器集中1 母岩別分布



第13図 第三文化層 礫群出土分布



第14図 第三文化層 石器集中1 出土石器(1)



第15図 第三文化層 石器集中1 出土石器(2)

出土石器は、石核5点、剥片15点、碎片3点の合計23点である。

1～8は剥片である。1・2は自然面を残す縦長剥片である。石材は1が安山岩A、2がホルンフェルスである。3～8は横長剥片で3～5は自然面を残す。4は被熱の痕跡がある。石材は4が流紋岩、6が安山岩B、それ以外は安山岩Aである。9～13は石核である。比較的厚みのある礫を分割した剥片を素材とする。石材は10が安山岩B、それ以外は安山岩Aである。14a+bは1つの剥片が縦に割れたものの接合資料である。石材は安山岩Aである。

礫群 (第13図, 第8表)

調査区の南側には、礫の集中分布が確認された。それらの礫の集中分布に対して通例の名称である礫群と呼称した。出土層位はⅢ層に集中する。分布範囲は南北7m、東西8mに広がるが、9B-21グリッドを境にして東西に分かれる。この礫群は第Ⅲ文化層石器集中1にほぼ重なる。

礫群を構成する礫の属性分類に当たっては、分類・母岩・遺存度・赤化・付着物・計測（最大長、最大幅、最大厚、重量）別に分類を行った。

総点数は40点、総重量は650.9gである。焼成破損礫を主体に組成し、自然礫（無焼成完形礫）、破損礫（無焼成破損礫）を含む。礫の属性をみると重量は最大75.6g、最低0.6gで平均重量は16.3gである。石材は流紋岩が10母岩24点（60.0%）、砂岩が3母岩15点（37.5%）、安山岩が1母岩1点（2.5%）である。遺存はDが38点（95.0%）で、多くが完形礫50%以下の破損状況となっている。赤化はbが主体を占め、著しく赤化している資料は少ない。接合関係は3母岩13点で確認された。接合分布は礫群内で完結する。

第Ⅳ文化層

石器集中1 (第16～20図, 第5表, 図版4・30～32)

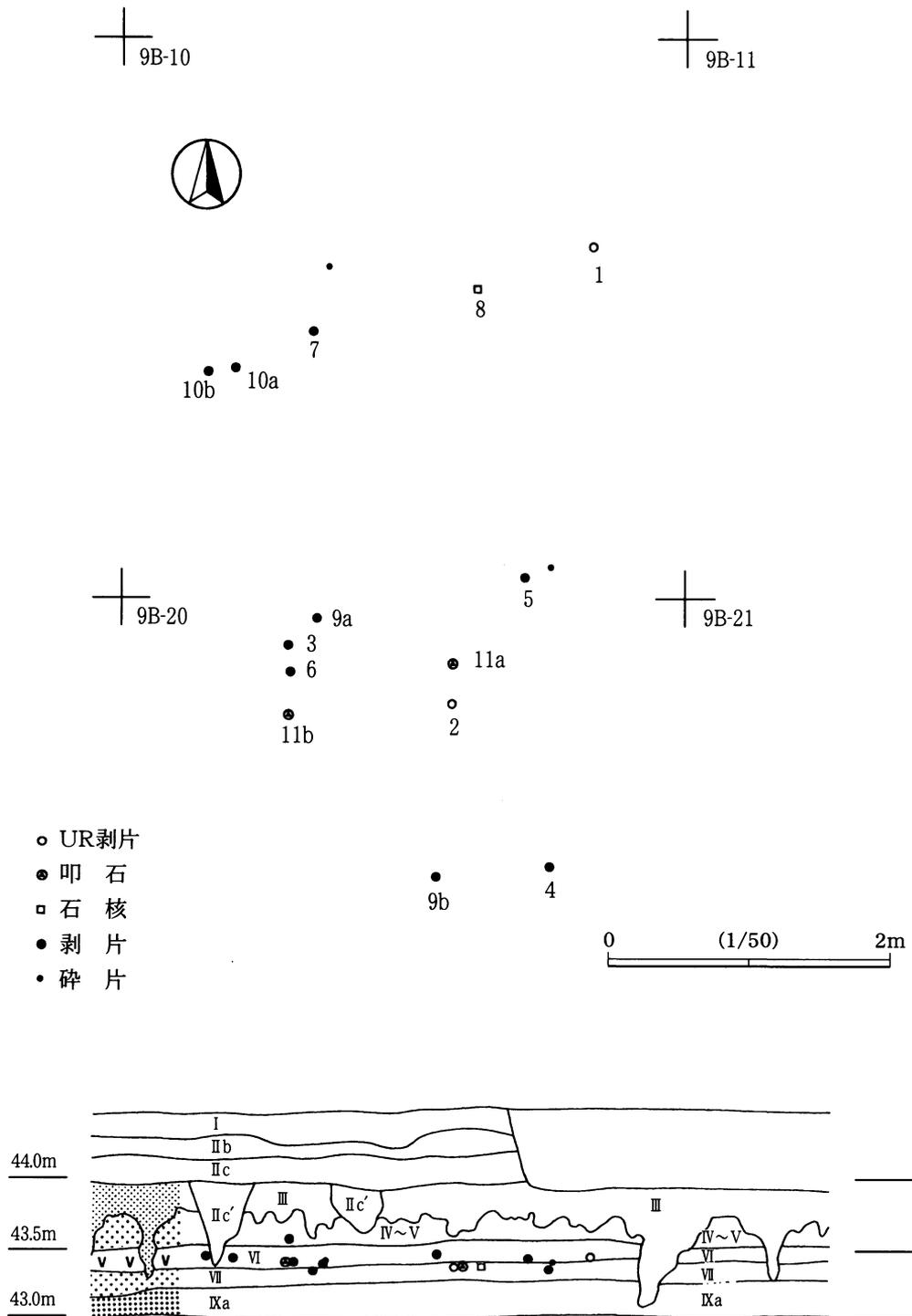
調査区の南側に位置する。第Ⅲ文化層石器集中1と同じ調査区である。出土層位は、Ⅶ層からⅣ～Ⅴ層にかけて分布するが、ほぼⅦ層上部からⅥ層下部に集中する。石器の集中は、9B-20グリッドを中心に南北4m、東西4mの範囲に広がるが、さらに9B-20グリッドを境として南北に分かれる。

出土石器は、UR剥片2点、叩石1点、石核1点、剥片9点、碎片2点の合計15点である。そのうち叩石は2点が接合して1点となっている。他に剥片が2点ずつ接合する。

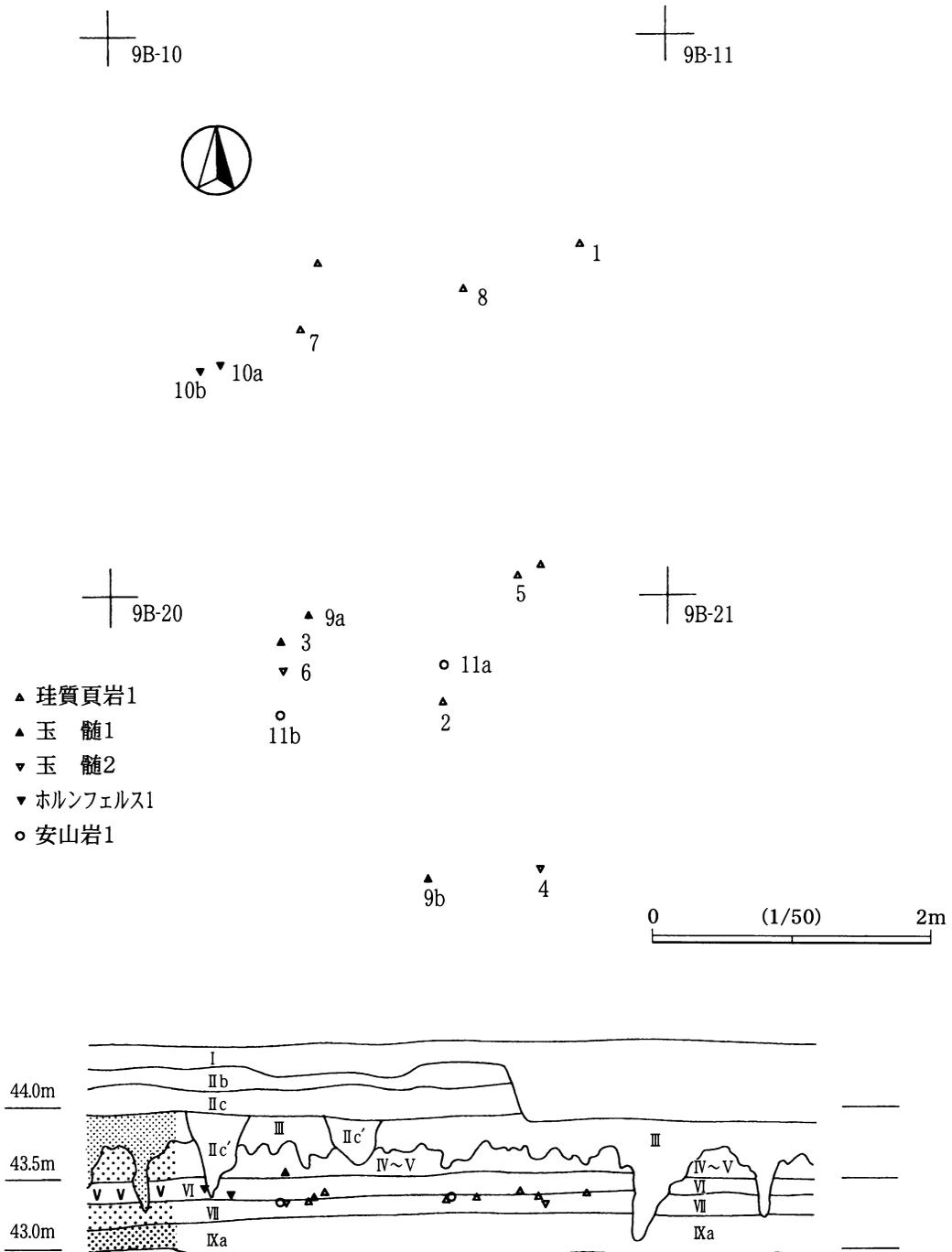
1・2はUR剥片である。1は裏面左側縁の一部に微細な剥離痕が見られるもので、表面には節理を残している。石材は珪質頁岩である。2は裏面左側縁の一部に微細な剥離痕が見られるもので、1の剥離痕に比べると大きい。石材は珪質頁岩で1と同一母岩である。3～7は剥片である。3は石刃、4は石刃状剥片としてもよいかもしれない。石材は良質の玉髓である。5～7は縦長剥片で石材は玉髓、珪質頁岩である。8は裏面にある剥離痕から石核としたが、この剥離痕は本剥片剥離時に生じた可能性もある。石材は珪質頁岩である。9a+bは欠損した剥片同士の接合資料である。石材は玉髓である。10a・10bは剥片の接合資料である。石材は板状に剥がれるホルンフェルスで、10aには自然面を残す。10bの打面及び頭部には入念な調整が施されている。11a+bは叩石の接合資料である。器体中央で割れている。石材は安山岩である。

石器集中2 (第21・22図, 第6表, 図版4・5・33)

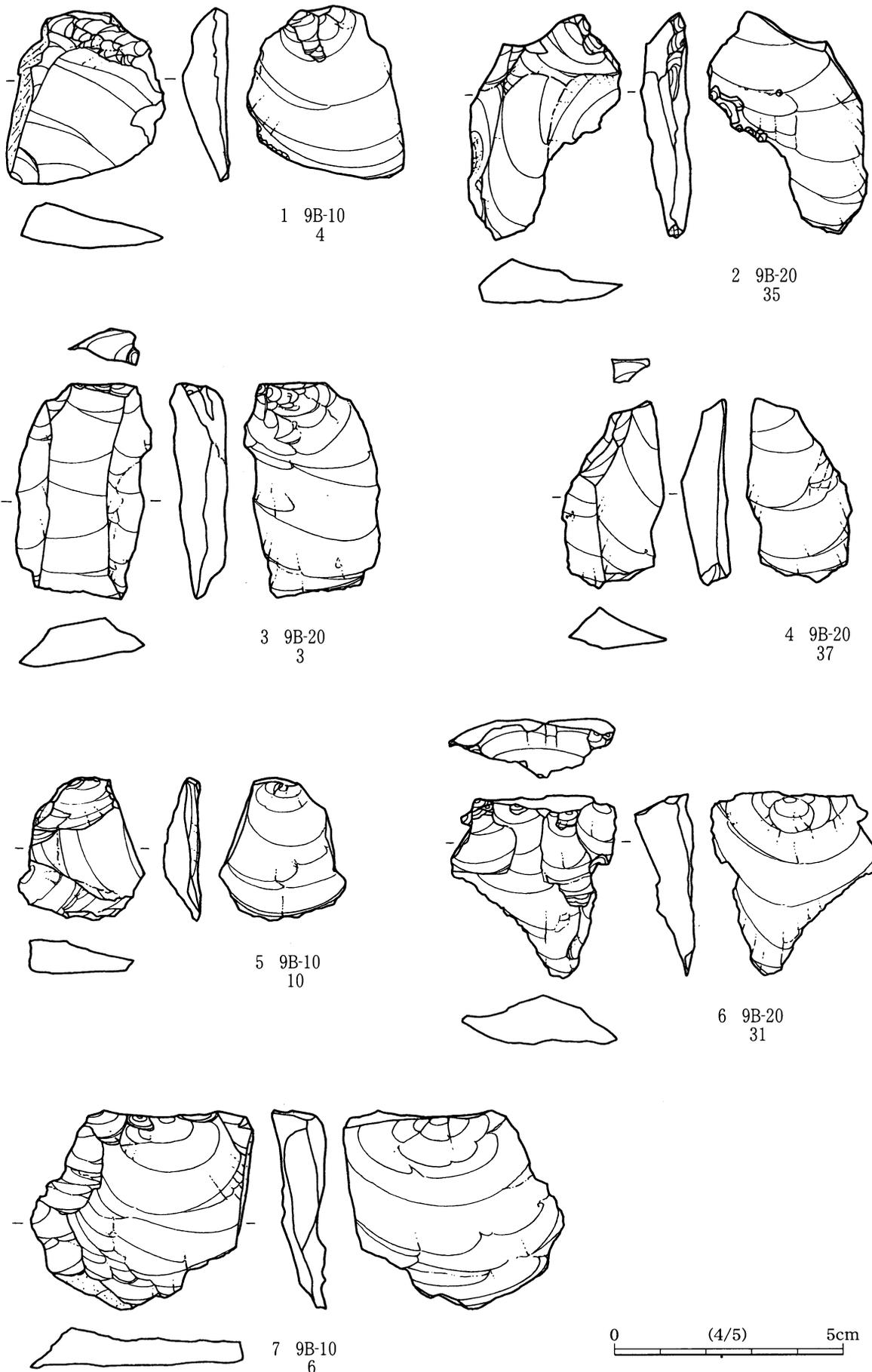
調査区の南側に位置する。出土層位は不明であるが、調査時の所見によればⅥ層である。単独出土である。



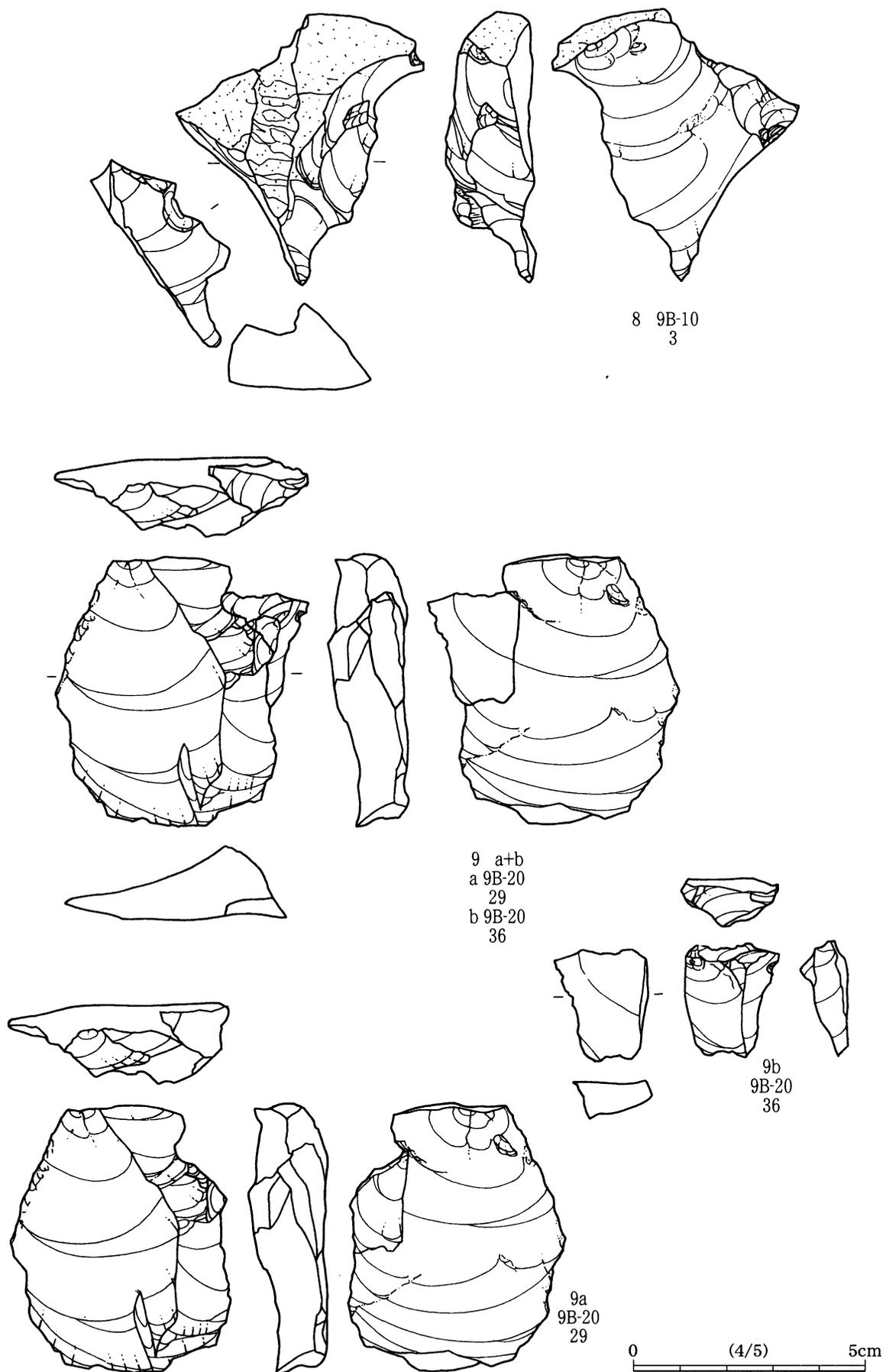
第16図 第IV文化層 石器集中1 器種別分布



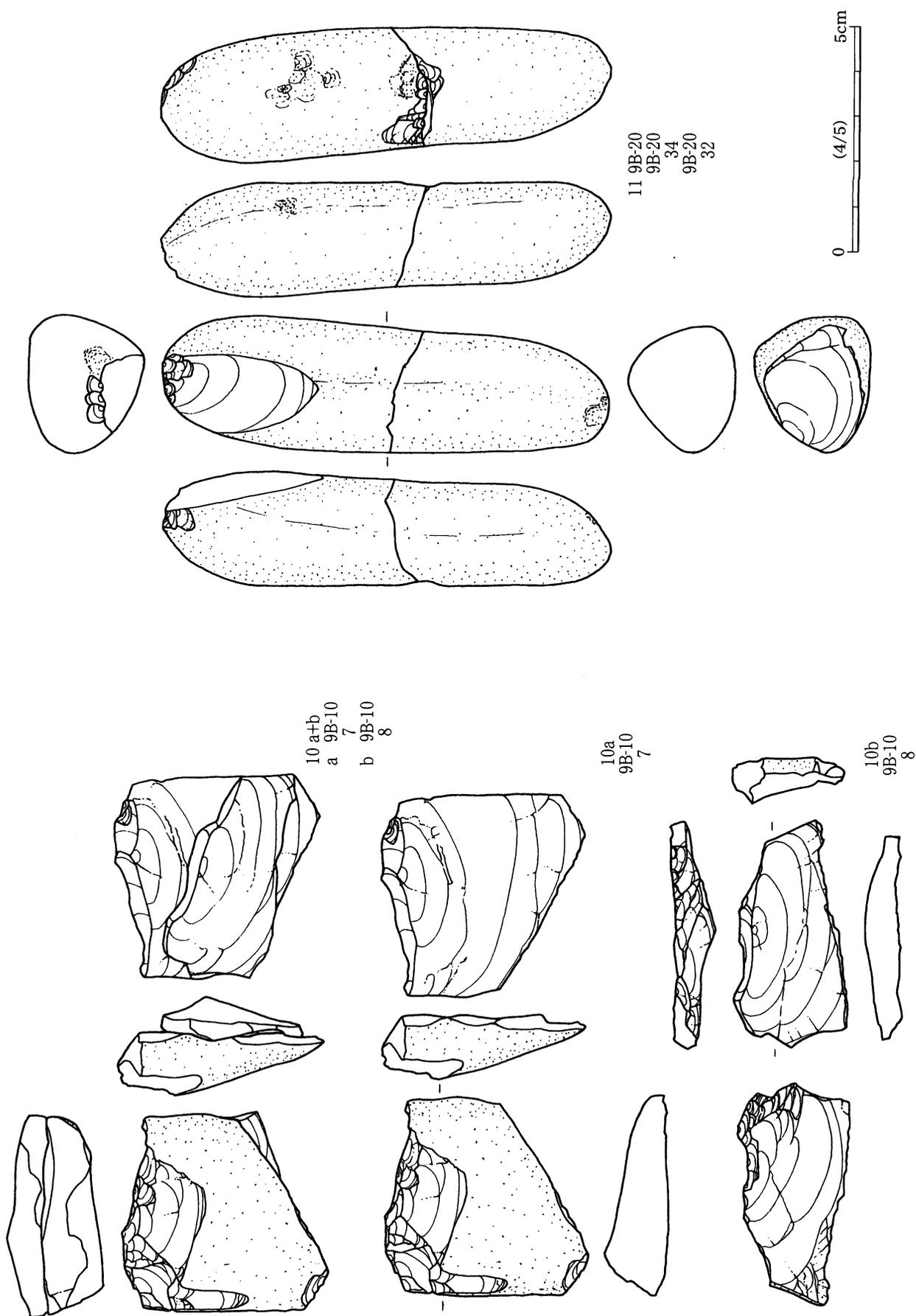
第17図 第IV文化層 石器集中1 母岩別分布



第18図 第IV文化層 石器集中1 出土石器(1)



第19図 第IV文化層 石器集中1 出土石器(2)



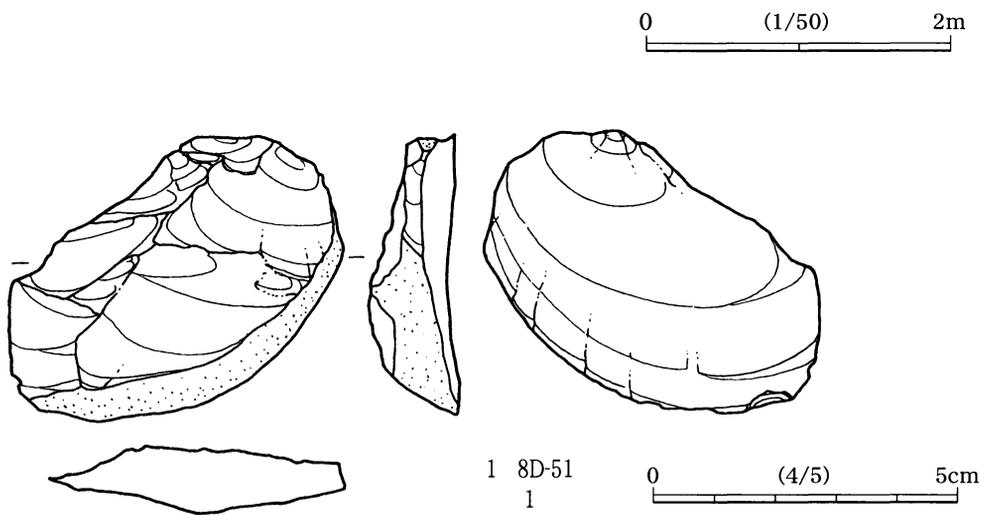
第20図 第IV文化層 石器集中1 出土石器(3)



● 剥片



第21図 第IV文化層 石器集中2 器種別分布



第22図 第IV文化層 石器集中2 出土石器

る。

出土石器は、剥片1点である。

1は安山岩の剥片である。表面の一部に自然面を残す。

第V文化層

石器集中1（第23～26図，第7表，図版5・33）

緩く西に傾斜する調査区のほぼ中央に位置する。出土層位は、X層からIV～V層にかけて分布するが、ほぼIXc層～IXa層に集中する。石器の集中は、4E-95グリッドを中心に南北2m、東西2mの範囲にまとまるもの、5E-07周辺のもの、5E-16グリッドを中心に南北2m、東西4mにまとまるものの3か所に分けられる。

出土石器は、ナイフ形石器1点、剥片12点、碎片3点、礫4点の合計20点である。

1はナイフ形石器である。石刃の末端に調整が施されたもので、石材は珪質頁岩である。2～11は剥片である。2～6は縦長剥片、7～11は横長剥片である。石材は安山岩A、安山岩B、珪質頁岩、緑色凝灰岩、チャート、蛇紋岩である。

第VI文化層

礫群（第9表）

調査区の南に位置する。すべて確認調査時の2m×2mの小グリッドからの出土で、クラムシェルによる検出のため、詳細な平面及び垂直分布は不明である。確認調査時の所見では、X層出土となっている。本調査では周辺を拡張したが、石器及び礫ともに発見されなかった。これらのことから、少なくとも2m×2mの範囲に収まる小規模なものと思われる。立川ローム最下層の礫群の可能性も考えられ、詳細な出土層位が不明な点が惜まれる。

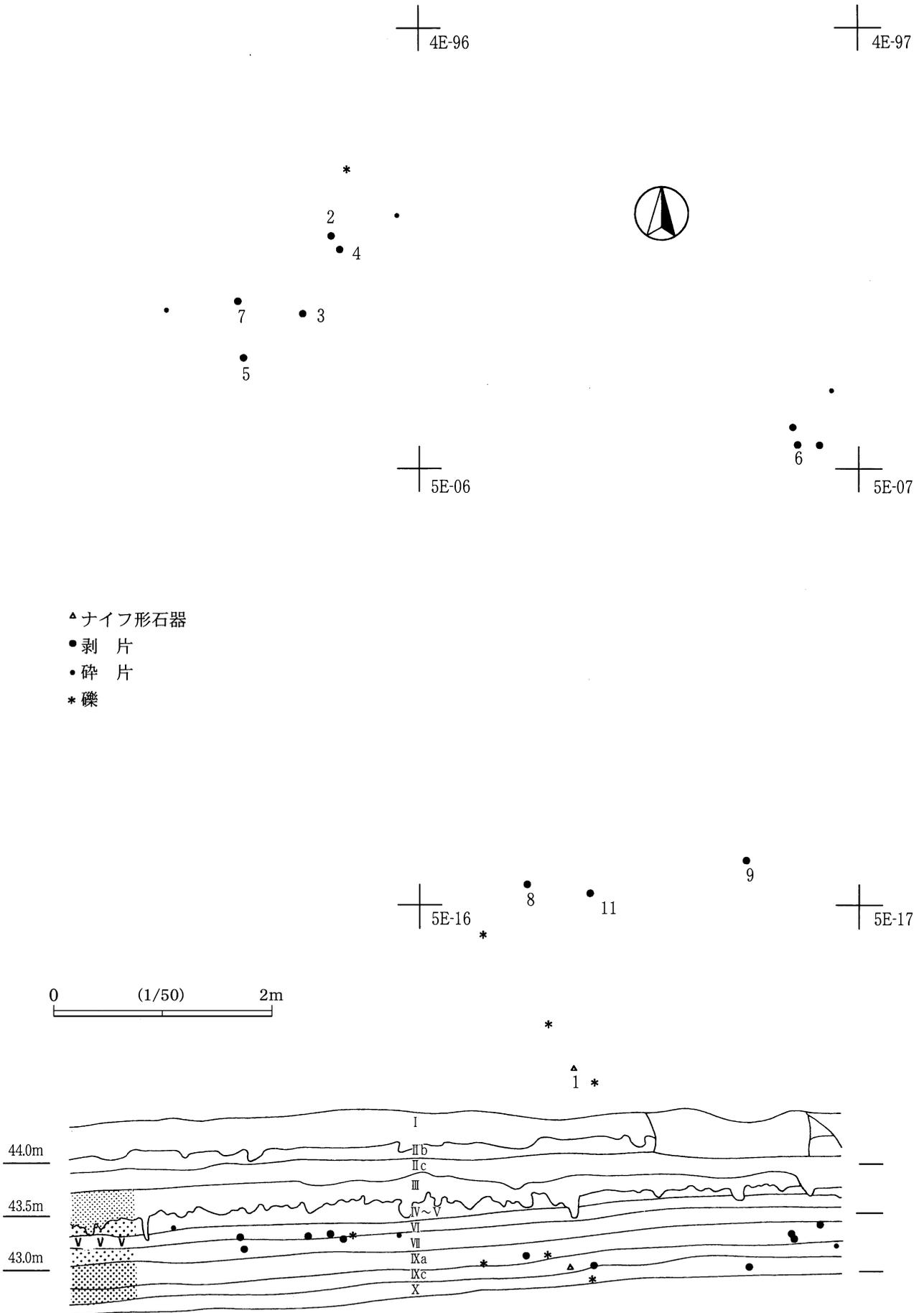
礫群を構成する礫の属性分類に当たっては、分類・母岩・遺存度・赤化・付着物・計測（最大長、最大幅、最大厚、重量）別に分類を行った。

総点数は6点、総重量は525.6gである。焼成破損礫を主体に組成し、破損礫（無焼成破損礫）を含む。礫の属性をみると重量は最大206.2g、最低6.1gで平均重量は63.9gである。石材は流紋岩が2母岩2点（33.3%）、砂岩が1母岩2点（33.3%）、ホルンフェルスが1母岩2点（33.3%）である。遺存はDが4点（66.7%）で、多くが完形礫50%以下の破損状況となっている。赤化はaが主体を占め、特に破損後の赤化が著しい。接合関係は2母岩4点で確認された。接合分布は礫群内で完結する。

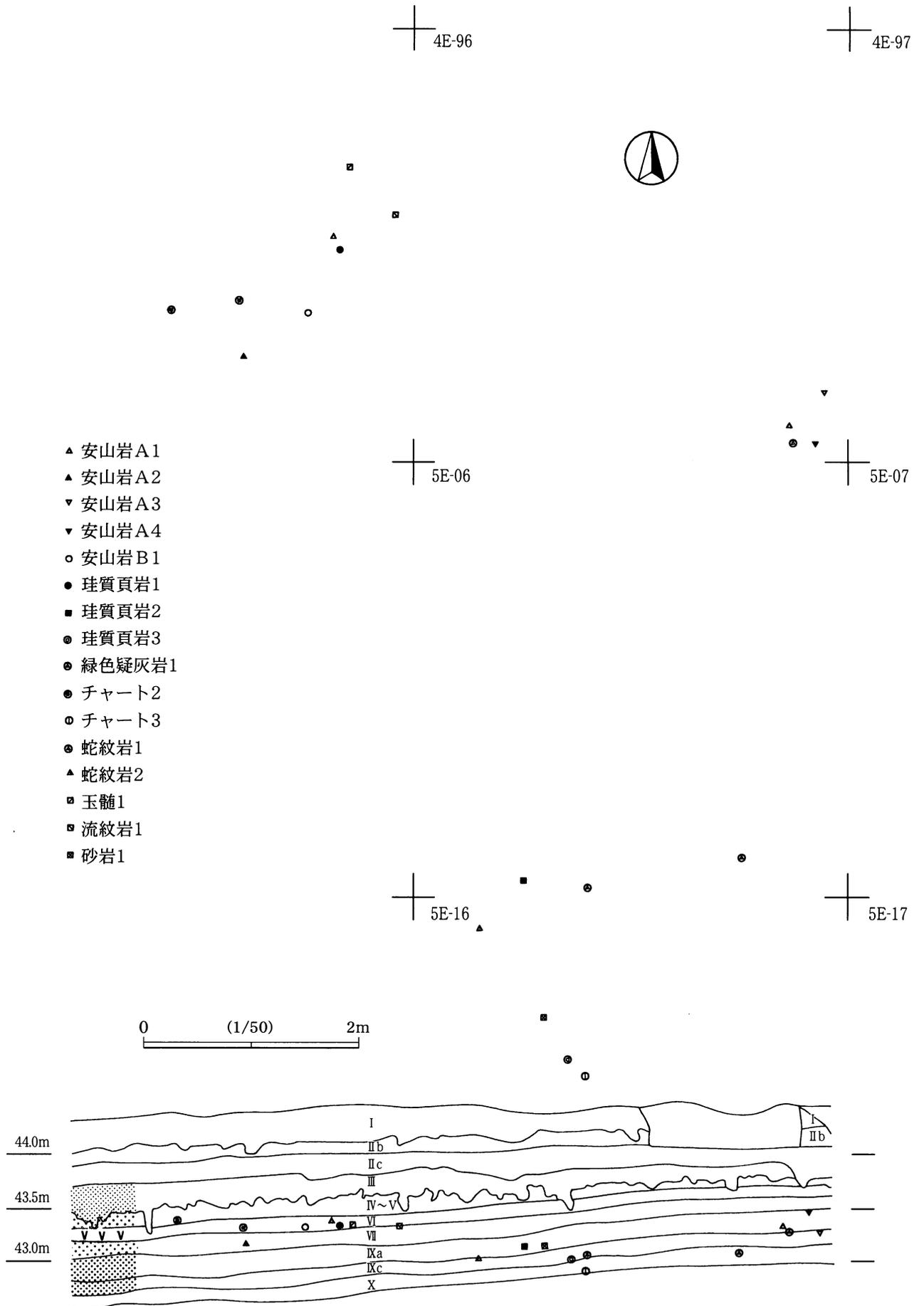
単独出土石器（第27図，第5表，図版20）

上層出土の石器である。1・2は旧石器時代に属す可能性がある。

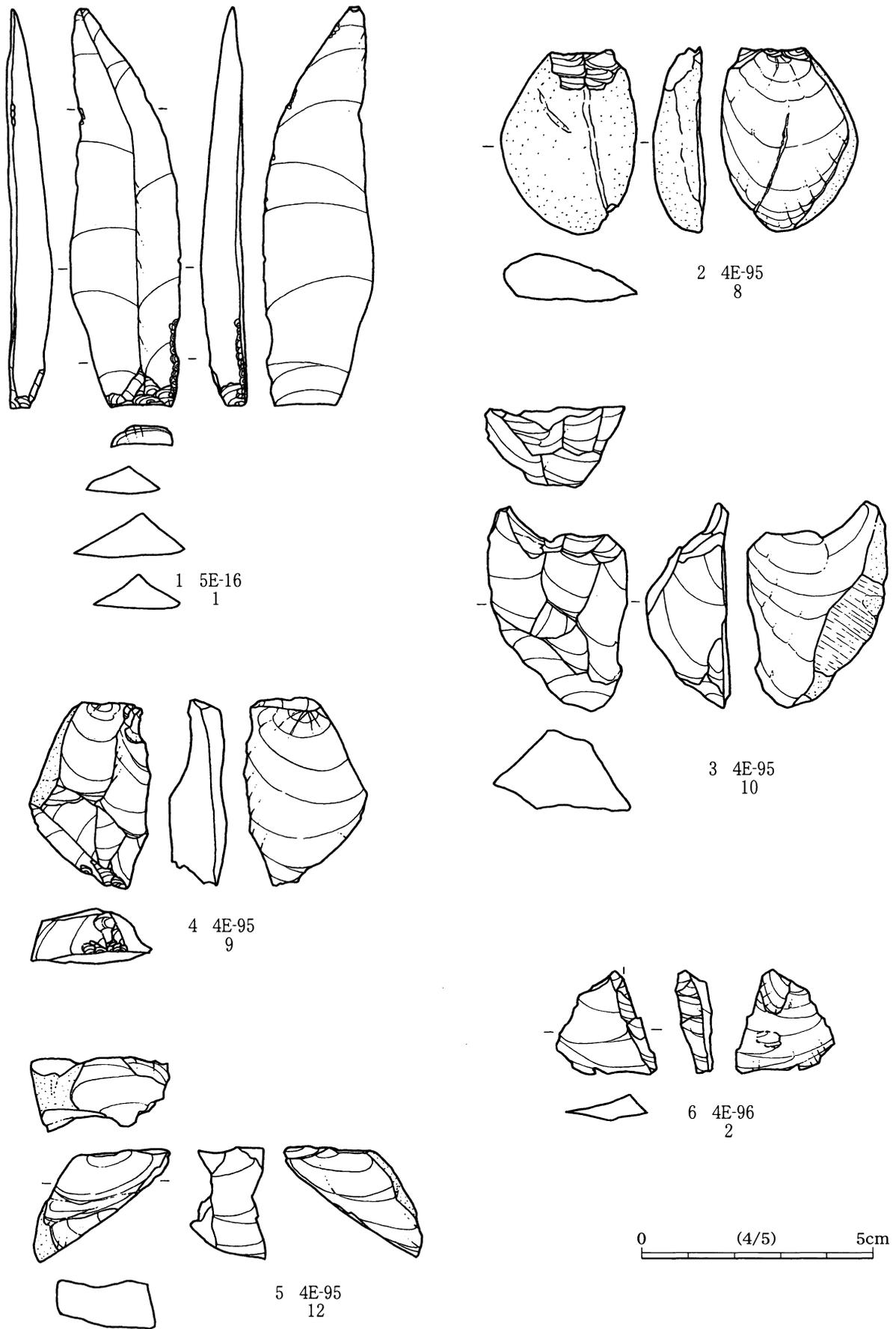
1は安山岩Aの剥片である。自然面を全面に残す。2は珪質頁岩の剥片である。小形の扁平礫を素材とする原石から剥離されたものと思われる。3はチャートの尖頭器である。下半部を欠損する。4は安山岩の石鏃である。5は凝灰岩の砥石である。



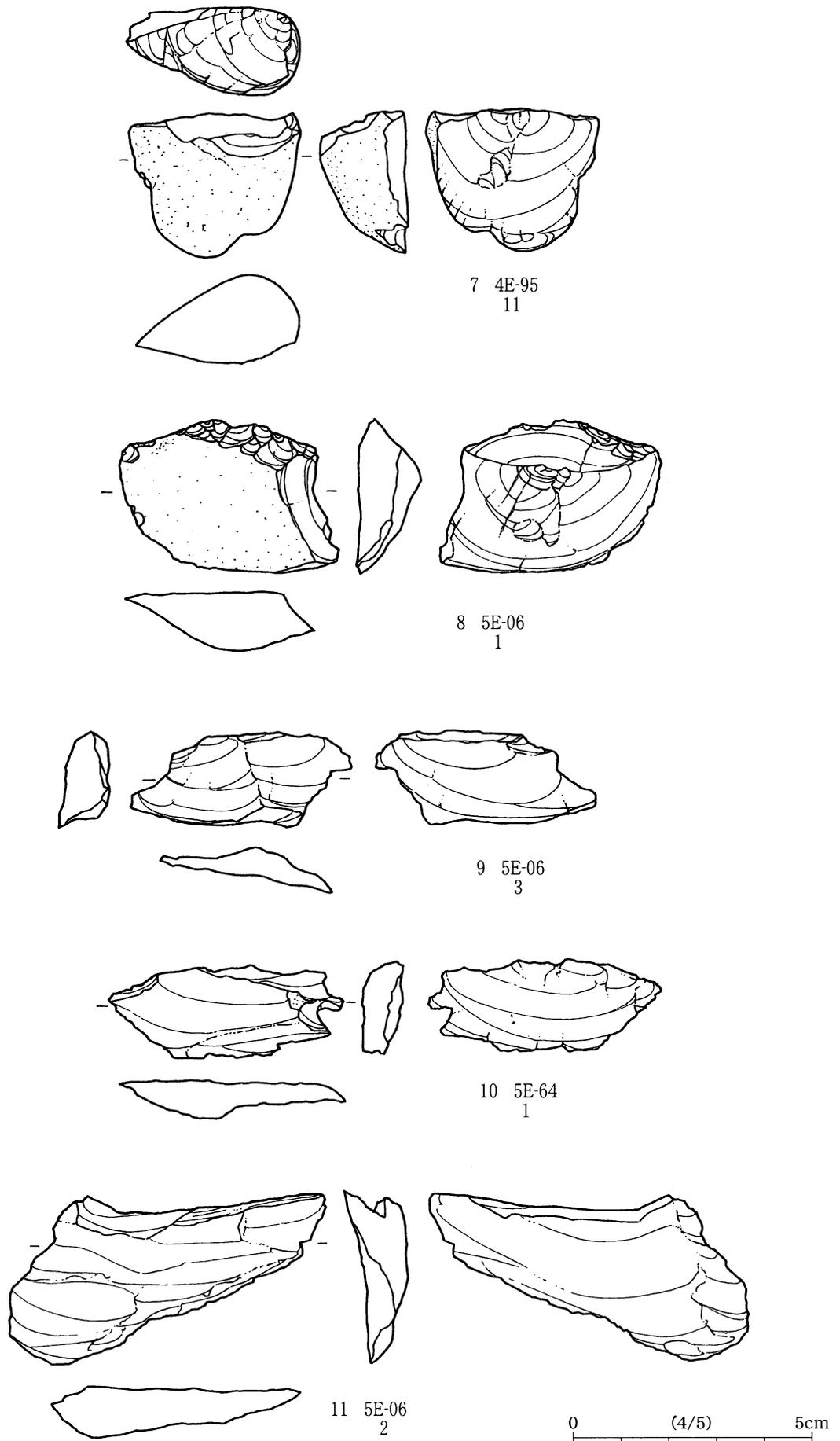
第23図 第V文化層 石器集中1 器種別分布



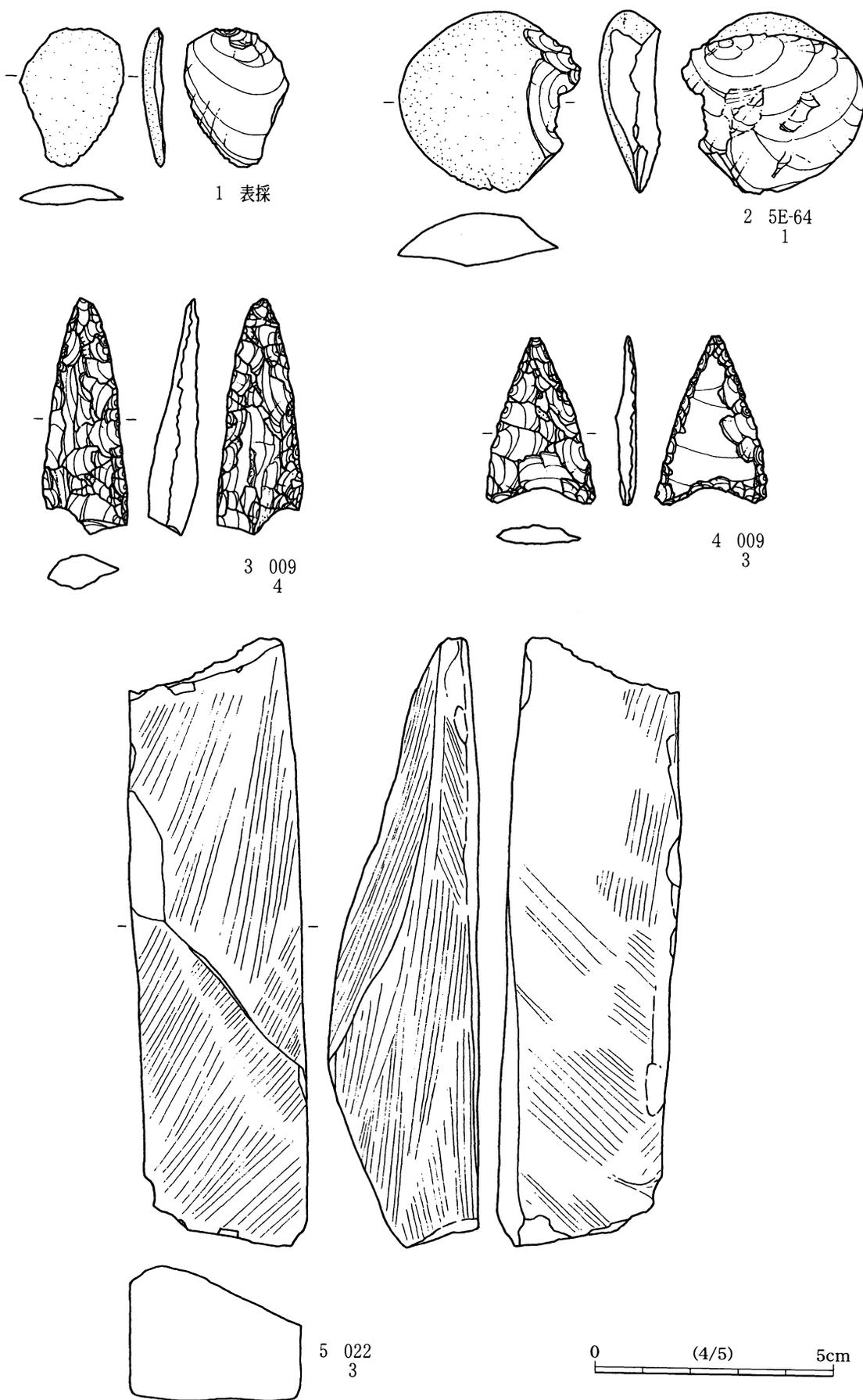
第24図 第V文化層 石器集中1 母岩別分布



第25図 第V文化層 石器集中1 出土石器(1)



第26図 第V文化層 石器集中1 出土石器(2)



第27図 グリット出土石器

石器属性表について

1. 挿図番号 実測図として掲載した遺物の通し番号。この番号は遺物の出土平面図と写真図版の番号に一致する。実測図として報告できなかったものについては、取り上げ番号順に、以下に掲載した。
2. グリッド・遺物番号 出土したグリッドと遺物の取上げ番号（注記番号）。
3. 打面形状 Cは自然面，Jは節理面，Pは点状打面，Lは線状打面，Hは平坦打面，2以上は複剥離打面，-は欠損等による打面なし・計測不可を示す。
4. 背面構成 主要剥離面の剥離方向を基準として，背面を構成する剥離面の種類と数を示した。素材を大きく変形させたものは記入しないが，素材の背面構成が窺われるものに関しては，観察される範囲で記入した。Cは自然面，Jは節理面，Hは頭部側，Tは尾部側，Rは背面を正面にして右方，Lは左方，Dは背面側，Vは腹面側（両者は作業面調整剥片，角柱状の剥片など90°に近い剥離角をもつ剥離面の場合）からの剥離面数を示す。
5. 調整部位・折面部位 主要剥離面の剥離方向を基準として，調整部位と折断部位の位置を示した。Hは頭部側，Tは尾部側，Rは背面を正面にして右側，Lは左側を示す。
6. 末端形状 Fは通常の末端（フェザーエンド），Sは階段状（ステップ），Hはちょうつがい状（ヒンジフラクチャー），Oはアーチ状（ウートラパッセ）を示す。
7. 母岩番号 石材の種類と，母岩分類については本文に記したとおりである

礫群属性表について

1. 番号 分布図の番号に対応する。
2. グリッド・遺物番号 出土したグリッドと遺物の取上げ番号（注記番号）である。
3. 分類 Aは焼成完形礫，Bは焼成破損礫，Cは自然礫（無焼成完形礫），Dは破損礫（無焼成破損礫）である。
4. 母岩番号 流紋岩，石英斑岩の石材判別に当たっては赤化すると識別が困難なものがあり，特徴的に石英の斑晶が著しいもの以外は流紋岩とした。ここでは，石英斑岩は発見されなかった。
5. 遺存 各礫の遺存状態を完形を100%として，Aは100%，Bは80%以上100%未満，Cは50%以上80%未満，Dは50%未満のランクに分類した。
6. 赤化 aは著しく赤化しているもの，bは薄く赤化しているもの，cはその中間のものに分類した。また，表面（自然面）と割れ面に分けて赤化の度合いを観察した。
7. 付着 sはスス状付着物，tはタール状付着物について付着物の有無を観察した。
8. 接合 その個体と接合したものの番号である。

第1表 第I文化層 石器集中1 属性表

挿図 番号	グリ ッド	遺物 No	器 種	最大 長mm	最大 幅mm	最大 厚mm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面	頭部	背 面 構 成							調整 角°	刃先 角°	先端 角°	調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	備 考
												C	J	H	T	R	L	D								
1	5E-42	1	石刃	42.2	21.2	10.0	7.2	H	114			○	1										B	頁岩1	Ⅲ層	

第2表 第II文化層 石器集中1 属性表

挿図 番号	グリ ッド	遺物 No	器 種	最大 長mm	最大 幅mm	最大 厚mm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面	頭部	背 面 構 成							調整 角°	刃先 角°	先端 角°	調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	備 考
												C	J	H	T	R	L	D								
1	2H-37	2	ナイフ形石器?	1.7	1.0	0.2	0.3																HB	珪質頁岩1	UR剥片か、Ⅲ層	
2	2H-36	2	石核	30.0	40.6	20.7	27.7																	珪質頁岩1	Ⅲ層	
	2H-36	1	碎片	10.4	9.9	3.4	0.3																	安山岩B1	IV層上	

第3表 第II文化層 石器集中2 属性表

挿図 番号	グリ ッド	遺物 No	器 種	最大 長mm	最大 幅mm	最大 厚mm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面	頭部	背 面 構 成							調整 角°	刃先 角°	先端 角°	調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	備 考
												C	J	H	T	R	L	D								
1	5E-05	1	剥片	15.2	33.1	6.5	2.4	2	110				4	1	1									F	珪質頁岩1	IX a層
2	4E-95	4	石核	17.2	29.2	16.7	6.0																		チャート1	Ⅶ層
	4E-95	1	剥片	11.5	19.9	7.7	2.1	-	-	-	1												HB	チャート2	Ⅵ層	
	4E-95	2	剥片	17.6	14.4	5.1	0.9	H	129			2											B	安山岩B1	Ⅵ層	
	4E-95	3	剥片	21.1	16.0	5.4	2.4	-	-	-	1												HB	チャート2	Ⅵ層	

第4表 第III文化層 石器集中1 属性表

挿図 番号	グリ ッド	遺物 No	器 種	最大 長mm	最大 幅mm	最大 厚mm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面	頭部	背 面 構 成							調整 角°	刃先 角°	先端 角°	調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	備 考
												C	J	H	T	R	L	D								
1	9B-21	15	剥片	33.4	18.8	4.9	2.6	-	-	-	○	1											H	F	安山岩A1	IV層上
2	9B-21	6	剥片	42.8	24.7	10.7	9.2	H	118	○	○	1												F	ホルンフェルス	IV層上
3	9B-20	3a	剥片	20.1	39.3	10.9	6.3	1	131		○	1		1										F	安山岩A5	Ⅲ層
4	9B-10	1	剥片	20.0	29.2	9.2	4.4	-	-	-	○	3											HB	流紋岩1	被熱、Ⅲ層	
5	9B-11	3	剥片	24.2	23.6	9.3	4.5	H	134		○			2										F	安山岩A4	IV層上
6	9B-20	5	剥片	21.6	32.4	8.4	4.7	-	-	-			1	1									H	F	安山岩B1	Ⅲ層
7	9B-20	3b	剥片	20.1	30.9	6.2	2.6	H	127			1	1	2										F	安山岩A2	Ⅲ層
8	9B-20	19	剥片	13.6	34.4	8.1	2.9	H	107			1		1										F	安山岩A5	Ⅲ層
9	9B-20	20	石核	34.2	51.4	27.1	47.6																		安山岩A1	Ⅲ層
10	9B-20	24	石核	38.9	53.9	29.8	45.5																		安山岩B2	Ⅲ層
11	9B-22	1	石核	52.8	37.2	29.2	55.2																		安山岩A6	Ⅲ層
12	9B-21	2	石核	26.6	42.4	23.2	37.7																		安山岩A7	IV層上
13	9B-22	2	石核	44.4	54.5	34.5	84.5																		安山岩A8	Ⅲ層
14a	9B-11	1	剥片	41.1	28.4	12.2	13.6	L			○	2												F	安山岩A3	Ⅲ層
14b	9B-21	7a	剥片	35.9	16.2	11.3	5.0	L			○	1												F	安山岩A3	IV層上
	9B-10	2a	剥片	21.4	17.4	7.0	1.4	-	-	-			3										H	F	流紋岩1	被熱、Ⅲ層
	9B-11	4	碎片	6.2	8.5	2.3	0.1																		安山岩B	Ⅵ層
	9B-20	11	碎片	13.8	10.9	2.0	0.2																		安山岩A5	Ⅲ層
	9B-20	13	剥片	15.5	22.5	3.2	0.6	H	111			1													安山岩A5	Ⅲ層
	9B-20	16	碎片	11.6	16.4	3.9	0.6																	F	安山岩A5	Ⅲ層
	9B-20	33	剥片	13.8	21.9	3.6	1.0	-	-	-			2											HB	流紋岩1	被熱、Ⅵ層
	9B-21	10	剥片	18.0	17.8	6.0	1.7	-	-	-	○	1											L	H	安山岩A6	Ⅲ層
	9B-21	16	剥片	21.4	15.4	5.7	1.5	-	-	-			1										L	F	安山岩A5	Ⅲ層

第5表 第IV文化層 石器集中1 属性表

挿図 番号	グリ ッド	遺物 No	器 種	最大 長mm	最大 幅mm	最大 厚mm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面	頭部	背 面 構 成							調整 角°	刃先 角°	先端 角°	調整 部位	折面 部位	末端	母岩番号	備 考	
												C	J	H	T	R	L	D									V
1	9B-10	4	UR剥片	37.5	33.8	9.7	10.2	H	114			○	2	2										R	S	珪質頁岩1	Ⅵ層
2	9B-20	35	UR剥片	48.0	33.8	10.2	11.1	-	-	-			1	2		1	52							R	H	珪質頁岩1	Ⅵ層
3	9B-20	30	剥片	46.1	29.5	12.1	15.4	H	112	○	○	3												S	玉髓1	Ⅴ層	
4	9B-20	37	剥片	39.7	22.3	10.3	5.9	-	-	-			5											HB	玉髓2	Ⅵ層	
5	9B-10	10	剥片	30.4	27.5	8.1	5.4	H	113	○		1	1	1										F	珪質頁岩1	Ⅵ層	

6	9B-20	31	剥片	38.8	36.0	12.5	10.4	H	77	○																									F	玉髓2	VI層		
7	9B-10	6	剥片	43.4	48.4	11.5	19.4	H	103	○	○																								S	珪質頁岩1	VI層		
8	9B-10	3	石核	58.0	52.8	18.6	32.7																															珪質頁岩1	VI層
9a	9B-20	29	剥片	57.7	46.8	16.7	35.5	2	103																										BR	玉髓1	VI層		
9b	9B-20	36	剥片	23.9	20.3	10.0	3.8	-	-	-	-																									BL	玉髓1	VI層	
10a	9B-10	7	剥片	45.2	44.8	14.1	26.8	2	119	○	pl	○																								F	ホルンフェルス1	VI層	
10b	9B-10	8	剥片	24.6	50.2	9.6	9.9	H	106	pl	pl																									B	ホルンフェルス1	VI層	
11a	9B-20	34	叩石	58.6	30.0	25.4	60.1																															安山岩1	VI層
11b	9B-20	32	叩石	49.8	26.5	23.5	34.0																															安山岩1	VI層
	9B-10	5	碎片	10.9	11.9	5.8	0.4																															珪質頁岩1	VI層
	9B-10	9	碎片	7.3	8.5	2.3	0.1																															珪質頁岩1	VI層

第6表 第IV文化層 石器集中2 属性表

挿図番号	グリッド	遺物No	器種	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	打面形状	打角°	打面	頭部	背面構成											調整角°	刃部角°	先端角°	調整部位	折面部位	末端	母岩番号	備考								
												C	J	H	T	R	L	D	V																			
1	8D-51	1	剥片	46.0	54.3	14.6	30.0	C	112			○																								F	安山岩2	VI層

第7表 第V文化層 石器集中1 属性表

挿図番号	グリッド	遺物No	器種	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	打面形状	打角°	打面	頭部	背面構成											調整角°	刃部角°	先端角°	調整部位	折面部位	末端	母岩番号	備考											
												C	J	H	T	R	L	D	V																						
1	5E-16	1	ナイフ形石器	86.7	23.7	9.5	14.0																													H	珪質頁岩3	IXa層			
2	4E-95	8	剥片	40.2	29.5	10.5	13.5	L			○	○																								F	安山岩A1	IXa層			
3	4E-95	10	剥片	44.2	29.7	17.5	16.8	L								4	1			1		3														F	安山岩B1	IXa層			
4	4E-95	9	剥片	40.8	26.6	12.3	10.4	H	113		○	○	○			4				2																O	珪質頁岩1	IXa層			
5	4E-95	12	剥片	24.7	29.4	16.0	8.4	2	80			○				2				1																O	安山岩A2	IXa層			
6	4E-96	2	剥片	22.7	22.0	7.8	2.0	-	-	-	-																										B	S 緑色凝灰岩1	IXa層		
7	4E-95	11	剥片	29.6	35.8	18.1	19.9	H	94			○																									F	チャート2	IXa層		
8	5E-06	1	剥片	31.8	46.2	12.8	15.3	H	115		○	pl	○																								F	珪質頁岩2	IXa層		
9	5E-06	3	剥片	20.3	46.4	10.8	6.1																														B	蛇紋岩1	IXc層		
10	5E-64	1	剥片	19.4	59.6	8.7	7.9																														S	蛇紋岩1	平面図なし		
11	5E-06	2	剥片	36.2	66.6	13.7	18.5																															F	蛇紋岩1	IXc層	
	4E-95	5	碎片	13.0	12.0	6.3	0.6																																チャート2	IXa層	
	4E-95	6	礫	16.7	14.5	6.0	1.9																																玉髓1	IXa層	
	4E-95	7	碎片	10.4	13.9	2.0	0.3																																流紋岩1	イモ石か、IXa層	
	4E-96	1	剥片	19.3	22.0	5.7	2.1	L																															F	安山岩A4	IXa層
	4E-96	3	剥片	22.4	18.7	4.5	2.1	H	110																														F	安山岩A1	IXa層
	4E-96	4	碎片	13.4	13.4	3.6	0.7																																	安山岩A3	IXc層
	5E-16	2	礫	26.8	19.4	12.8	9.8																																	砂岩1	IXa層
	5E-16	4	礫	36.8	22.5	5.7	7.6																																	蛇紋岩2	IXc層
	5E-16	5	礫	23.2	19.9	9.8	4.2																																	チャート3	IXc層

第8表 第Ⅲ文化層 礫群属性表

番号	グリッド	遺物 No.	分類	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	遺存	表面赤化	断面赤化	付着	接合	備考
1	9B-10	2B	B	砂岩2	37.4	29.8	12.6	15.9	D	b				Ⅲ層
2	9B-20	1	B	砂岩1	19.7	17.2	14.4	4.1	D	b				Ⅲ層
3	9B-20	2	B	流紋岩5	39.2	20	14.1	10.9	D	b	b			Ⅳ層上
4	9B-20	4	B	砂岩1	28.2	22.7	13.1	8.7	D	b				Ⅲ層
5	9B-20	6	B	砂岩1	31.5	26.8	21.7	21.9	D	b				Ⅲ層
6	9B-20	7	B	砂岩1	24.4	22.2	19.7	15.1	D	b			11,15	Ⅳ層上
7	9B-20	8	B	流紋岩3	22.3	19	18	8.0	D	b	b	s		Ⅲ層
8	9B-20	9	C	流紋岩	11.5	10.7	7.8	1.0	A					母岩不明, Ⅲ層
9	9B-20	10	B	流紋岩1	25.5	15	15.3	4.0	D	b	b	s		Ⅲ層
10	9B-20	12	B	流紋岩1	37.7	21.6	15.8	10.3	D	b		s		Ⅲ層
11	9B-20	14	B	砂岩1	38.1	30.6	26	21.6	D	b			6,15	Ⅲ層
12	9B-20	15	C	流紋岩9	17.9	16.8	11.7	3.0	A					Ⅲ層
13	9B-20	17	B	流紋岩1	33.9	30.6	13	9.6	D	b	b			Ⅲ層
14	9B-20	18	B	流紋岩4	43.6	33.7	21.3	35.8	D	a	c	s		Ⅳ層上
15	9B-20	21	B	砂岩1	32.2	20	15.4	12.0	D				6,11	Ⅲ層
16	9B-20	22	D	安山岩1	57.5	41.9	31.3	75.6	D			s		Ⅲ層
17	9B-20	23	B	砂岩1	32.2	30.8	27.3	32.9	D	b		s	19	Ⅲ層
18	9B-20	25	D	砂岩1	36.7	33.7	24.7	26.0	D					Ⅲ層
19	9B-20	26	B	砂岩1	30	25.3	21.4	16.4	D	b			17	Ⅲ層
20	9B-20	27	B	流紋岩5	45.3	38.8	28.1	46.2	D	b				Ⅲ層
21	9B-20	28	D	砂岩1	16	10.3	10.1	2.0	D					Ⅲ層
22	9B-21	1	B	流紋岩6	45.6	33.2	19	25.1	D	b				Ⅳ層上
23	9B-21	3	B	砂岩2	37.4	26.9	16.2	13.3	D	b				Ⅳ層上
24	9B-21	4	B	流紋岩8	52.7	42.2	27.2	48.4	D	b	b	s	25,26,27,28,32	Ⅳ層上
25	9B-21	5	B	流紋岩8	50.1	28.6	21.5	29.6	D	b	b	s	24,26,27,28,32	Ⅳ層上
26	9B-21	7C	B	流紋岩8	30.5	14.9	12.9	6.0	D	b	b		24,25,27,28,32	Ⅳ層上
27	9B-21	8	B	流紋岩8	36.8	33.5	17.5	16.5	D		c	s	24,25,26,28,32	Ⅳ層上
28	9B-21	9	B	流紋岩8	36.6	24.4	16.6	13.4	D	c	c	s	24,25,26,27,32	Ⅲ層
29	9B-21	11	D	砂岩2	34.4	15	7.3	2.9	D					Ⅲ層
30	9B-21	12	D	砂岩2	29.8	16.3	3.5	1.8	D					Ⅲ層
31	9B-21	13	D	砂岩3	17.3	10.4	4	0.6	D					Ⅲ層
32	9B-21	14	B	流紋岩8	40.9	33.4	13.5	17.8	D	a	b	s	24,25,26,27,28	Ⅲ層
33	9B-21	17	D	流紋岩3	20.1	19.4	6.6	2.5	D					Ⅲ層
34	9B-21	18	B	流紋岩1	37	27.3	17.8	16.7	D	b	b	s		Ⅲ層
35	9B-30	1	B	流紋岩7	14.5	13.2	8	1.4	D	a				Ⅲ層
36	9B-30	2	B	流紋岩2	32.6	31.2	15.5	19.0	D	b				Ⅲ層
37	9B-30	3	B	流紋岩7	37.2	34	26.1	30.8	D	b	b		38	Ⅲ層
38	9B-30	4A	D	流紋岩7	30.8	18.1	14.1	6.1	D				37	Ⅲ層
39	9B-30	4B	B	流紋岩8	13.9	10.3	7.5	1.1	D	b	b			Ⅲ層
40	9B-30	5	B	流紋岩3	30.1	29.3	25.1	16.9	D	b	b			Ⅲ層

第9表 第Ⅵ文化層 礫群属性表

番号	グリッド	遺物 No.	分類	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	遺存	表面赤化	断面赤化	付着	接合	備考
1	11C-02	1	B	流紋岩1	74.8	38.3	33.0	106.9	D	c	a	s	6	X層, 重機による採集
2	11C-02	2	B	砂岩1	76.2	23.7	19.1	41.9	D	a	a		5	X層, 重機による採集
3	11C-02	3	D	ホルンフェルス1	43.7	24.7	25.6	30.5	D					X層, 重機による採集
4	11C-02	4	D	ホルンフェルス1	33.3	14.9	16.5	6.1	D					X層, 重機による採集
5	11C-02	5	B	砂岩1	92.0	52.0	21.0	134.0	B	a	a	s	2	X層, 重機による採集
6	11C-02	6	B	流紋岩1	94.3	50.9	36.2	206.2	C	c	a	s	1	X層, 重機による採集

第10表 グリッド出土石器属性表

挿図番号	石材	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号
1	安山岩A	剥片	29.1	22.4	4.5	2.6	表採
2	珪質頁岩	剥片	37.9	38.3	12.9	18.2	5E-64・1
3	チャート	尖頭器	48.5	18.2	10.0	6.8	009-4
4	安山岩A	石鏃	35.0	22.9	4.5	2.5	009-3
5	凝灰岩	砥石	126.7	38.2	31.4	146.2	022-3

第3章 縄文時代

第1節 遺構（第28・29図，図版6～10）

今回の調査では、形態・規模・検出面から、縄文時代の陥穴と考えられる土坑を13基を検出した。遺構に伴って遺物が出土しなかったため、時期を特定することはできなかった。

遺跡全体に散在するように分布し、台地平坦面から斜面に移行していく、縁辺に位置する傾向がある。

S K 011 7D-51グリッド付近に位置する。下層の確認調査時に検出した。平面形は南北に軸をもち、細長い楕円形を呈す。規模は長軸3.6m，短軸0.4m，検出面からの深さ0.6mである。覆土の最下層には黒色土の堆積がみられる。

S K 016 2H-52グリッド付近に位置する。平面形はN-25°-Wに軸をもち、細長い楕円形を呈す。規模は長軸4.4m，短軸0.5m，検出面からの深さ0.7mである。覆土はロームを主体とする。

S K 017 5F-00グリッド付近に位置する。平面形は細長い楕円形を呈し、N-20°-Wに軸をもつ。規模は長軸2.8m，短軸0.6m，検出面からの深さ1.1mである。覆土はロームを主体とする。

S K 019 9D-63グリッド付近に位置する。平面形は細い楕円形を呈し、N-25°-Wに軸をもつ。規模は長軸2.9m，短軸1.1m，検出面からの深さ1.2mである。

S K 020 3G-78グリッド付近に位置する。下層確認調査中に検出された。平面形はほぼ東西に軸をもち、細い楕円形を呈す。規模は長軸2.7m，短軸0.6m，検出面からの深さ1.3mである。

S K 023 10C-71グリッド付近に位置する。下層確認調査時に、ハードローム層上面でプランを検出した。平面形は細い楕円形を呈し、N-25°-Wに軸をもつ。規模は長軸2.8m，短軸0.5m，検出面からの深さ0.6mである。覆土はロームを主体とする。

S K 024 10C-81グリッド付近に位置する。下層確認調査時に、ハードローム層上面でプランを検出した。平面形は細い楕円形を呈し、N-45°-Wに軸をもつ。規模は長軸3.2m，短軸0.3m，検出面からの深さ0.6mである。覆土はロームを主体とする。

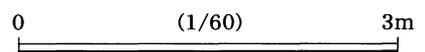
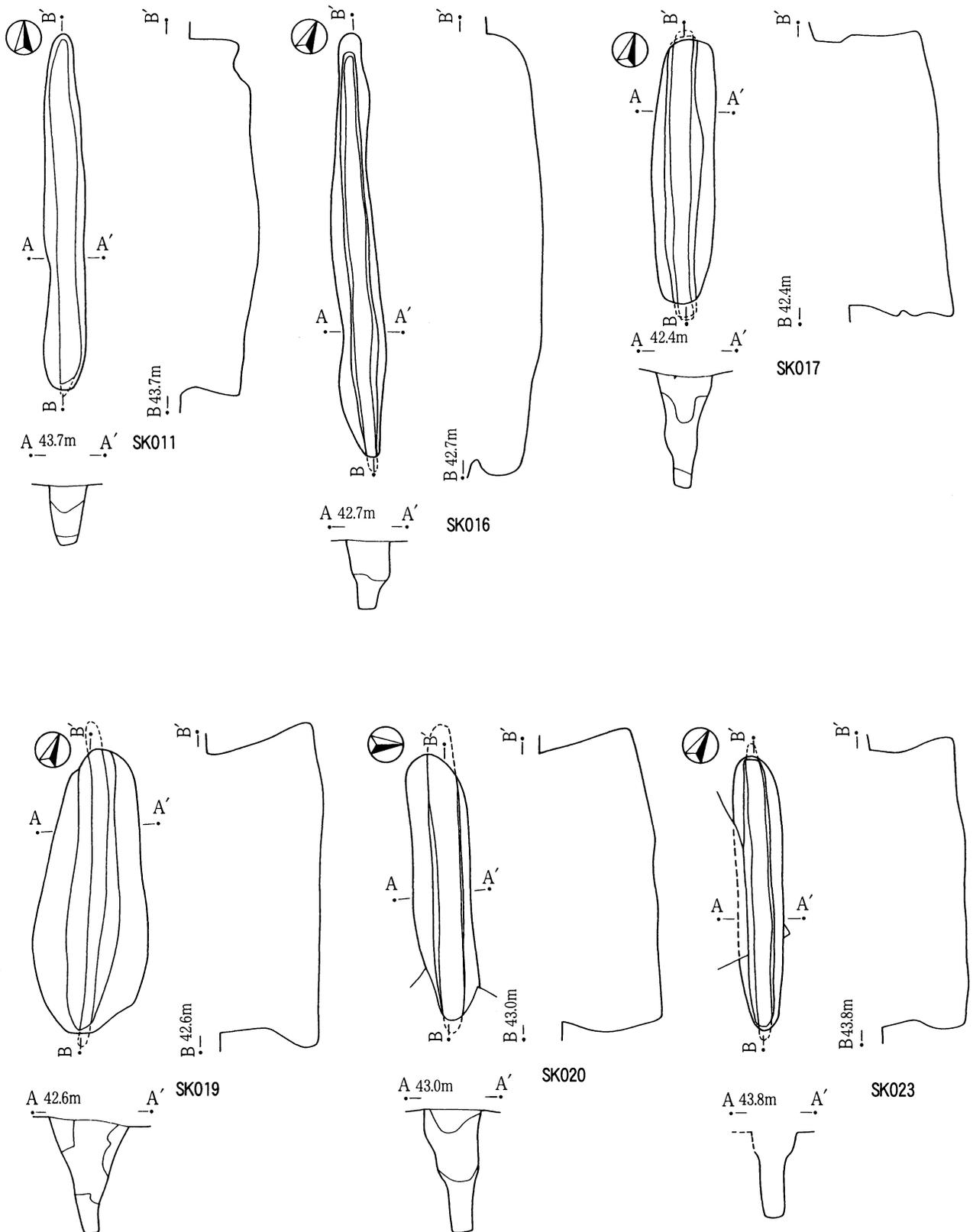
S K 025 9B-00グリッド付近に位置する。下層確認調査時に、ハードローム層上面でプランを検出した。平面形は細い楕円形を呈し、N-10°-Wに軸をもつ。規模は長軸3.8m，短軸0.9m，検出面からの深さ1.5mである。南壁の低い位置に段差がある。

S K 026 9B-11グリッド付近に位置する。平面形は細い楕円形を呈し、N-10°-Wに軸をもつ。規模は長軸3.3m，短軸0.4m，検出面からの深さ0.8mである。覆土はロームを主体とする。

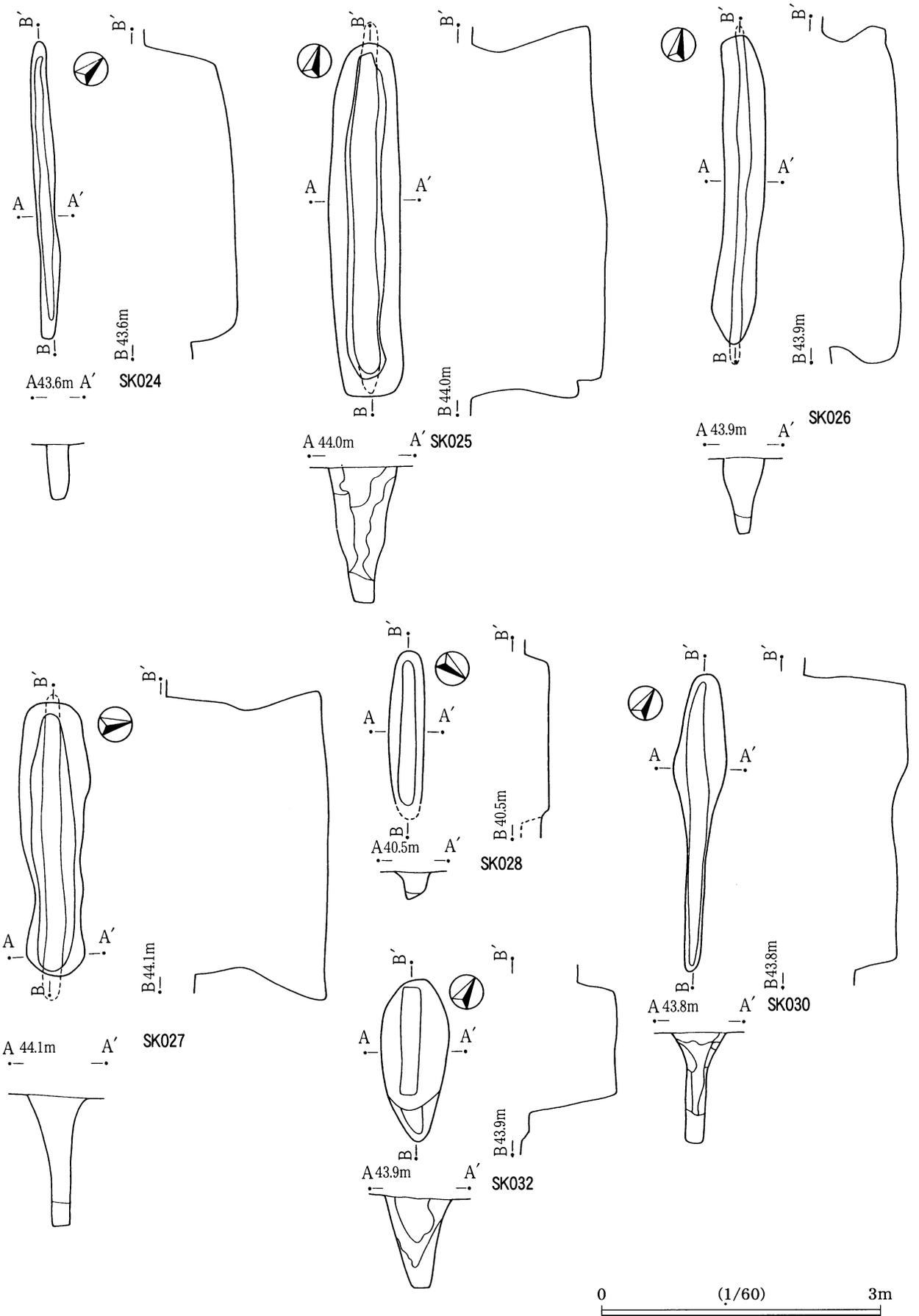
S K 027 10C-81グリッド付近に位置する。S M001の周溝調査時にプランを検出した。平面形はほぼ東西に軸をもつ細い楕円形を呈す。規模は長軸2.9m，短軸0.7m，検出面からの深さ1.4mである。覆土はロームを主体とする。

S K 028 5E-06グリッド付近に位置する。下層本調査範囲拡張時にプランを検出した。平面形は細い楕円形を呈し、N-35°-Eに軸をもつ。規模は長軸1.7m，短軸0.4m，検出面からの深さ0.3mである。

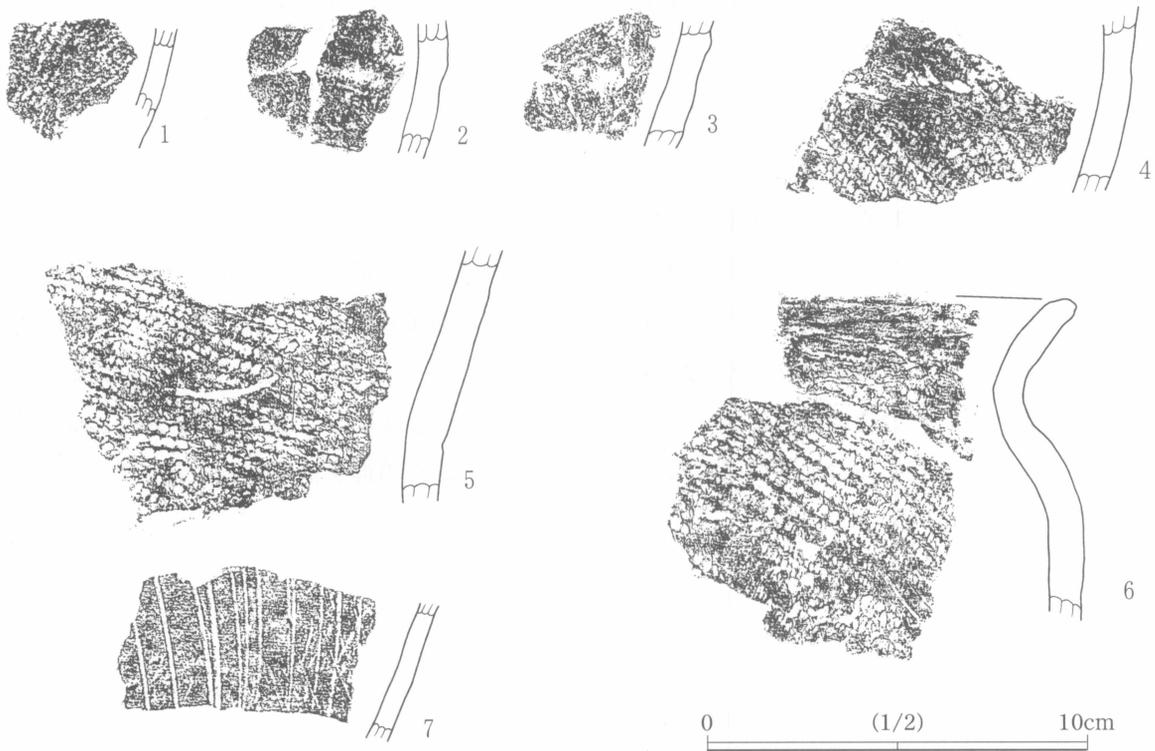
S K 030 4F-50グリッド付近に位置する。平面形は細い楕円形を呈し、N-30°-Wに軸をもつ。規模は長軸3.1m，短軸0.6m，検出面からの深さ1.2mである。覆土はロームを主体とする。



第28図 陥穴(1)



第29図 陥穴(2)



第30図 縄文時代 土器

S K 032 4F-27グリッド付近に位置する。平面形はやや細い楕円形を呈し、N-25°-Wに軸をもつ。規模は長軸1.7m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.0mである。覆土はロームを主体とする。

第2節 遺物

縄文時代の遺物としては土器片と石器が出土した。しかし、いずれの遺物も確実に遺構に伴って出土していない。

1 土器（第30図、図版35）

1は早期夏島式の深鉢形土器の胴部破片である。S I 005の覆土中から出土した。色調はにぶい褐色を呈し、焼成は良好である。外面に撚糸文が施される。

2・3は外面に文様がなく、型式名は不明であるが、胎土・器壁の厚みなどから考えて、早期末葉の土器の可能性が高い。S I 005の覆土中から出土した。色調はにぶい褐色を呈し、焼成はやや悪い。

4・5は前期前半の深鉢形土器の口縁部破片である。S M 002の周溝覆土中から出土した。色調はにぶい黄褐色を呈し、焼成はやや悪い。胎土に繊維を含む。

6は深鉢胴部破片で、4・5と同一個体の可能性がある。S M 002の周溝覆土中から出土した。色調はにぶい黄褐色を呈し、焼成はやや悪い。胎土に繊維を含む。口唇部はヘラで平らに削っている。

7は後期後葉安行式の粗製深鉢形土器の胴部下半破片である。S I 005の覆土中から出土した。色調はにぶい褐色を呈し、焼成は良好である。

なお、石器は旧石器時代の単独出土石器に記載してある。

第4章 古墳時代・奈良時代

第1節 位置関係（第3図）

今回の調査では、墳丘は削平されてしまったが古墳時代後期の築造と考えられる円墳が4基と竪穴住居跡2軒が検出された。境川東岸には後期古墳群が多く分布するが、川からやや内陸に入った台地上の古墳についてはあまり明らかになっておらず、今回検出した古墳群は小規模ながら、周辺遺跡との関連を考える上で貴重な成果であるといえる。各古墳に確実に伴う遺物があまり出土しなかったため、時期を特定することは難しい。また、住居跡との有機的な関係もつかむことはできなかった。SM001は調査区北東、SM004は調査区南端の台地の縁辺に孤立し、SM002・003は近接して台地の中央平坦面に築造されている。また、遺跡の所在する台地平坦面は未調査部分があるため古墳群を構成する未発見の古墳や該期の住居跡がある可能性は高い。

第2節 古墳

1 SM001（第31図，図版10・11・35）

墳丘

1号墳は墳丘径9m、周溝を含めると径12mの円墳である。墳丘北側は若干の高まりがみられるが、自然層であり、墳丘盛土は完全に削平されている。墳丘北側はSD015により切られている。主体部は検出されなかった。墳丘部分には2c層の堆積が残っていることから主体部は盛土上面から掘り込まれたか極めて浅い掘込みであった可能性が高い。断面をみてみると、南側の台地の縁辺に向かって地山の自然層も傾斜していることがわかる。

周溝

断面形状は墳丘側がやや傾斜がきつくなっている。深さは現表土面から約0.8m、幅は平均2.0mである。覆土はレンズ状に堆積し、自然堆積と考えられる。

出土遺物

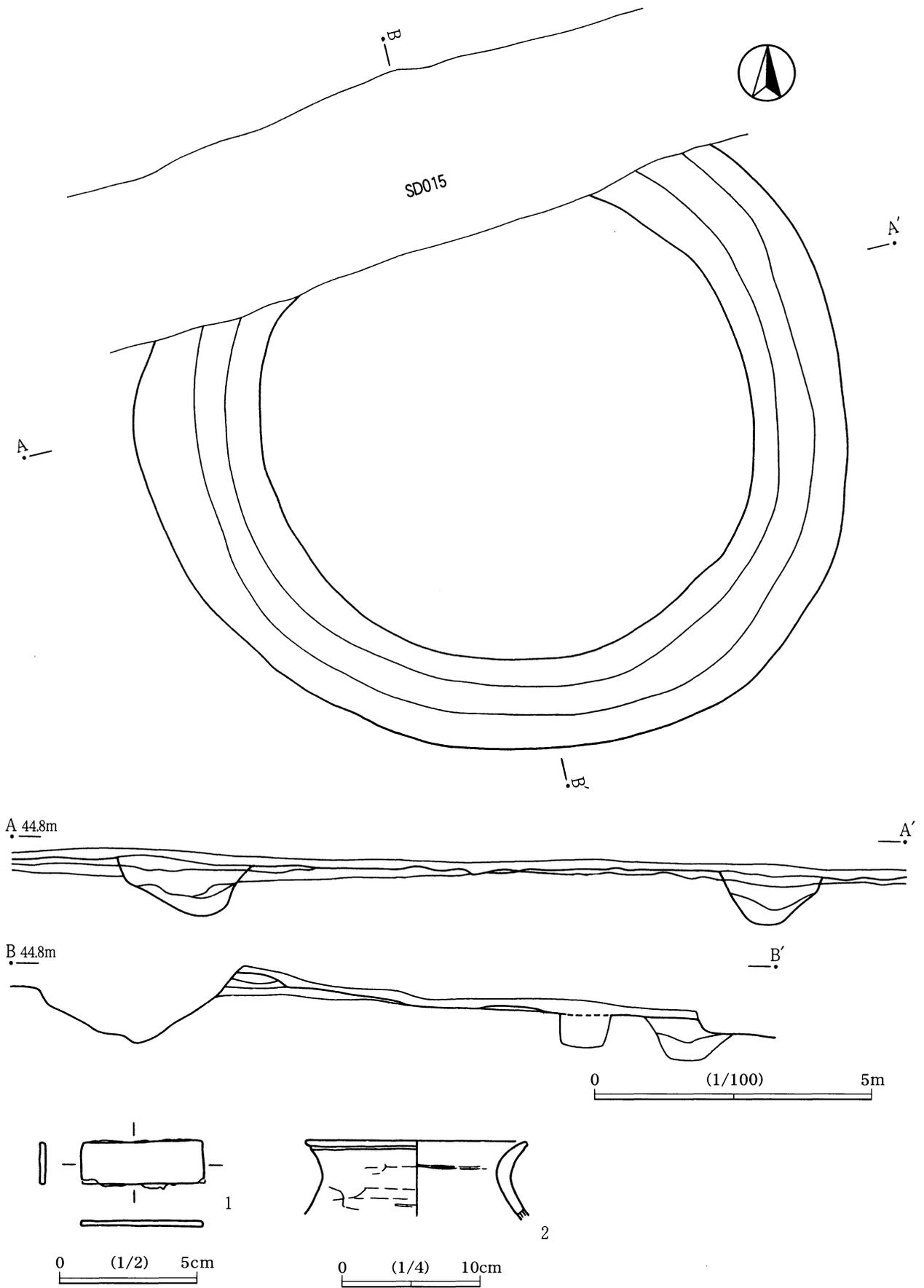
遺物は墳丘範囲内の第1層から2c層にかけての出土である。土師器の甕・杯の小片と鉄製品の破片のみで、出土状況から考えて直接古墳に関わる可能性は低く、破片であるため時期決定は不可能である。

1は鉄製品の破片である。1.6cm×4.4cmの方形で、厚みは2mmである。原形は錆のためはつきりせず、用途は不明である。

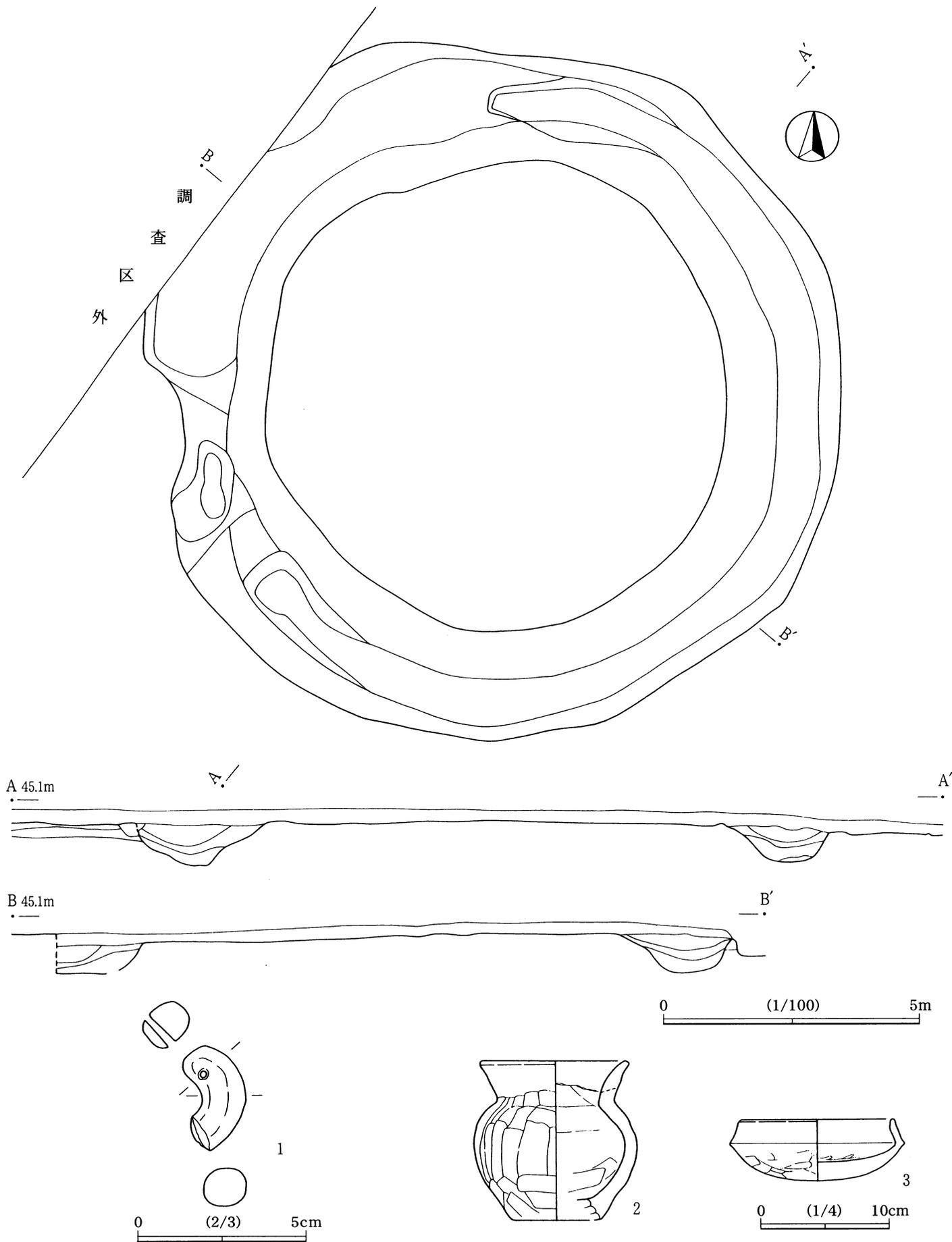
2は土師器甕の口縁破片である。口縁部が1/4のみ残存する。口径15.5cm、残存器高5.3cmである。色調はにぶい褐色を呈す。胎土は白色粒子、赤褐色スコリアを微量含む。口縁端部に雑な沈線がめぐる。外面は口縁部がヨコナデ、胴部はヘラケズリ後ナデ調整が施される。内面は口縁部がヨコナデ、その他はナデ調整を行っている。

2 SM002（第32図，図版12・13・35）

墳丘



第31図 SM001平面図・断面図・出土遺物



第32図 SM002平面図・断面図・出土遺物

2号墳は墳丘径9m、周溝を含めると径13.5mの円墳である。北西側は調査区外のため周溝の一部は未調査である。墳丘盛土は完全に削平されている。主体部は検出されなかった。

周溝

断面形状は墳丘側で傾斜が比較的緩くなっている。深さは現表土面から約1.0m、幅は平均2.4mである。底面は凹凸が多く、特に北西側の幅の広がった部分ではそれが顕著である。覆土はレンズ状に堆積し、自然堆積と考えられる。

出土遺物

遺物は周溝内の上層から中層にかけての出土である。出土状況から考えて墳丘の盛土が削平された際に混入したものと考えられる。

1は凝灰岩製の勾玉である。片面穿孔であり、丁寧に研磨されている。先端が破損している。最大幅1.8cm、最大長3.2cm、断面長径1.3cm、断面短径1.2cm、重量は7.6gである。

2は土師器の小形甕である。1/2ほど残存する。口径11.5cm、最大胴径12.6cm、底径7.0cm、器高12.7cmである。色調は内外面とも赤褐色を呈す。胎土自体に赤みを帯び、白色粒子、赤褐色スコリアを微量含む。外面は口縁部はヨコナデ、胴部は上から下方向のヘラケズリ、底部付近は横方向のヘラケズリ調整が施される。内面は口縁部がヨコナデ、胴部から下は雑なナデ調整を行っている。

3は土師器の杯である。口縁部を3/4ほど欠損する。口径12.0cm、最大胴径13.6cm、器高4.8cmである。色調は内外面とも赤彩され、赤褐色を呈す。胎土は白色粒子、赤褐色スコリアを微量含む。外面は口縁部がヨコナデ、胴部はヘラケズリ後ナデ調整が施される。内面は口縁部がヨコナデ、その他はナデ調整を行っている。

3 SM003 (第33図, 図版13~15・35)

墳丘

3号墳は墳丘径8.5m~10.0m、周溝を含めると径13.0mの円墳である。北西側はSD015とそれに伴う土手に切られている。墳丘範囲の北西側はやや高くなっているが、墳丘の盛土ではなく、SD015に伴う土手を構築した際の地山の掘り残し部分が高く盛られたように見えるためである。墳丘盛土は完全に削平されている。主体部は検出されなかった。

周溝

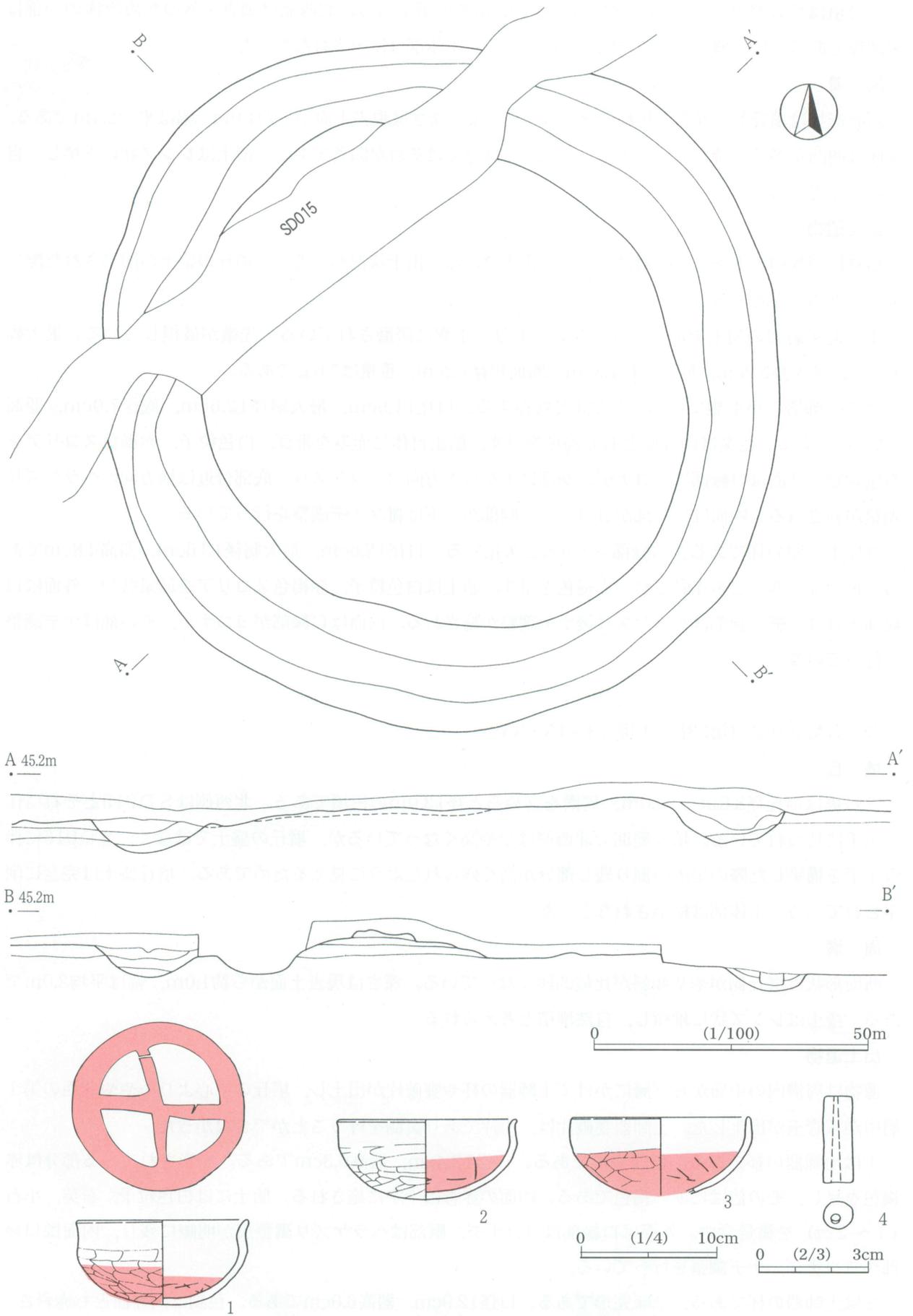
断面形状は墳丘側がやや傾斜が比較的緩くなっている。深さは現表土面から約1.0m、幅は平均2.0mである。覆土はレンズ状に堆積し、自然堆積と考えられる。

出土遺物

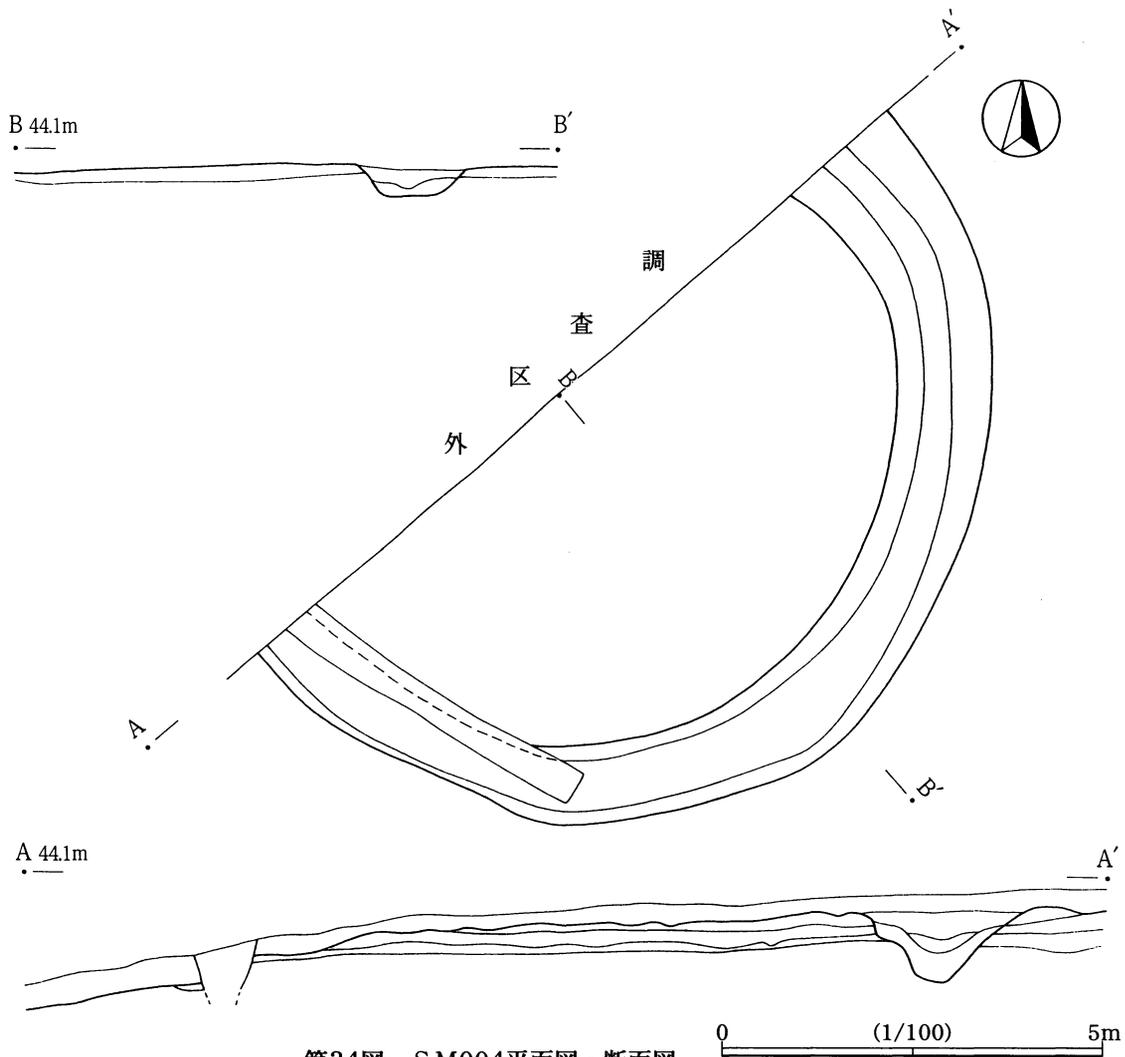
遺物は周溝内の中層から下層にかけて土師器の杯や甕破片が出土し、墳丘の中心よりもやや北西の第1層中から管玉が出土した。土師器甕破片は、小片であり実測を行うことができなかった。

1は土師器の杯である。ほぼ完形である。口径12.4cm、器高6.3cmである。赤彩されている部分は赤褐色を呈し、その他はにぶい褐色である。内面の赤彩は十字に施される。胎土には白色粒子、石英、小石(1~2mm)を微量含む。外面は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ調整痕が明瞭に残り、内面は口縁部がヨコナデ、ナデ調整を行っている。

2は土師器の杯である。ほぼ完形である。口径12.9cm、器高6.0cmである。色調は内外面とも赤彩さ



第33図 SM003平面図・断面図・出土遺物



第34図 SM004平面図・断面図

れ、赤褐色を呈す。胎土には白色粒子、石英を微量含む。外面が口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ、内面は口縁部がヨコナデ、胴部以下は丁寧なナデ調整を行っている。

3は土師器の杯である。底部のみ欠損する。口径12.9cm、現存器高5.7cmである。赤彩されている部分は赤褐色を呈し、その他はにぶい褐色である。胎土には白色粒子、石英を少量含む。外面は口縁部はヨコナデ、胴部は雑なヘラケズリ調整痕が明瞭に残り、内面は口縁部がヨコナデ、胴部以下が丁寧なナデ調整を行っている。

4は凝灰岩製の管玉である。片面穿孔であり、丁寧に研磨されている。径0.8cm、長さ2.3cm、重量は2.8gである。

4 SM004 (第34図, 図版15)

墳丘

4号墳は墳丘径8.0m、周溝を含めると径10.8mの円墳である。北西側は調査区外のため約半分の調査である。墳丘盛土は完全に削平されている。主体部は検出されなかった。また、遺物も一点も出土しなかった。

周溝

断面形状は墳丘側の傾斜が比較的きつくなっている。深さは残りのよい北東部分で現表土面から約1.2m、幅は平均1.6mである。南西に向かって低くなるのに合わせて周溝の検出レベルも北東に比べ低く、また、周溝底面も約0.3m低い。覆土はレンズ状に堆積し、自然堆積と考えられる。

第3節 住居跡

S1005 (第35・36図, 図版16・36)

5E-48グリッド付近に位置する。平面形はほぼ南北に軸をもち、4.1m×3.9mの方形を呈する。検出面からの深さ0.3mである。東側が斜面にかかっているため、東壁の上方は黒色土中から掘り込まれ、検出することはできなかった。柱穴は検出することができなかった。カマド部分を除いて壁溝がめぐっている。覆土はレンズ状に自然堆積をしている。

カマド

北壁中央やや東寄りに位置する。比較的残りがよい。火床部に柔らかい焼土が堆積しているが、あまり火床面は硬化していない。高杯の脚部が出土したが、支脚に転用したため焼けている。

出土遺物

遺物は土師器杯・甕・高杯である。遺物は床面直上のものがほとんどで、この住居に伴うものであると考えられる。カマド周辺と南壁沿いの出土が目立つ。

1は土師器の甕である。口縁部が1/2ほど残存する。口径17.2cm、残存器高6.0cmである。色調は内外面ともに褐色を呈す。胎土には長石、白色粒子を微量含む。外面は口縁部がヨコナデ、胴部がヘラケズリ後ナデ、内面はナデ調整を行っている。器壁は薄く、2とは同一個体ではない。

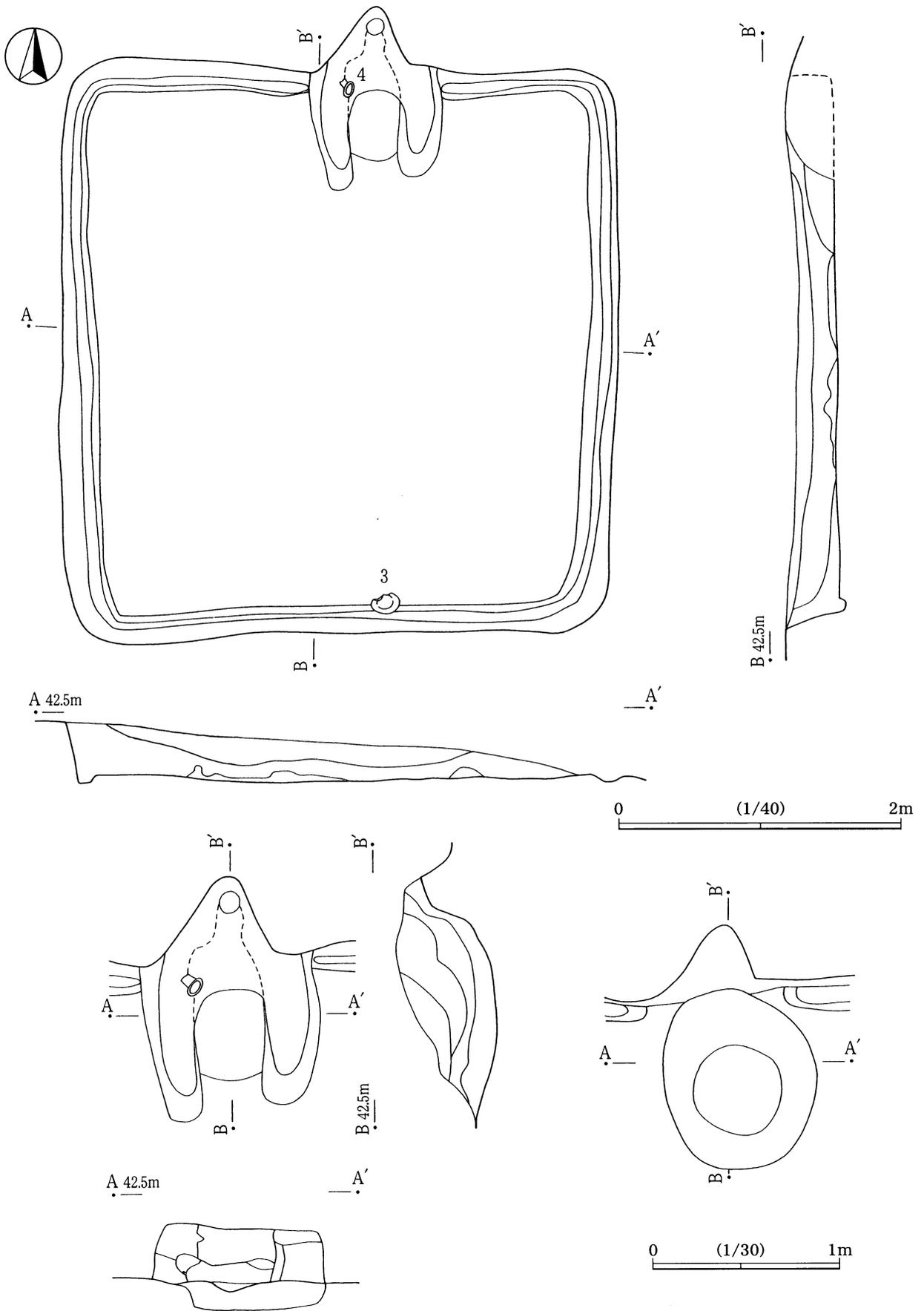
2は土師器の甕である。底部から胴部にかけて1/2ほど残存する。底径5.1cm、残存器高10.6cmである。色調は内外面ともにぶい褐色を呈す。胎土には長石、赤褐色スコリアを微量含む。外面はヘラケズリ、内面はナデ調整を行っているが、火を受け所々剥離し、調整痕は不鮮明である。

3は土師器の杯である。2/3ほど残存する。丸底で、口径18.0cm、器高4.7cmである。色調は内面が黒褐色で、外面はにぶい黄褐色を呈し、黒色処理が施されている。外面は黒色でまだらに剥がれた痕跡がある。胎土には長石、石英、赤褐色スコリアを微量含む。外面は口縁部がヨコナデ、胴部は横方向に細かくミガキ状の弱いヘラケズリ、内面は細かくヘラミガキを行っている。なお、底部外面中央付近に「×」の線刻がある。

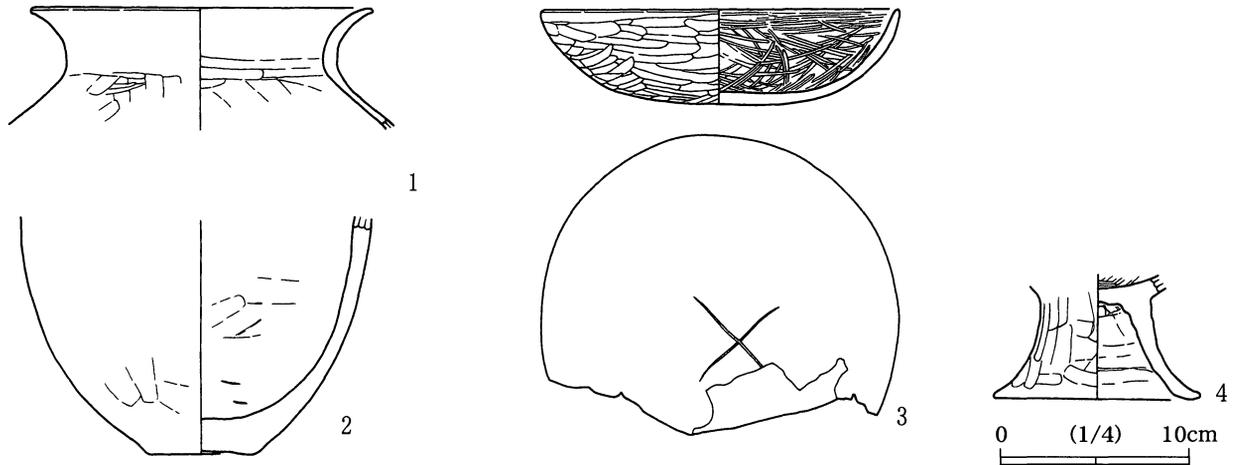
4は土師器の高杯である。脚部のみ残存し、焼土塊が断面部に付着し、全体に二次的な火を受けていることから、カマドの支脚に転用したものと考えられる。底径10.3cm、残存器高6.1cmである。色調は内外面ともにぶい褐色を呈す。胎土には赤褐色スコリアを微量含む。外面は縦方向のヘラケズリの痕がはっきりと残り、内面は横方向のヘラケズリ調整を行っている。裾部は内外面ともヨコナデ、杯部の内面はミガキ調整が施されている。

S1010 (第37図, 図版17・36)

4G-29グリッド付近に位置する。SM001の調査のため拡張した際に検出された。平面形は3.0m×2.9mの小形の方形を呈し、主軸方向はN-30°-Wを指す。検出面からの深さは0.6mである。南側はSD015



第35図 S I 005平面図・断面図



第36図 SI 005出土遺物

により切られている。柱穴は検出することができなかった。カマド部分を除いて壁溝がめぐっている。南壁寄りにピットが1つあり、位置的なことを考えると出入口に関係するものであると判断できる。覆土はレンズ状に自然堆積をしている。

カマド

北壁中央やや東寄りに位置する。比較的残りがよい。カマド内部・火床面ともあまり焼けていない。支脚は細かく崩れて半分ほどしか残っていなかった。杯は火床部底面より少し浮いた状態で出土した。

出土遺物

遺物はカマドから出土した杯と支脚のみである。支脚は火を受けてぼろぼろになり、実測は行うことができなかった。

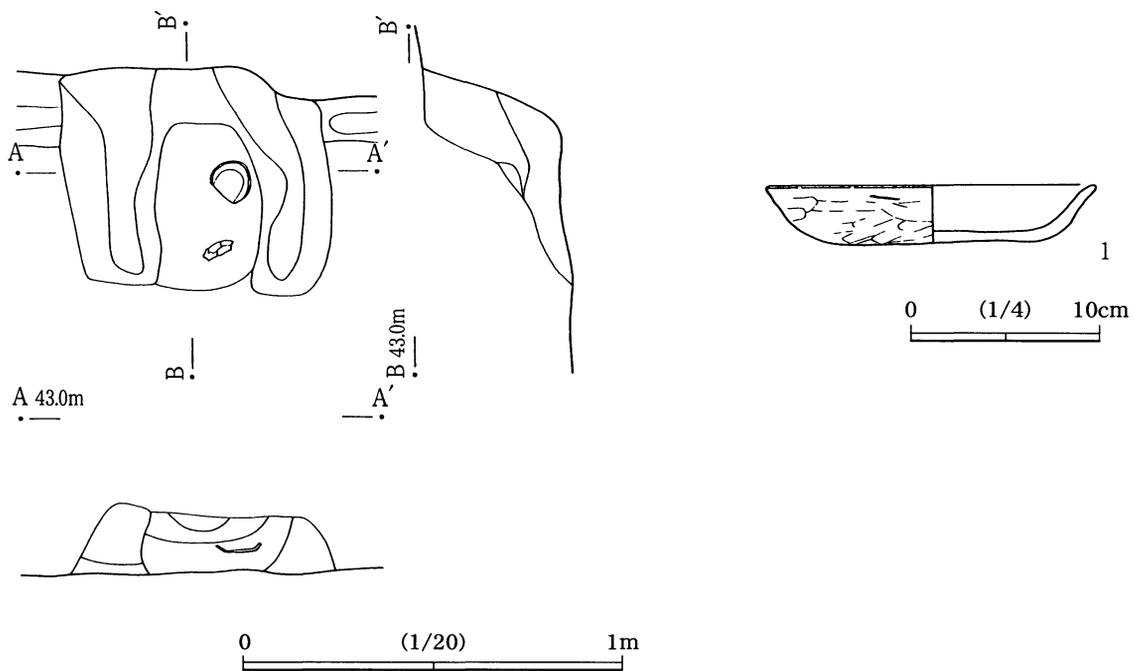
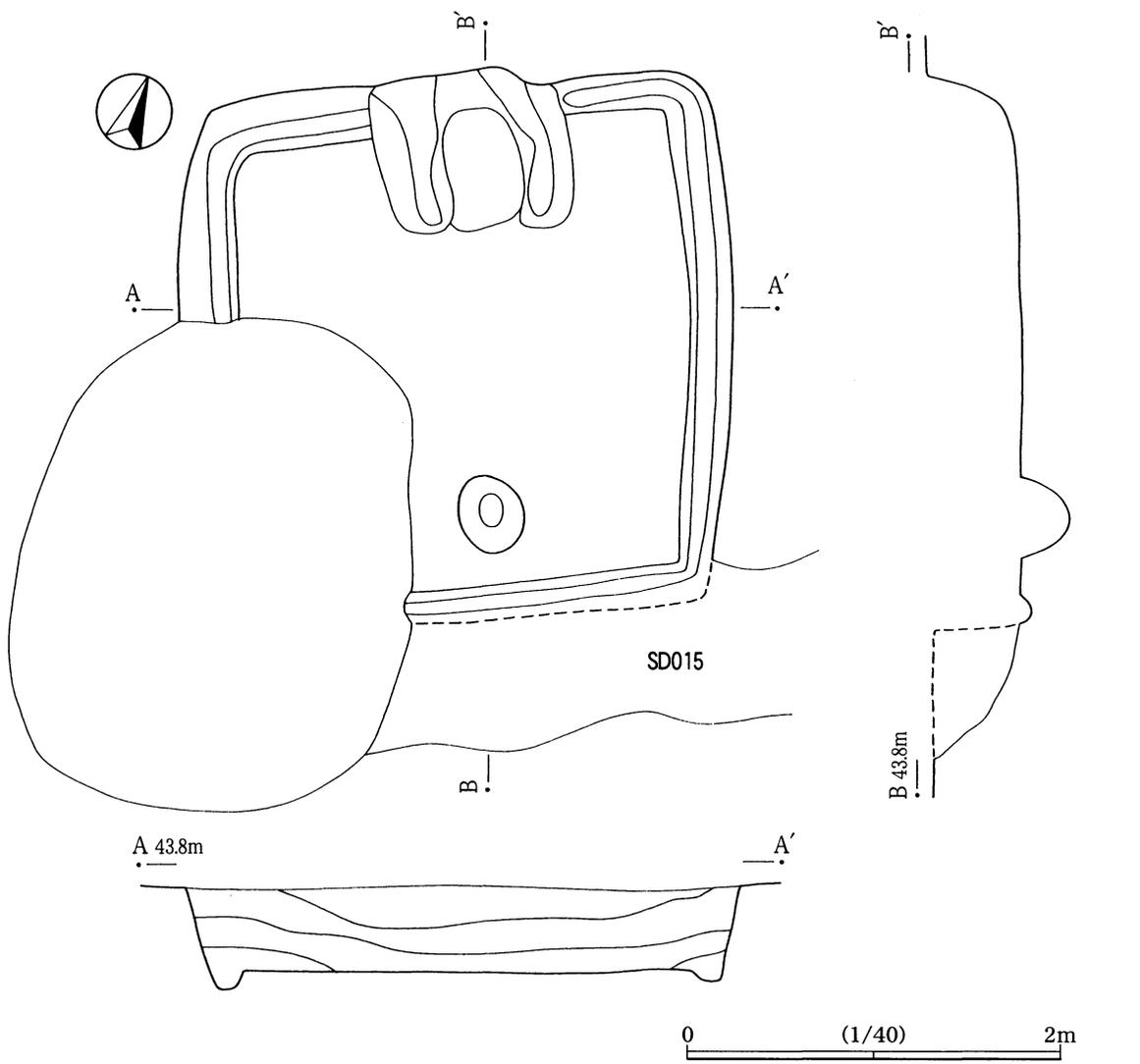
1は土師器の杯である。2/3ほど残存する。口径17.0cm、底径10.0cm、器高3.2cmである。色調は内面が明褐色で、外面はにぶい橙色を呈す。胎土には長石、赤褐色スコリア、小石を微量含む。外面は摩耗し、調整痕がはっきりしない。二次的に火を受けたと考えられ、一部にススが付着する。内面はナデ調整が行われている。

第4節 溝状遺構

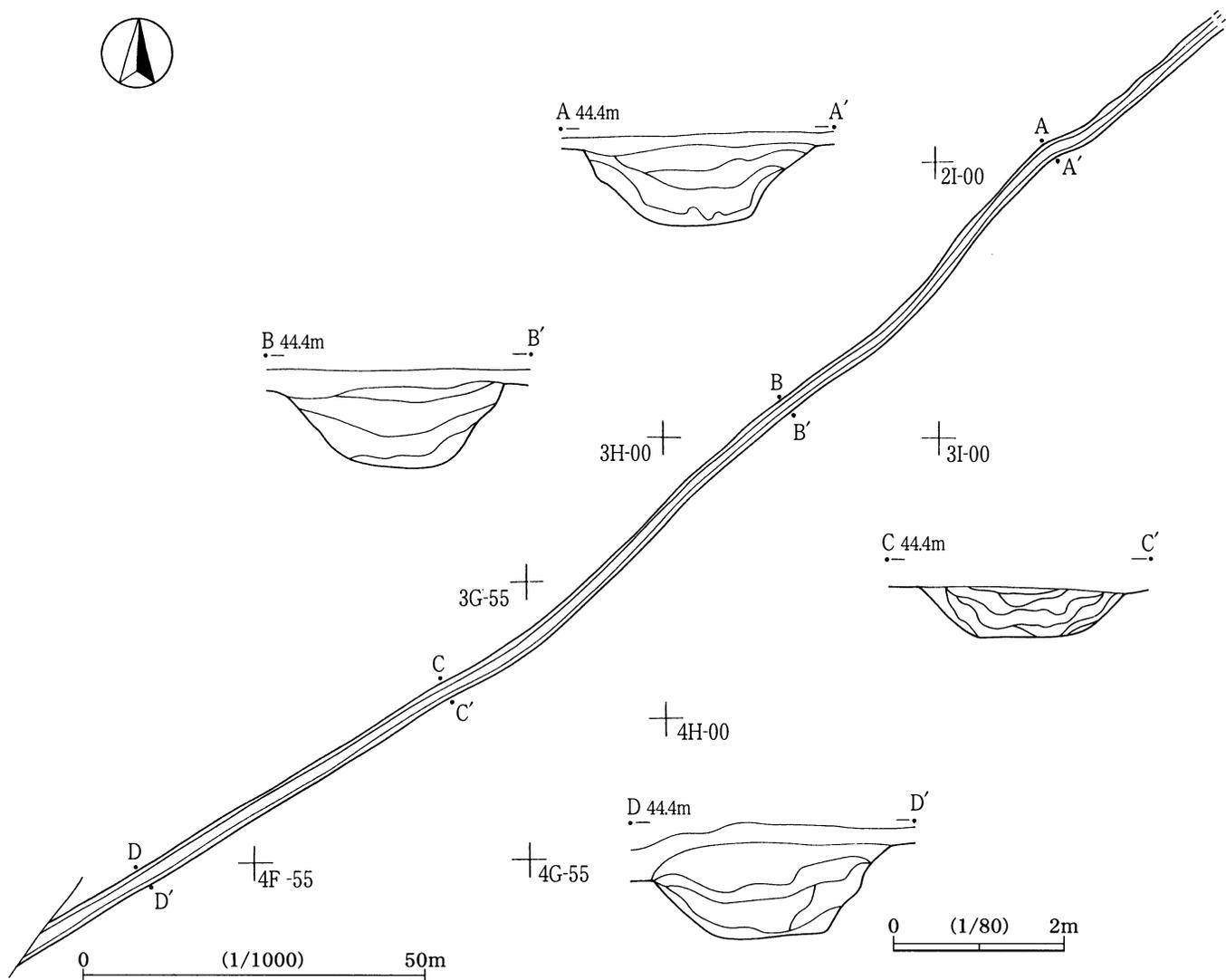
S D 009 (第38図, 図版19・20)

調査区北側にあつて北東から南西にほぼ直線的に延びる溝である。中央分離帯となるグリーンベルトにかかるため部分的に調査を行った。断面は逆台形でしっかりと掘り込まれている。底面はほぼ平坦で、一部ピットがある。幅は平均2.4m、深さは1.0m～1.3mである。覆土は自然堆積であると考えられる。

覆土中から古墳時代の土師器と須恵器破片が少量出土しているが、明確な時期決定資料はない。小片であるため、実測は行うことができなかった。



第37図 S I 010平面図・断面図・出土遺物



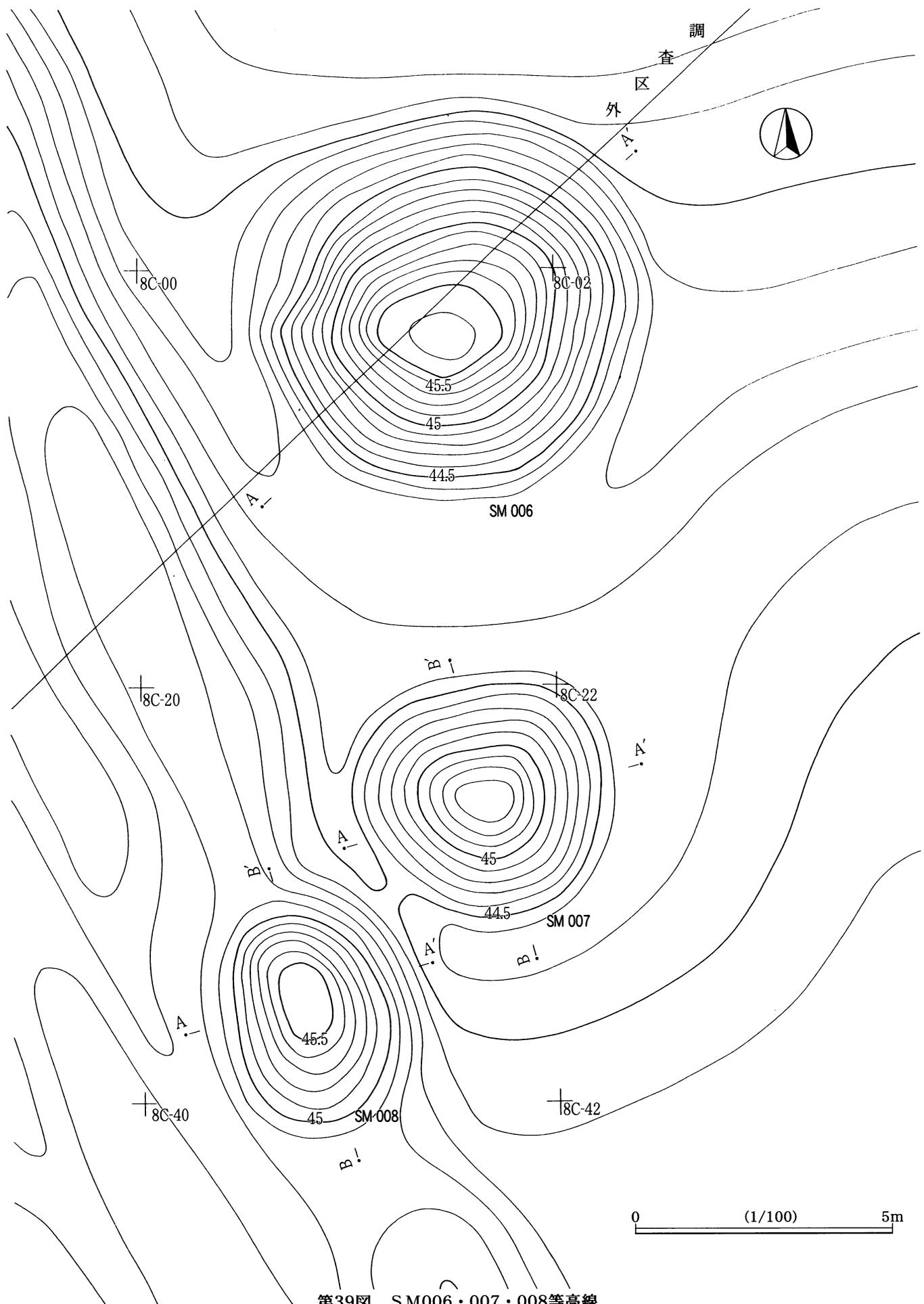
第38図 SD009平面図・断面図

第5章 近 世

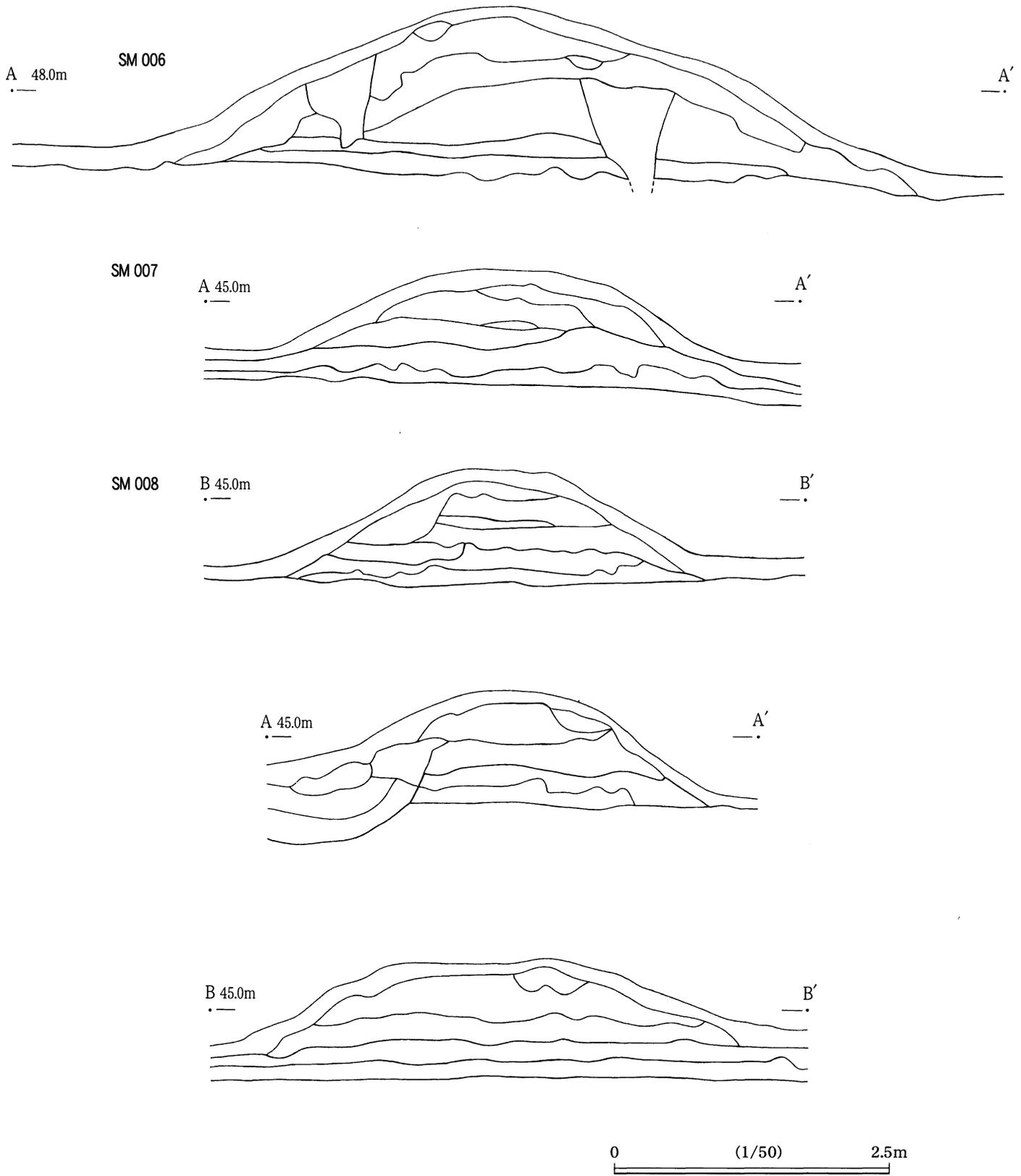
第1節 塚 (第39・40図, 図版20~23)

近世の塚と考えられる高まり3つが調査前から判明していた。3基の塚はまとまって位置するが直線的には並んでいない。測量は立ち木が多いため、効率性を考慮し、委託測量を行った。各塚とも周溝などは見つからず、古墳の再利用の可能性はほとんどない。SM006には庚申塔が存在したため、事業者との協議により伐採前に塚の脇の調査区外へ移動した。

SM006 3基の塚の中で一番北に位置する。北側半分は事業地外のため塚の半裁のみを行った。規模は径7.5m、盛土の高さ1.4mである。庚申塔が裾部に散乱していた。上層に焼土ブロックを含む層があるため、火を用いた祭祀行為が塚上で行われたと考えられる。盛土の上層はしまりががない盛土、下層はロームブロックを多く含む土で構成されている。



第39図 SM006・007・008等高線



第40図 SM006・007・008断面図

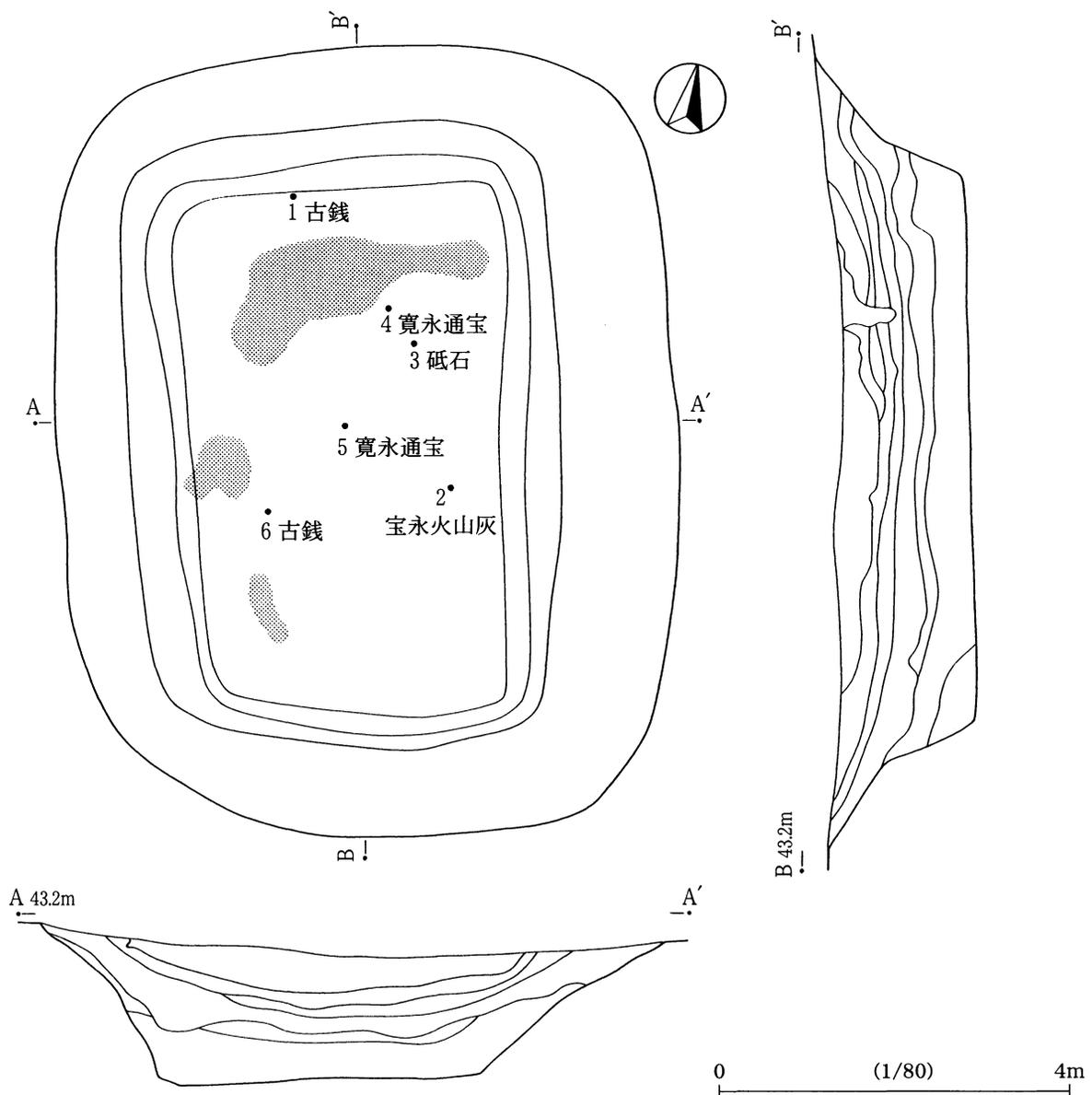
SM007 SM008と隣接する。規模は径4m、盛土の高さ0.9mである。盛土は全体的にしまりが無い。

SM008 規模は径4.7m、盛土の高さ0.8mである。盛土は全体的にしまりが無い。溝（SD015）が先に掘り込まれ、その後自然に埋没した後、塚を築造したことがセクションから判明した。

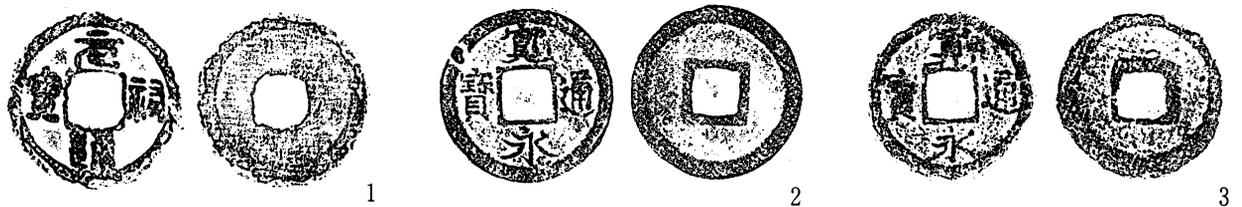
第2節 方形竪穴（第41・42図，図版23・24・36）

SK022 地山整形部分の南側に位置する。平面形は長方形を呈し、壁面中位から上に向かってなだらかに立ち上がる。規模は長辺9.0m、短辺7.0m、確認面からの深さ2.0mである。底面は平坦である。覆土は上層に焼土の堆積が見られ、全体的にしまりは弱い。

遺物は古銭と宝永の火山灰が床面から約1m上で出土している。これらのことから、この遺構は中世末から近世初頭に属する可能性が強い。古銭は3点出土し、元祐通宝が1点と寛永通宝が2点である。



第41図 SK022平面図・断面図



第42図 SK002出土古銭

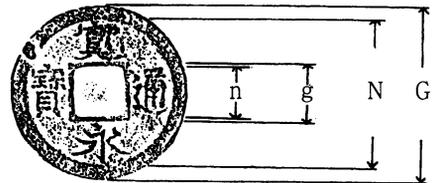
第11表 銭貨計測表

遺構	遺物番号	銭貨名	重量 W	外縁外径G		外縁内径N		内郭外径g		内郭内径n		外縁厚T	内面厚t	備考
				縦	横	縦	横	縦	横	縦	横			
SK022	1	元祐通宝	2.59	23.25	23.15	18.65	18.6	5.25	8.25	7.05	7	1.4	0.9	
SK022	4	寛永通宝	2.48	23.05	23.05	19.35	19.3	7.6	7.6	6.45	6.45	1.15	0.8	
SK022	5	寛永通宝	1.62	22.15	22.15	18.95	18.35	7.15	7.2	6.1	6.2	1.0	0.65	

径・厚の単位はmm

第3節 鹿穴 (第43図, 図版24・25)

調査時には縄文時代の陥穴としたものである。しかし、形状から考えて、近世の鹿穴の可能性の方が高いと考えたため、変更してこの節で説明することとした。全体的な特徴として、覆土が陥穴に比べ、黒褐色を呈するものが主体であり、しまりも比較的弱いことが挙げられる。



SK012 8C-27グリッド付近に位置する。平面形はやや不整形な円形を呈す。規模は径1.9m×1.5m, 検出面からの深さ2.3mである。中位のところで壁面がオーバーハングする。覆土最下層はロームブロックが多く含まれ、人為的に埋め戻した土と考えられる。

SK013 8C-81グリッド付近に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸方向はN-45°-Wを指す。規模は長軸2.2m, 短軸1.8m, 検出面からの深さ2.4mである。底面付近に段をもつ。覆土下層はロームブロックが多く含まれ、人為的に埋め戻した土と考えられる。

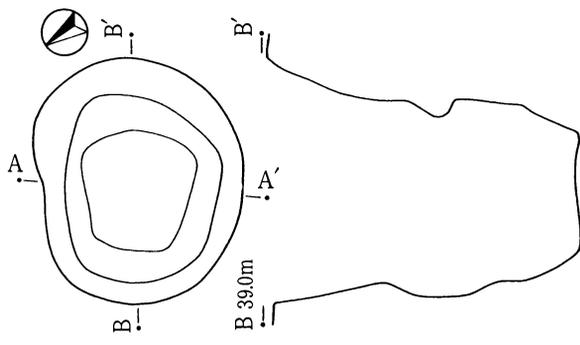
SK018 8D-05グリッド付近に位置する。平面形は不整形な円形を呈す。規模は径1.7m×1.4m, 検出面からの深さ2.0mである。壁中位に段差が見られ、上方に向かって開いている。覆土はロームを主体とし、下層はしまりが弱い。

SK021 9D-03グリッド付近に位置する。SK022調査時の拡張により検出された。平面形はやや細い楕円形を呈し、底面は方形である。長軸方向はN-35°-Wを指す。規模は長軸2.6m, 短軸1.6m, 検出面からの深さ2.4mである。覆土の最下層はしまりが弱い。

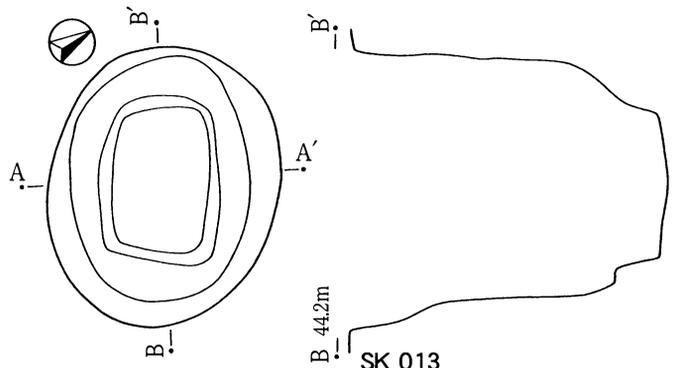
第4節 溝 (第44・45図, 図版26・27)

SD015とSD029の2条の溝が確認されている。SD015に伴って土手状に高まりが認められ、調査時には馬土手と考えられていたが、確証はなく不明である。規模などを考慮すると、猪垣の可能性が高いと思われる。溝は調査前まで林道として機能しており、現在の山武町と松尾町の境界とほぼ重なる位置で検出されている。

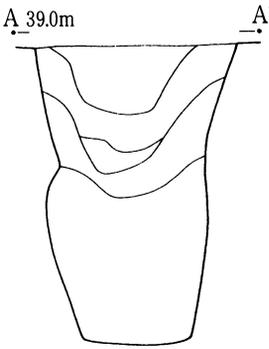
溝はどちらも底面に同様の形状をしている楕円形のピットが連続と続き、ピットは大きさ、配置位置、



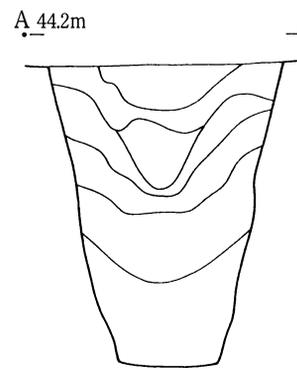
SK 012



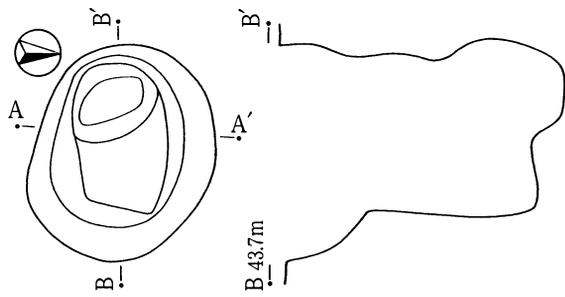
SK 013



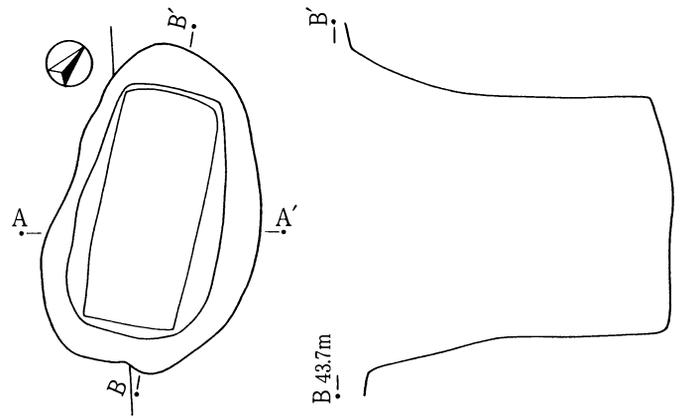
A 39.0m



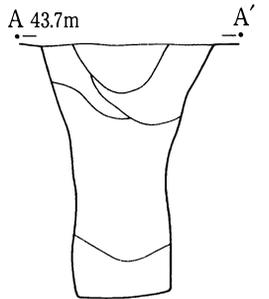
A 44.2m



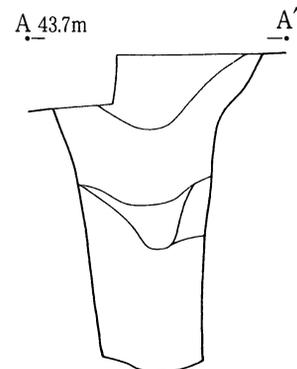
SK 018



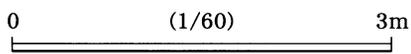
SK 021



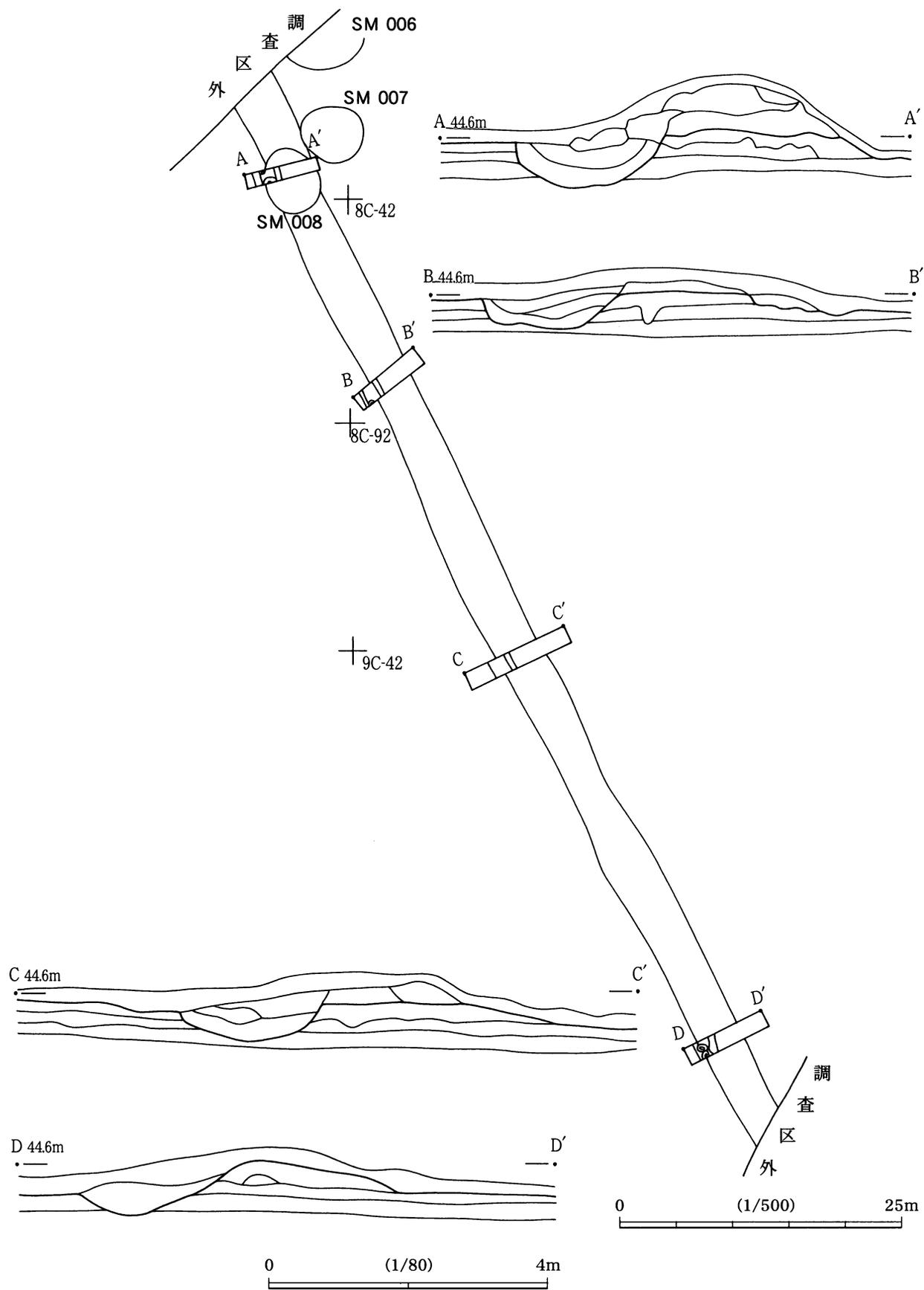
A 43.7m



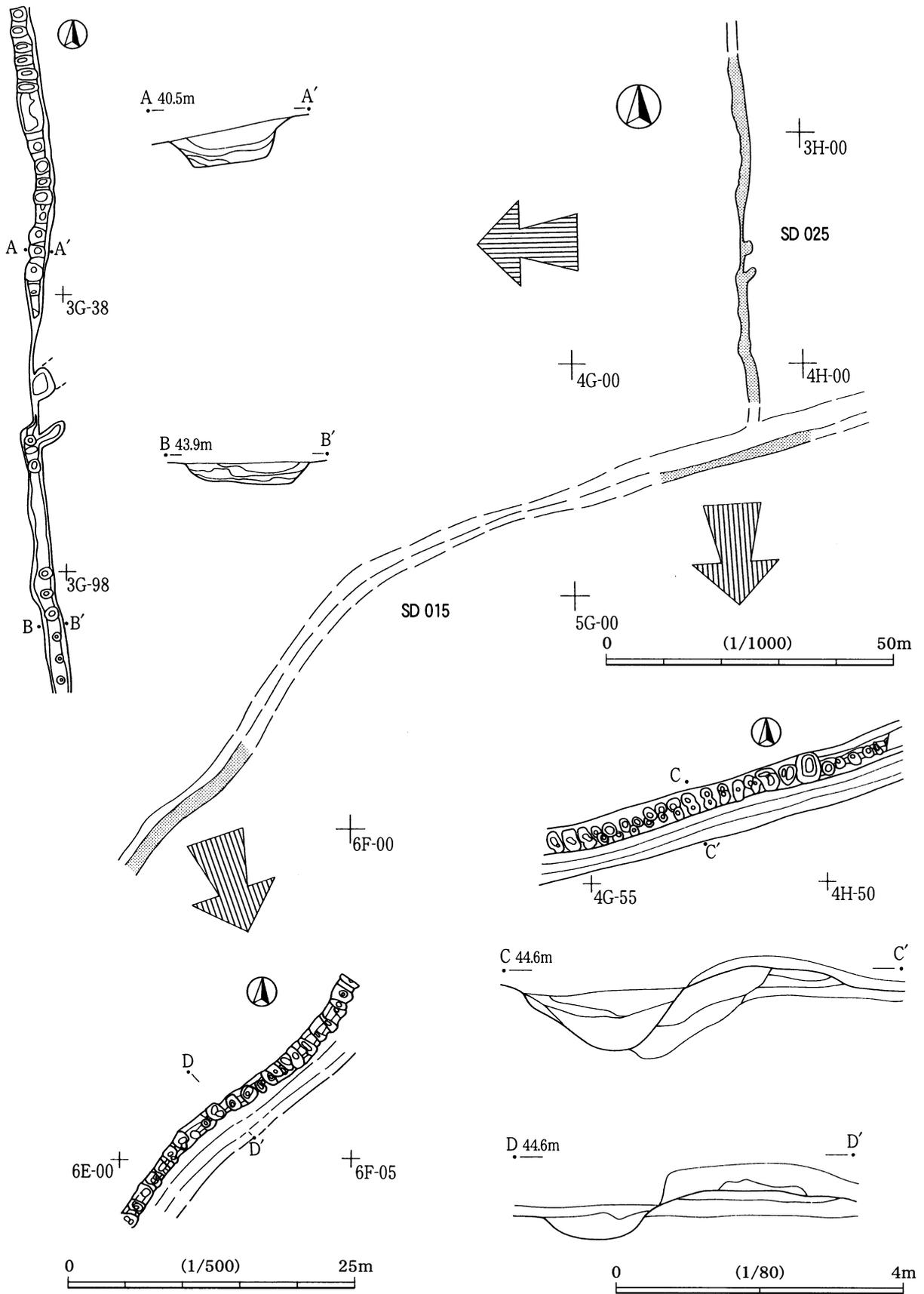
A 43.7m



第43図 鹿 穴



第44図 SD015平面図・断面図



第45図 SD015・029平面図・断面図

深さも一様でないため、柵列のような遺構ではなく、地境溝とそれに伴う植林跡であると考えられる。遺物が出土せず、時期ははっきりしないが、近世以降のものであろう。

S D 015 調査区中央をL字形の走る溝である。規模は平均で幅2.0m、確認面からの深さ0.5mである。僅かであるが溝に接するように土手状の高まりを確認することができる。見かけの高まりは0.2~0.3mである。覆土の上層から中層に宝永の火山灰が一部で見られる。

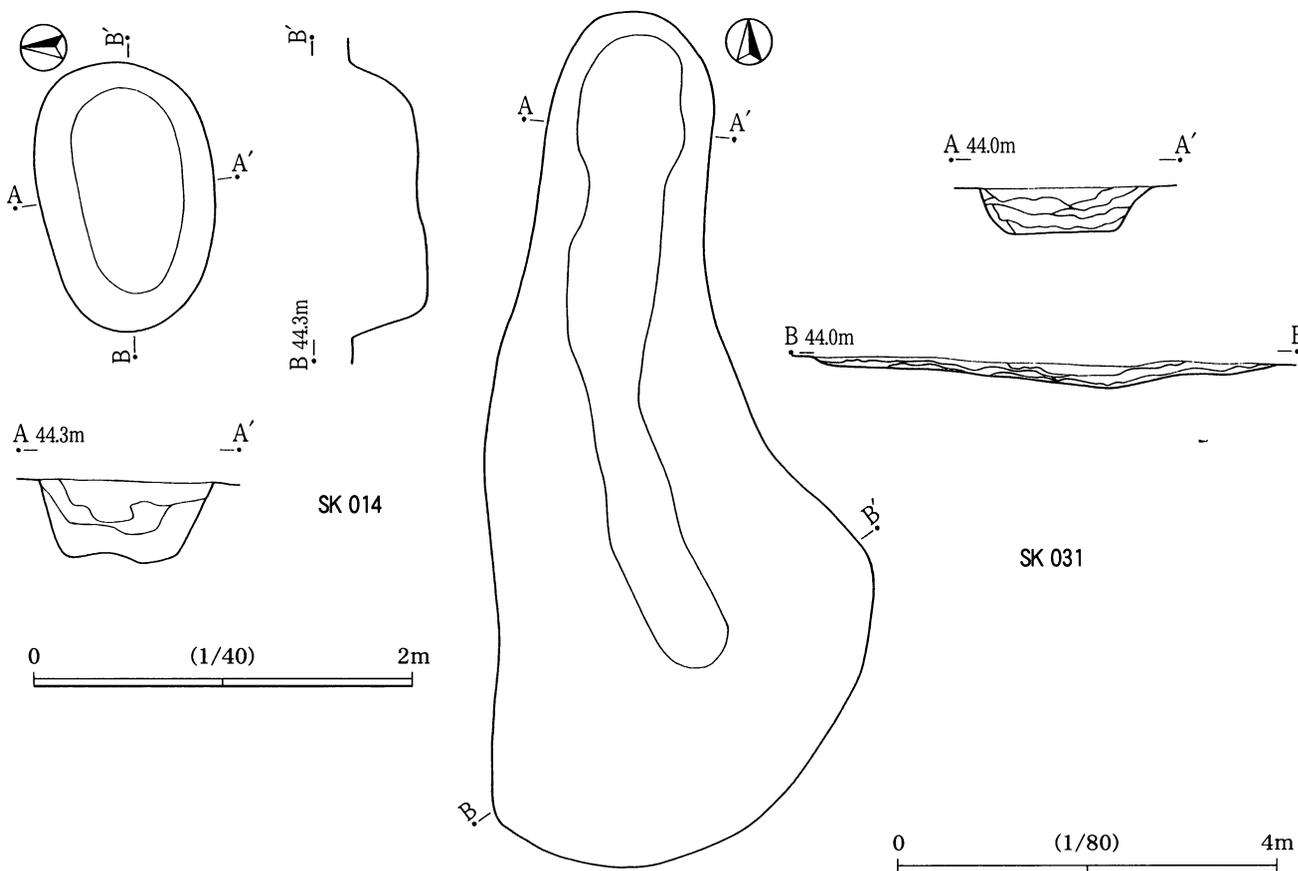
S D 029 S D 015の北側から分岐し、北に延びる溝である。形状や覆土の類似から、S D 015と同時に機能していたと考えてよいと思われる。規模は平均で幅1.6m、確認面からの深さ0.5mである。覆土は自然堆積であると考えられる。

第6章 その他

ここでは遺物が出土せず、時期の不明な遺構と、時期を決定することのできなかった遺構や、遺構に伴わなかった遺物に関して説明する。

第1節 遺構（第46図，図版27）

S K 014 9B-37グリッド付近に位置する。平面形は東西に軸をもつ楕円形を呈す。規模は長軸1.4m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.4mである。今回検出された他の土坑に比べ浅い。



第46図 SK 014・031平面図・断面図

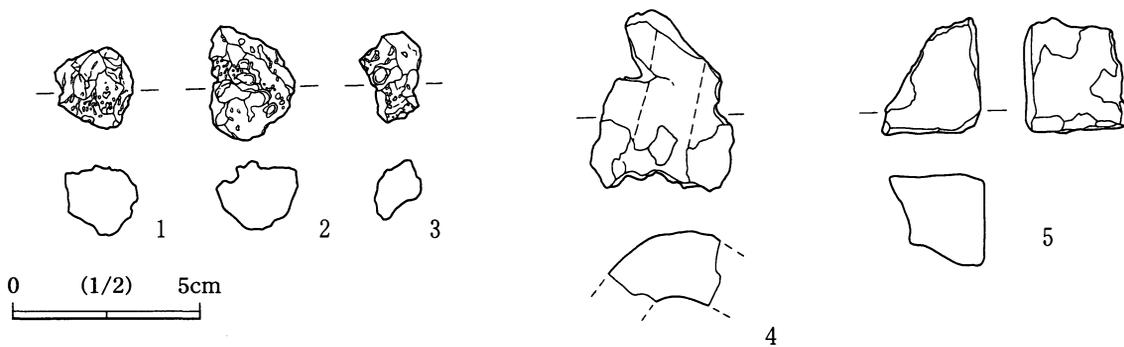
S K031 4G-06グリッド付近に位置する。平面形は不整形を呈す。規模は長軸8.8m, 短軸3.2m, 検出面からの深さ0.5mである。

第2節 遺物 (第47図, 図版36)

1～3はスラグの破片である。4G-06グリッドから出土した。重量は3点で25.2gである。4の羽口と合わせて考えると調査区周辺に製鉄関連の遺構が検出される可能性は高い。

4は土製の羽口破片である。かなり高熱の火を受けたらしくぼろぼろである。部分的に鉄分が付着している。

5は凝灰岩の砥石の破片である。表採遺物である。重量は22.6gである。また、第2章 単独出土石器においても凝灰岩製の砥石を図示した。



第47図 その他の遺物

第7章 まとめ

第1節 旧石器時代

本遺跡の旧石器時代は6枚の文化層が検出され、それぞれを第I文化層から第VI文化層と呼称した。旧石器時代の石器集中地点は、6枚の文化層・8か所の集中地点を検出することができた。第I文化層はⅢ層の石器群、第II文化層はⅢ層の石器群、第III文化層はIV層上部からⅢ層の石器群で礫群を伴う。第IV文化層はⅦ層からⅥ層の石器群、第V文化層は第2黒色帯下部の石器群と考えられる。第VI文化層は礫群の集中である。

第I文化層の石器集中1は調査区のほぼ中央に位置する。出土層位は、Ⅲ層下部である。出土石器は、石刃1点の単独出土である。

第II文化層の石器集中1は調査区の北側に位置する。出土層位は、IV層上部からⅢ層にかけて分布する。石器の集中は、2H-36グリッドを中心に南北1m、東西4mに広がるが、ナイフ形石器は他の2点とは離れて出土している。出土石器は、ナイフ形石器1点、石核1点、碎片1点の合計3点である。石器集中2は調査区のほぼ中央に位置する。出土層位は、ほぼⅢ層に集中する。石器の集中は、4E-95グリッドを中心に南北2m、東西3mに広がる。出土石器は、剥片4点、石核1点の合計5点である。

第III文化層の石器集中1は調査区の南側に位置する。出土層位は、ほぼⅢ層下部に集中する。石器の集中は、9B-21グリッドを中心に南北8m、東西8mの範囲に広がるが、さらに9B-21グリッドを境として東西に分かれる。出土石器は、石核5点、剥片15点、碎片3点の合計23点である。調査区の南側には、礫の集中分布が確認された。これらの礫群は第III文化層石器集中1からは約80mほど南東に位置する。分布範囲は南北7m、東西8mに広がるが、9B-21グリッドを境にして東西に分かれる。

第IV文化層の石器集中1は調査区の南側に位置する。第III文化層石器集中1と同じ調査区である。出土層位は、ほぼⅦ層上部からⅥ層下部に集中する。石器の集中は、9B-20グリッドを中心に南北4m、東西4mの範囲に広がるが、さらに9B-20グリッドを境として南北に分かれる。出土石器は、UR剥片2点、叩石1点、石核1点、剥片9点、碎片2点の合計15点である。そのうち叩石が2点、剥片が2点ずつ接合する。石器集中2は調査区の南側に位置する。出土層位は不明だが、調査時の所見によればⅥ層である。出土石器は、剥片1点である。

第V文化層の石器集中1は緩く西に傾斜する調査区のほぼ中央に位置する。出土層位は、ほぼIXc層～IXa層に集中する。石器の集中は、4E-95グリッドを中心に南北2m、東西2mの範囲にまとまるもの、5E-07周辺のもの、5E-16グリッドを中心に南北2m、東西4mにまとまるものの3か所に分けられる。出土石器は、ナイフ形石器1点、剥片12点、碎片3点、礫4点の合計20点である。

第VI文化層の礫群は調査区の南に位置する。すべて確認調査時の2m×2mの小グリッドからの出土で、クラムシェルによる検出のため、詳細な平面及び垂直分布は不明である。確認調査時の所見では、X層出土となっている。本調査では周辺を拡張したが、石器及び礫ともに発見されなかった。これらのことから、少なくとも2m×2mの範囲に収まる小規模なものと思われる。立川ローム最下層の礫群の可能性も考えられ、詳細な出土層位が不明な点が惜まれる。

第 2 篇 駄ノ塚遺跡

第1章 はじめに

第1節 遺跡の概要

駄ノ塚遺跡は、山武郡成東町板附字駄野塚517-7ほかに所在する。調査に至る経緯、歴史的環境等については、第1篇大長作遺跡で述べられているので、ここでは省略する。

発掘調査は、平成5年度と8年度に実施され、調査対象面積は平成5年度分が4,000m²、平成8年度分が5,800m²で、計9,800m²である。調査区は作田川流域の低地から北側へ奥まった標高50m前後の台地上にあり、北東側が平成5年度、南西側が平成8年度の調査区である。調査の結果検出した遺構は、旧石器時代の石器集中地点1か所、縄文時代の陥穴2基、古墳時代以降の土坑5基、奈良～平安時代竪穴住居跡1軒である。なかでも、旧石器時代の石器群がⅦ層（第2黒色帯上半部）からⅡc層にわたって検出され、ナイフ形石器などの良好な石器が出土した。なお、遺跡名についてであるが、平成5年度調査時には駄ノ塚遺跡、平成8年度調査時には駄野塚遺跡の名称が使われ、異なっていた。そこで、成東町教育委員会に問い合わせたところ、遺跡名の正式名称は駄ノ塚遺跡であるとの回答があったため、本書では駄ノ塚遺跡とした。

整理作業は平成12年度に行われ、平成13年度に報告書刊行の運びとなった。

発掘調査及び整理作業に係わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

平成5年度

期 間 平成5年12月1日～平成6年3月31日

組 織 成田調査事務所長 矢戸三男

担当職員 副所長 高田博 主任技師 森本和男 宮城孝之

内 容 発掘調査 調査対象面積4,000m² 確認調査上層420m²・下層160m²
本調査上層0m²・下層926m²

平成8年度

期 間 平成8年8月1日～平成8年9月10日

組 織 東部調査事務所長 石田廣美

担当職員 研究員 菅原 修

内 容 発掘調査 調査対象面積5,800m² 確認調査上層580m²・下層116m²
本調査上層80m²・下層0m²

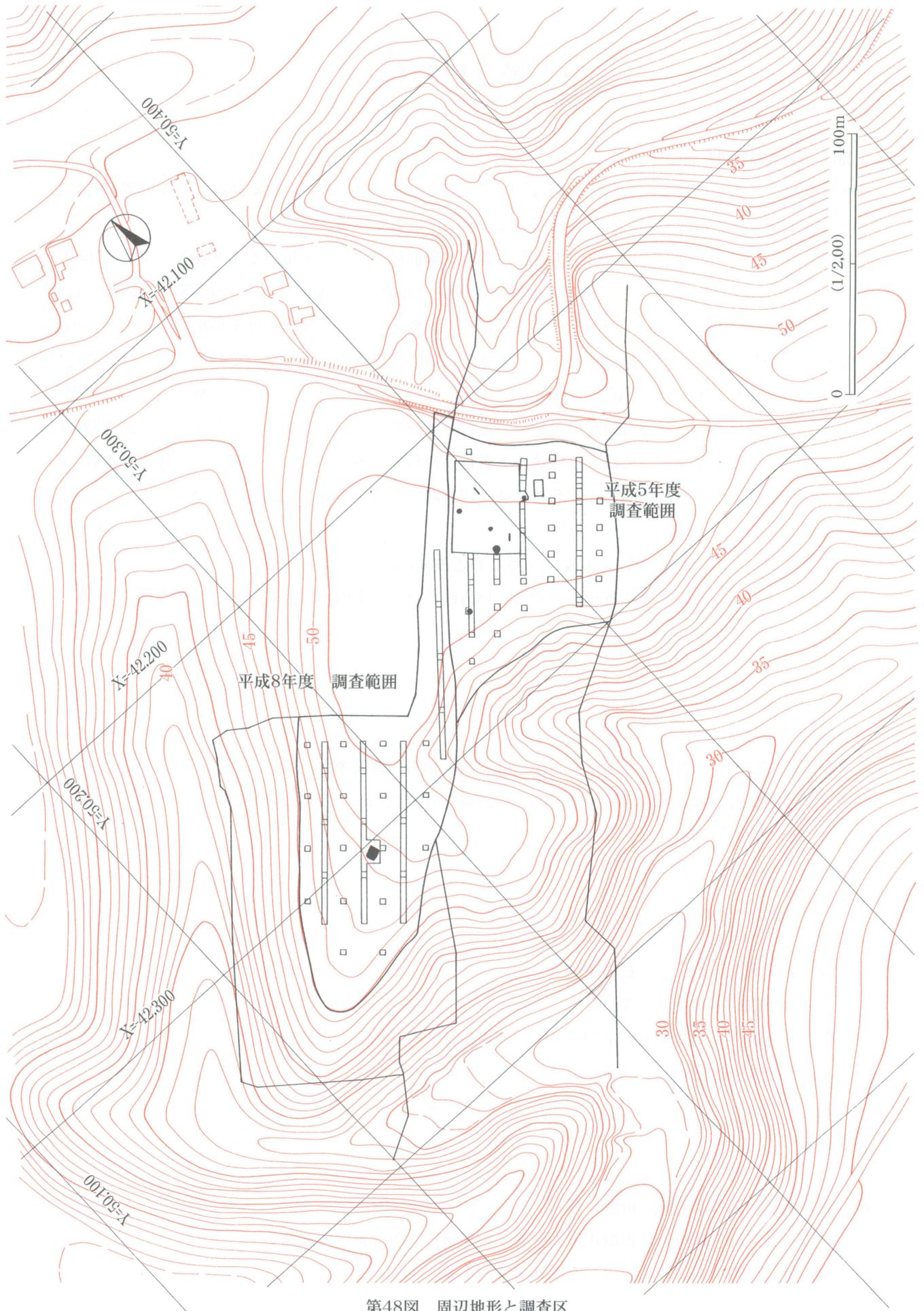
平成12年度

期 間 平成12年4月1日～平成12年8月31日

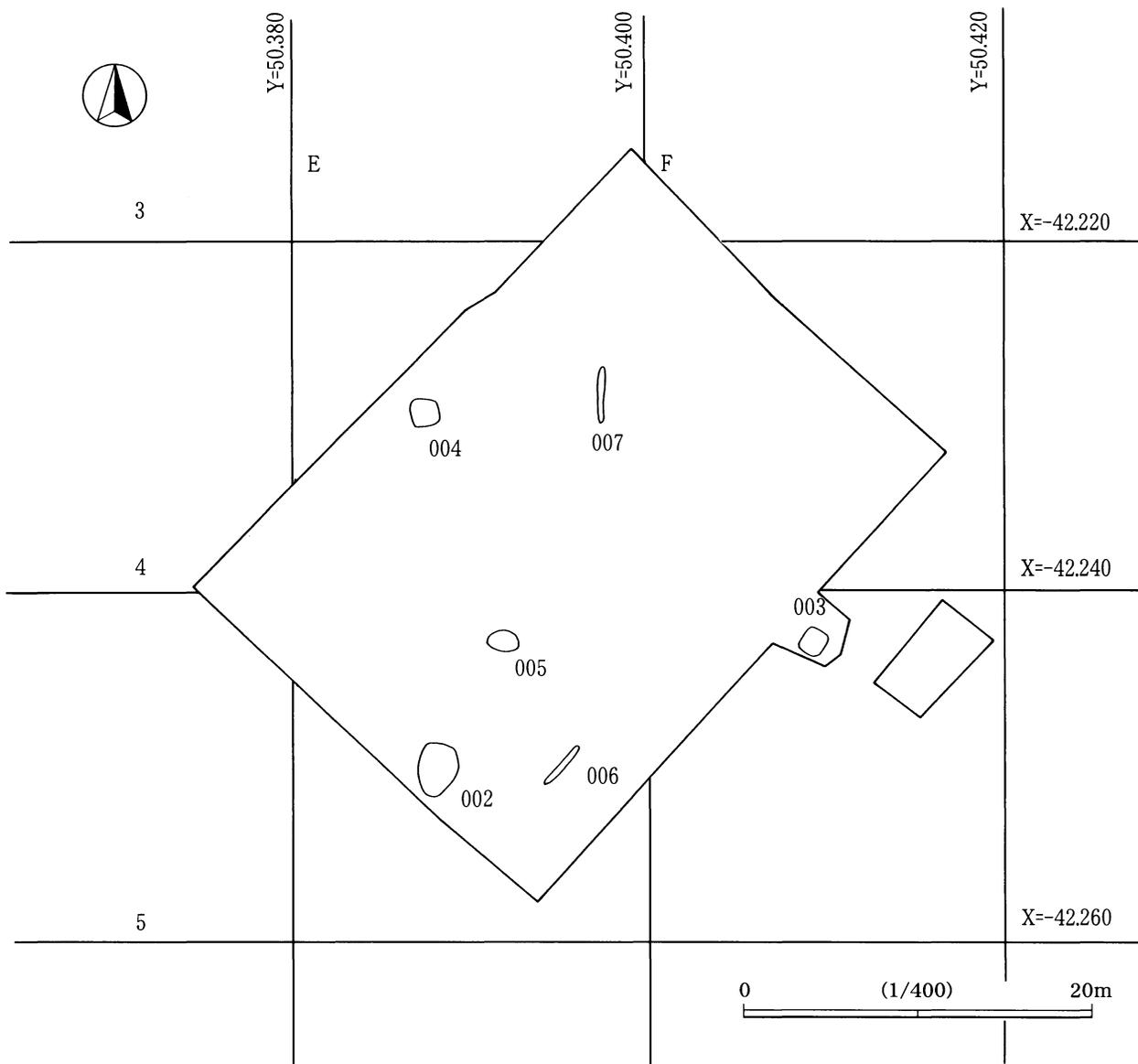
組 織 東部調査事務所長 折原 繁

担当職員 副所長 香取正彦 室長 糸川道行 研究員 永塚俊司

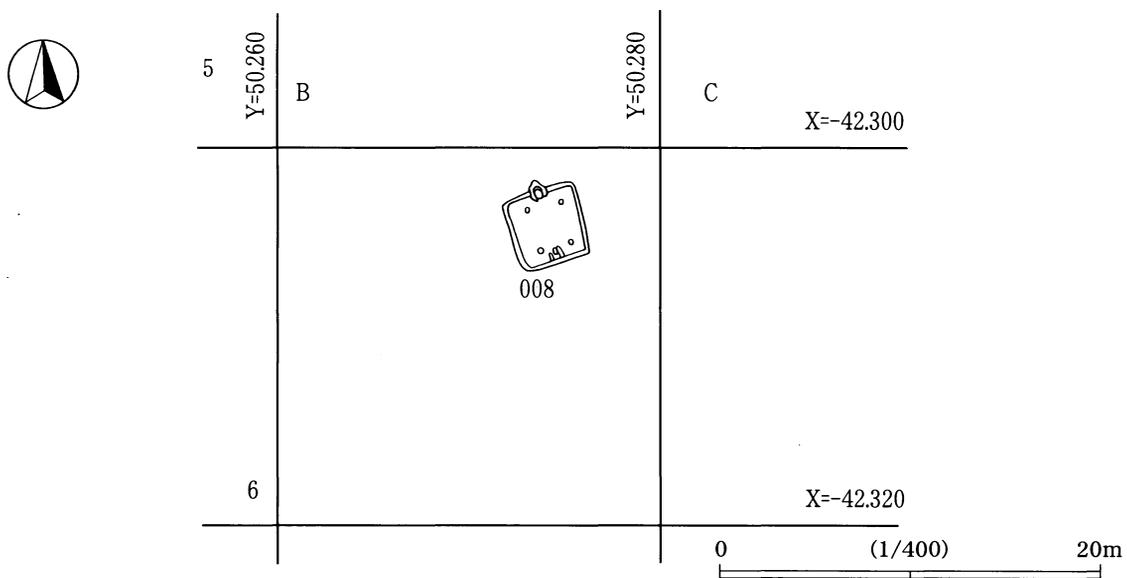
内 容 整理作業 水洗・注記から原稿執筆の一部まで



第48図 周辺地形と調査区



第49図 平成5年度 検出遺構位置図



第50図 平成8年度 検出遺構位置図

平成13年度

期 間 平成13年11月1日～平成14年3月31日
組 織 東部調査事務所長 折原 繁
担当職員 室長 大野康男
内 容 整理作業 原稿執筆の一部から報告書刊行まで

第2節 調査の方法

調査対象範囲全域に、公共座標に合わせて東西南北に40m×40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称は、きたから南に1, 2, 3……, 西から東へA, B, C……として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には4m×4mの100分割に小グリッドを設定し、北西隅のグリッドを00とした。そこから東へ01, 02, 03……, 南へ10, 20, 30……として南東隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、4A-41のように表示することにした。

上層遺構の確認調査は、第48図のようにトレンチを配置して実施した。その結果、検出した遺構部分の周囲を拡張して調査を実施した。また、旧石器時代の確認調査も、同じく第48図に図示した通り、調査区全体に2m×2mのグリッドを満遍なく設定して実施した。その結果、石器集中地点1か所が検出された。

遺構番号は平成5年度の001と平成8年度の001が重複しているため、本報告では、平成8年度分の001を平成5年度調査の遺構番号に連続させて008と改めた。なお、出土遺物の注記は、発掘時の遺構番号の001のままであるので注意されたい。

第2章 旧石器時代

第1節 層位

立川ローム層の土層断面図は、各石器集中地点の本調査範囲の一方向に対して記録してある。断面図作成方向では、東に向かって斜面堆積している、第1黒色帯（V層）は本遺跡では識別できなかったため、便宜的に、Ⅲ層とA T包含層（VI層）の中間土層をIV～V層とした。

- Ⅱ c 層 縄文時代の包含層
- Ⅲ層 ソフトローム。
- IV～V層 第1黒色帯に相当するV層はほとんど識別できない。
- VI層 A T（始良丹沢火山灰）包含層。
- VII層 第2黒色帯上半部。
- IX層 第2黒色帯下半部。

第2節 石材名称と母岩分類について

石材名称については視覚的判断によっているが、同一石材であっても全く異なる特徴をもつものが存在する。本報告では、安山岩については石材名の後にアルファベットを付し、以下のように分類を行った。安山岩A・B…安山岩Aの風化剥離面は暗灰色を、新鮮な剥離面は黒色を呈する資料で、しばしば原礫面には爪形の裂痕が観察される。多くは拳大の円礫を素材として用いている。いわゆる黒色緻密質安山岩・ガラス質黒色安山岩と称されているものである。安山岩Bの風化剥離面は明灰色を、新鮮な剥離面は黒色を呈する資料で、風化が著しく剥離面の稜の多くはつぶれてしまって不明瞭となっている。いわゆるトロトロ石と称されているものである。

母岩分類については、接合資料を基本とし、同一母岩と判断される複数の資料について細分を行った。細分できた資料には石材名の後にアラビア数字を付した。アラビア数字を付していない資料は、単独母岩か分類不能の資料である。

第3節 各石器集中と出土遺物

旧石器時代の石器集中地点は1地点検出した。

石器集中1（第51～66図、第12・13表、図版38・41～44）

北東に緩く傾斜する台地の肩口に石器群は分布する（第49図）。調査区の北端に当たる。傾斜に対して垂直方向の土層断面図からも地形の様相をほぼ把握できる。

出土層位は、VII層～Ⅱ c 層と大きな幅がある。分布範囲は南北24m、東西28mに広がる。さらに複数の石器集中に分かれるが、分離は容易ではなかったため便宜上1つの集中とした。

出土石器は、ナイフ形石器9点、搔器4点、削器？1点、剥片11点、石核2点、敲石？1点、叩石1点、UR剥片51点、碎片31点の合計111点である。

1～9はナイフ形石器である。1～5は横長剥片を縦位に用い両側縁に急角度調整を施したものである。6・8は、縦長剥片を縦位に用い両側縁に急角度調整を施したもので、7・9は縦長剥片を縦位に用い基部や先端部など一部に急角度調整を施したものである。石材は1～7は良質な珪質頁岩、8は安山岩A、9は玉髓である。10～13は搔器である。10は縦長剥片を縦位に用い末端及び両側縁に急角度調整を施したものである。11は縦長剥片を縦位に用い末端に急角度調整を施したものである。12は、横長剥片を横位に用い末端及び両側縁に急角度調整を施したものである。13は、横長剥片を縦位に用い末端に急角度調整を施したものである。石材は10・11は珪質頁岩、12は黒曜石、13は玉髓である。14は削器としたが、ナイフ形石器の可能性もある。石材は珪質頁岩である。15～25はUR剥片である。15～23は縦長剥片、24・25は横長剥片を素材とする。石材は15～19・21・23～25は珪質頁岩、20は黒曜石、22は玉髓である。26・27は石核である。26・27は縦長剥片の主要剥離面側を打面として小形の剥片を剥離している。特に27は搔器等の可能性もある。石材は珪質頁岩である。28は敲石?としたが、脆弱な砂岩製であり、いわゆる敲石としての用途にはむかないことから自然石か原石であるかもしれない。29は叩石である。破損している。石材は砂岩である。30～62は剥片である。56はUR剥片の可能性もある。30～52は縦長剥片、53～62は横長剥片で、石材は黒曜石、玉髓、珪質頁岩、安山岩A、チャートである。

礫 群 (第52・59・60図, 第13表)

本遺跡からは石器集中に伴い、礫の集中分布が確認された。それらの礫の集中分布に対して通例の名称である礫群と呼称する。

礫群を構成する礫の属性分類に当たっては、分類・母岩・遺存度・赤化・付着物・計測（最大長、最大幅、最大厚、重量）別に分類を行った。

分布範囲は南北24m、東西28mを測り、石器集中1と分布が重複する。礫群についてもさらに複数の集中部に分かれるが明確に分離することができなかつたため、便宜上1つの礫群とした。

総点数は193点、総重量は4935.8gである。焼成破損礫を主体に組生し、焼成完形礫・自然礫（無焼成完形礫）・破損礫（無焼成破損礫）を若干含む。礫の属性をみると重量は最大205.3g、最低0.1gで平均重量は25.6gである。石材は流紋岩が28母岩41点（21.1%）、砂岩が43母岩66点（34.5%）、安山岩が6母岩10点（5.2%）、チャートが33母岩70点（36.1%）、石英斑岩が1母岩1点（0.5%）、ハンレイ岩が3母岩5点（2.6%）である。遺存はDが158点（81.9%）で、多くが完形礫50%以下の破損状況となっている。赤化はa・bが主体を占め、著しく赤化している資料はほぼ半数（41.5%）を占める。接合関係は29母岩77点で確認された。接合分布は礫群内で完結する。

石器属性表について

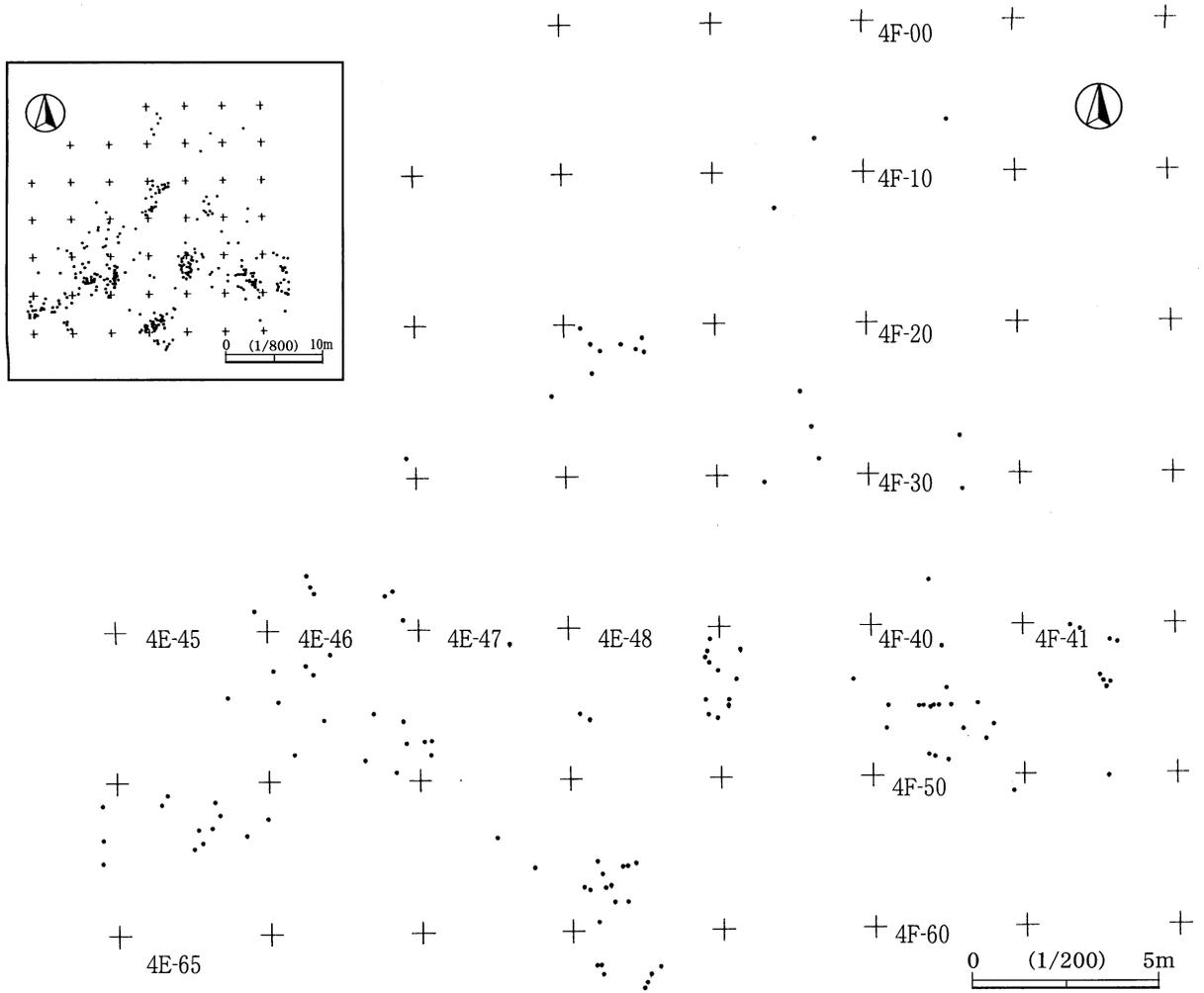
1. 挿図番号 実測図として掲載した遺物の通し番号。この番号は遺物の出土平面図と写真図版の番号に一致する。実測図として報告できなかったものについては、取り上げ番号順に、以下に掲載した。
2. グリッド・遺物番号 出土したグリッドと遺物の取上げ番号（注記番号）。
3. 打面形状 Cは自然面、Jは節理面、Pは点状打面、Lは線状打面、Hは平坦打面、2以上は複剥離

打面，一は欠損等による打面なし・計測不可を示す。

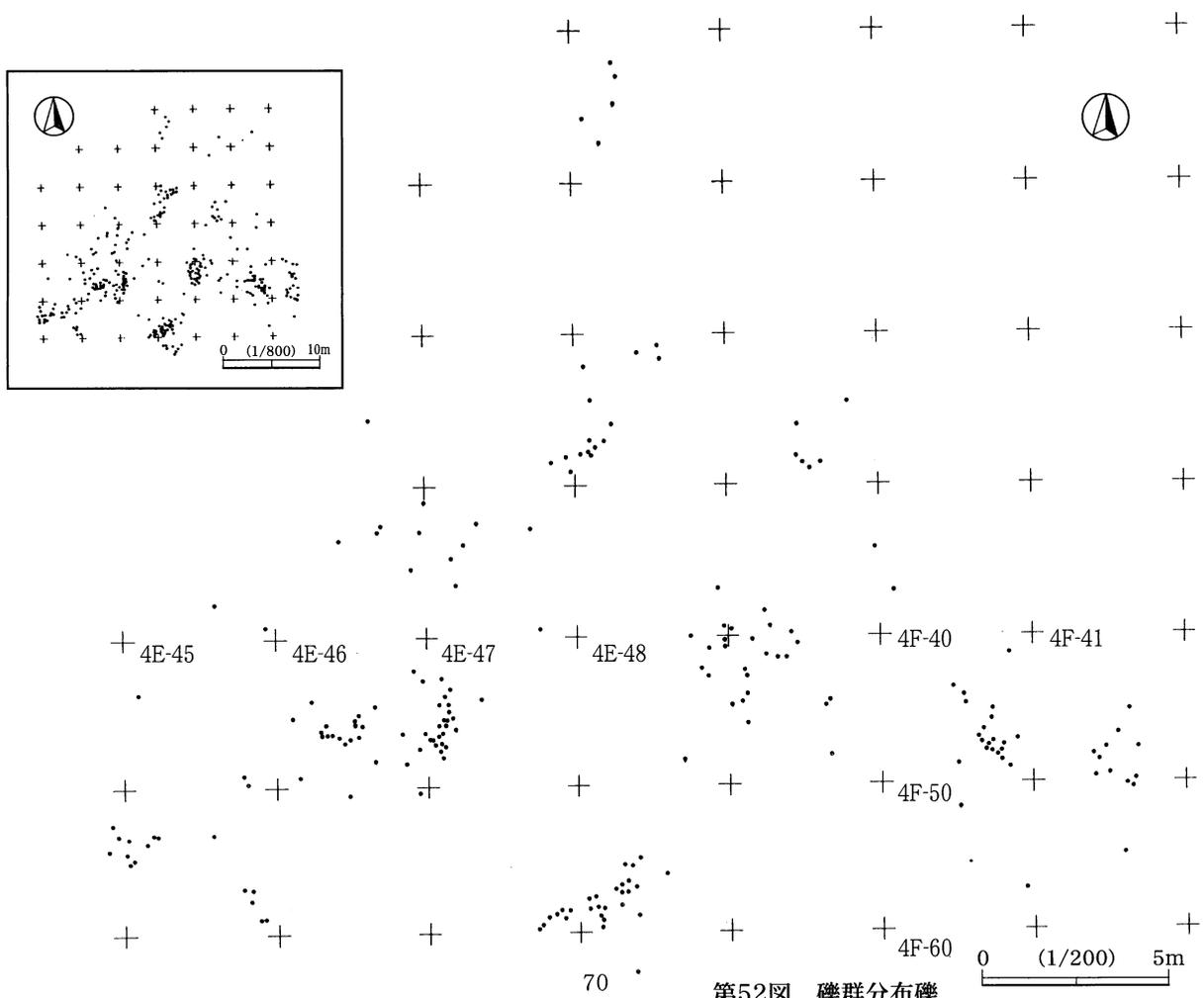
4. 背面構成 主要剥離面の剥離方向を基準として，背面を構成する剥離面の種類と数を示した。素材を大きく変形させたものは記入しないが，素材の背面構成が窺われるものに関しては，観察される範囲で記入した。Cは自然面，Sは節理面，Hは頭部側，Tは尾部側，Rは背面を正面にして右方，Lは左方，Dは背面側，Vは腹面側（両者は作業面調整剥片，角柱状の剥片など90°に近い剥離角をもつ剥離面の場合）からの剥離面数を示す。
5. 調整部位・折面部位 主要剥離面の剥離方向を基準として，調整部位と折断部位の位置を示した。Hは頭部側，Bは尾部側，Rは背面を正面にして右側，Lは左側を示す。
6. 末端形状 Fは通常の末端（フェザーエンド），Sは階段状（ステップ），Hはちょうつがい状（ヒンジフラクチャー），Oはアーチ状（ウートラパッセ）を示す。
7. 母岩番号 石材の種類と，母岩分類については本文に記したとおりである。

礫群属性表について

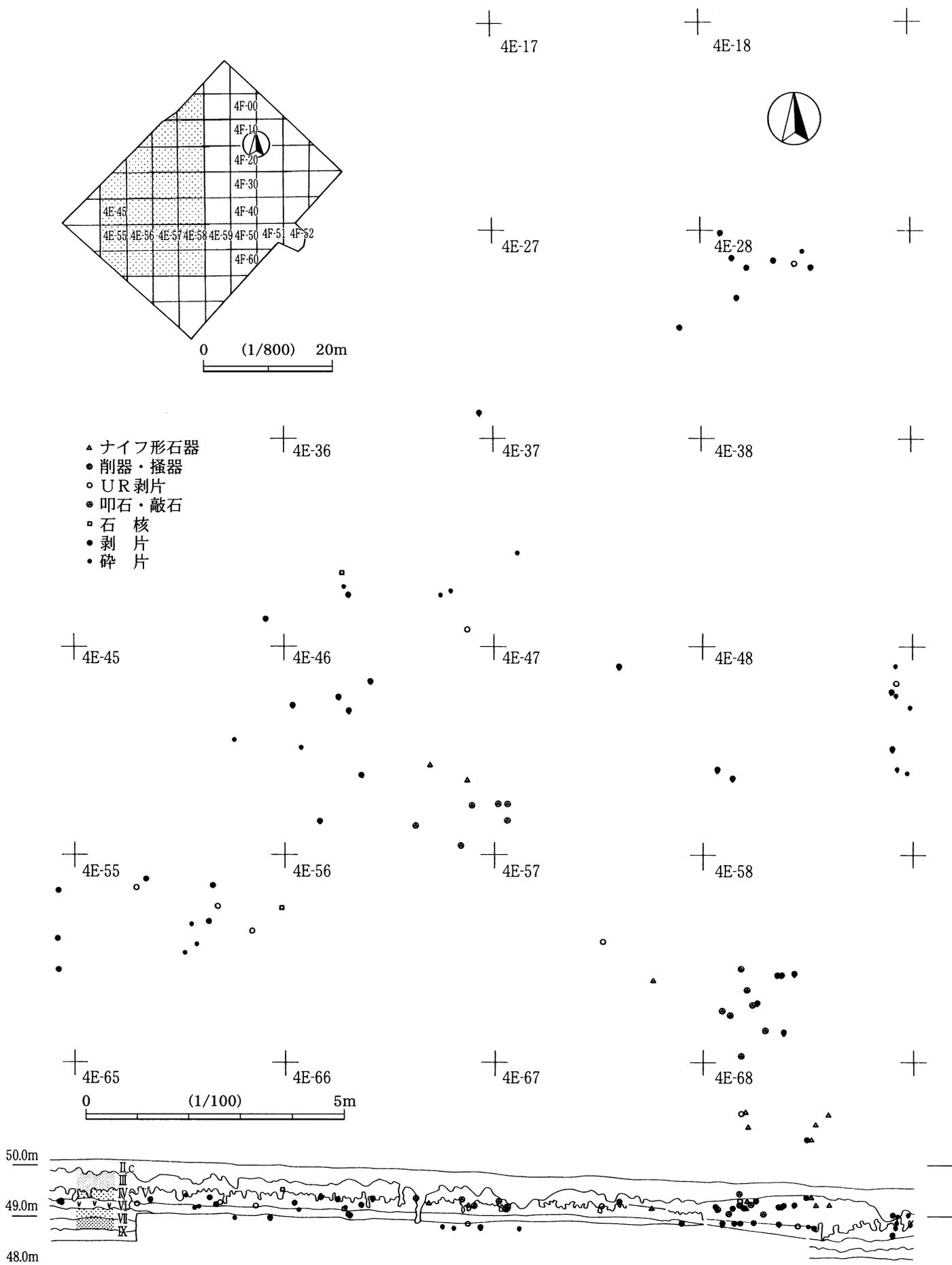
1. 番号 分布図の番号に対応する。
2. グリッド・遺物番号 出土したグリッドと遺物の取上げ番号（注記番号）。
3. 分類 Aは焼成完形礫，Bは焼成破損礫，Cは自然礫（無焼成完形礫），Dは破損礫（無焼成破損礫）。
4. 母岩番号 流紋岩，石英斑岩の石材判別に当たっては赤化すると識別が困難なものがあり，特徴的に石英の斑晶が著しいもの以外は流紋岩とした。
5. 遺存 各礫の遺存状態を完形を100%として，Aは100%，Bは80%以上100%未満，Cは50%以上80%未満，Dは50%未満のランクに分類した。
6. 赤化 aは著しく赤化しているもの，bは薄く赤化しているもの，cはその中間のものに分類した。また，表面（自然面）と割れ面に分けて赤化の度合いを観察した。
7. 付着 sはスス状付着物，tはタール状付着物について付着物の有無を観察した。
8. 接合 その個体と接合したものの番号。



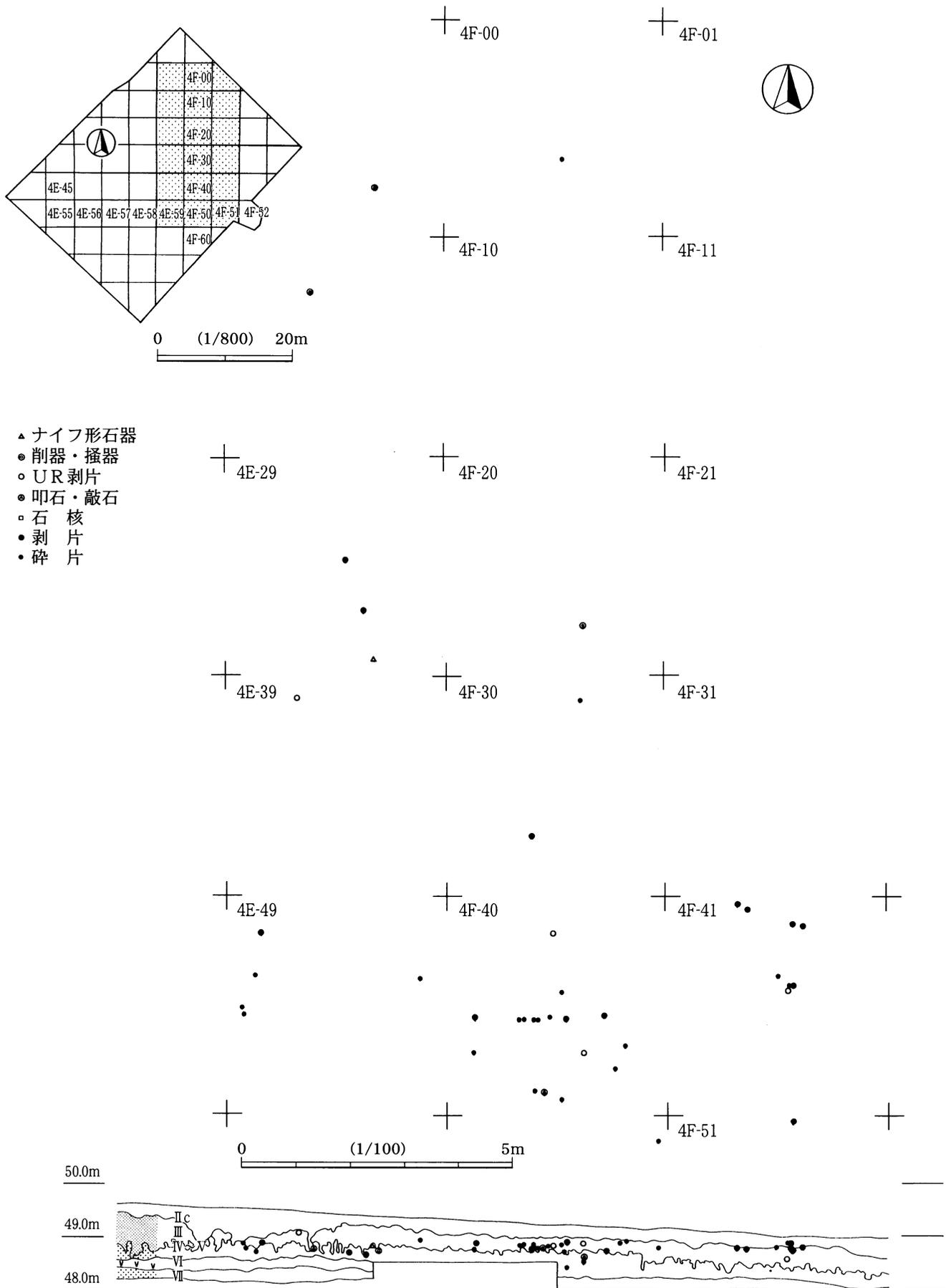
第51図 石器分布



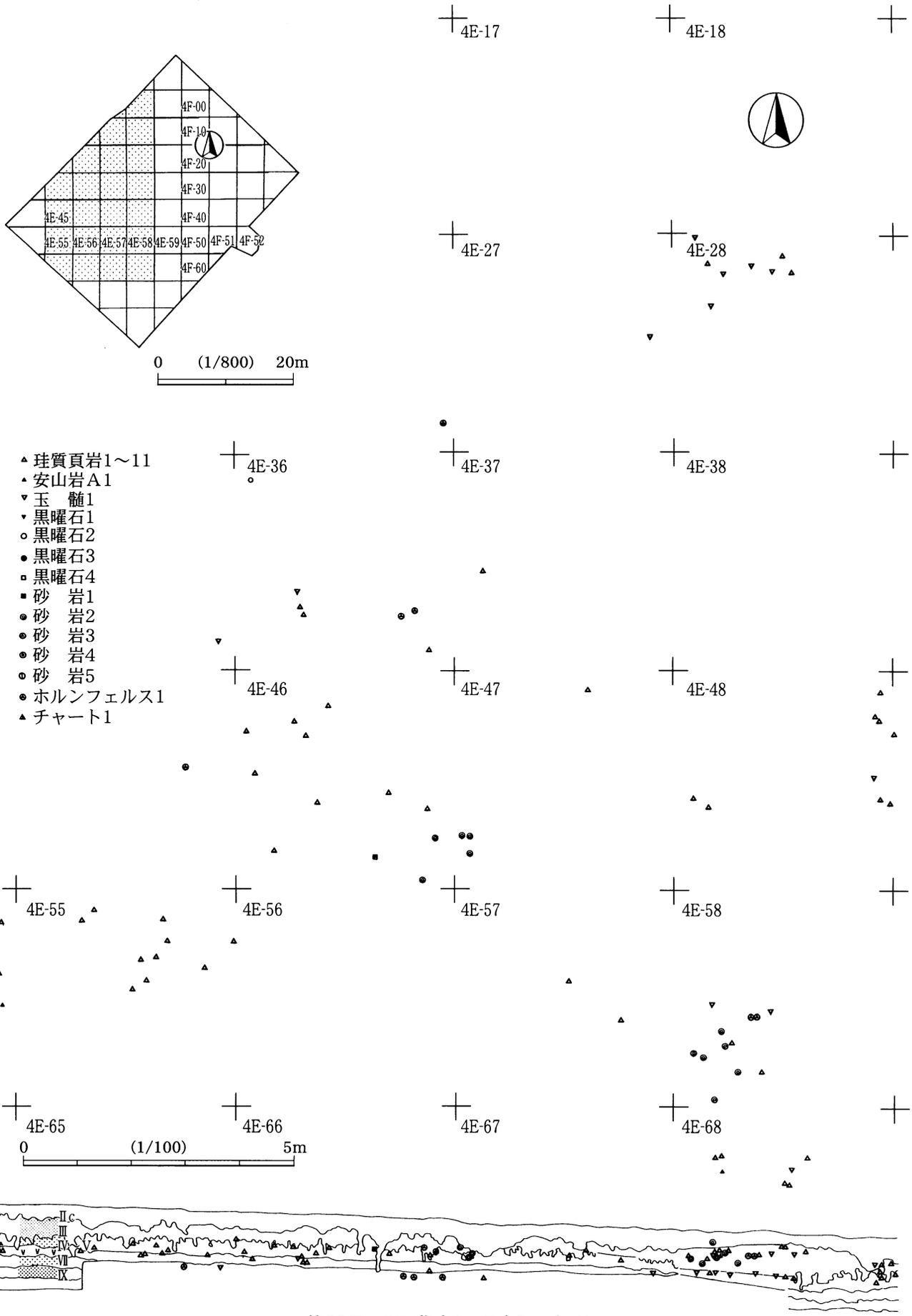
第52図 礫群分布



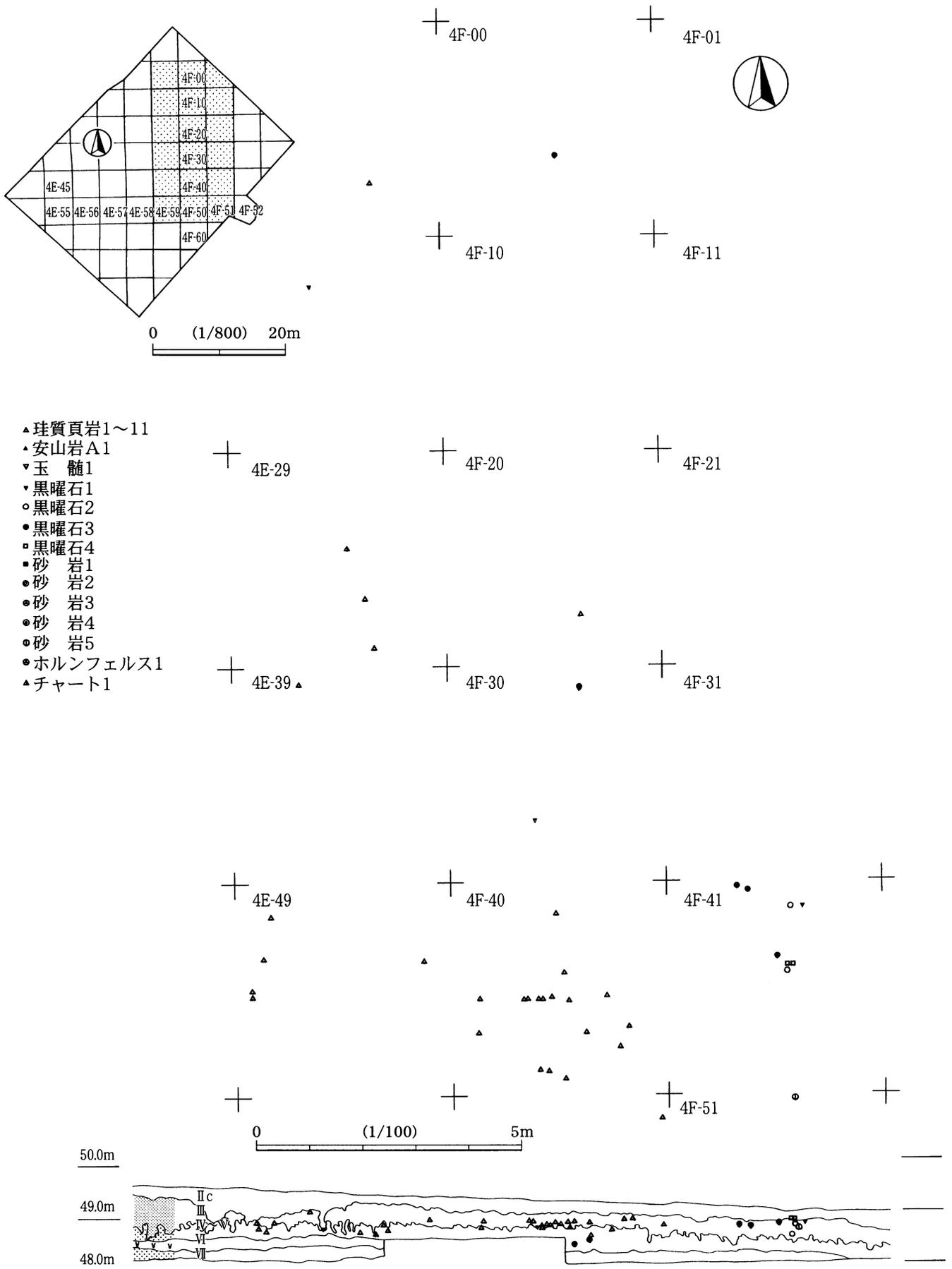
第53図 石器集中1 器種別分布(1)



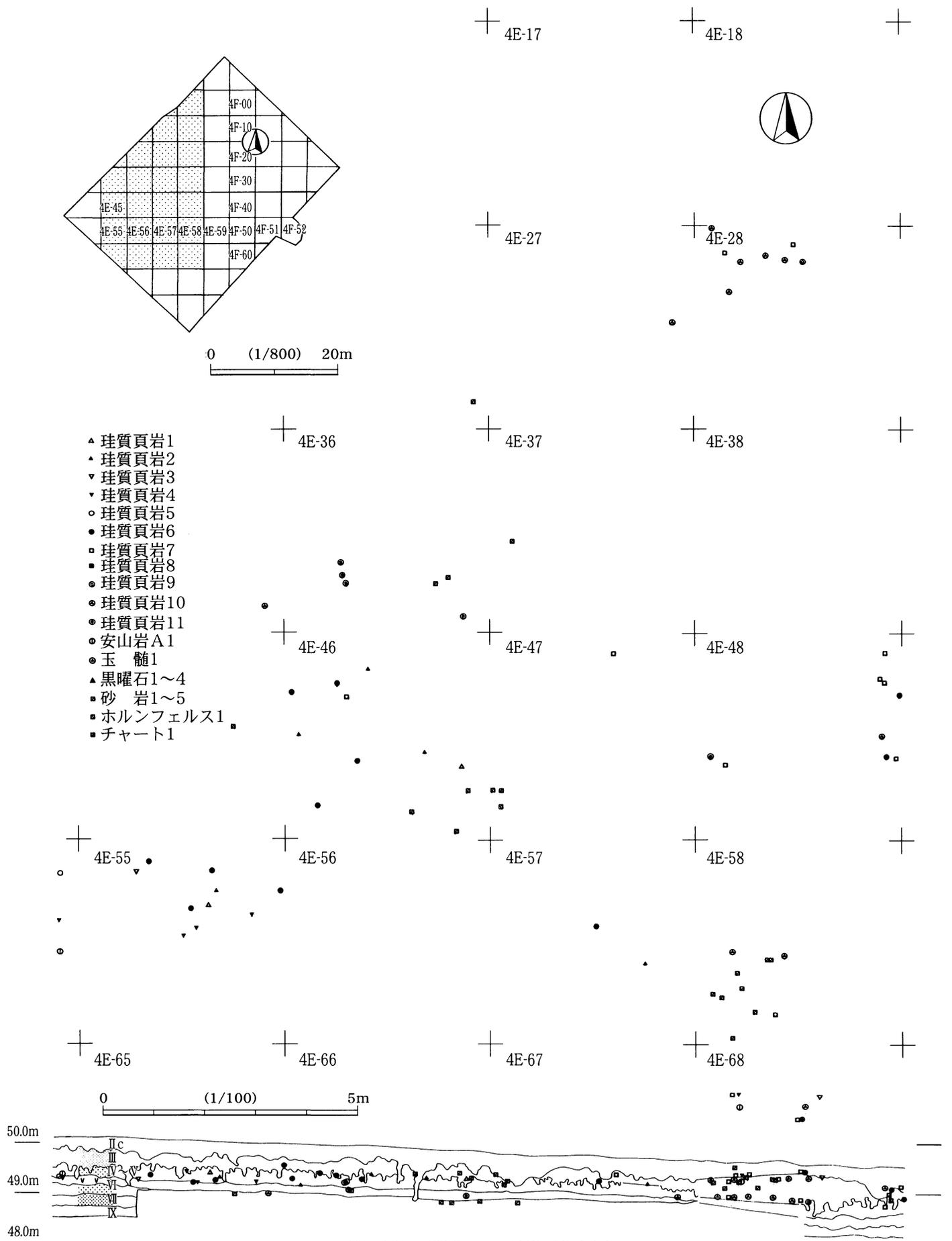
第54図 石器集中1 器種別分布(2)



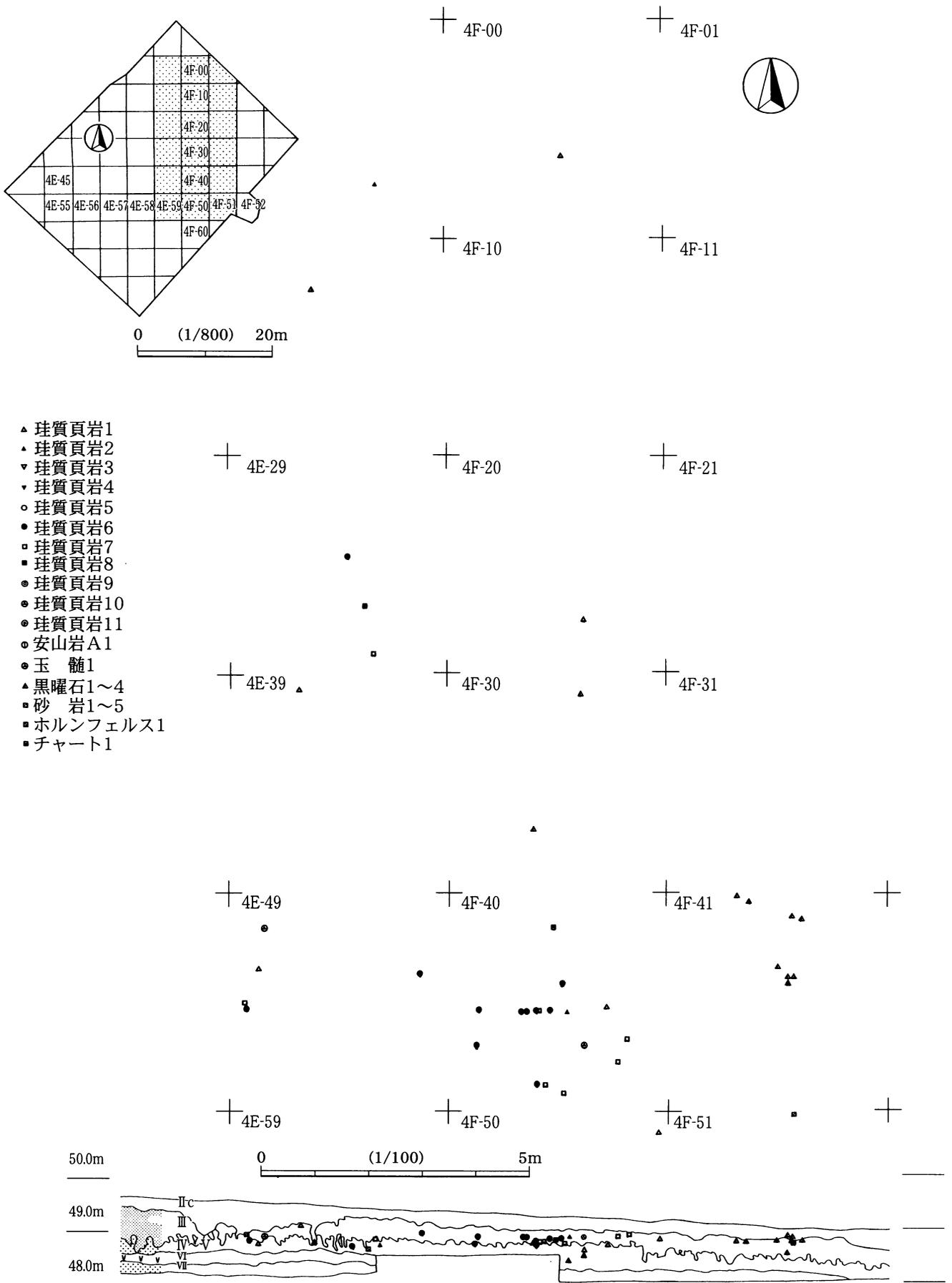
第55図 石器集中1 母岩別分布(1)



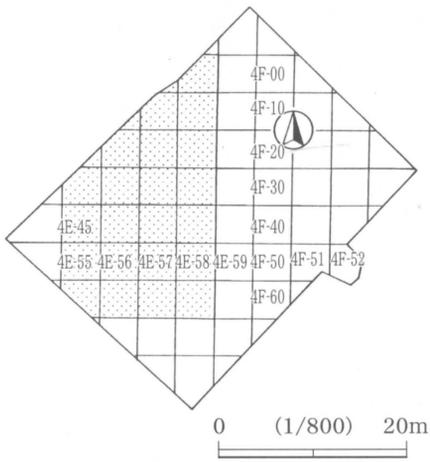
第56図 石器集中1 母岩別分布(2)



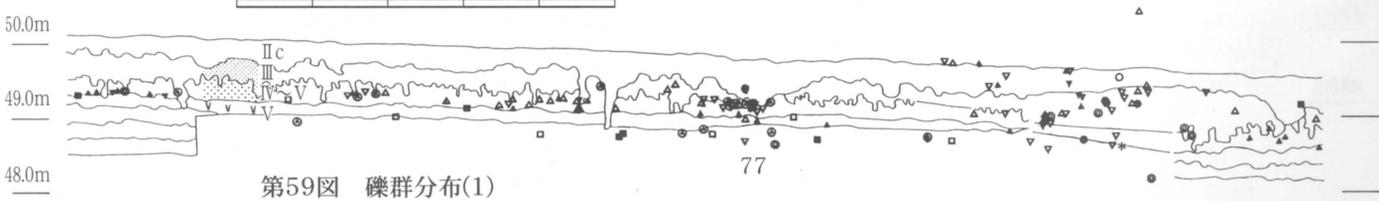
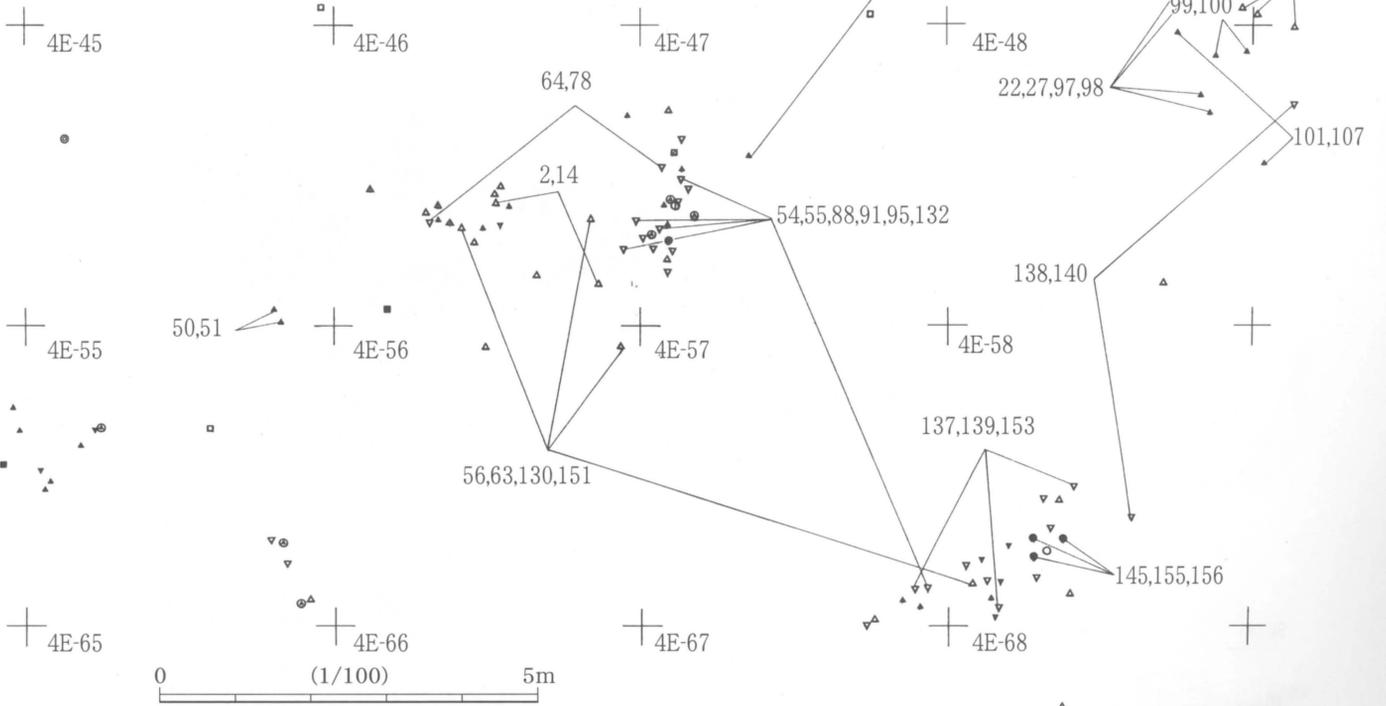
第57図 石器集中1 母岩別分布(3)



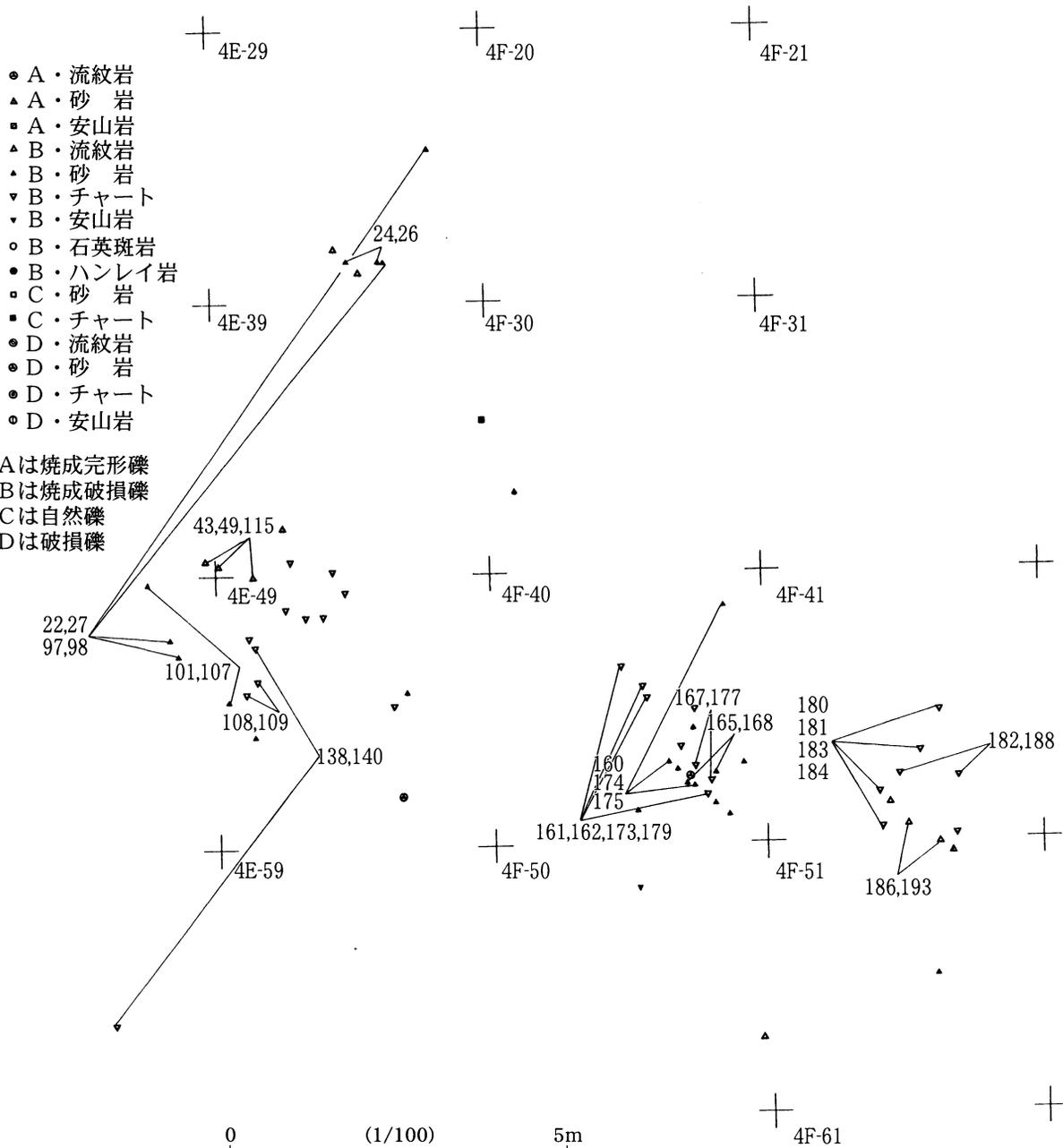
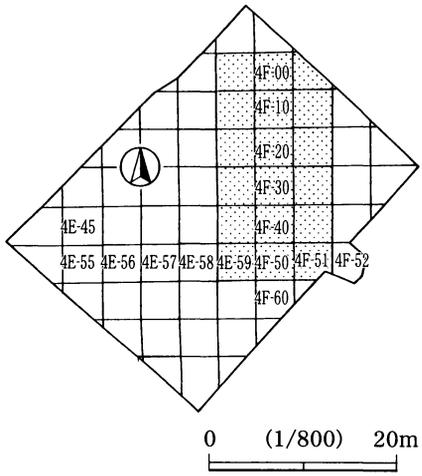
第58図 石器集中1 母岩別分布(4)



- A・流紋岩
 - ▲ A・砂岩
 - A・安山岩
 - ▲ B・流紋岩
 - ▲ B・砂岩
 - ▼ B・チャート
 - ▼ B・安山岩
 - B・石英斑岩
 - B・ハンレイ岩
 - C・砂岩
 - C・チャート
 - D・流紋岩
 - D・砂岩
 - D・チャート
 - D・安山岩
- Aは焼成完形礫
 Bは焼成破損礫
 Cは自然礫
 Dは破損礫



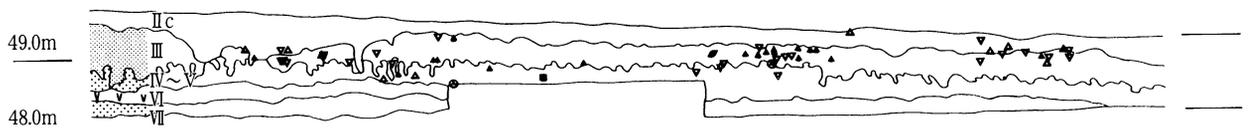
第59図 礫群分布(1)



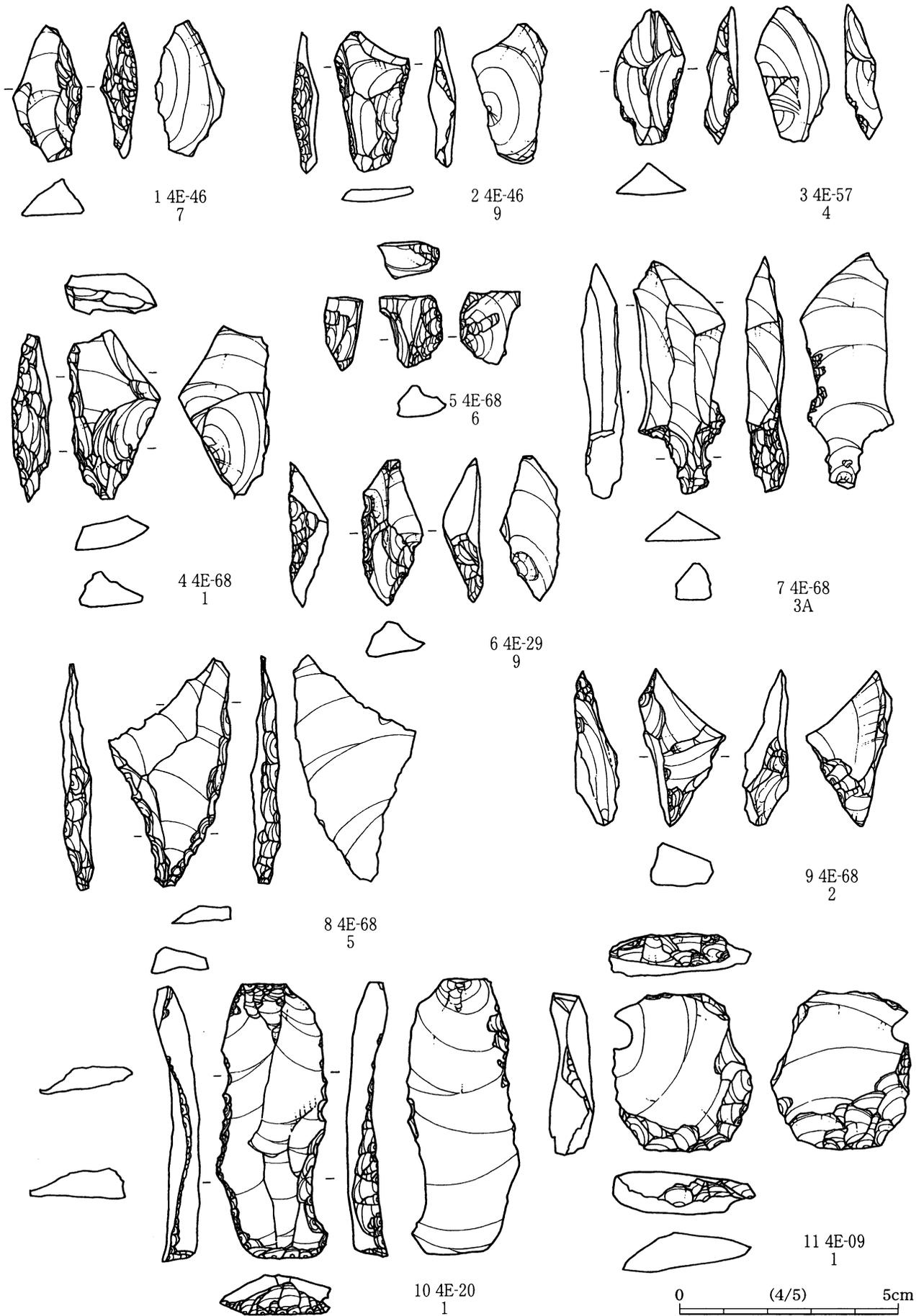
- A・流紋岩
- ▲ A・砂岩
- A・安山岩
- ▲ B・流紋岩
- B・砂岩
- ▼ B・チャート
- ▼ B・安山岩
- B・石英斑岩
- B・ハンレイ岩
- C・砂岩
- C・チャート
- D・流紋岩
- D・砂岩
- D・チャート
- D・安山岩

Aは焼成完形礫
 Bは焼成破損礫
 Cは自然礫
 Dは破損礫

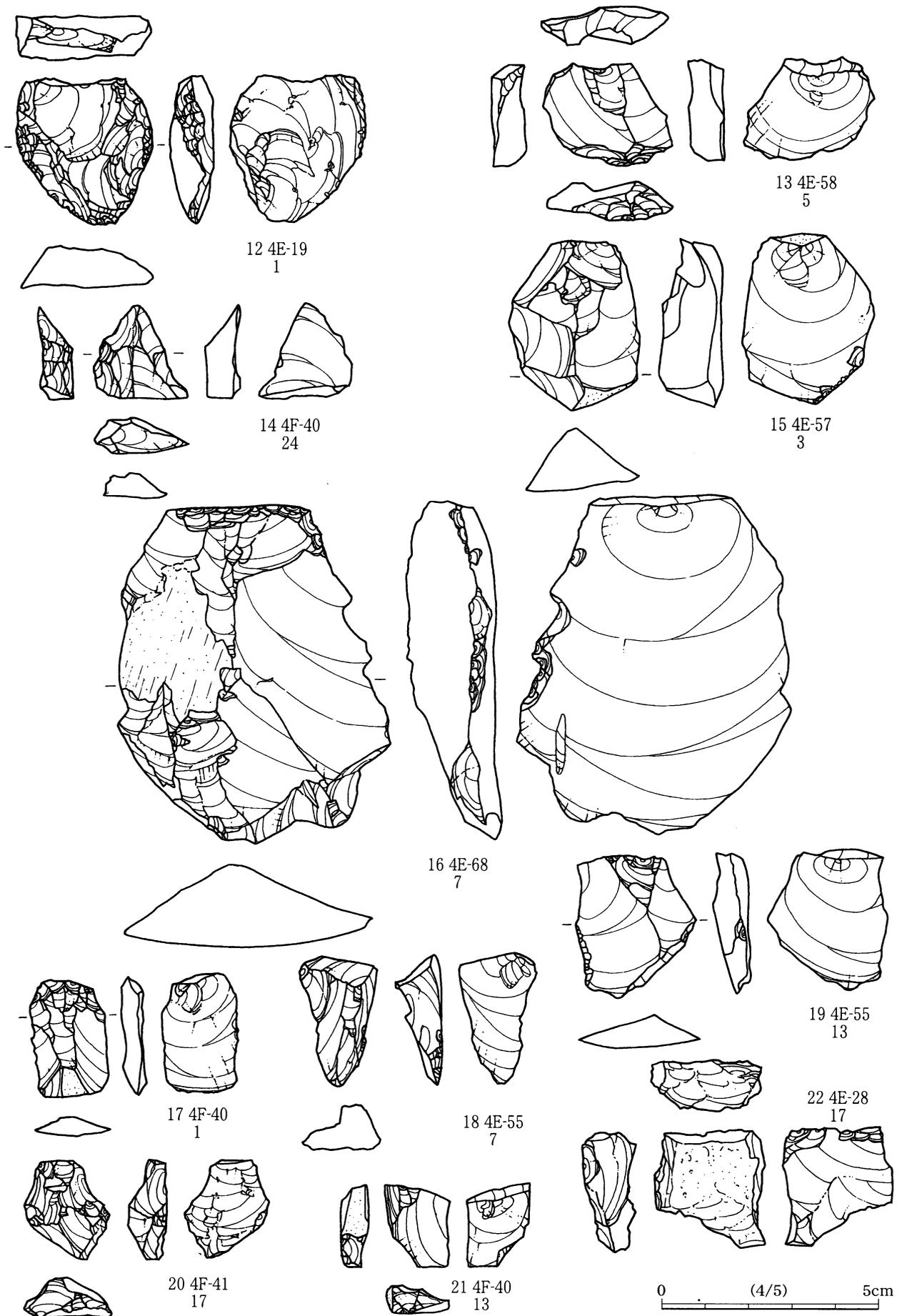
50.0m



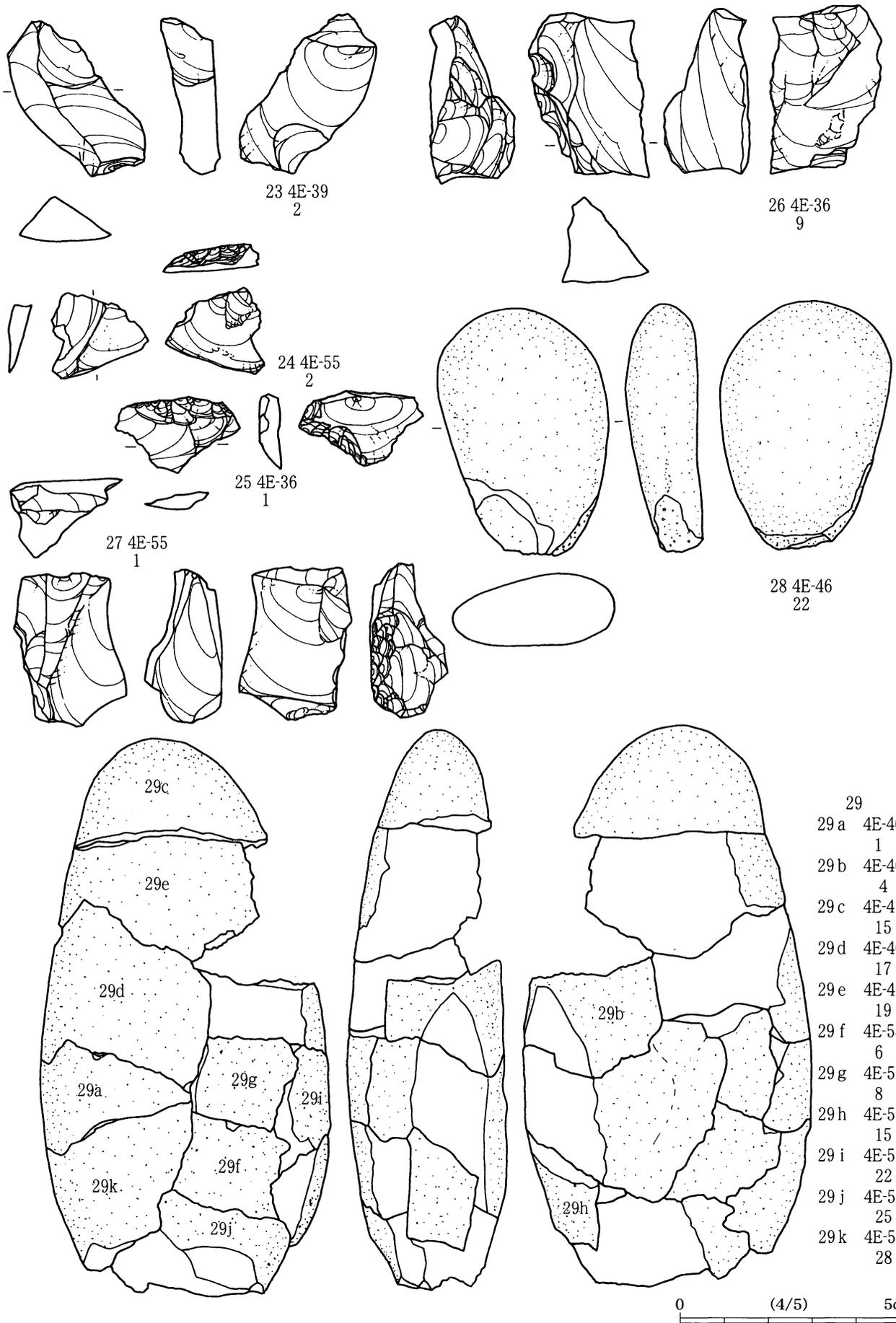
第60図 礫群分布(2)



第61図 石器集中1 出土石器(1)

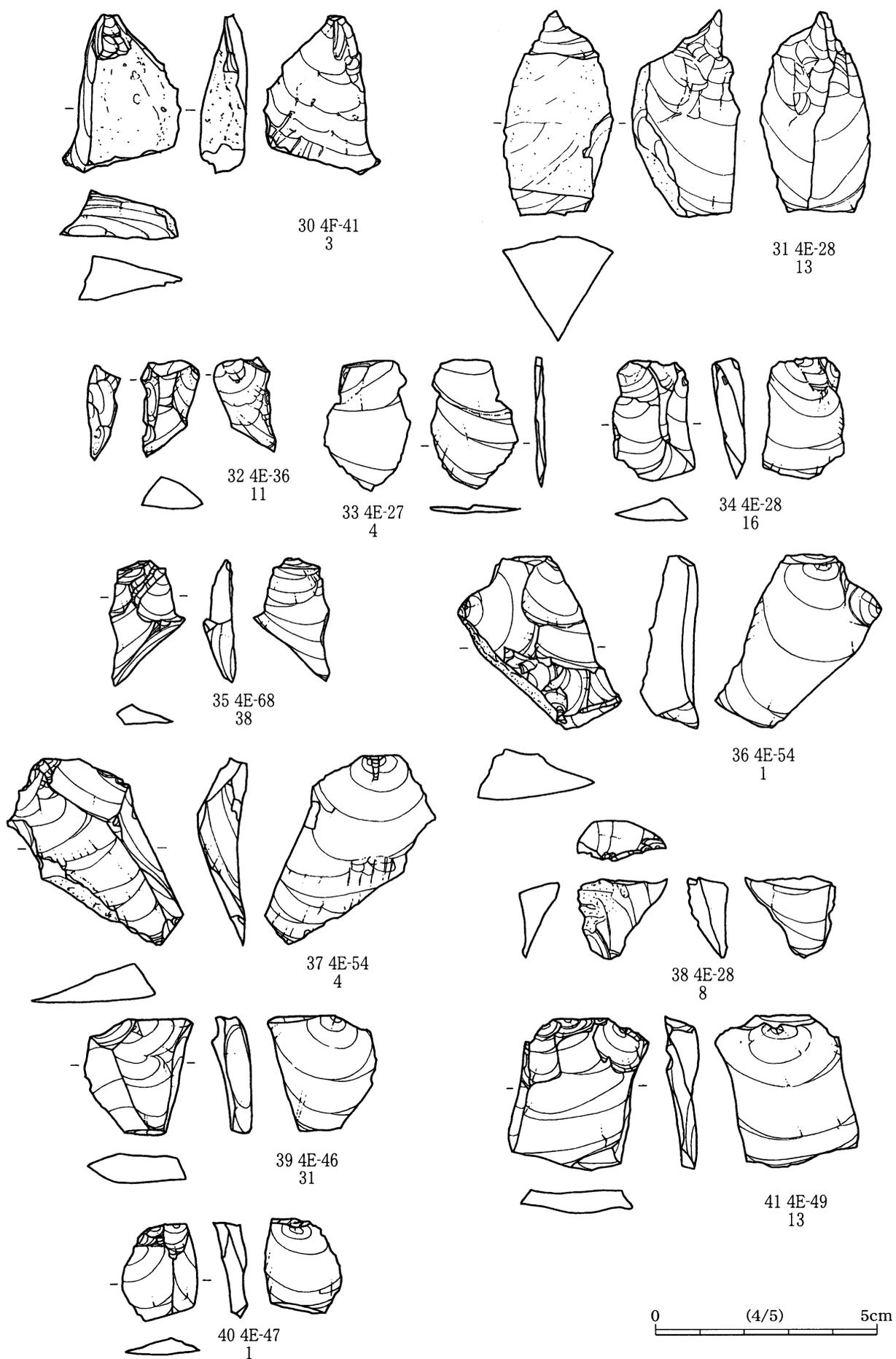


第62図 石器集中1 出土石器(2)



- 29
- 29 a 4E-46
1
- 29 b 4E-46
4
- 29 c 4E-47
15
- 29 d 4E-46
17
- 29 e 4E-47
19
- 29 f 4E-58
6
- 29 g 4E-58
8
- 29 h 4E-58
15
- 29 i 4E-58
22
- 29 j 4E-58
25
- 29 k 4E-58
28

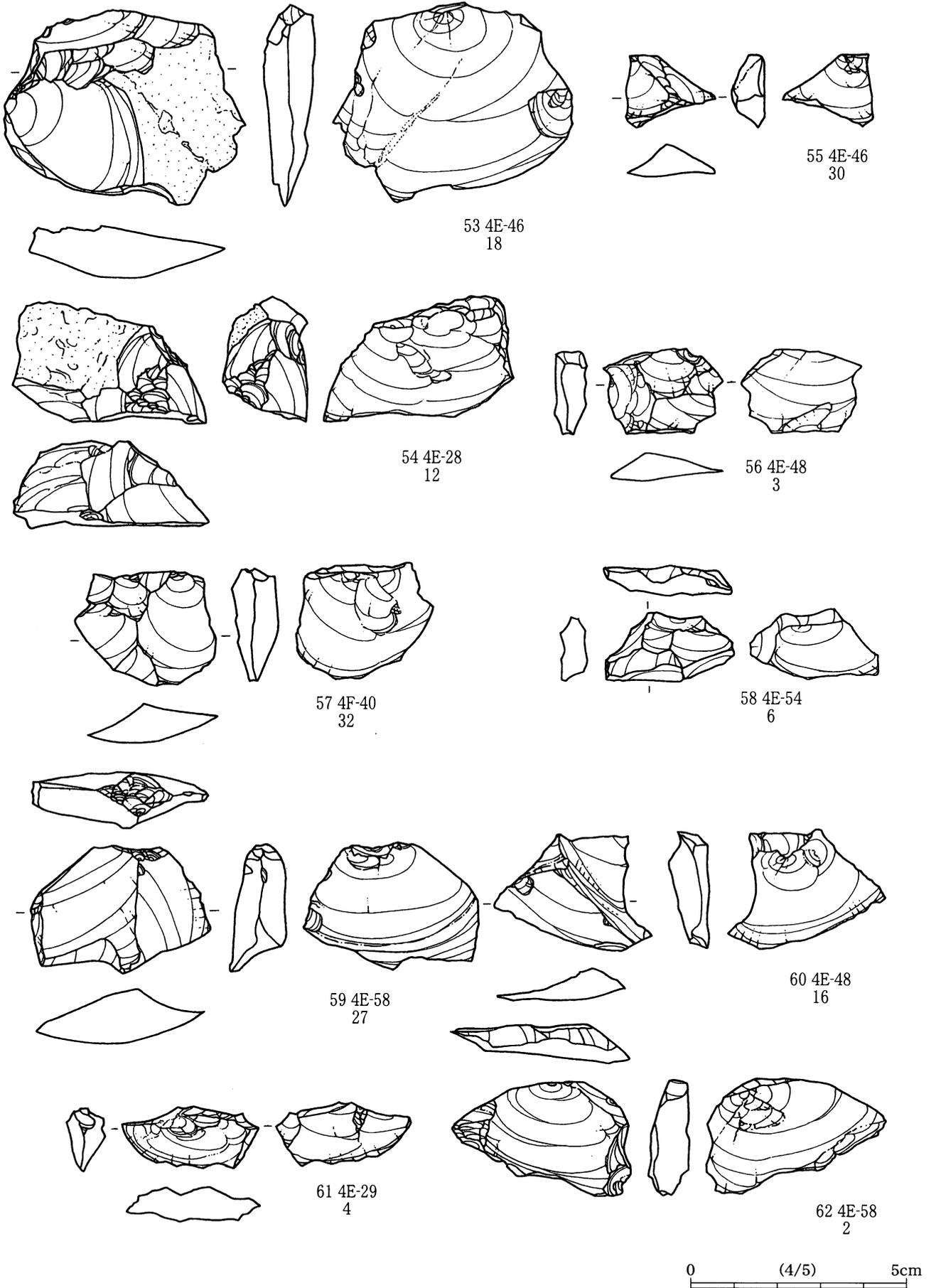
第63図 石器集中1 出土石器(3)



第64図 石器集中1 出土石器(4)



第65図 石器集中1 出土石器(5)



第66図 石器集中1 出土石器(6)

第12表 石器集中1 属性表

挿図 番号	グリ ッド	遺 物 No	器 種	最大 長mm	最大 幅mm	最大 厚mm	重量 g	打面 形状	打角 °	打面	頭部	背 面 構 成											調整 角°	刃部 角°	先端 角°	調整 部位	折 面 部 位	末 端	母岩番号	備 考
												C	J	H	T	R	L	D	V											
1	4E-46	7	ナイフ形石器	30.8	15.7	8.6	2.4												77	42					HB		珪質頁岩1			
2	4E-46	9	ナイフ形石器	31.8	16.9	6.2	2.2												87	37	102						珪質頁岩2			
3	4E-57	4	ナイフ形石器?	30.7	16.5	8.1	2.4												52	36	76						珪質頁岩2			
4	4E-68	1	ナイフ形石器	38.2	20.7	9.4	5.6												79	66					H		珪質頁岩3			
5	4E-68	6	ナイフ形石器?	16.7	14.0	8.7	1.8												87						H		珪質頁岩4			
6	4E-29	9	ナイフ形石器	32.8	13.8	8.7	2.3												72	45	57						珪質頁岩7			
7	4E-68	3A	ナイフ形石器	53.1	19.5	9.2	8.0												58	51	84						珪質頁岩6			
8	4E-68	5	ナイフ形石器	51.7	27.7	6.8	8.2												65	47	96						安山岩A1			
9	4E-68	2	ナイフ形石器	35.7	19.6	10.0	4.1												87	44	73						玉髓1			
10	4F-20	1	搔器	62.1	24.9	9.9	10.7												79					HTRL			珪質頁岩1			
11	4E-09	1	搔器	35.8	31.5	10.4	10.7												53					TL			珪質頁岩2			
12	4E-19	1	搔器	33.4	30.1	9.4	10.2												62					TRL			黒曜石1			
13	4E-58	5	搔器	23.4	29.7	8.4	4.9												66					T			玉髓1			
14	4F-40	24	削器?	21.7	21.5	8.0	2.4												75					L			珪質頁岩7			
15	4E-57	3	UR剥片	39.5	29.7	14.8	13.1	C	102			○	5		4				74					T	O		珪質頁岩6			
16	4E-68	7	UR剥片	77.0	63.0	20.9	86.1	H	107			pl	○11	2	1				69					TR	S		珪質頁岩7			
17	4F-40	1	UR剥片	26.9	17.3	5.8	2.4	H	123			pl	○	4		1			61					RL	H		珪質頁岩8			
18	4E-55	7	UR剥片	29.6	17.9	10.8	3.5	H	127					2		2	2		71					RL	S		珪質頁岩2			
19	4E-55	13	UR剥片	32.6	27.9	8.1	4.9	H	115			pl		3				54					RL	H		珪質頁岩3				
20	4F-41	17	UR剥片	23.0	19.7	9.0	2.8	-	-	-	-			2	1	1		1	56					RL	H	O	黒曜石2			
21	4F-40	13	UR剥片	15.1	18.7	6.9	1.5	H	113			○			2				101					T			珪質頁岩10	折断剥片素材?		
22	4E-28	17	UR剥片	27.4	25.3	12.3	7.2	-	-	-	-	○	1	1			2	84						HL	HB		玉髓1			
23	4E-39	2	UR剥片	35.3	31.2	12.6	5.9	H	131					1	2			1	78					T			珪質頁岩1			
24	4E-55	2	UR剥片	19.9	22.2	6.3	1.6	-	-	-	-			1		1			79					H	H		珪質頁岩4			
25	4E-36	1	UR剥片	17.6	28.4	5.1	1.8	2	92			pl		3				53						R	F		珪質頁岩11			
26	4E-36	9	石核	37.4	25.6	19.4	12.3																				珪質頁岩11			
27	4E-55	1	石核	34.4	25.4	17.6	11.3																				珪質頁岩6			
28	4E-46	22	敲石?	56.1	38.6	17.1	48.0																				砂岩1			
29			叩石	126.6	65.5	36.3	281.9																				砂岩2			
29a	4E-46	1	叩石																								砂岩2			
29b	4E-46	4	叩石																								砂岩2			
29c	4E-47	15	叩石																								砂岩2			
29d	4E-47	17	叩石																								砂岩2			
29e	4E-47	19	叩石																								砂岩2			
29f	4E-58	6	叩石																								砂岩2			
29g	4E-58	8	叩石																								砂岩2			
29h	4E-58	15	叩石																								砂岩2			
29i	4E-58	22	叩石																								砂岩2			
29j	4E-58	25	叩石																								砂岩2			
29k	4E-58	28	叩石																								砂岩2			
30	4F-41	3	剥片	34.9	26.5	9.8	7.0	H	107			○	2												B		黒曜石1			
31	4E-28	13	剥片	45.8	24.7	24.3	39.4	P				○	2												B		玉髓1			
32	4E-36	11	剥片	21.4	13.1	7.7	1.3	-	-	-	-			3				1						H	F		珪質頁岩11			
33	4E-27	4	剥片	29.0	19.8	2.0	1.0	-	-	-	-			1										H	S		玉髓1			
34	4E-28	16	剥片	27.2	18.1	7.2	2.1	H	95					4		1								H			珪質頁岩9			
35	4E-68	3B	剥片	27.7	17.2	11.1	1.5	-	-	-	-			4		3	1							H	O		珪質頁岩7			
36	4E-54	1	剥片	38.4	36.9	12.8	11.0	H	115			○	2	2	3										O		珪質頁岩5	poly-cone		
37	4E-54	4	剥片	31.7	38.7	10.9	8.3	C	106			○	3				1									F		珪質頁岩4		
38	4E-28	8	剥片	18.0	19.9	9.1	1.9	H	81			○	○			1										S		玉髓1		
39	4E-46	31	剥片	16.0	24.3	8.6	4.5	3	110					2	1			1							B		珪質頁岩2			
40	4E-47	1	剥片	22.0	17.0	7.1	1.5	H	119			○		3											B		珪質頁岩7			
41	4E-49	13	剥片	33.9	32.1	7.4	5.8	H	119			pl		4	1			1							H		珪質頁岩10			

第13表 第Ⅲ文化層 礫群属性表

番号	グリッド	遺物 No.	分類	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	遺存	表面 赤化	断面 赤化	付着	接合	備考
1	4E-08	1	B	ハンレイ岩1	53.5	37.5	25.7	53.4	D	b				
2	4E-08	2	B	チャート2	36.9	30.6	20.7	25.5	D	b	c		4,5	
3	4E-08	3	D	ホルンフェルス1	62.1	45.7	13.1	51.9	D					
4	4E-08	4	B	チャート2	42.9	45.5	22.2	38.8	D	b	c		2,5	
5	4E-08	5	B	チャート2	49.7	36.9	25.4	54.1	D	b	c		2,4	
6	4E-26	2	D	砂岩2	62.7	29.8	16.6	38.1	B					
7	4E-27	1	B	砂岩1	34.3	33.2	24.0	21.0	D	a	c	s	13,15,74	
8	4E-27	2	B	チャート1	41.3	22.8	14.7	10.5	D	b	b		10,16	
9	4E-27	3	B	流紋岩1	14.5	12.4	9.7	1.8	D	a	a		8,16	
10	4E-28	1	B	チャート1	28.4	22.4	13.1	7.5	D	b	b			
11	4E-28	2	D	流紋岩2	42.3	28.9	12.1	15.6	D				14,17,18,19	
12	4E-28	3	B	流紋岩3	26.3	24.1	19.1	13.0	D	a	a			
13	4E-28	4	B	砂岩1	32.2	26.1	25.4	16.7	D	a	c	s	7,15,74	
14	4E-28	5	D	流紋岩2	47.0	31.8	24.2	40.1	D				11,17,18,19	
15	4E-28	7	B	砂岩1	43.4	32.3	28.8	43.1	D	a	c	s	7,13,74	
16	4E-28	9	B	チャート1	29.6	18.8	11.9	5.9	D	a	b		8,10	
17	4E-28	14	D	流紋岩2	15.8	12.2	7.9	1.7	D				11,14,18,19	
18	4E-28	18	D	流紋岩2	34.2	24.1	22.4	16.9	D				11,14,17,19	
19	4E-28	19	D	流紋岩2	42.2	31.2	24.7	21.9	D				11,14,17,18	
20	4E-28	20	B	流紋岩3	29.1	24.2	21.8	14.6	D	a	a			
21	4E-28	21	B	チャート14	28.5	25.5	16.8	10.0	D	b				
22	4E-29	1	B	砂岩5	37.2	21.2	16.8	13.1	D	a	a		27,97,98	
23	4E-29	5	B	流紋岩4	19.4	11.4	6.5	1.0	D	b	b			
24	4E-29	6	B	砂岩4	91.8	40.8	32.5	137.4	B	a	a		26	
25	4E-29	7	B	流紋岩4	14.6	11.3	5.8	1.1	D	b	b			
26	4E-29	8A	B	砂岩4	30.9	22.1	12.8	8.2	D	b	b		24	
27	4E-29	8B	B	砂岩5	36.8	24.1	16.9	13.7	D	a	a		22,97,98	
28	4E-35	1	C	砂岩12	21.1	18.8	17.4	9.0	A					
29	4E-35	2	D	砂岩13	21.9	13.8	6.0	2.0	C					
30	4E-36	4	D	砂岩6	9.9	7.5	2.6	0.2	D					
31	4E-36	5	C	チャート11	21.0	10.8	10.3	3.0	A					
32	4E-36	6	C	チャート3	16.7	15.5	8.7	3.4	A					
33	4E-36	7	C	砂岩14	15.9	11.5	10.4	1.9	A					
34	4E-36	8	C	砂岩7	11.7	6.2	3.5	0.3	A					
35	4E-36	12	D	砂岩15	15.2	8.4	6.1	1.2	D					
36	4E-37	1	C	砂岩9	19.0	11.7	6.8	1.6	A					
37	4E-37	2	D	チャート5	18.1	12.8	8.0	1.3	D	c				
38	4E-37	3	C	チャート12	26.4	17.1	14.2	9.7	A					
39	4E-37	4	C	砂岩8	25.2	22.5	20.0	11.8	A	b				
40	4E-37	5	D	砂岩16	5.6	4.2	2.9	0.1	D					
41	4E-37	7	B	チャート8	17.4	5.8	4.5	0.5	D	b				
42	4E-37	8	D	流紋岩10	12.7	16.8	5.0	0.4	D					
43	4E-38	1	B	流紋岩9	40.6	36.6	19.9	33.2	D	a	a	s	49,114	
44	4E-38	2	C	チャート4	86.7	40.0	37.6	195.0	A					
45	4E-39	1	C	チャート6	25.7	19.8	7.6	5.7	A					
46	4E-39	3	B	流紋岩7	15.9	11.7	9.1	1.5	D	b				
47	4E-39	4	B	チャート7	29.5	22.7	18.5	9.4	D	c	c			
48	4E-39	5	B	チャート7	35.5	22.7	25.8	21.6	D	a	b			

49	4E-39	6	B	流紋岩9	49.3	36.0	26.2	41.6	D	a	a	s	43,114	
50	4E-45	1	B	砂岩26	58.8	35.6	26.0	51.5	D	a	c		51	
51	4E-45	2	B	砂岩26	44.7	26.5	18.5	16.0	D	c	b	s	50	
52	4E-45	3	D	流紋岩8	13.6	8.8	8.3	0.8	D					
53	4E-46	2	B	流紋岩26	32.3	25.3	20.4	19.3	D	a	b	s	60	
54	4E-46	5	B	チャート13	29.0	19.4	14.1	9.8	D	b			55,88,91,95,132	
55	4E-46	6	B	チャート13	27.3	23.5	7.2	5.2	D	b			54,88,91,95,132	
56	4E-46	8	B	流紋岩16	30.7	26.6	18.6	14.2	D	a	a		63,130,151	
57	4E-46	11	B	流紋岩16	12.3	11.6	10.1	1.9	D	b				
58	4E-46	12	B	流紋岩16	30.2	19.4	20.6	14.2	D	c				
59	4E-46	13	B	砂岩20	41.1	20.2	18.9	11.0	D	a	a			
60	4E-46	14	B	流紋岩26	35.4	29.6	27.0	34.3	D	a	c	s	53	
61	4E-46	15	B	安山岩1	28.2	19.4	11.1	6.1	D	a				
62	4E-46	16	B	砂岩2	41.9	30.5	23.9	29.4	D	b				
63	4E-46	17	B	流紋岩16	46.7	32.9	18.6	29.1	D	a	a		56,130,151	
64	4E-46	19	B	チャート9	43.4	37.1	36.7	65.6	B	b			78	
65	4E-46	20	B	流紋岩5	46.4	34.3	19.5	46.0	B	a	c			
66	4E-46	21	B	流紋岩6	31.4	19.8	5.9	3.2	D	c	c			
67	4E-46	23	C	チャート10	16.0	9.5	5.0	0.8	A					
68	4E-46	25	A	砂岩17	62.1	43.4	24.9	71.7	A	a		s		
69	4E-46	33	B	砂岩44	48.0	31.7	15.6	26.0	D	b				
70	4E-46	34	A	砂岩18	51.8	45.2	29.2	67.7	A	a		s		
71	4E-46	35	B	砂岩23	65.0	42.5	29.4	80.4	B	a				
72	4E-46	36	A	砂岩19	68.3	52.3	31.8	118.2	A	a				
73	4E-46	37	B	流紋岩18	38.0	37.8	21.7	23.0	D	a	b	s		
74	4E-47	3	B	砂岩1	26.7	22.8	19.6	12.5	D	a	b	s	7,13,15	
75	4E-47	5	B	流紋岩21	34.6	16.5	13.8	5.2	D	b				
76	4E-47	6	B	チャート17	17.3	15.1	9.3	2.3	D	a	c			
77	4E-47	7	A	安山岩3	20.8	13.3	9.5	2.5	A	c				
78	4E-47	8	B	チャート9	28.8	21.0	14.4	12.1	D	b			64	
79	4E-47	9	B	砂岩22	35.6	23.6	14.9	10.5	D	a				
80	4E-47	10	B	チャート15	24.3	22.7	7.4	4.3	D	a	b			
81	4E-47	11A	D	砂岩43	10.5	10.3	6.6	1.0	D					
82	4E-47	11B	B	チャート16	17.0	15.5	11.0	2.9	D	b				
83	4E-47	12	D	砂岩21	33.4	26.3	23.5	13.5	D					
84	4E-47	13	D	砂岩21	21.3	16.3	12.2	4.8	D					
85	4E-47	14	B	ハンレイ岩2	24.2	16.7	10.7	4.3	D	b				
86	4E-47	16	B	チャート14	22.0	18.0	15.8	5.8	D	a	c			
87	4E-47	18	B	流紋岩11	20.3	18.6	5.1	2.6	D	a	a			
88	4E-47	20	B	チャート13	37.1	24.7	19.1	19.8	D	b			54,55,91,95,132	
89	4E-47	21	B	砂岩21	22.0	16.5	12.0	6.0	D	c				
90	4E-47	22	B	チャート15	20.3	17.3	1.0	3.1	D	c	b			
91	4E-47	23	B	チャート13	42.1	23.5	10.7	12.7	D	b			54,55,88,91,132	
92	4E-47	24	B	砂岩28	41.9	41.0	27.8	45.3	D	b				
93	4E-47	25	B	チャート14	17.1	14.7	14.7	3.9	D	a	c			
94	4E-47	26	D	安山岩2	27.7	17.4	14.8	7.3	D					
95	4E-47	27	B	チャート13	14.9	10.5	9.5	2.3	D	b			54,55,88,91,132	
96	4E-48	1	B	流紋岩12	70.4	57.1	22.0	136.0	C	a	c			
97	4E-48	10	B	砂岩5	42.7	23.1	14.5	14.4	D	a	a		22,27,98	
98	4E-48	11	B	砂岩5	54.5	36.6	33.1	59.5	D	a	a		22,27,97	
99	4E-48	12	B	砂岩24	51.4	44.5	20.2	36.1	D	a			100	

100	4E-48	14	B	砂岩24	71.6	50.9	25.5	104.4	C	a			99	
101	4E-48	15	B	砂岩10	52.5	35.2	23.5	39.1	D	a	a	s	107	
102	4E-49	2	B	砂岩27	48.2	38.8	23.1	34.1	D	c	b			
103	4E-49	3	B	チャート22	13.8	11.8	9.8	1.3	D	c	c			
104	4E-49	4	D	砂岩32	11.5	6.1	3.9	0.2	D					
105	4E-49	5	B	チャート19	23.7	17.8	15.9	7.0	D	a	c			
106	4E-49	7	B	砂岩25	25.1	15.0	4.2	2.0	D	a	a			
107	4E-49	8	B	砂岩10	30.9	17.0	16.9	8.1	D	a	a	s	101	
108	4E-49	9	B	チャート22	24.1	20.5	14.9	9.4	D	c	c		109	
109	4E-49	10	B	チャート22	19.1	18.7	15.0	5.5	D	c	c		108	
110	4E-49	11	B	チャート24	25.3	22.0	17.3	8.3	D	c	c			
111	4E-49	12	B	チャート18	16.8	16.7	6.1	1.8	D	c	b			
112	4E-49	14	B	チャート22	33.5	33.3	12.0	13.3	D	b	b			
113	4E-49	15	B	チャート22	32.7	23.5	20.1	10.6	D	b	b			
114	4E-49	16	B	流紋岩9	38.3	26.4	21.7	22.6	D	a	a	s	43,49	
115	4E-54	2	B	砂岩36	47.3	29.3	10.0	18.6	D	b				
116	4E-54	3	B	砂岩30	64.0	56.3	45.3	205.3	B	c	b			
117	4E-54	5	C	チャート20	19.9	14.7	16.0	4.3	A					
118	4E-55	4	B	チャート21	69.5	43.7	32.4	150.5	B	a				
119	4E-55	5A	B	流紋岩28	57.8	40.3	36.8	84.9	D	a	c			
120	4E-55	5B	A	流紋岩14	61.4	34.1	34.0	84.4	A	a				
121	4E-55	9	C	砂岩29	25.2	24.2	15.8	8.5	A					
122	4E-55	14	D	砂岩31	31.0	27.7	9.1	12.6	D					
123	4E-55	15	B	安山岩5	17.0	14.4	3.5	0.9	D	c				
124	4E-55	16	B	砂岩33	24.1	14.5	3.5	1.4	D	b	b			
125	4E-55	18	B	安山岩4	64.5	39.5	38.0	73.9	D	c				
126	4E-55	19	B	砂岩21	39.2	21.9	11.3	10.1	D	b			127	
127	4E-55	20	B	砂岩21	49.8	44.6	12.6	27.5	D	b			126	
128	4E-55	21	A	流紋岩15	81.8	53.4	43.0	179.5	A	a		s		
129	4E-55	22	B	チャート23	69.4	40.8	20.8	72.0	B	c	b			
130	4E-56	1	B	流紋岩16	34.9	30.6	15.2	16.5	D	a	a		56,63,151	
131	4E-56	2	B	流紋岩17	18.4	18.3	5.2	1.9	D	b	b			
132	4E-57	5	B	チャート13	35.5	28.5	11.9	24.5	D	b			54,55,88,91,95	
133	4E-57	6	B	砂岩11	47.2	36.1	20.9	36.0	D	b				
134	4E-57	7	B	砂岩35	44.2	39.8	10.5	29.9	D	b				
135	4E-57	9	B	流紋岩19	48.9	33.6	22.0	35.3	D	c	b			
136	4E-57	10	B	チャート26	13.5	9.9	7.7	0.9	D	a				
137	4E-57	12	B	チャート27	45.1	23.2	16.1	18.5	C	c	b		139,153	
138	4E-58	1	B	チャート25	30.4	15.2	15.1	5.4	D	c	b		140	
139	4E-58	3	B	チャート27	26.3	24.8	16.5	7.4	D	c	b		137,153	
140	4E-58	4	B	チャート25	29.6	16.6	13.8	8.3	D	c	b		138	
141	4E-58	7	B	チャート29	41.8	23.6	17.0	16.5	D	a				
142	4E-58	9	B	安山岩6	26.5	18.6	8.2	3.0	D	b	b			
143	4E-58	10	B	安山岩6	41.6	40.0	25.6	26.3	D	a	c			
144	4E-58	12B	B	チャート28	25.6	14.9	8.5	3.3	D	b	c			
145	4E-58	13	B	ハンレイ岩3	28.0	20.1	18.8	13.9	D	b			155,156	
146	4E-58	14	B	流紋岩20	29.3	24.4	9.5	6.5	D	c	c			
147	4E-58	15	B	チャート25	21.9	13.5	6.2	1.9	D	c				
148	4E-58	16	B	石英斑岩1	33.4	37.1	21.1	25.8	D	c	c			
149	4E-58	17	B	安山岩6	31.6	21.2	14.4	6.7	D	b	c			
150	4E-58	18	B	チャート30	37.7	26.4	11.7	13.7	D	b	b			

151	4E-58	19	B	流紋岩16	38.7	34.1	32.8	23.5	D	a	a		56,63,130	
152	4E-58	20	B	砂岩36	64.4	45.2	28.9	58.5	D	a	c			
153	4E-58	21	B	チャート27	47.3	20.1	24.3	33.1	C	c	b		137,139	
154	4E-58	24	B	流紋岩27	51.1	14.4	7.4	4.8	D	c	c			
155	4E-58	26	B	ハンレイ岩3	25.9	25.5	17.8	20.3	D	b			145,156	
156	4E-58	30	B	ハンレイ岩3	15.2	10.7	8.6	1.6	D	b			145,155	
157	4E-58	31	B	安山岩6	49.9	44.7	24.9	42.3	D	a	c			
158	4E-68	4	B	流紋岩22	27.6	15.4	5.2	1.7	D	c	c			
159	4F-30	1	B	砂岩28	31.3	31.1	23.9	20.6	D		b			
160	4F-40	2	B	砂岩39	59.5	32.7	31.2	64.1	D	c	b		174,175	
161	4F-40	3	B	チャート31	13.1	11.8	7.8	1.3	D		b		162,173,179	
162	4F-40	5	B	チャート31	56.0	29.3	26.4	48.1	D	a	a		161,173,179	
163	4F-40	6	B	チャート31	16.5	13.3	5.0	0.9	D	c				
164	4F-40	14	B	チャート31	33.7	24.5	17.2	18.5	D	a	b			
165	4F-40	16	B	砂岩38	50.5	26.3	21.6	25.2	D	a	a		168	
166	4F-40	17	B	砂岩38	24.1	20.1	6.8	3.7	D	b				
167	4F-40	18	B	チャート32	45.9	38.4	21.6	36.0	D	a	a		177	
168	4F-40	19	B	砂岩38	61.2	57.2	27.6	112.5	D	a	a		165	
169	4F-40	20	B	砂岩42	39.2	34.9	25.0	39.6	D		a			
170	4F-40	21	B	砂岩42	28.6	17.4	10.6	4.1	D		b		176	
171	4F-40	22	B	砂岩42	49.7	41.7	23.5	35.2	D		c			
172	4F-40	25	B	砂岩37	12.5	10.3	6.5	0.7	D	b	c			
173	4F-40	27	B	チャート31	26.6	24.1	19.2	12.6	D	c	b		161,162,179	
174	4F-40	28	B	砂岩39	36.4	33.5	29.0	29.9	D	c	b		160,175	
175	4F-40	29	B	砂岩39	39.8	30.1	15.4	23.5	D	a	a		160,174	
176	4F-40	30	B	砂岩42	45.9	30.2	11.9	14.2	D		b		170	
177	4F-40	31	B	チャート32	37.3	29.2	21.7	23.7	D	a	a		167	
178	4F-40	33	D	砂岩38	9.2	8.3	6.7	0.4	D					
179	4F-40	34	B	チャート31	31.1	24.5	25.1	13.3	D	a	a		161,162,173	
180	4F-41	7	B	チャート33	25.3	21.0	24.5	12.0	D	a	a		181,183,184	
181	4F-41	8	B	チャート33	24.5	39.9	18.1	22.8	D	a	a		180,183,184	
182	4F-41	9	B	チャート33	29.6	25.1	17.5	12.8	D	a	a		188	
183	4F-41	10	B	チャート33	28.4	23.1	21.6	13.6	D	a	a		180,181,184	
184	4F-41	11	B	チャート33	42.3	37.9	25.1	42.0	D	a	a		180,181,183	
185	4F-41	12	B	流紋岩23	56.2	39.5	35.2	70.8	B	a	b			
186	4F-41	13	B	流紋岩25	55.6	51.4	20.2	71.8	D	a	a	s	193	
187	4F-41	14	B	チャート33	30.7	19.4	11.4	8.0	D	a	a			
188	4F-41	15	B	チャート33	44.3	30.8	19.1	22.8	D	a	a		182	
189	4F-50	2	B	安山岩6	49.1	37.4	24.6	47.6	D	b	c			
190	4F-50	3	B	流紋岩24	50.1	46.5	28.2	51.9	D	c	b			
191	4F-51	3	B	砂岩41	22.4	14.0	9.2	3.2	B	b	b			
192	4F-51	2	A	砂岩40	77.5	49.7	18.9	103.3	A	a		s		
193	4F-51	4	B	流紋岩25	43.2	41.9	10.7	27.9	D	a	a	s	186	

第3章 縄文時代及び古墳時代以降

第1節 遺構・遺物

1. 概要

検出した遺構は、縄文時代に作られたと思われる陥穴2基、奈良時代の竪穴住居跡1軒、古墳時代以降の土坑5基である。陥穴と土坑については出土遺物がまったく無いため、詳細な時期を特定することができない。

陥穴と土坑は平成5年度調査区の北側に散在的に位置する（第48図・49図）。遺構の分布は薄いですが、陥穴の検出は調査区外北東方向に小さな谷がある立地と関係すると思われる。土坑001・003・004は覆土に炭化物・焼土粒を含む共通性がある。また、001と004は中央部が窪む点も共通する。なお土坑001は調査区内での位置が不明で、全体図に位置を図示できなかった。

竪穴住居跡は平成8年度調査区の中央にある（第48図・50図）。周囲に他の遺構はみられず、竪穴住居1軒のみの分布である。確認調査区外に他の竪穴住居跡が存在する可能性も考えられるが、非常に薄い分布密度であることは確実である。

平成5年度調査区は中央部で標高50mの平坦面が広がるが、平成8年度調査区は北東から南西方向に傾斜していき、調査区外南方には作田川から延びた小支谷が存在する。調査区は板附古墳群に近い位置であるが、古墳時代後期の遺構は検出されなかった。

2. 陥穴（第68図，図版38）

006 平面形は長楕円形というよりは、ほとんど溝状で、長軸方位はN-48°-Eである。上面の規模は長軸3.0m、短軸0.35mで、検出面からの深さは0.6～0.8m、底部の規模は長軸2.7m、短軸0.2mである。覆土は全体的に黄褐色土層で、上層はローム粒主体、下層はロームブロック主体、中層はその中間である。

007 平面形は006と同じくほとんど溝状で、長軸方位はN-7°-Eである。上面の規模は長軸3.25m、短軸0.45mで、検出面からの深さは0.9～1.0m、底部の規模は長軸3.3m、短軸0.15mである。両端部の底面は上面よりもわずかにえぐれている。覆土は全体的に黄褐色土層で、上層はローム粒主体、中下層はロームブロック主体である。中層の方が下層よりもロームブロックの径が大きい。

3. 土坑（第67図・68図，図版38・39）

001 平面形は長方形である。上面の規模は長軸1.97m、短軸1.65mである。検出面から底部までの深さは0.24～0.45mで、底部中央が不整形にやや窪んでいる。底部の規模は長軸1.75m、短軸1.4mである。中央部に若干の炭化材がみられる。覆土は全体的に暗褐色土層（1～5・8層）であるが、炭化粒・焼土粒を若干含み、特に5層は炭化材もやや目立ち、最下層の8層は熱を受けたローム粒を含む。6層はローム主体の土層、7層は焼土をやや多く含む層である。

002 平面形はやや不整の楕円形である。上面の規模は2.2～2.9m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。底部の規模は1.55～2.2mである。覆土は暗褐色土層で、上層はローム粒、下層はローム粒・ロームブロックを含む。

003 平面形はやや隅の丸い方形である。上面の規模は1.45m×1.5m、検出面からの深さ0.25～0.3m、底部の規模は1.15m×1.15mである。長軸方向はN-36°-Eである。覆土は暗褐色土層であるが、中層がやや暗い色調である。全体に若干の炭化粒・炭化材・焼土粒を含む。

004 平面形はやや隅が丸く、片側がふくらんだ方形である。上面の規模は1.75m×1.65m、検出面からの深さ0.85m、底部の規模は一辺が1.4mである。図示していないが、中央部がややくぼんでおり、001と共通する。長軸方向はN-6°-Eである。覆土は上2層が暗黄褐色土層、下4層が暗褐色土層で、全体的にローム粒・小ロームブロックを含む。最下層は炭化粒・焼土粒を含む。

005 平面形は楕円形で、長軸方位はN-85°-Eである。上面の規模は長軸1.9m、短軸1.2m、検出面からの深さは0.65～0.75mである。底面は丸みがあり下端が明瞭でないが、規模は長軸0.9m、短軸0.75mである。

4. 縄文土器 (第69図, 図版45)

縄文時代の遺物は少量の縄文土器片で、うち5点を図示した。すべてが遺構外出土の遺物である。

縄文土器はすべて加曾利B式のものである。

1は斜縄文、沈線の施文されたもので、口唇部が角頭をなしている。加曾利B1式の東関東的なものであろうか。

2は平縁で内湾気味をなし、擬縄沈線と斜縄文が施文されている。加曾利B3式のものであろう。

3は頸部付近のもので、沈線と斜縄文による帯縄文が施文されている。加曾利B2式で、おそらく3単位の波状口縁になるとみられる。

4は波状口縁になる。太沈線で、口縁無文帯を区切り、以下に細かい斜条線文が施文される。

5は弧線区画に斜縄文が充填される胴部で、加曾利B3式以降のものであろう。

5. 竪穴住居跡

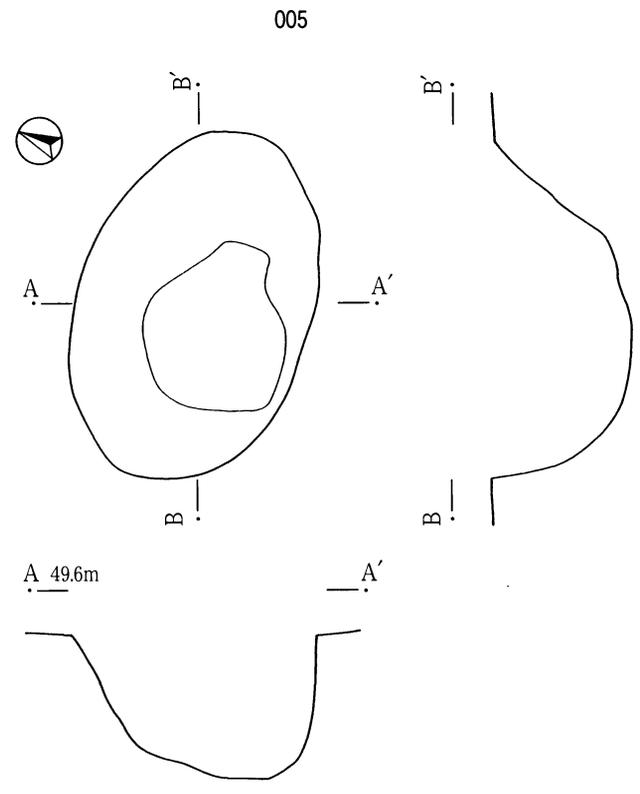
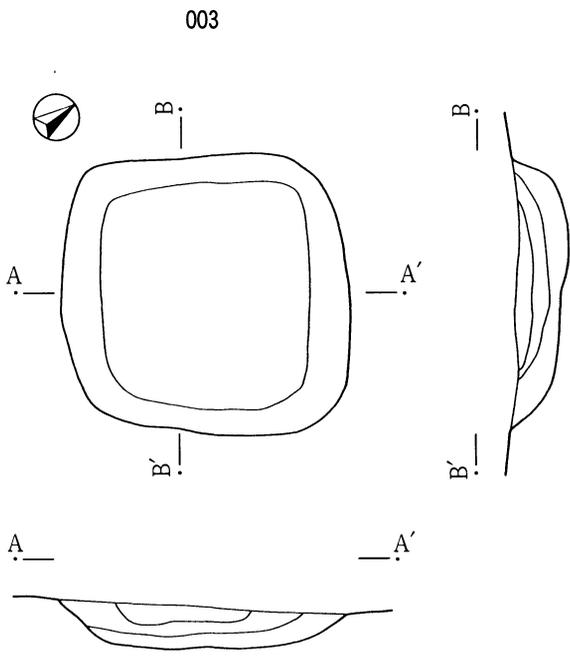
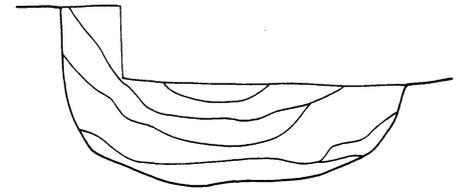
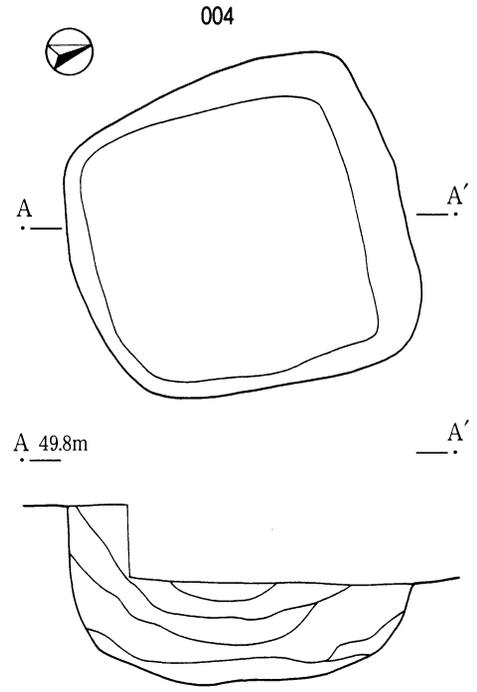
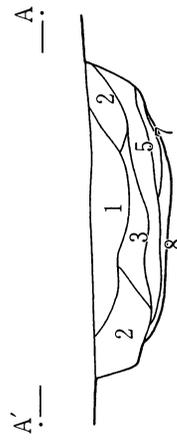
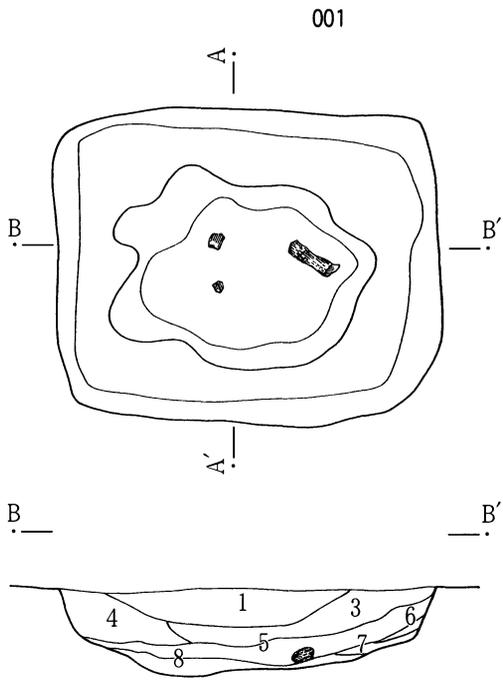
008 (第70図, 図版40・46)

平面形は方形である。規模は主軸4.0m×副軸3.85m、検出面からの深さは25cm～30cmである。主軸方向(出入口ピットからカマドに向かう方向)はN-10°-wである。壁溝は全周する。主柱穴は4本で、西側の柱穴がやや中央に寄っている。深さはP1が25cm、P2が23cm、P3が29cm、P4が28cmである。床面積は14.0m²(壁直下間)、柱穴間面積は3.74m²である。出入口ピットは南壁際中央にある。深さは36cmである。両脇に深さが3cm～5cm前後の床溝があるが、出入口施設に伴うものであろう。床面はほぼ平坦で、全体が硬化している。

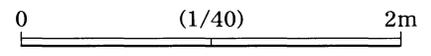
カマドは北壁中央に位置し、煙道部はかなり壁から突出している。火床部は火熱により赤色化している。袖部は山砂主体の土で構築され、内壁が赤色化している。掛け口から奥も構築材の山砂が遺存するが、煙道部は明瞭でない。

覆土はカマド部分を除いて、基本的に3層に分かれ、上層が黒色土層、中層が暗褐色土層、下層が褐色土層である。下層になるほど、ローム粒・ブロックの含有が多い。自然推積。

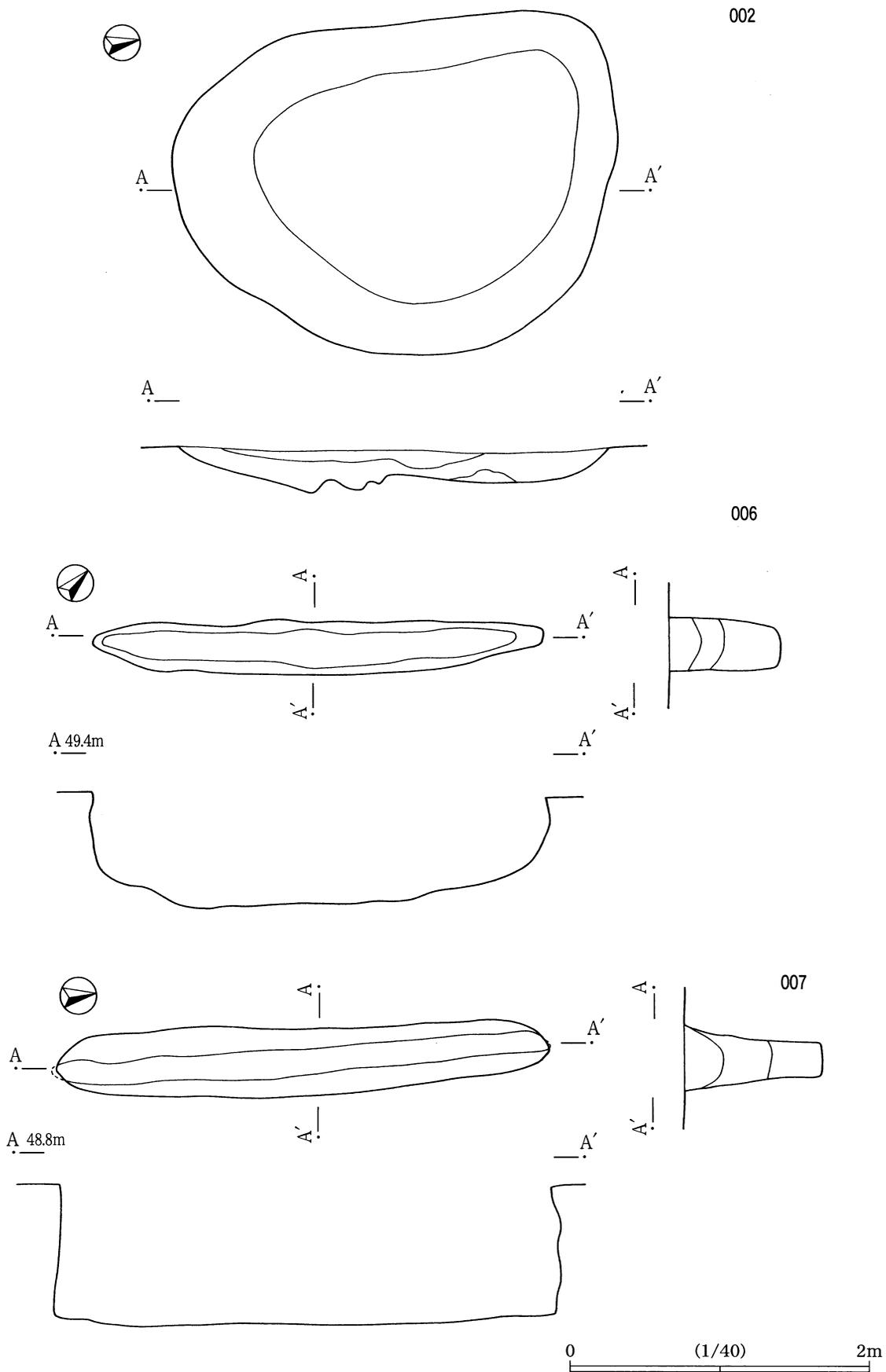
層が褐色土層である。下層になるほど、ローム粒・ブロックの含有が多い。



A 49.6m



第67図 土坑等(1)



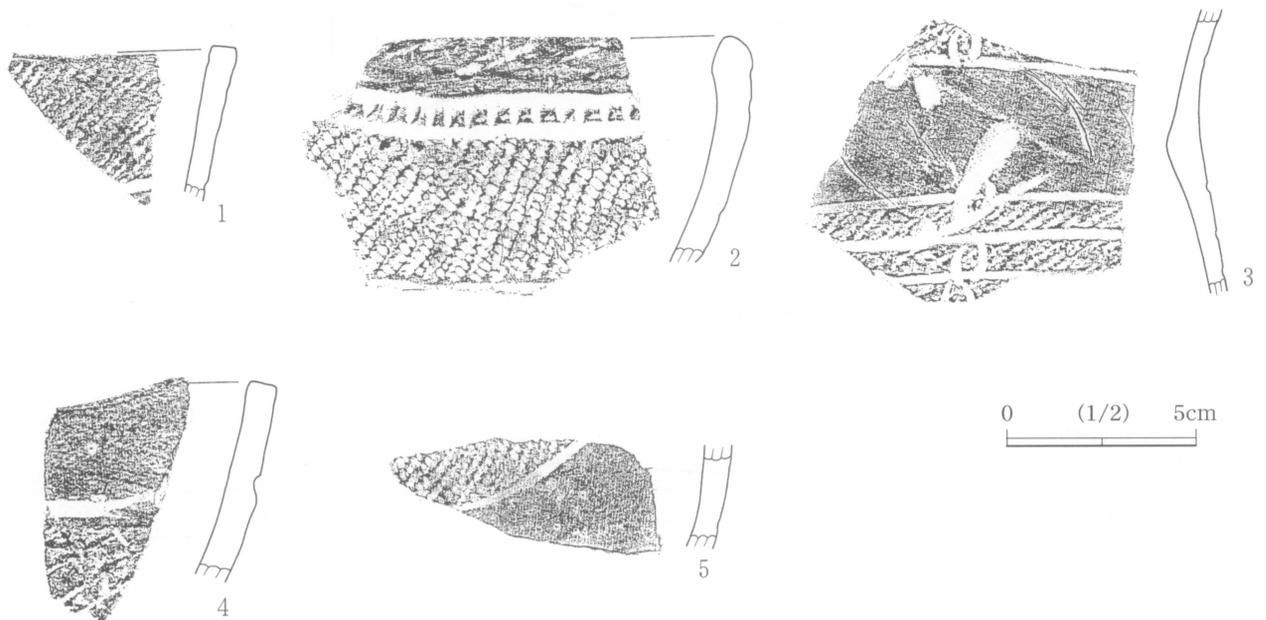
第68図 土抗等(2)

遺物 遺物はやや少量の出土である。図示した遺物は土師器高台杯、甕、軽石で、カマドの前方や脇からの出土が多い。高さは中層から上層にかけての出土が多く、床面に接したものはない。

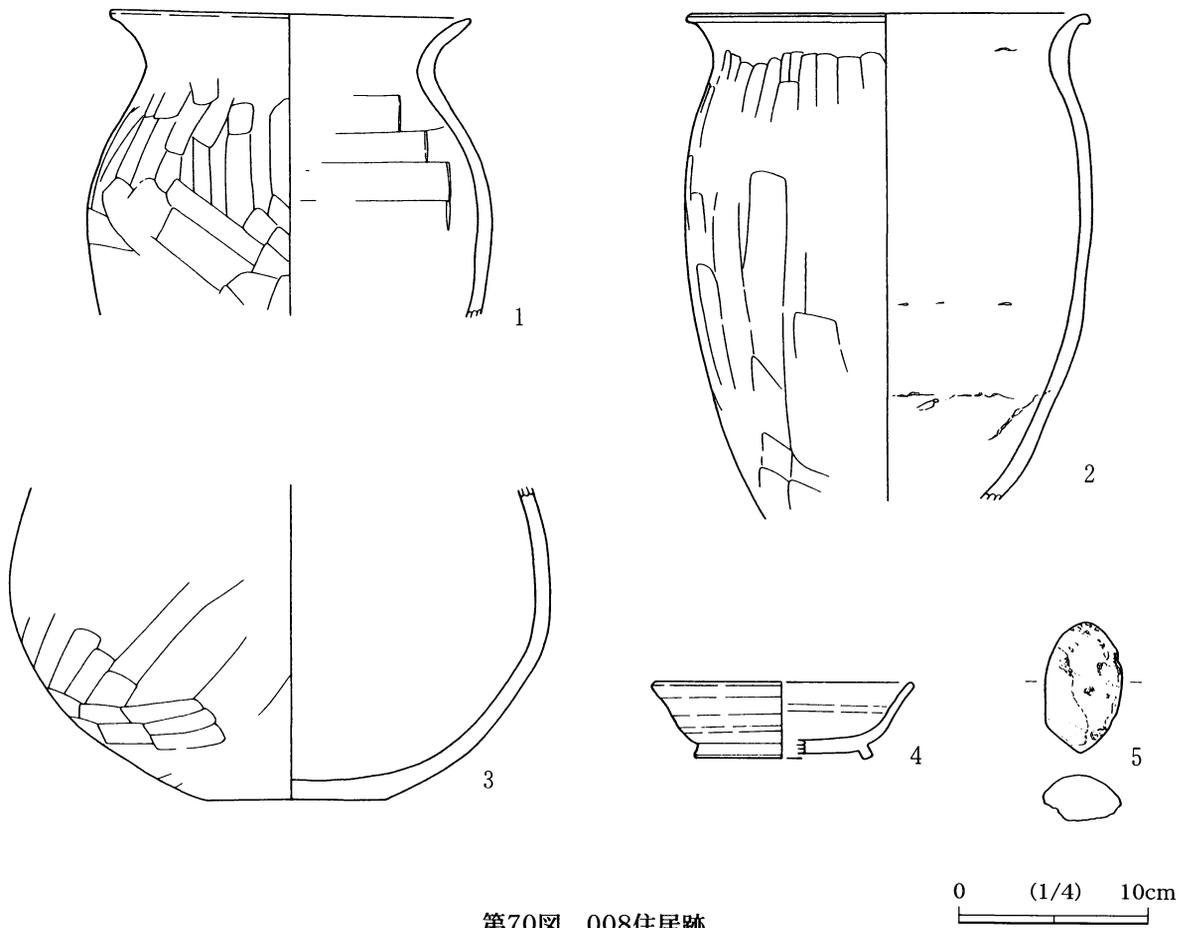
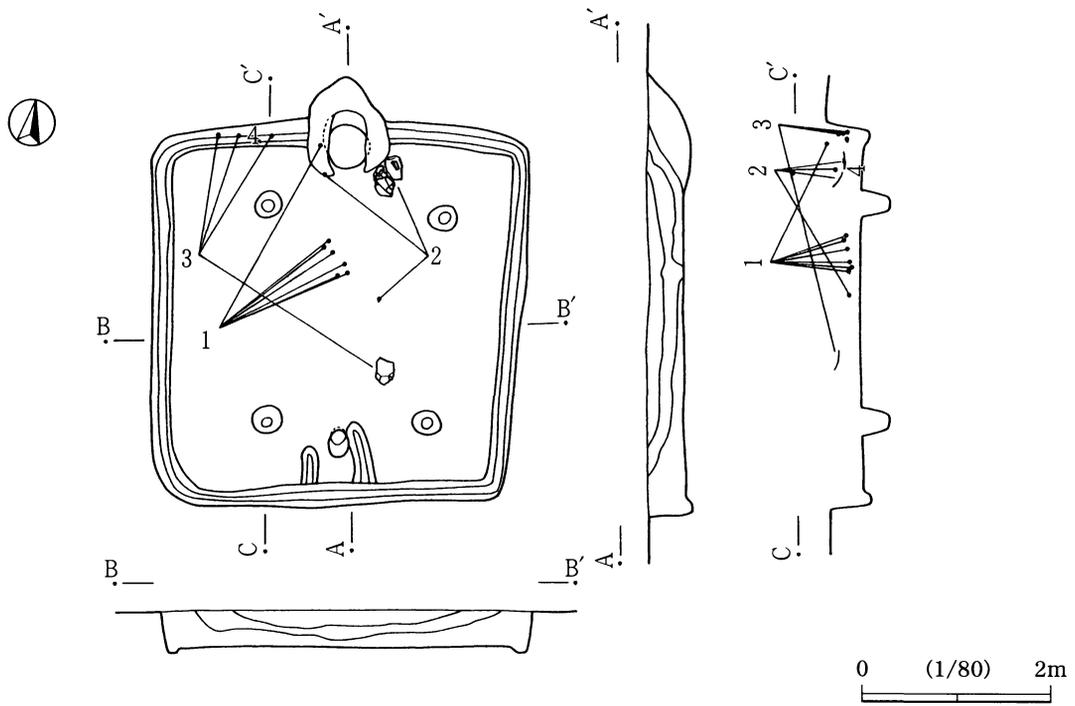
1～3は土師器甕である。1は胴部中位以下の多くと底部を欠くが、口縁部は比較的遺存が良い。全体で30%程度の遺存である。口径18.6cm、胴部最大径は推定21cm、現存高16cmである。色調は淡褐色・褐色で、胎土は・黒色粒・白色粒・雲母を含む。焼成は良好である。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。なお、口縁部の内外面はヨコナデが施されるが、これは通常どの器種にも施されるものであるので、特別な場合を除いて記述を省略する。2は70%の遺存である。胴部中位の一部から底部にかけてを欠くが、他は残りが良い。口径20.8cm、現存高26.5cmである。色調は褐色で、胎土は白色粒・黒色粒・褐色粒・雲母・小石を含む。焼成はややあまい。外面はヘラケズリ、内面はナデが施される。使用により内面の器表面は全面的に剥落している。

4は土師器高台杯である。30%程度の遺存である。口径は推定13.7cm、底径は高台の外側で推定9.3cm、器高は、4.0cmである。色調は赤褐色・黒褐色で、黒ずむ部分が多い。胎土は白色粒・小石を含む。焼成は良好である。底部外面は回転ヘラケズリが施される。切り離し技法は不明である。

5は軽石で、完形である。長さが6.8cm、幅が3.9cm。厚さが2.5cmである。重さは10.5gである。



第69図 縄文土器



第70図 008住居跡

第4章 まとめ

第1節 旧石器時代

旧石器時代の石器集中地点は1地点検出した。

石器集中1は傾斜地形上に石器群は分布する。調査区の端に当たる。出土層位は、Ⅶ層～Ⅱc層と大きな幅がある。分布範囲は南北24m、東西28mに広がる。さらに複数の石器集中に分かれるが、分離は容易ではなかったため便宜上1つの集中とした。出土石器は、ナイフ形石器9点、搔器4点、削器?1点、剥片11点、石核2点、敲石?1点、叩石1点、UR剥片51点、碎片31点の合計111点である。

本遺跡からは石器集中に伴い、礫群が確認された。分布範囲は南北24m、東西28mを測り、石器集中1と分布が重複する。礫群についてもさらに複数の集中部に分かれるが明確に分離することができなかったため、便宜上1つの礫群とした。

第2節 縄文時代以降

縄文時代

縄文時代と思われる遺構は陥穴2基である。ただし、どちらからも遺物が出土しなかったため、詳細な時期を特定することができない。陥穴は台地北側に位置するが、そこから北東方向に小さな谷がある。

出土遺物は少量の土器片で、すべて遺構外出土遺物である。土器片5点を図示したが、すべて後期中葉加曽利B式土器である。

弥生時代～古墳時代

遺構・遺物とも検出されなかった。

奈良時代

検出された遺構は竪穴住居跡1軒（遺構番号008）である。出土遺物から推定される時期は、8世紀後葉である。竪穴住居はやや規模が小さく、構造はカマド・4本柱・出入口ピットを有し、貯蔵穴をもたない。遺物の出土は、カマドの前方や脇からの出土が目立つが、高さは中層の出土が多く、床面に接したものはない。遺物は土師器高台杯・甕、軽石である。

周囲に他の竪穴住居跡は検出されなかった。

古墳時代以降

土坑5基を検出した。遺物を出土した土坑が一つもなく、詳細な時期を特定できないが、古墳時代後期以降と思われる。土坑4基は台地北側に散在的に位置し、もう1基は位置の特定ができないが、同様に台地北側に位置すると思われる。土坑のうち、3基は覆土に炭化物・焼土粒を含み、その3基のうち2基は底面中央部が窪むなど共通点が多く、同じ性格の遺構であることが考えられる。

第3節 遺跡の情景

九十九里浜は延長約60kmに及ぶ砂浜の海岸線です。この海岸線は太平洋の海流や風の作用によって砂が堆積したもので、海岸に沿って幅6～8kmの平野となっています。この平野にはいくつかの小川が流れていますが、それらの川は平野の西側にある台地の奥に源があります。

大長作遺跡、駄ノ塚遺跡もこれらの小川の一つである作田川とその支流をのぞむ台地の上にあります。東金から松尾へ向かって千葉東金道路を走り、成東・山武インターチェンジを過ぎたあたりが駄ノ塚遺跡です。さらにしばらく行くと、中央分離帯が杉並木のようになっているところへさしかかります。そこが大長作遺跡です。山武地域の特産である山武杉をイメージした中央分離帯で、発掘調査を行う時も杉並木を上手に残せるように工夫しました。

大長作遺跡と駄ノ塚遺跡は旧石器時代から江戸時代までのあいだに、たびたび人々が訪れ、そこで生活をしたり狩りをしたり、また、時には墓として利用してきました。

旧石器時代は今から1万年以上も前の時代で、大長作遺跡では8か所で石器の集中する場所が発見されました。しかし、これらは同じ時に人々が生活したのではなく、最も古い第VI文化層（約3万年前）と第I文化層（約1万年前）とでは約2万年もの開きがあります。石器が集中する場所は、直径数メートルの範囲にまとまり、石器の数は少ないものの、長い年月のあいだに時々人々が訪れて生活をしたことがわかります。一方、駄ノ塚遺跡では石器の集中する場所は1カ所しか発見されませんでした。その範囲は直径20mをこえる広いもので、ちょっと見たところ大勢の人々が暮らしていたようにも思えるほどです。しかし、細かく観察するといくつかの小さな石器のまとまりがあることがわかります。ただ、石器のまとまりや石器の観察からは詳しいことまでわかりませんでした。遺物には、道具として使った石器やその破片と拳大の丸みをもった石（礫）があります。礫は割れたものが多く、なかには焼けたものもあります。焼けた礫は調理に使ったとも考えられ、石器を作った時と調理をした時は別々だったと考えられます。たぶん駄ノ塚遺跡は、人々がたびたび訪れて生活した場所だったのではないのでしょうか。

縄文時代の大長作遺跡から陥穴が見つっています。これは獣を捕まえるためのワナで、幅がせまく、深く掘られているのが特徴です。この穴にはまった動物は、狭い穴に足をとられ、穴からはい出すことができなくなりました。この遺跡は当時の人々が暮らす場所ではなく、獣を捕る場所だったのです。

古墳時代になると、大長作遺跡に古墳が作られます。今回の調査では4基の円墳が見つかりました。古墳は墓として作られたものですが、残念なことに古墳が作られてからの1,400年の間に古墳の盛り土は削り取られ、遺骸を納めた場所はなくなり、丸く巡った溝だけが残されていました。それぞれの古墳の大きさは、直径10～15mと小さく、あまり大きな権力をもった人でもないように思われます。時代は6世紀、ちょうどこのころから小さな古墳がたくさん作られるようになり、その地域を治めていた強大な権力者ばかりでなく、より小さな集団の長までもが古墳を作るようになったのです。

奈良時代から平安時代にかけて、上総国も下総国も今までにない開発の波が押し寄せました。これまであまり人が住んでいなかった広大な土地を開墾して、大きなむらが開かれていったのです。しかし、大長作遺跡も駄ノ塚遺跡も、台地の上の平らなところは狭く、大きなむらを作るのには適した場所ではありませんでした。大長作遺跡では8世紀の初めころの竪穴住居跡が2軒、駄ノ塚遺跡では8世紀終わりごろの竪穴住居跡が1軒発見されただけでした。

大長作遺跡は江戸時代になり再び利用されています。信仰の対象であった塚といくつかの穴が見つかった

ています。塚には信仰の対象として建てられた庚申塔や青面金剛という石塔が残されていましたが、これの石塔は協議をして工事にかからない場所へ移してあります。いくつか見つかった穴のなかでは、SK022から寛永通宝が出土しました。寛永通宝は寛永3年（1626）から作られ始めた錢ですが、この土坑のなかには宝永4年（1707）に噴火した富士山の火山灰も積もっていました。穴の深さは2mほどありますが、寛永通宝と火山灰は底から1mほど上に積もっていて、宝永4年にはまだ穴が完全に埋まっていなかったことがわかります。同じように寛永通宝も「新寛永」と呼ばれるもので、寛文8年（1668）以降に作られたものであることから、火山灰と寛永通宝の年代に矛盾が生じないことがわかります。

このように大長作遺跡、駄ノ塚遺跡には3万年ものあいだの人々の歴史が刻まれていました。そして今、高速道路という新しい歴史が刻まれることとなります。土地に刻まれた歴史は、人々の行動を直接反映したものとして残されていきますが、それらは断片的であったり、部分的であったりしてなかなか全体を理解することが難しいものです。また、新しい歴史を刻むことによって、それまでに刻まれた歴史を失ってしまうことが避けられないこともあります。今回の発掘調査で得られた成果は、人々の行動のごく一部でしかありませんが、その一つ一つの積み重ねで歴史の解明が進んでいくものと思います。

写真図版



大長作遺跡



遺跡近景（本線下り）
北東から



遺跡近景（北側側道）
北東から



第Ⅱ文化層 石器集中1
出土状況 北東から

大長作遺跡

第Ⅱ文化層 石器集中1
出土状況 西から



第Ⅱ文化層 石器集中2
第Ⅴ文化層 石器集中1
出土状況 北東から



第Ⅲ文化層 石器集中1
出土状況





第Ⅲ文化層 石器集中1
出土状況 東から



第Ⅳ文化層 石器集中1
出土状況 東から



第Ⅳ文化層 石器集中2
土層断面



第IV文化層 石器集中2
西から



第V文化層 石器集中1
出土状況 北東から



第VI文化層
西から



SK011 全景
南から



SK016 全景
南東から



SK017 全景
南から

SK019 全景
南から



SK020 全景
東から

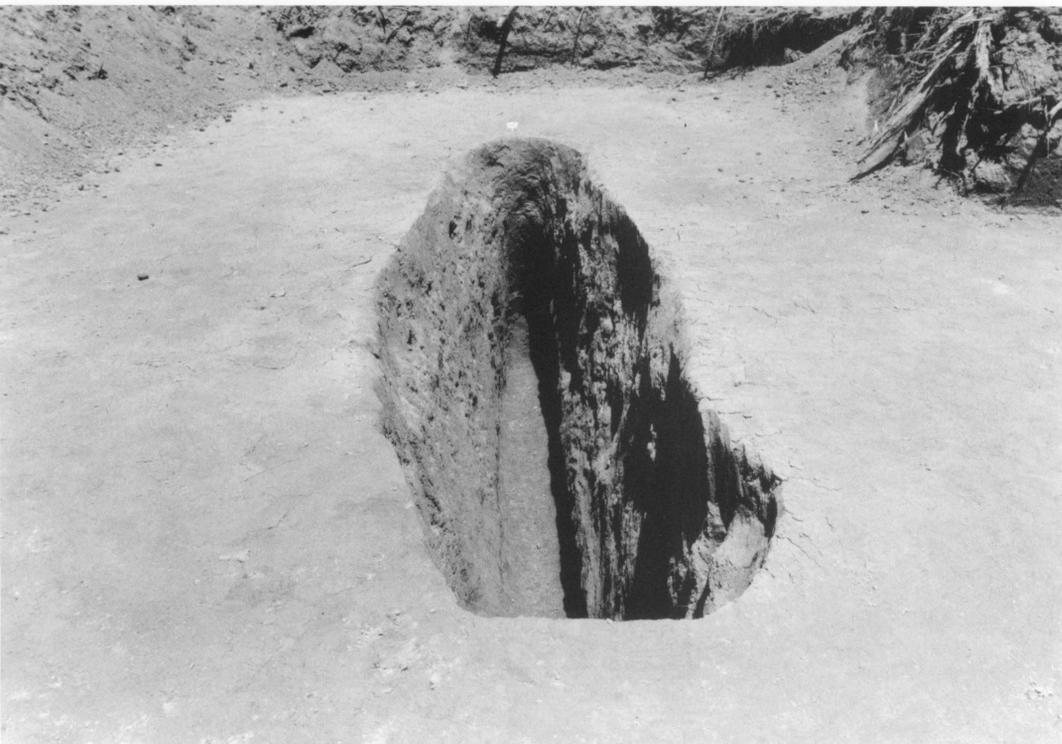


SK023 全景
全景





SK024 全景
南東から



SK025 全景
南から

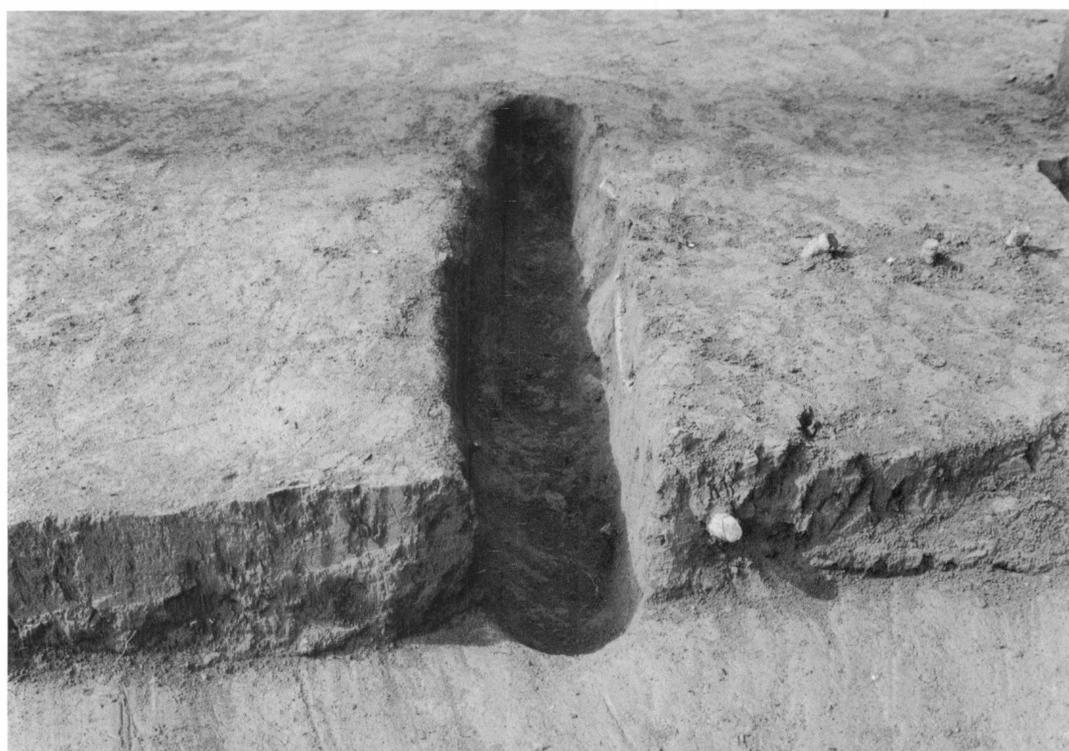


SK026 全景
全景

SK027 全景
南から



SK028 全景
北東から



SK030 全景
南東から





SK032 全景



SM001 検出状況



SM001 全景
西から

大長作遺跡

SM001 全景
南から



SM001 全景
西から



SM001 遺物出土状況
南から





S M002 全景
南西から



S M002 周溝土層堆積状況
南東から



S M002 周溝土層堆積状況
南東から

SM002
周溝内遺物出土状況
南から



SM002(奥)
SM003(前) 全景
南から



SM003 全景
南西から





S M003 全景
北西から



S M003 周溝土層堆積状況
南西から



S M003 周溝内遺物出土状況
西から
1(右)
2(左)

SM003
周溝内遺物出土状況
南西から
3



SM004 全景
南東から



SM004
周溝土層堆積状況
南東から





S M004 周溝土層堆積状況
南東から



S I 005 全景
南から



S I 005 カマド検出状況
西から



S I 005 カマド全景
南から



S I 005 カマド掘方
南から



S I 010 全景
東から



S I 010 全景
南東から



S I 010 カマド検出状況



S I 010 カマド全景
南から

S D009 全景
北東から



S D009 近景
南西部分



S D009 全景
西から





S D009 全景
東から



S M006・S M007・S M008
調査前状況
西から



S M006(奥)
S M007(中)
S M008(前) 全景
南から

SM006 調査前状況



SM006 土層断面



SM007 調査前状況
西から





S M007 土層断面
S P A'-B'
南から



S M008 調査前状況
西から



S M008 土層断面
東から

S M006 石塔



S M006
石塔移設後状況



S K022 遺物出土状況
西から





SK022 全景
南から



SK022 全景
南から



SK012 全景
南東から

SK013 全景
南東から



SK018 全景
東から



SK021 全景
南から





S D015 全景



S D015 全景
西から



S D029 全景
南から

SD029 全景
北から

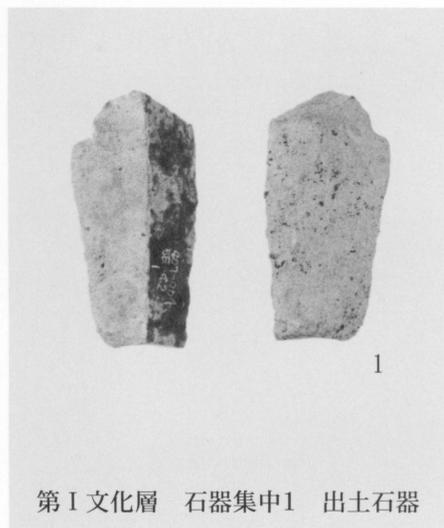


SK014 全景

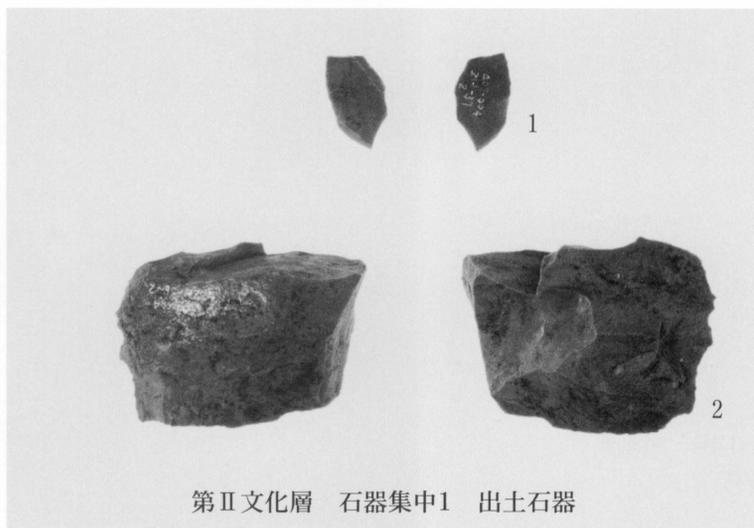


SK031 全景

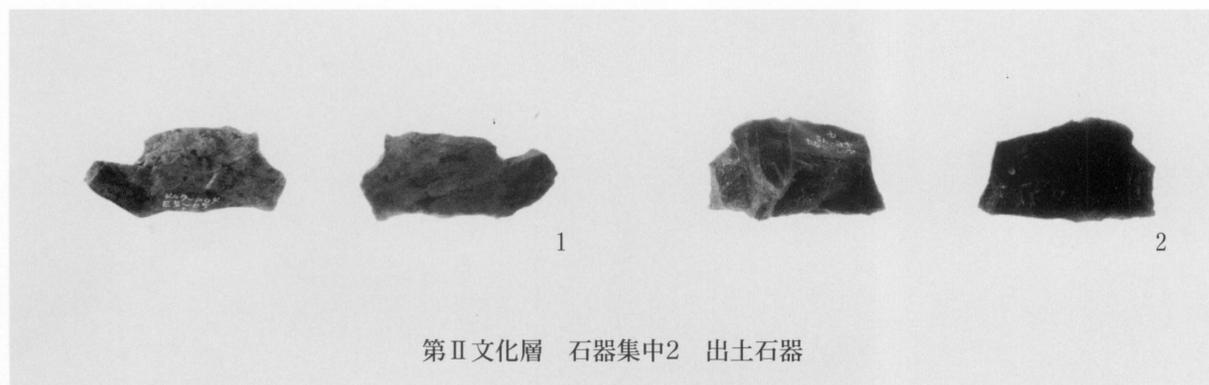




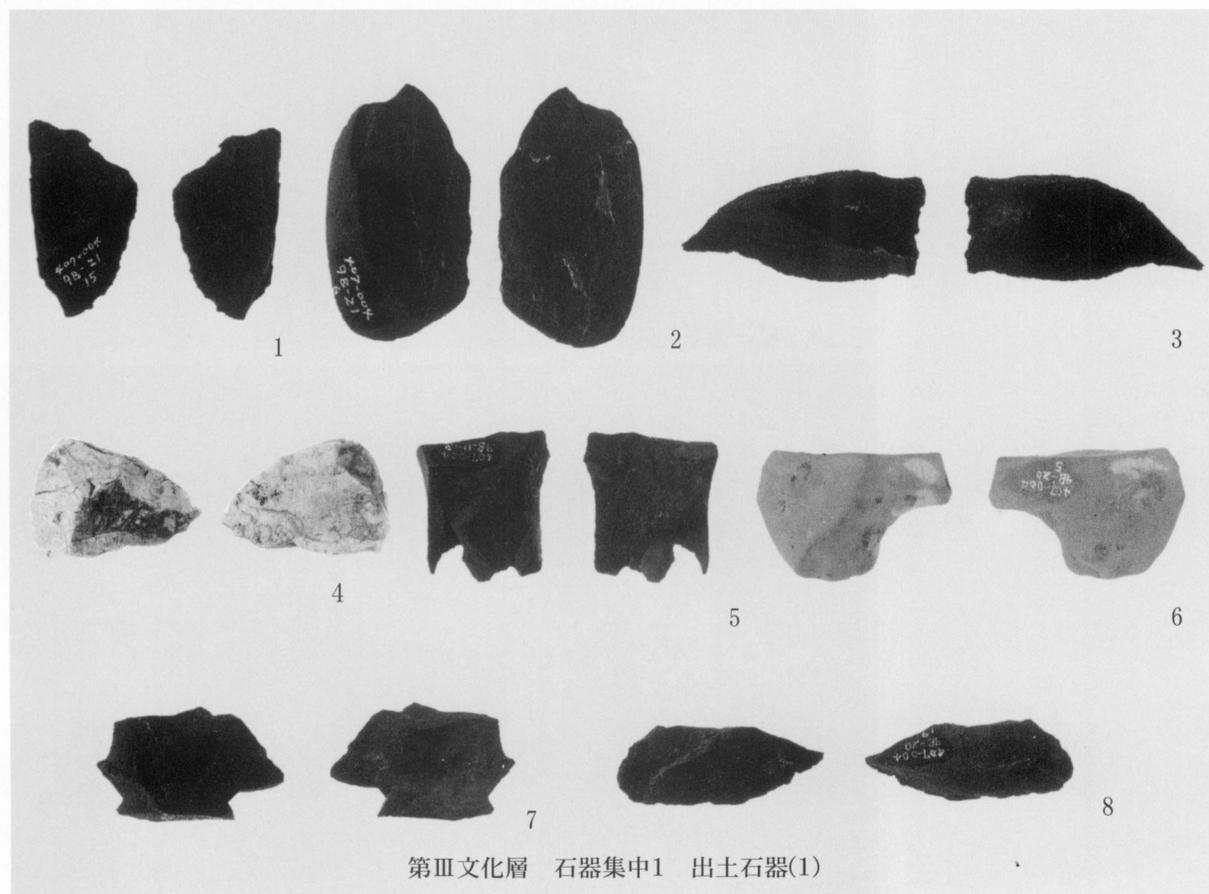
第Ⅰ文化層 石器集中1 出土石器



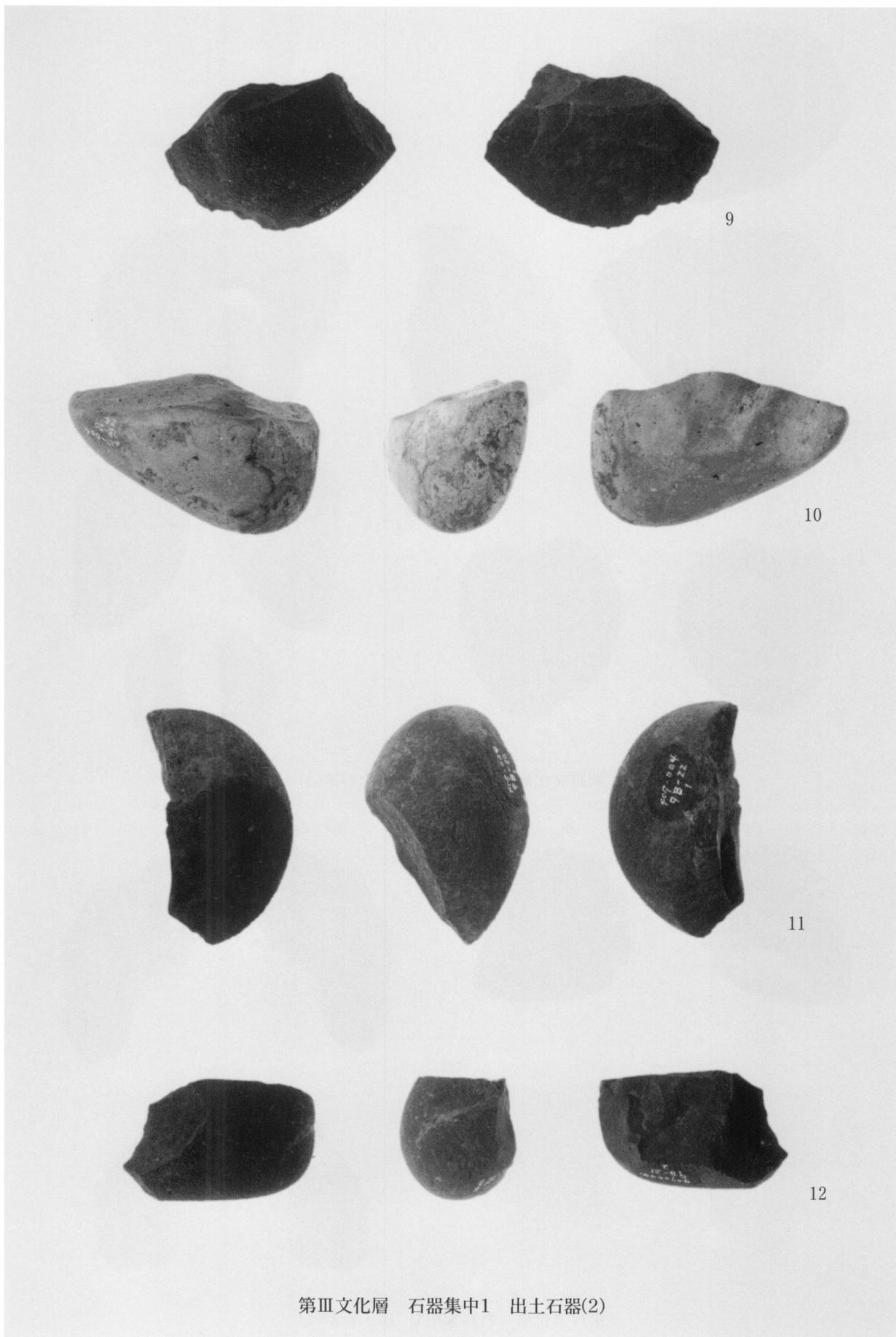
第Ⅱ文化層 石器集中1 出土石器



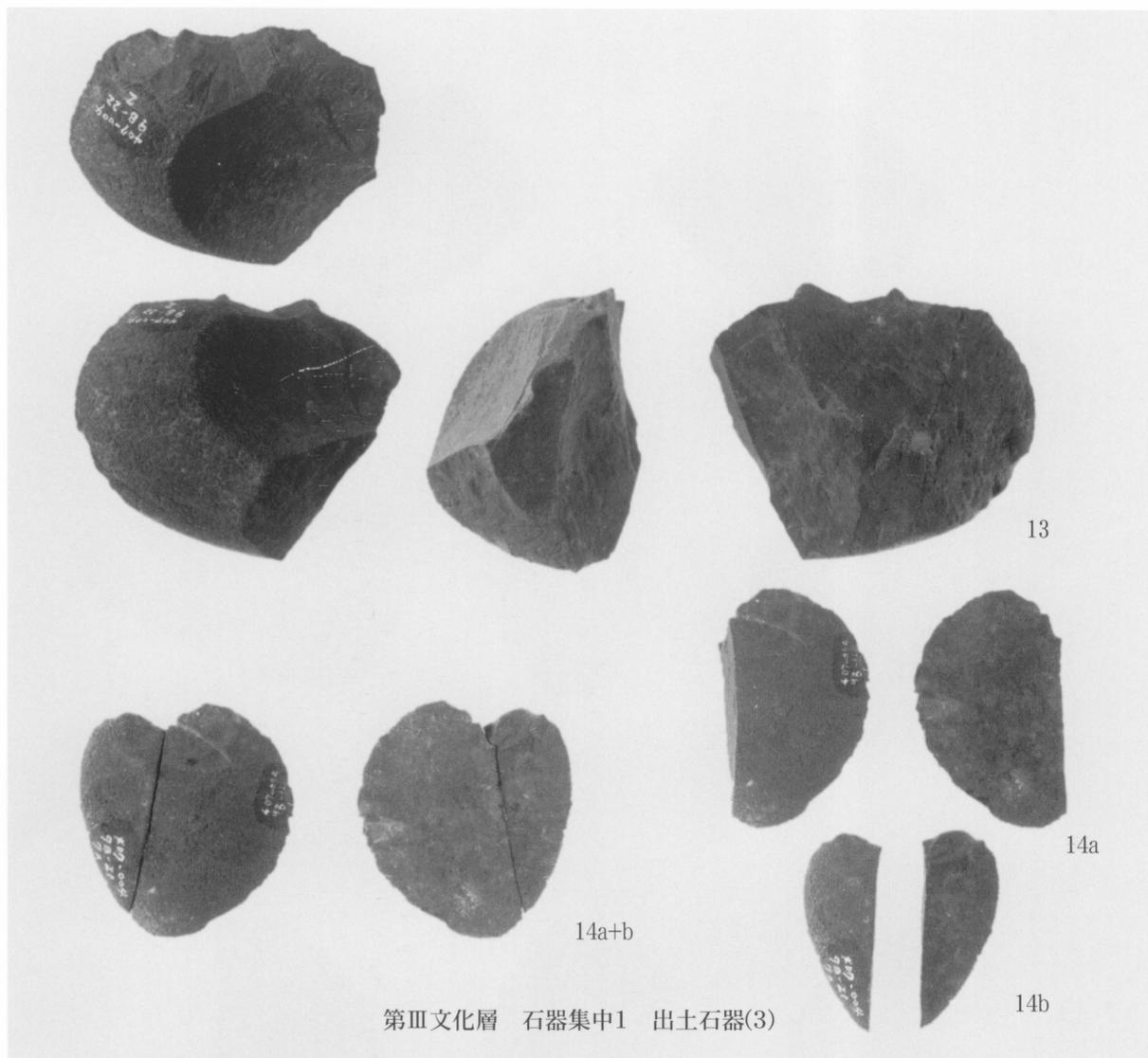
第Ⅱ文化層 石器集中2 出土石器



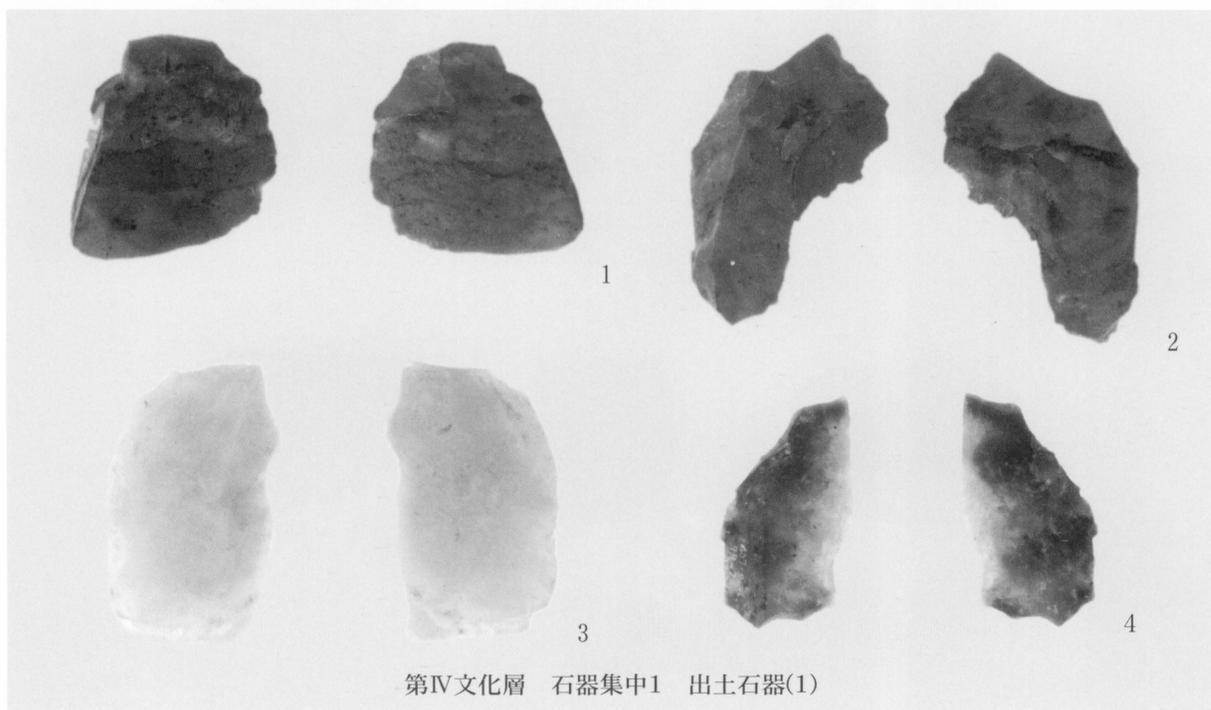
第Ⅲ文化層 石器集中1 出土石器(1)



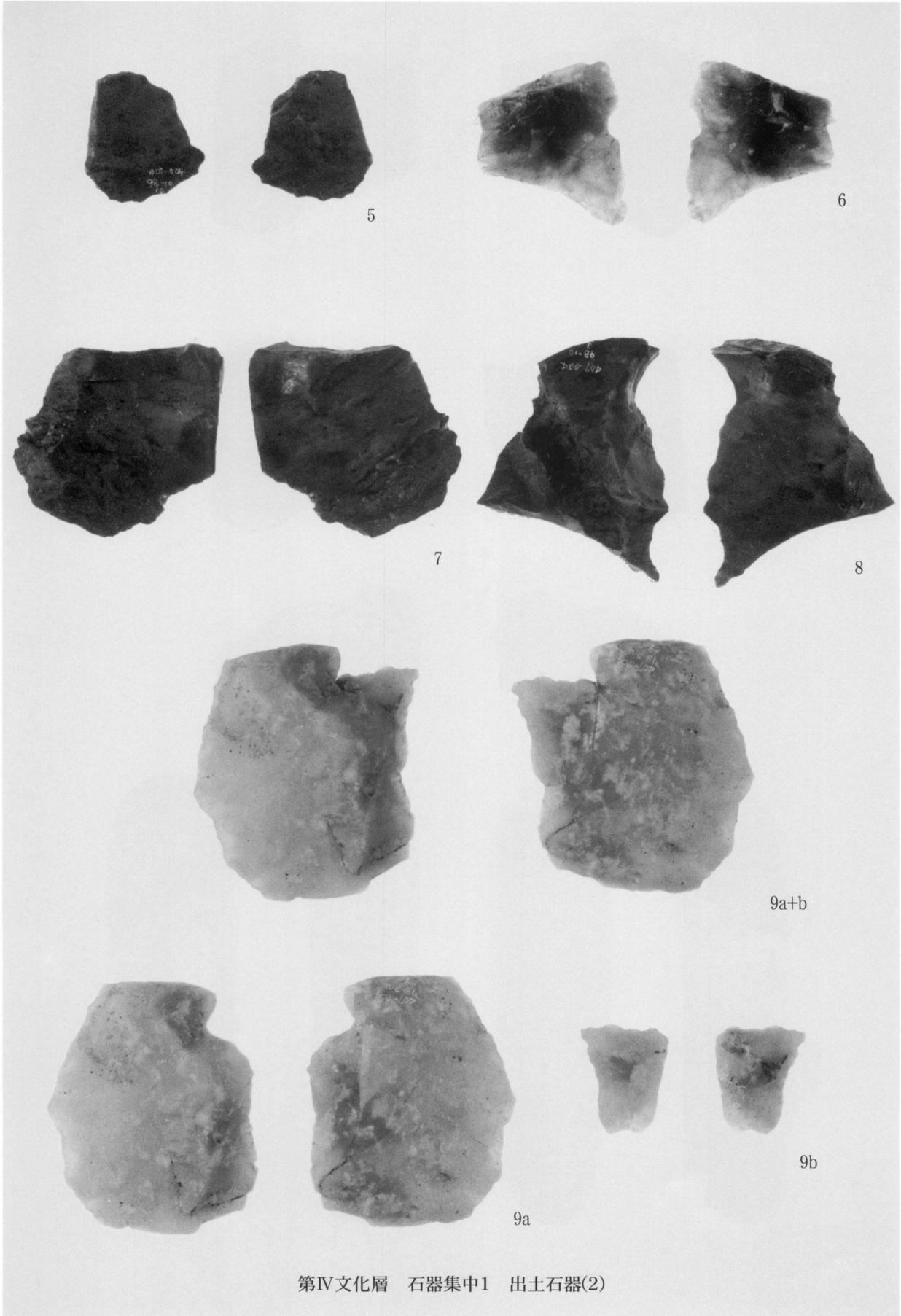
第三文化層 石器集中1 出土石器(2)



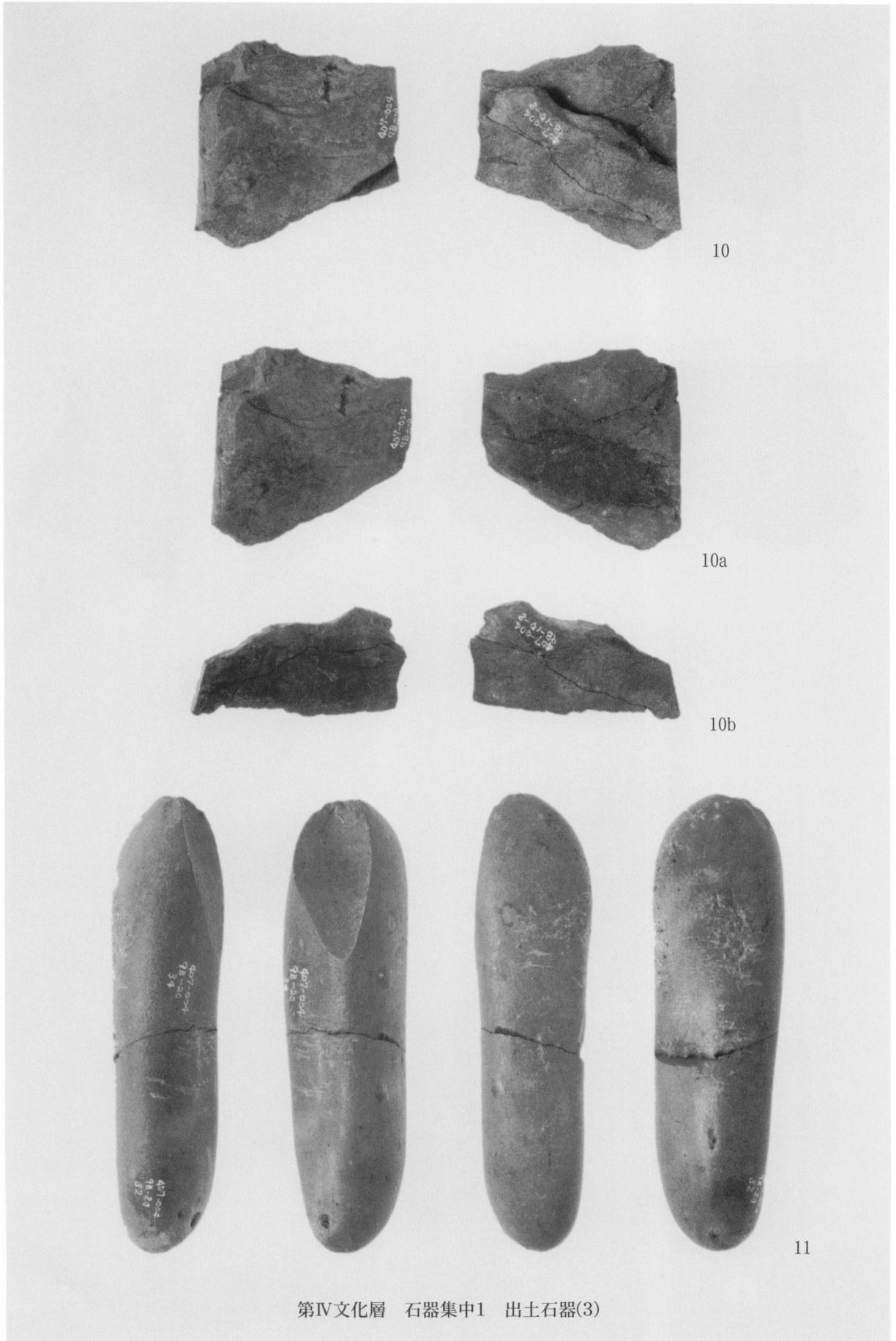
第Ⅲ文化層 石器集中1 出土石器(3)



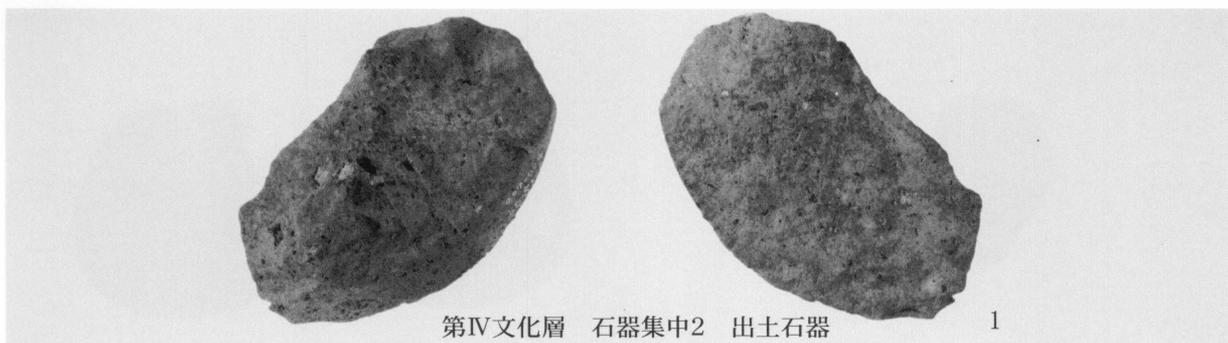
第Ⅳ文化層 石器集中1 出土石器(1)



第IV文化層 石器集中1 出土石器(2)

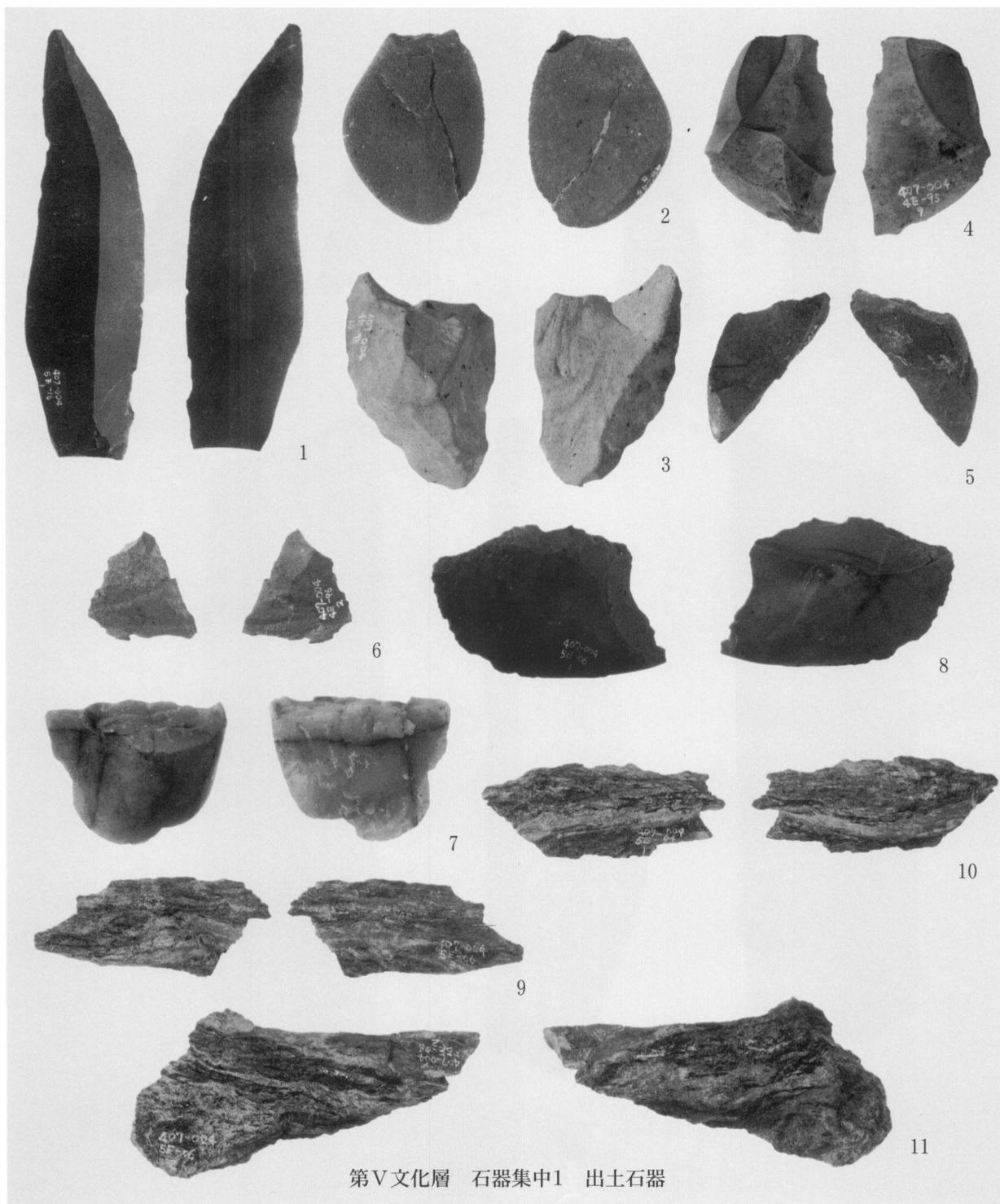


第IV文化層 石器集中1 出土石器(3)



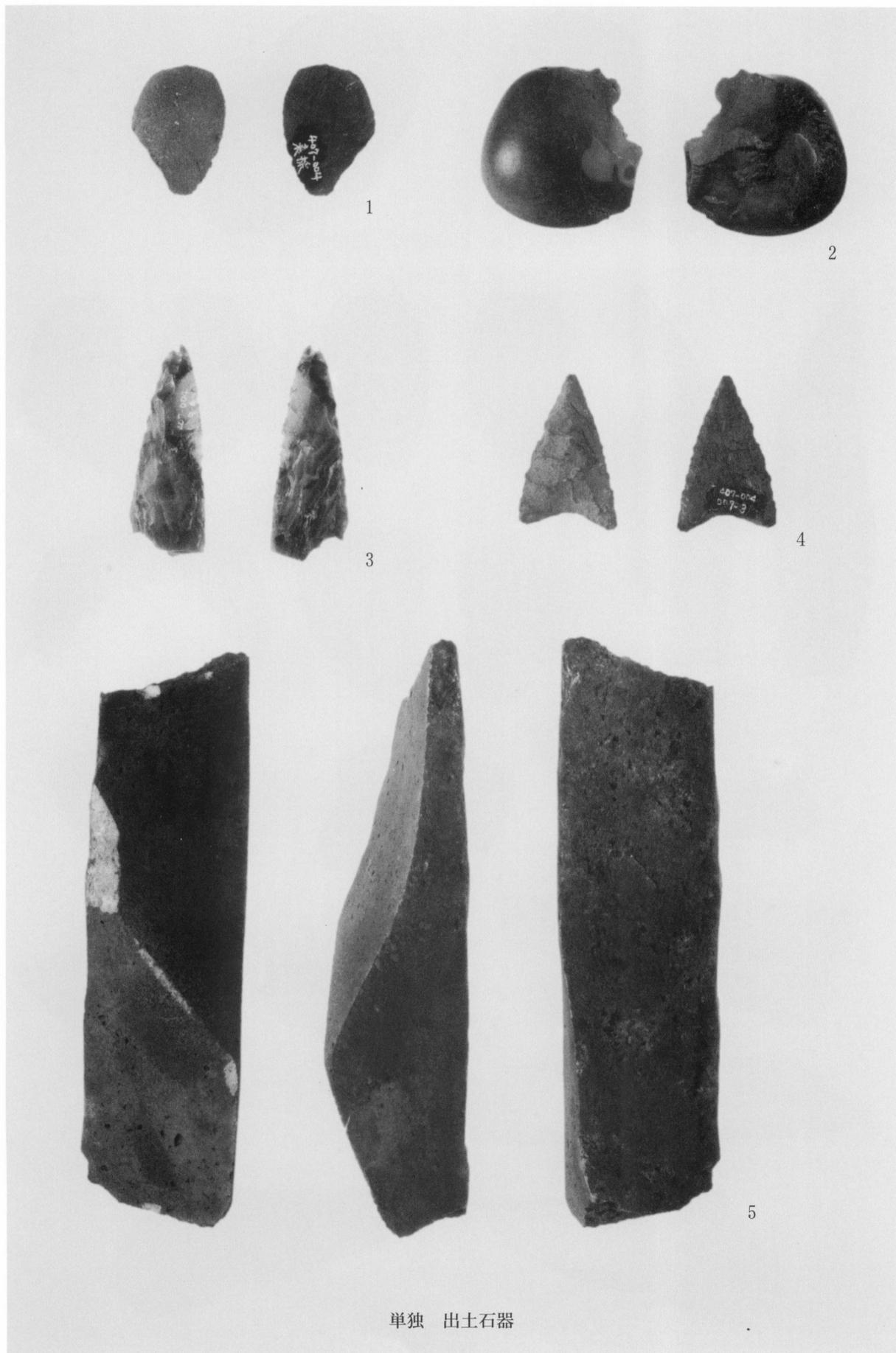
第IV文化層 石器集中2 出土石器

1

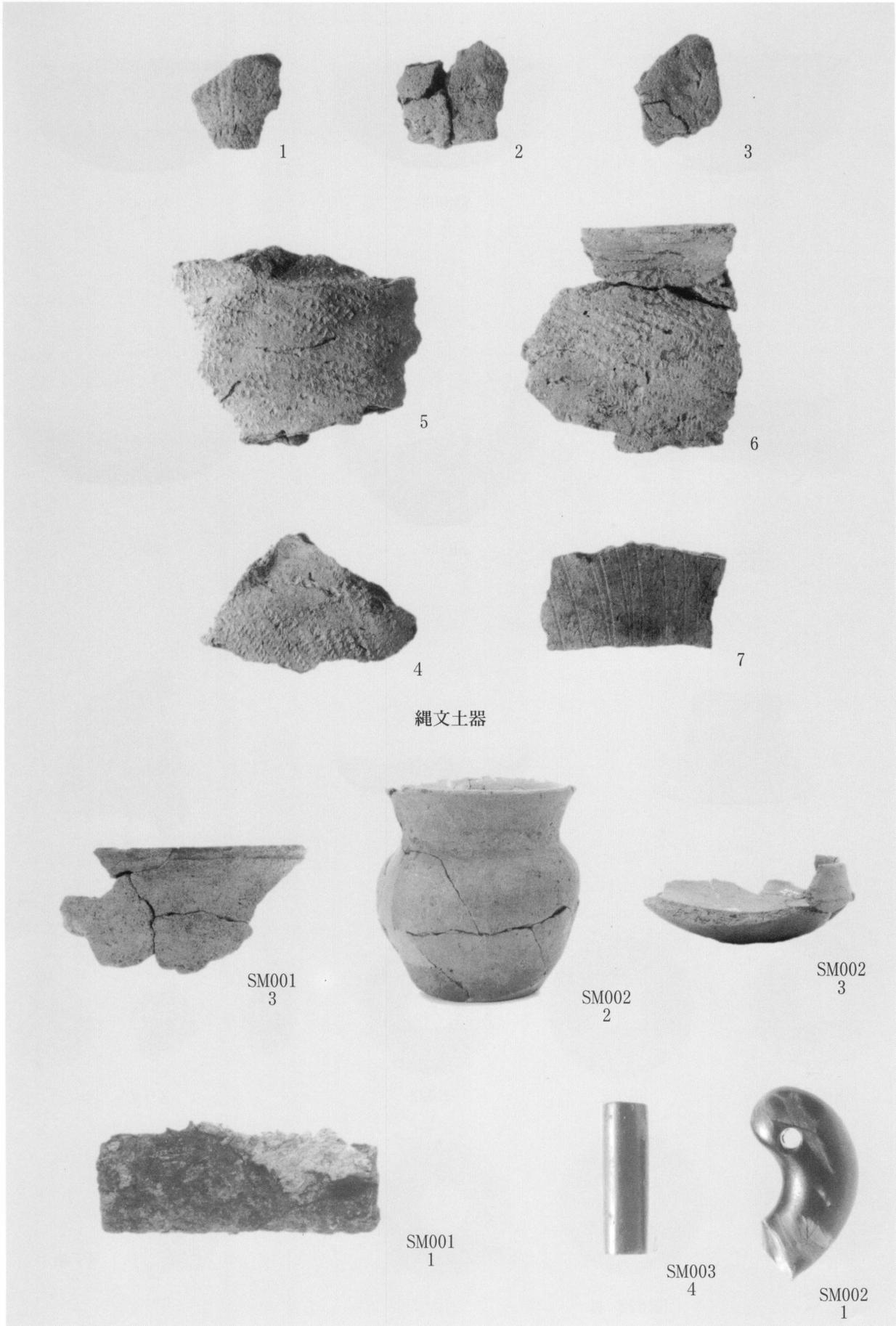


第V文化層 石器集中1 出土石器

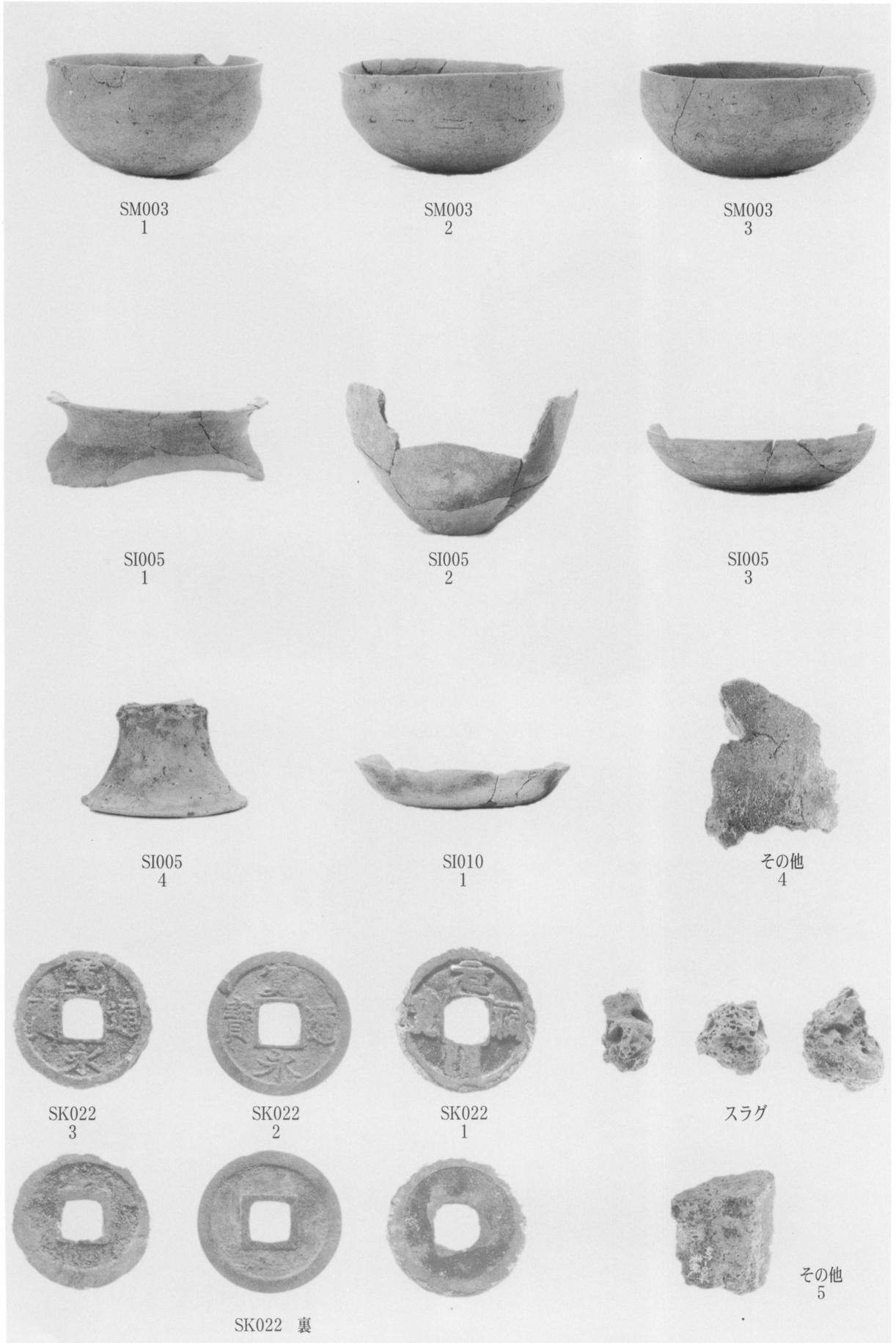
11



单独 出土石器



縄文土器・SM001・SM002・SM003 出土遺物



SM003・SI005・SI10・SK022 その他出土遺物



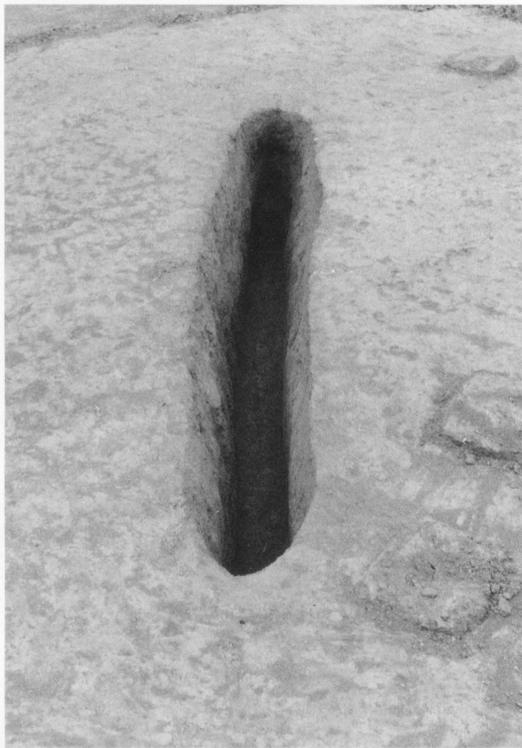
駄ノ塚遺跡

栗焼棒遺跡

航空写真(平成6年 約1/7,500)



旧石器時代
遺物出土状況



左：006 全景
右：007 全景



002 全景

001 全景



004 全景

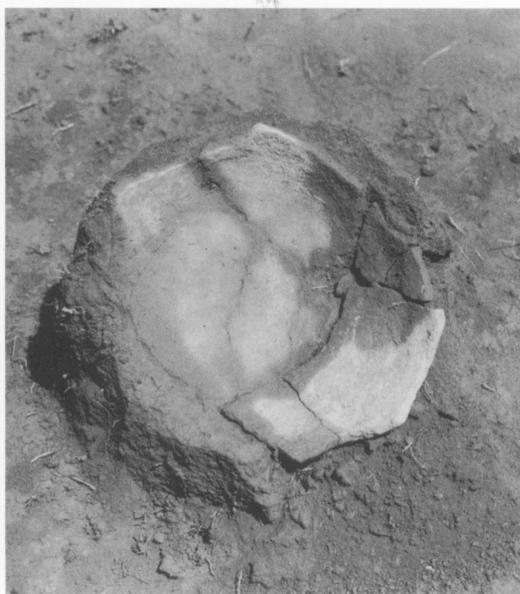


003 全景





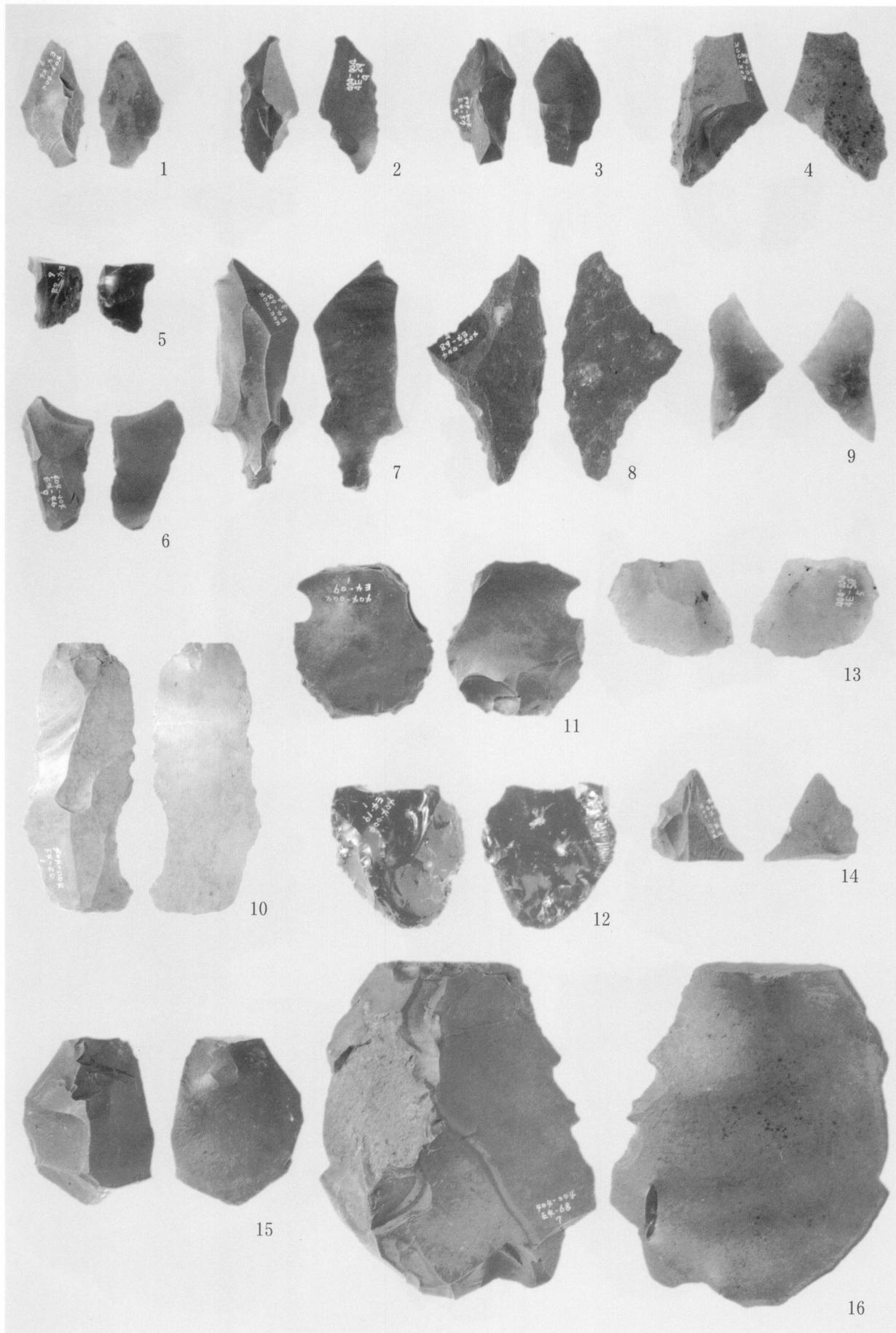
008 全景



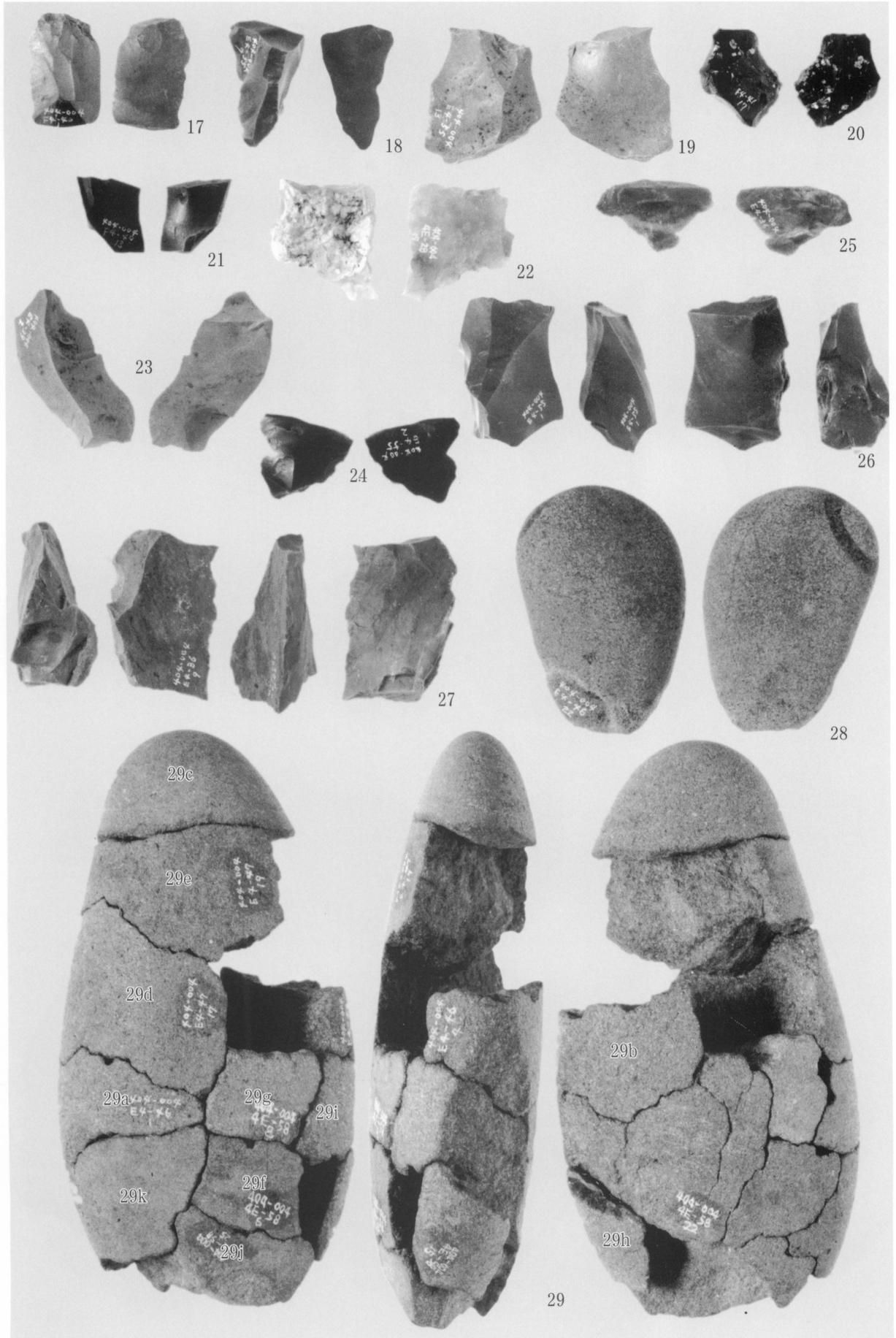
008
遺物出土状況



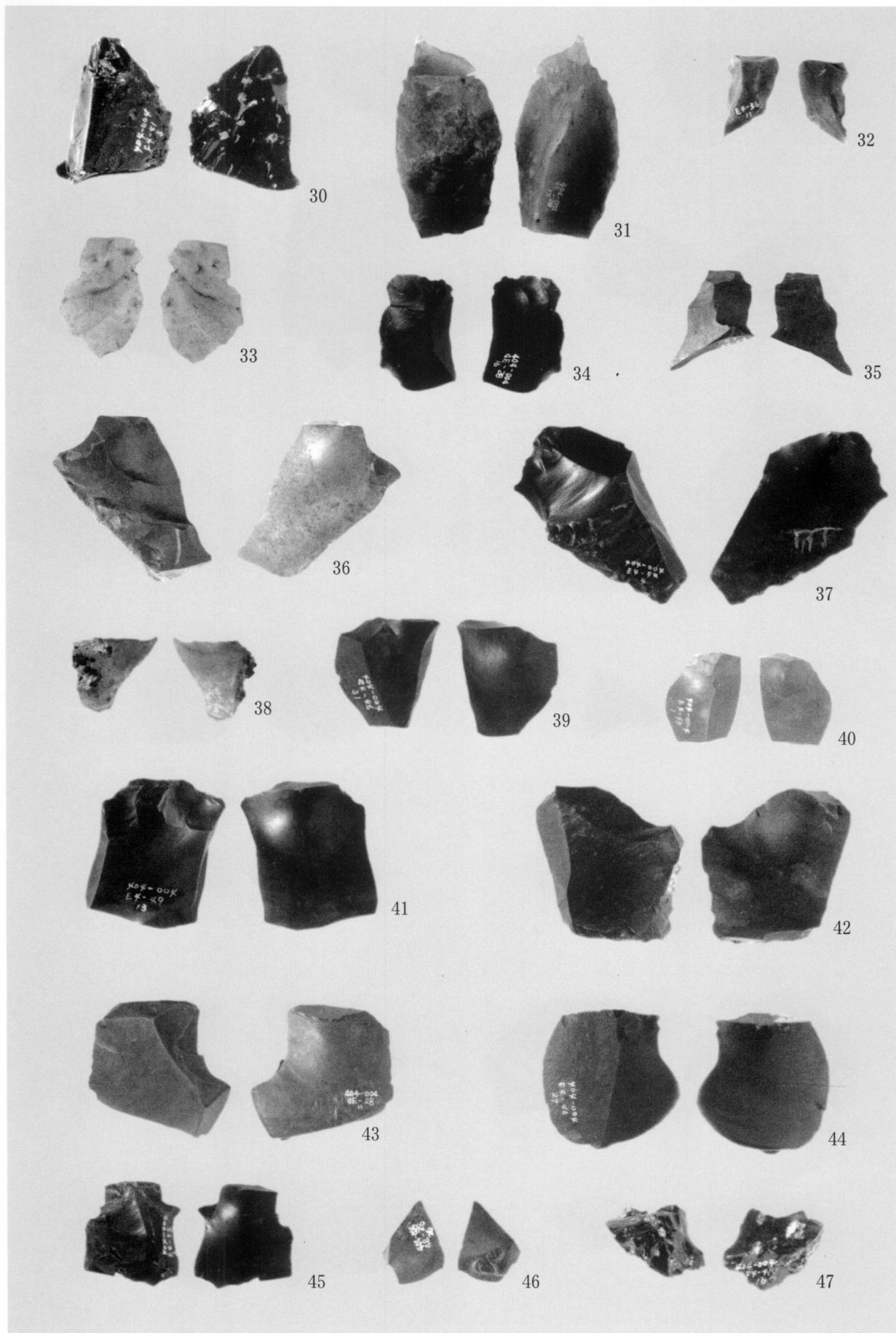
008カマド全景



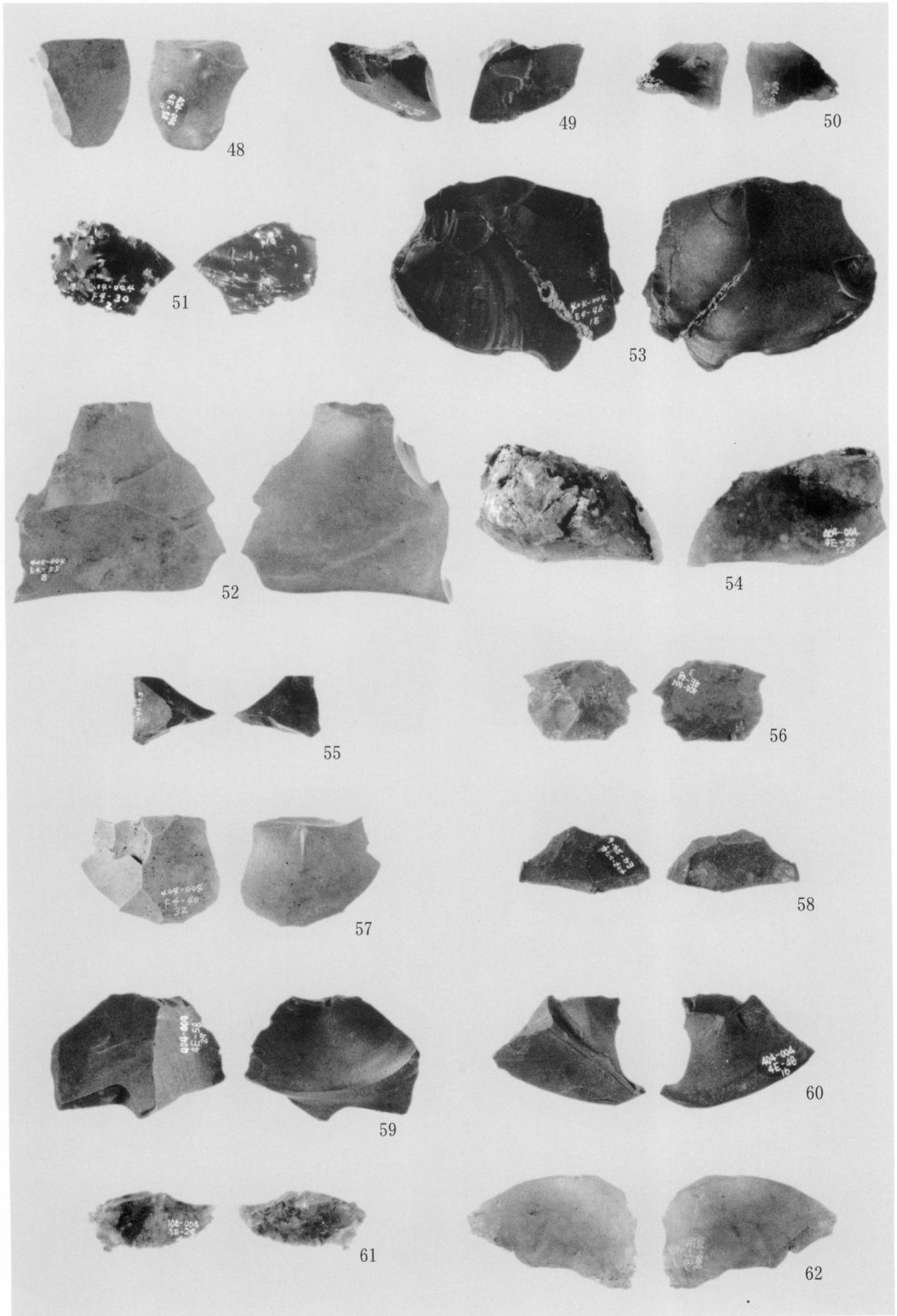
石器集中1 出土石器(1)



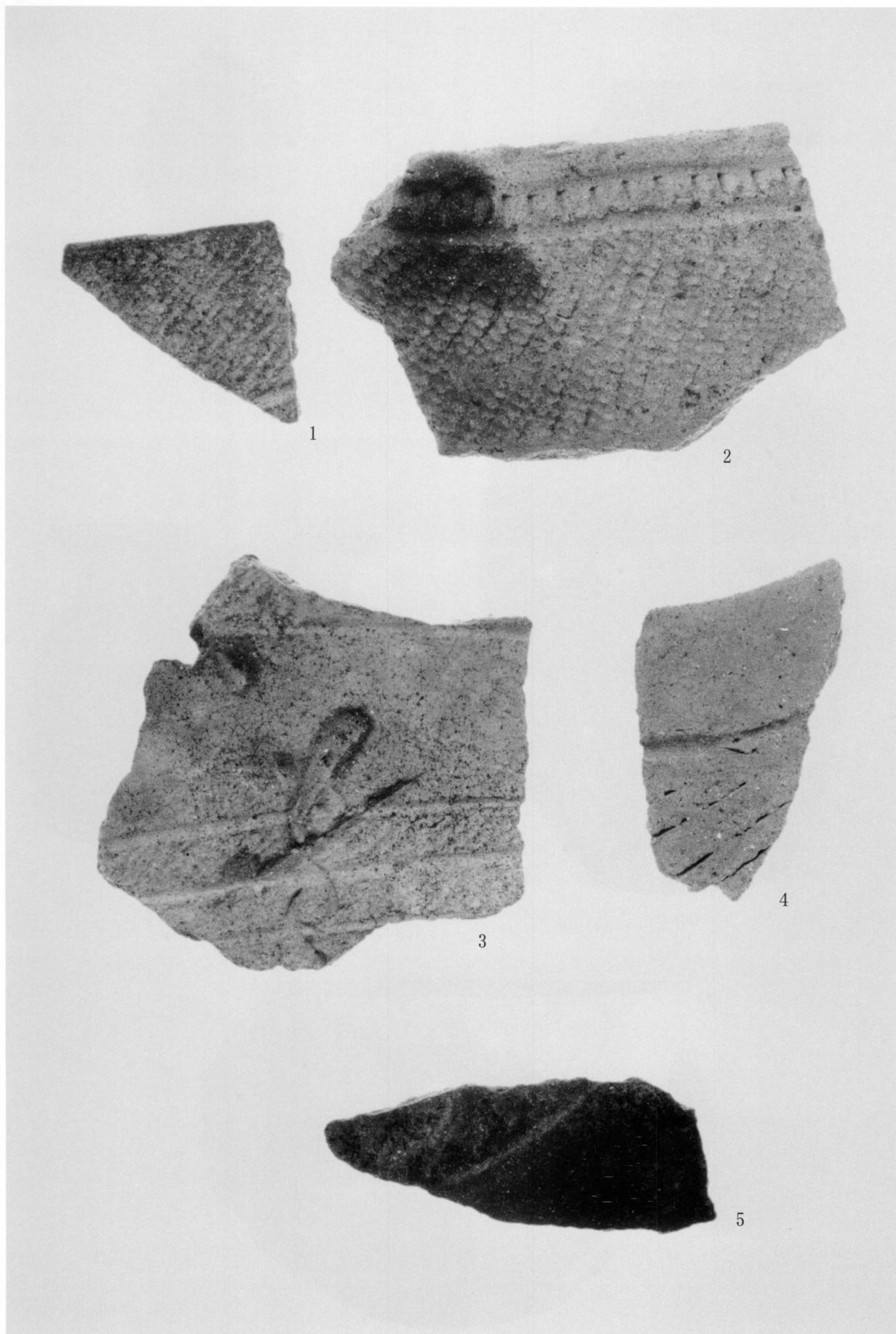
石器集中1 出土石器(2)



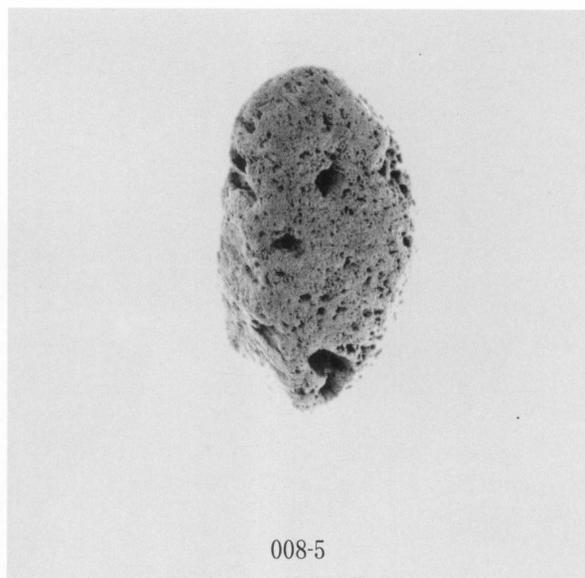
石器集中1 出土石器(3)



石器集中1 出土石器(4)



縄文土器



報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばとうがねどうろにきまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしよ		
書名	千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書		
副書名	山武町・松尾町大作長遺跡 成東町駄ノ塚遺跡		
巻次	10		
シリーズ名	財団法人 千葉県文化財センター調査報告		
シリーズ番号	第429集		
編著者名	田島 新・黒沢 崇・糸川道行・宮 重行・大野康男		
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター		
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2		TEL043-422-8811
発行年月日	西暦2002年3月25日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おこながさく 大長作	ちばけん 千葉県 さんぶぐんまつおまちおがわ 山武郡松尾町小川 あざおこながさく 字大長作313ほか	12407	004	35度 38分 19秒	140度 24分 38秒	19930702～ 19931029 19940411～ 19941031 19950301～ 19950331	24,900m ²	千葉東金 道路 （二期） の建設に 伴う事前 調査
だのづか 駄ノ塚	ちばけん 千葉県 さんぶぐんなるとうまち 山武郡成東町 いたつきあざだのづか 板附字駄ノ塚517-1	12404	004	35度 37分 4秒	140度 23分 19秒	19931201～ 19940331 19960801～ 19960910	9,800m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大長作	集落	旧石器時代	石器集中地点 8地点		
		縄文時代	陥 穴 12基	縄文時代土器・石器	
		古墳時代	円 墳 4基	須恵器・土師器・ 勾玉・管玉	古墳時代後期の墳丘 を削平された古墳群 を検出した。
		奈良時代	住居跡 溝 1条		
		近世	塚 方形竪穴 1基 鹿 穴 4基 溝(猪垣?1) 2条	古銭・砥石	
		その他	土 抗 2基	羽口・スラグ	
駄ノ塚	集落	旧石器時代	石器集中地点 1地点	ナイフ形石器・搔器・削器?・ 剥片・石核・敲石?・叩石	
		縄文時代	陥 穴 2基		
		奈良時代	竪穴住居 1棟	土師器・軽石	
		古墳時代以降	土 抗 5基		

千葉県文化財センター調査報告第429集

千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書10

—山武町・松尾町大長作遺跡・成東町駄ノ塚遺跡—

平成14年3月25日発行

編集 財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809番地2

発行 日本 道路 公 団
東京建設局 千葉工事事務所
千葉市美浜区若葉区二丁目9番3号

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809番地2

印刷 有限会社 小路印刷所
千葉県茂原市下永吉168-3
